Mrs. GREEN APPLE初の表紙巻頭30P大特集！ Little Glee Monster 他

音楽、人間マガジン バックステージ・パス

バックステージ・パス10月号 2017年8月27日発行・発売（毎月27日発行・発売）
第33巻第11号通巻474号 昭和61年8月2日第3種郵便物認可

BACKSTAGE B-PASS

2017 10



表紙巻頭特集30P

Wタイアップシングルをリリース！

インタビュー＋コラム＋密着から見える、5人が描く青写真

Mrs. GREEN APPLE

WanteD! WanteD!

SPYAIR

SCANDAL

GRANRODEO

超特急

Da-iCE

田口 淳之介

DANCE EARTH PARTY

Flower

山崎育三郎

付録
両面ポスター
Mrs. GREEN APPLE
田口 淳之介

バックカバー＆巻末特集

初のメンバーによる作詞に挑戦した9thシングル「明日へ」に込めた想い

Little Glee Monster

RIZE／androp／WEAVER／新山詩織／MAGIC OF LiFE／さくらしめじ／あいみょん
the peggies／綾野ましろ／Cellchrome／VIXX and more



BACKSTAGE B-PASS

CONTENTS

10
OCTOBER
2017
NO.380





付録 両面ポスター
Mrs. GREEN APPLE
田口 淳之介

B-PASS10月号 表紙巻頭特集スペシャル Mrs. GREEN APPLE応募者全員サービス Mrs. GREEN APPLE×B-PASS 特製モバイルカードポケットを応募者すべての方へ

●Mrs. GREEN APPLEのロゴをデザインしたモバイルカードポケット

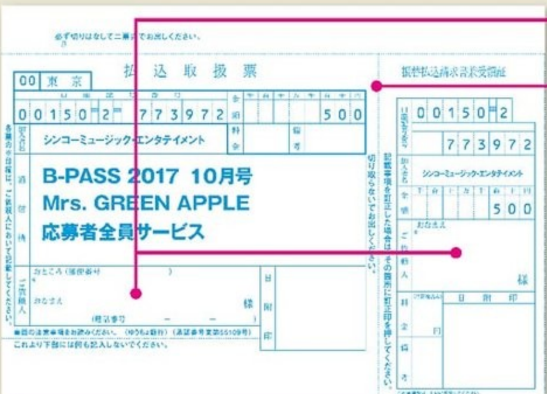
スマホの裏面にピタリと貼って、ICカードや学生証など、大事なものを入れて携帯できるケース

ご応募お待ちしております!

本誌撮り下ろし写真のフォトカード付き!



※写真はイメージです。実際のデザインではありません。


払込取扱票
00150-2 773972 500
シンコーミュージック・エンタテイメント
B-PASS 2017 10月号
Mrs. GREEN APPLE
応募者全員サービス

応募方法

1口につき500円（消費税込み／送料・手数料として）で応募できます。
※払込手数料はお客様のご負担となりますので、ご了承ください。

▶郵便振替

この号に付属の郵便振替払込用紙1枚につき、1口応募できます。
必ず今月号P.136についている払込用紙（応募券になっています）をご使用ください。

❶本誌から払込用紙（応募券）をきれいに切り取ってください。
❷払込用紙（応募券）の*印がある箇所、住所・氏名（フリガナ）・電話番号（市外局番から書いてください）を略さずに正確に書いてください。記入はすべて黒か青のボールペンで書いてください。
❸払込取扱票（左側）と振替払込請求書兼受領書（右側）の間のミシン目は切り離さないでください。
❹代金の払込は、郵便局またはゆうちょ銀行直営店の窓口か郵便振替自動受付機で行なってください。別途払込手数料がかかります。電信振替での申し込みは無効になりますので、必ず現金で払い込んでください。
❺払込後は、「振替払込請求書兼受領証」を受け取り、商品がお手元に届くまで、大切に保管してください。この受領証が入金した証拠になります。

▶銀行での振込をご希望の方

❶必ずご自身のお名前（フルネーム）と連絡先を記入または入力し、下記口座へ一口応募につき500円をお振込ください。別途振込手数料がかかります。
銀行名:三井住友銀行　支店名:浅草橋支店
種別:普通預金　口座番号:7329660
口座名義:株式会社シンコーミュージック・エンタテイメント
❷銀行振込の明細（控え）と今月号P.136についている払込用紙を応募券とさせて頂きます。銀行振込して頂いた際の明細（控え）のコピーと、本誌付属の払込用紙に住所・お名前・電話番号を記入したものを同封して、〈〒101-8450 東京都千代田区神田錦町1-14-2F B-PASS編集部「B-PASS10月号 Mrs. GREEN APPLE全員サービス」係〉へお送りください。

▶応募締切

2017年9月30日（土）
※商品のお届けは2017年12月上旬よりお送りする予定です。地域によって、お届け時期が前後する場合がございますので、ご了承ください。

▶注意点

※現金、為替、切手などによる応募は無効となります。お受けできませんので、編集部に送らないようにお願いします。返却はできません。※記入もれ、間違い、締切日までに入金されていない場合は、申し込み不備として応募は無効になります。ご注意ください。※払込金額が多くても返金できません。※お届け先は日本国内に限ります。※応募が無効になった場合以外の応募後のキャンセルはできませんので、ご了承ください。※今回、ご記入頂くお客様の個人情報は、こちらの全員サービス送付目的以外では使用いたしません。

◇応募に関するお問い合わせ

B-PASS 全員サービス係 TEL 03-3292-2868（14時〜18時／土日祝祭日のぞく）

BACKSTAGE B-PASS



B-PASS BACKSTAGE

CONTENTS

10
OCTOBER
2017
NO.380

052

058

064

074

084

090

158

166


Cover Artist
Mrs. GREEN APPLE
Cover Photo
森崎純子
Cover Designer
桑名見智路
Back Cover Artist
Little Glee Monster
Back Cover Photo
大川晋児
Art Director & Back Cover Desiner
鶴羽高章
Graphic Designers
桑名見智路、金子歩未(hive)
Editor in Chief
吉崎美也子
Deputy Editor
高橋波奈子
Editors
鈴木明日香、佐藤 恵

BACKSTAGE B-PASS




NUEVO
NUEVO
NUEVO

Mrs. GREEN APPLE

WanteD! WanteD!

メジャー・デビューから2年、破竹の勢いで成長を遂げているバンド、Mrs. GREEN APPLE。彼らの発表するジャンルレスな音楽はとにかく自由で、ライヴは笑顔が絶えないというピースフルさ。まだ知らないあなた、ずっと追いかけている君にも改めて魅力をお伝えすべく、6大企画での巻頭特集をお届けします!

Text ⇒ 秦理絵　Photo ⇒ 森崎純子　Hair & Make-Up ⇒ 細谷知代　Custume ⇒ glamb



Single Interview

話題のドラマオープニング曲「WanteD! WanteD!」
アニメオープニングテーマ「On My MiND」
Wタイアップシングルである今作について。
まずは、先日の初野音ライヴの振り返りから聞いていこう。

おおもりもとき
大森元貴
G. ／ Vo.



■遂にMrs．GREEN APPLE、初のB-PASS表紙巻頭です！

一同「ありがとうございます！」

藤澤「やったー！」

大森「（雑誌の）A面ってことですよね？」

■カップリングじゃないです（笑）。

大森「いやー、嬉しいです」

■なので、ニュー・シングル「WanteD! WanteD!」のことだけじゃなくて、いまのバンド状況を含めてお話を訊かせてください。

大森「よろしくお願いします」

■まずは7月に大阪と東京の野音で、自主企画「ゼンジン未到とロワジール」が大成功したということで。良いライヴでしたよね。

山中「やっぱり野音は開放的な気分になれる場所でしたね。やる前からお客さんには自由に楽しんでほしいと思ってたから、ステージの上からお客さんが自由に楽しんでるのが見えたときは、素敵な空間だなと思いました」

藤澤「時間帯としても、ちょうど日が暮れていく頃なんですよ。それもすごく気持ち良かったし。後半のほうでは暗くなってくるので、EDM系の曲を多くやったりして、そこで想像以上に野音は素敵だなって思いました」

■野音は天然の舞台装置ですから。

藤澤「本当にそうですね」

大森「野音ってロックバンド以外にもいろいろな方々がやってきた場所じゃないですか。だからこそMrs．GREEN APPLEは、どういうアーティストとしてその場所に立つのかっていうのをすごく考えたんです。それで、すごく凝った演出をしたし。野音であそこまで凝ったことをやった方はあんまりいないと思うんですよね」

■ええ、思いつかないです。

大森「それも僕らだから、わりと許されるところもあるのかなって。自分たちがやっていることを再確認するような場所になりました」

■演出で言うと、「Oz」のときにシャボン玉を飛ばしたりするのも良かったですよね。

若井「あれは野音でしかできないことだったので取り入れました。あとは元貴（大森）と涼ちゃん（藤澤）が客席に行って、水鉄砲を使ったりっていうのも、室内だとやりづらいことだから面白かったですね」

大森「それこそディズニーの夏の感じですよね。エンターテイメントとして、野音っていうものに負けたくなかったんですよ」

■野音VSミセス？

大森「そんな感じです。野音マジックの力は借りたいんだけど、そうじゃないところでエンターテイメントしたかったので」

■インディーズ時代からずっとやり続けてきた自主企画「ゼンジン未到」シリーズを、野音でやれたことも感慨深いですよね。

大森「そうですね。『ゼンジン未到』は4回目だったんですけど、自分たちとしてもいろいろなことを懐かしむタイミングでしたね」

髙野「その時々の大切な節目にやってきてたのが『ゼンジン未到』なんです。自分も第2回の『ゼンジン未到』のときに正式加入したので。思い入れが深いから、今回メジャー・デビュー2周年っていう、素晴らしい日を記念してできたっていうのが嬉しかったです」

■集大成的な良いライヴでした。

大森「本当にそう思います」

■そんなふうにバンド2周年の区切りをつけて発表されるのが、今回の「WanteD! WanteD!」です。ドラマ「僕たちがやりました」のオープニング曲ですけども、みんなドラマは観てますか？

一同「観てます！」

■当たり前でしたね（笑）。

大森「オープニングの数十秒とはいえ、自分たちの音楽がテレビから流れるのは感動するよね」

藤澤「うん、嬉しかった」

山中「オープニングの映像も歌詞ともマッチしてたので良かったなと思いました」

■楽曲に対してドラマサイドからは、どんなオファーがありましたか？

大森「疾走感のあるもので、それほどポップじゃない感じっていう話をいただいたんです」

■ポップじゃない感じ？

大森「僕らは、〝サママ・フェスティバル！〟を出してからこの1年ぐらいは、すごくポップなものに切り替えて作ってきたんですね。わかりやすい楽曲を狙ってリリースしてきてたので。Mrs．GREEN APPLE＝ポップバンドっていうところをひとつ確立できたと思うんです。だから次はそうじゃない、ちょっと棘のある部分を出しても良いタイミングだと思ってたんです。僕らの根本にあるものというか、デビュー当時に書いていたのは、そっちの曲だったりもするので。だから今回はタイアップがなかったとしても、こういう曲を書いてたと思います」

■なるほど。いま一度、棘のあるミセスを打ち出しつつ、これまでに鳴らしてきたEDMとは違う手法にもトライしてますよね？

大森「今回はトロピカルハウスです」

藤澤「こういう音楽は世界的なトレンドではあるんですけど、あんまりバンドで取り入れてる人たちはいないんですよね。シンセサイザーのサウンド感ではあるけど、必要以上に音数を詰め込んでなかったりとか、そういう部分がすごく新しいなと思いました」

若井「最近はメンバーで海外の曲を聴くようになったりして。それを本格的に落とし込めたのが、〝WanteD! WanteD!〟なんです」

髙野「たとえばライヴに遊びに来てくれる人たちも、もっと一人ひとりが自由に音楽を楽しんでほしいと思うんです。それは海外の人たちのライヴ映像を観たときに思う部分でもあって。向こうの人たちは、自分たちの楽しみ方で音楽を楽しんでるように見える。だから僕らのお客さんにもそういうふうに音楽を楽しんでほしいし、〝WanteD! WanteD!〟は、それを体現してる曲だと思います」

■ミセスは海外のティーンポップを取り入れたいって、ずっと話してましたもんね。

大森「そうですね。海外のティーンポップ——それこそワン・ダイレクションとか、いわゆるアイドルって呼ばれる人たちは、こっちのアイドルとは意味が違うんですけど、僕たちはそういうのがかっこいいなと思うんですよ。若者に対する音楽の発信の仕方にすごく感化されるんです。それを日本でやれてる人はあんまりいないから、自分たちがやれたら最強だなって思ってたんです。そういう洋楽のトレンドを本格的に入れたのは、今回が初めてですね。いままでも日本的なものとして融合させたり、スパイスとして入れてたりはするけど。今回はエンジニアさんもマスタリングも海外の方にやってもらってるので」

■いま話してくれたことって、要するに日本

のロックバンド像の不自由さから解放されたいっていうことだと思うんですよ。

大森「はい」

■メジャー・デビューしてから2年間それを目指してきたわけだけど、それが自分たちのパブリックイメージと一致してないというか、「ズレてるな」と思うことはありませんか？

大森「ああ……パブリックイメージがズレてるほうにいってるというよりは、自分たちがやってることを伝えるのは難しいんだろうな、というふうに思います。いままでの固定概念をぶっ倒しにいってるので。そこはどうしても難しい。でも何だろうな……そもそも僕らは、自分たちがロックバンドだっていう考え方でもないのに、〝ミセスはロックバンドじゃないよね〟っていう否定のされ方をしてしまうことがけっこうあるんです。だから、なんとなく傷つくに傷つけないというか（笑）」

■まず前提が違うんだぞ、と。

大森「リスナーの人たちが持ってる計りと僕らが持っている計りは違うと思うから。そこをちゃんと擦り合わせるのが、自分たちの役割であり、今後の課題かなと思います」

■つまりミセスが目指す「本当に自由な音楽」を本格的に浸透させるための第一歩になるのが、今回のシングルということですよね。

大森「そうだと思います。だから野音でやったときも、この曲だけEDMフェスっぽかったりして、他の曲とは毛色が違ったりするんですけど、そういうのもお客さんがちょっとずつ理解して、体を動かしてくれてるので。やっぱりそういうのは嬉しいですよね」

■歌詞については、ドラマ「僕たちがやりました」に影響を受けた部分が多いですか？

大森「原作を読ませてもらったんですけど、それがすごく面白くて、1日で最終巻まで読んじゃうぐらいハマったんです。でも歌詞を書くときは、そのなかから何かをピックアップするんじゃなくて、いま自分が書こうとしていたことをドラマと照らし合わせて書いたものなんです」

■いま自分が書こうとしていたこと？

大森「いまの高校生はすごく器用だなと思うんですよ。自分たちも数年前までは高校生だったんですけど。でも当時とはまた少し変わってきてて。焦燥感というか……器用なんだけど、不器用。そこまで器用になり切れてない感じがするんですよね。なのに、器用になるためのツールがそこらじゅうに散らばってるから、いかようにもなっちゃうっていうか。それが皮肉にもかわいそうだなって思う瞬間もあるんです。なんか楽しそうじゃないというか……わかる？」

藤澤「うん。自分はいま24歳なんですけど、高校生のときにSNSが流行りだしたんですよ。でも、いまの子たちはそのツールがもっと便利になってるわけで。人とのつながり方もだいぶ変わってると思うんですよね。グループチャットで言えばいいや、とか。伝えたいことを遮断する、逃げみたいなものがあるように感じるから。そういうのを逃げずに受け止めてほしいなっていうのは、僕がこの曲を聴いたときに感じたことですね」

■なるほど。歌詞に出てくる〝僕らは逃げている〟というのは、何かを真正面から伝えたり、向き合ったりすることから逃げてるというか。

大森「うん。そうやって逃げてしまうことで、

逃げてしまうことで、何かを面白いと思う感覚が
腐っちゃわないかなって思うんです。それを訴えかけたかった

何かを面白いと思う感覚が腐っちゃわないかなって思うんです。それを訴えかけたかった。面白いことも増えたし、みんなが面白いと思ってることもわかるんだけど、果たして面白いとは何なのか？　それを再度確認したほうがいいと思って、書きました」

■こういう歌詞というのは、自分たちと同じ世代の人たちに向けて書いてるんですか？

大森「この曲に関して言えば、そうですね。でも、同じように若い世代に向けて書いた曲でも、〝Speaking〟の頃とはまったく違う書き方なんです。あのときは自分が友達と関わっていくうえで、いろいろなことを思って書いてたりしたけど、いまは〝こういう感じなんだろうな、きっと〟って想像してるというか。フォーカスは同じだけど、色が全然違うから、そういうのも新鮮だったなと思います」

■2曲目の「On My MiND」は、アニメ『ナナマル サンバツ』のオープニングテーマ。まさにミセスっていう感じのアッパーな曲ですが。

大森「それは間違いないですね。〝On My MiND〟はメジャー・デビューしたときの〝StaRt〟みたいなものにしたいと思ったんです。意図的にあのときと同じような作り方をしていて。アイリッシュ楽器を入れたり、当時と同じようなBPMにしたりとか、物理的に自分たちから、あの当時の感覚に近づくようなことをしたんです」

■「StaRt」みたいに作ってみたいと思ったのは、どうしてですか？

大森「1曲目の〝WanteD! WanteD!〟では、Mrs. GREEN APPLEっていうのは、〝StaRt〟とか〝サママ・フェスティバル！〟

Single Interview

若井滉斗（わかいひろと）

G.



Single Interview

たかのきよかず
髙野清宗
B.



みたいなものだけじゃないんだよっていうのを歌ってるんですけど、それと同じシングルの2曲目で、本当のMrs. GREEN APPLEはどういうものなのかっていうのを入れるのが面白いなと思ったんです。あとは単純にこういう曲も歌いたかったからですね」

■あえて同じことをやったことで、何か発見できたことはありましたか?

大森「速かったなと思いましたね」

藤澤「うん、速いね」

大森「当時も〝StaRt〟は速いと思ってたんですけど、あの頃は速い曲が続いてたから、ちょっと感覚が麻痺してましたね(笑)。あとは情報量がすごい。1曲目の〝WanteD! WanteD!〟の音数に対して、〝On My MiND〟は音数が勝負というか。アイリッシュ楽器だけでも、4～5種類ぐらい入ってるんですよ。バンドの音、プラス、メンバーの楽器が入ってるから、相当な情報量。メリーゴーランドみたいな感じですよね(笑)」

髙野「この曲は落ち着いたりするところが1個もなくて、ずっと疾走感を保ってるんです。僕たちがよくやる手法なんですけど、ブレイクを入れたりとか、2番サビが終わって、ギターソロが入る前にちょっと変拍子が入って、さらに加速していくみたいなこととか。自分たちの得意なことを、この曲は表現できたのかなと思います」

■今回、ギターに関しては面白い録音の仕方にチャレンジしたそうですね?

若井「ギターはテンポを落として、それを早回しで入れてるんですよ。それも当時だと、みんなで〝いっせーのせ〟で録ってたりするので、思いつかなかった部分だと思います。技術的な成長を落とし込めた部分ですね」

■テンポを落として弾いたものっていうのは、ライヴではどう表現するんですか?

若井「がんばるしかないです(笑)」

大森「これは弾けないからテンポを落としてるというよりは、早回しにした音が面白いから入れてるんですよ。今回は同じようなことをドラムでもやってますね」

山中「トラップっぽく、チキチキっていう細かい音が入ってるんです。これは叩くのは不可能な手の動きなので、ライヴのときはどうしよう?っていうのはありますけど」

大森「考えなきゃね。自分たちはライヴをやる前提で曲を作ってないんです。曲としての完成像をCDに落とし込んでるので。だからライヴのときに毎回振り出しに戻ってるんです。いまライヴを想像すると、けっこう気が気じゃない。一回録ったものを、また練習し直さなきゃいけないので(笑)」

■なるほど(笑)。では、3曲目「光のうた」。この曲は去年の「In The Morning Tour」で、大森くんがギターの弾き語りで披露した曲ですね。

大森「この曲自体は、僕がミセスを組む前から作っていて、ひとりで弾き語りでやっていた時期もあるので、個人的には思い入れが強い曲なんです。それをミセスとしてバンドサウンドに落とし込んだ曲ですね」

■オリジナル曲としては初めてアレンジャーさんと一緒に作った作品になりますが、共同作業というのはどうでしたか?

大森「僕がすごく細かく〝こういうふうにしたいんだ〟っていうのは出したので、それに応えていただいた感じですね。北欧っぽい、神話っぽい感じにしたかったんですよ。映画で言うと、『ナルニア国物語』みたいな。メンバーにも映画を観てもらったりして」

メンバー同士で“これ、楽しいね”を言い合いながら、
楽しく音楽を続けていきたいですね

山中「観ました(笑)」

大森「ファンタジーというよりも、北欧っぽい感じを出したかったんです」

藤澤「そこのイメージをみんなで共有できたから、レコーディングは、〝『ナルニア』を表現したい〟っていう気持ちだけで臨んだんです。森とか動物、ネイチャーっていう幻想的な情景を常に保ちながら録っていきました」

若井「〝いまのは『ナルニア』っぽかったかな?〟みたいなことを確認しながらね(笑)」

大森「〝まだ『ナルニア』じゃないな〟みたいな。だから極論、オケだけ聴くと、『ナルニア』のバックで鳴っててもおかしくない。それぐらいの感じなんですよね。ピッチカート(ヴァイオリンなどの弓で弾く楽器を指ではじく奏法)があったり、ハープがあったり、ピアノの息継ぎの感じを出したりして、すごく細かくやっていきました」

■とても素敵な曲になったと思います。3曲を通して聴いても、今回もバラエティに富んだ濃いシングルになりましたね。

大森「このシングルが出てから、フェスがあったり、学祭ツアーがあったりもするので。聴いてもらえるきっかけを増やしながら、でも自分らは浮き足立たずに、今回みたいにメンバー同士で〝これ、楽しいね〟を言い合いながら、楽しく音楽を続けていきたいですね」

■ちなみに、先日もROCK IN JAPANフェスに出演しましたけど、最近はお客さんの反応に期待の高まりを感じませんか?

大森「それはありましたね。〝サママ〟とかは自

分たちのライヴだと、最後にもっていったりすることが多いんですけど。それをロッキン仕様ということで2曲目に入れてみたら、〝サママ〟が鳴った瞬間にどーんって歓声があがったんですよ。すごく楽しかったし、気持ち良かったですね」

山中「そうだね」

■しかも、あのポップな曲で。

大森「ロック畑の人たちに、ああいう曲が、ちゃんとウケたのは嬉しかったです」

藤澤「あとは〝新曲です〟って言って、〝WanteD! WanteD!〟を始めたときも、思ってた以上に……」

大森「すごく歌ってくれたよね」

■少しずつ大きなステージに立てている状況はどう受け止めてますか?

藤澤「もちろん嬉しい部分もありますけど、毎回ドキドキしてますよ。新しいステージだったり、新しい環境に対して」

大森「慣れないよね。ステージも慣れないんですけど、バックヤードとかも慣れなくて(笑)。ROCK IN JAPANではLAKE STAGEに出たんですけど、2年前にWING TENTっていういちばん小さいステージに出たときは、GRASS STAGEとかLAKE STAGEみたいな大きなステージに出る人は、バックステージにも友達がいっぱいいて、〝アーティストの夏休み〟みたいな感じだったんです。そこに憧れを抱いてたし、僕らもそこに仲間入りできると思ってたんですけど……LAKEに立っても無理でしたね(笑)」

若井「ずっと緊張してたよね」

藤澤「結局メンバーと喋ってるし(笑)」

■あの日は同じステージだったAqua Timezと交流があったそうですが?

大森「そうそう。しかも同じ日だったんですよね。小さいときから、ずっと聴いてたんですよ。〝決意の朝に〟が小3〜4のときで」

若井「僕、小学校6年生のときに、Aqua Timezさんの〝虹〟で組体操をやったんです」

大森「っていう話を太志さんにしたら、僕たちの音楽も気に入ってくださって。そういう繋がりができたのは嬉しかったですね」

■ちょっとずつそういう交流を広げていけるといいんじゃないですかね(笑)。

大森「がんばります(笑)」

■じゃあ最後に、Mrs. GREEN APPLEは10年後の未来に何を描いているか。

藤澤「いまはまだ想像もつかないことに、これから先もチャレンジし続けていたいなと思いますね。それも楽しめるような、バンドでありたいなって思います」

若井「野音であれだけのセットを組んだバンドですから。これからも普通だと考えられないものを見せていきたいなと思います」

山中「最近の楽曲で、どんどんバンドらしくない音楽ができるようになってきたから、〝バンドってこうだよ〟っていう固定概念をちゃんとぶち壊していきたいです」

髙野「今回の〝WanteD! WanteD!〟もそうですけど、毎回レコーディングで元貴が新しいサウンドを提示してくれるので。新しい音楽にチャレンジし続けていきたいと思います」

■大森くんはどうですか?

大森「何だろうな……日本の音楽の幅みたいなものが、もっともっと広がればいいと思ってるんですよね。その先駆者でありたいというか。僕らはいま音楽を熱心に聴いてる世代と、同世代だっていうのもあるから、やっぱり自分らが先陣を切って、柔軟な耳を持って音楽を聴く環境を日本に作り上げたいなっていう、漠然とした夢があるんですよね。どうしても生の楽器を持って、自分のソウルを叫ぶのが、ひとつのロックだっていうパッケージ化が進んでると思うんです。ひとつのわかりやすい方向性がないと、ちゃんと聴いてもらえないっていうのは、やっぱりミュージシャンとしては居心地が悪いところがあって」

いろいろな音楽のなかにMrs. GREEN APPLEがあるっていうのが尊いなと思います

■要するに、いまのミセスにとって、日本の音楽シーンは居心地が悪い?

大森「そういう面もあるんです。特定のアーティストの新譜を楽しみに待つのもすごく素敵なことだけど、お店とかカフェで流れてるBGMにも、〝これ、すごく良いじゃん〟みたいな感じで、自分の好みを掘り下げられるような文化になればいいと思うんですよ。そこが日本の音楽シーンの弱さだっていうのは、この1年間で痛感したし、純粋に変えたいなって思いました」

■ミセスのファンの人には、「ミセスだけ好き」ではなく、いろいろな音楽を聴いてほしい。

大森「それが良いですね。10代のときに聴いてたのがミセスです、で、全然いいし。〝あのときのミセスは良かったな〟で、全然いいんですよ。ただ〝あのときのミセスが良かったな〟を、僕らは引きずらないし、乗っからないから。っていう割り切り方が音楽としてできればいいのかな」

■願わくば、ずっと聴いていてほしいですけど。

大森「もちろんそうですけど、いろいろな音楽のなかにMrs. GREEN APPLEがあるっていうのが尊いなと思います」 (B)

Single Interview

やまなかあやか
山中綾華

Dr.



Single Interview

ふじさわりょうか
藤澤涼架

Key.



Column Special

Column1.
WanteD!

ミセスの素顔がわかる!?　メンバーにも好評のゆる〜いコラムを3本立てでお届け!　まずはシングルタイトルにかけて、求めているもの、欲しいものを教えてもらいました。

大森元貴
G.／Vo.

ディズニーランドの年間パスポート

「何だろう……知名度(笑)。いや、ディズニーランドの年間パスポートかな。この前に、10年ぶりぐらいに行って、超楽しかったんですよ。何から何までエンターテイメントですよね。夜になると“帰りたくない”ってなる感じとかは、自分たちのライヴでも作りたいです。仕事の面でも感化されたけど、純粋に楽しかったので、年間パスと休みがセットでほしいな。……それと知名度!(笑)」

若井滉斗
G.

トースター

「トースターですね。電子レンジで焼くパンとトースターで焼くパンは味が全然違うので。若井家の朝食はパンだったので、パンに懸ける想いが違うんです(笑)」

髙野清宗
B.

ヨガマット

「ヨガマットですね。体を柔らかくしたくて。動画で“寝る前ヨガ”みたいなのがあるので、いまも毎日やってるんですけど、床がめちゃくちゃ固くて。ライヴでも体が固いので、もっとしなやかに動けるようになりたいので」
大森「やっと気づいたか!」
藤澤「俺らが2年ぐらい前から指摘してることだよ」
大森「ヨガマットはメンバーが買うわ(笑)」

山中綾華
Dr.

おいしい水出しミントティーの情報

「最近、ミントティーにハマっていて、毎日水出しで持ち歩いてるんですよ。いま飲んでるのが、グリーンマテ茶とミントティーのブレンドティーみたいな感じなので、美味しい水出しのミントティーがあったら情報が欲しいです」

藤澤涼架
Key.

羽織

「最近、和服にハマってるんですよ。着物の上に羽織るやつなんですけど、洋服とかワイシャツの上にポップに着られるものがあるんです。それを取り入れ始めたので、もっと種類がほしいなと思います。ネットで格子柄みたいな可愛いのを見つけたので、次は手にいれたいです」

Column Special

Column2.
ミセスの怖い話

夏ですから、それぞれに起きた身の毛もよだつような（?）出来事を聞いてみました。

藤澤「最近起こったことが……移動していてなんとなく見ていた女性の買い物袋の持ち手が、とれちゃって。まあ、よくあることだからって思ってたんです。そのまま歩いていたら、前にいた男性のリュックのショルダーの部分がパーンって落ちちゃって。えーって」

■ま、まだね、偶然かもしれない!

藤澤「その日ライヴだったんですけど、最近新しいヘッドセットマイクに変えたばかりだったのに、ライヴ中に音が出なくなって。スペアに変えてもらったんですけど、途中で取れちゃって自分で直せなくて。でもそこはさすがに結びついてなくて、終わったあとにそんなアクシデントもあったなって感じだったんですけど、楽屋で綾華が楽屋から出ようとしたとき、ドアノブがボーンってとれて」

■えー!

大森「散々な日だな」

藤澤「それが起こって、一人で帰り道、怖かった（笑）」

大森「なんでライトなの言っちゃうかな。じゃあ中くらいのやつ。3年くらい前に3日にいっぺん金縛りにあってて、黒いもやもやっとしたやつに髪をなでられたんですよ。頭をなでられてるような夢を見ていて、ぱっと目が覚めたら体が動かなくて。その間、何かになでられてたっていう」

山中「中くらいじゃないよ、それ」

大森「半年くらい変な感じが続いて。怖くてですね、冬だったんですけど塩を置いたんです。冬だから湿気がないじゃないですか?　でも置いてた塩が翌朝水になってた。あ、金縛りって触ってもらえると直るじゃないですか。機材車の中で金縛りになって、若井が助けてくれなかったんですよ!」

若井「いやいや、わかんないからね!」

山中「普通に寝てると思ったら」

大森「必死に助けてー!ってやってたのに全然助けてくれない」

山中「みんなが休憩を一通りすませて帰ってきたら、金縛りにあってたんだけど（怒）って、拗ねられたことがあります」

一同「ハハハハ!」

大森「自ら解こうとするとすごいパワーがいるから、最近は諦めて寝てます」

藤澤「解いたときのどっと疲れる感ハンパないよね。俺、解かれるとき絶対鼻鳴っちゃうもん。フガー（ブタ鼻）って」

大森「涼ちゃん、寝てるときもずっと鼻鳴ってるから」

藤澤「まじか、いつものか」

髙野「次は僕が。髙野家の言い伝え的なやつで」

一同「言い伝え?　何それ……（ざわざわ）」

髙野「小さい頃から、寝る時に心臓の上に両手を乗せると怖い夢を見るっていう……」

大森「胸で手組んで寝ると怖い夢見るっていうよね」

山中「そうそう」

大森「髙野家だけじゃないよ」

髙野「だけじゃないのかな!?」

山中「だけじゃないよ」

一同「あはははは!」

髙野「これ……あれ、ほんと!?　みんなこれ知ってんの?」

大森「うつぶせ寝すると怖い夢見るのも、心臓の血の流れが悪くなるかららしいよ」

山中「そうそうそう」

一同「……」

大森「それで?」

髙野「それを信じて、かからないように寝てたんですけど、連日で怖い夢を見たときがあって……勝手に胸の上に手があったことが続いたんです。無意識に」

若井「髙野家ではいけないことなのに」

大森「いけない子だ!」

一同「ハハハハ!」

山中「夏場で、ゴキブリが出る時期になって。部屋にでかいのがいたんですよ。殺虫スプレーを取る為にパッと目を離した隙に見失って。そこにちょうど箱があったんですね。どこ行った?ってチラッと見たら、箱の横からゴキブリが覗き込む様に顔を出してて。えっかわいいじゃんって」

一同「ええっ!?」

山中「一瞬でもかわいいと思った自分にゾッとしました」

若井「あのですね……」

大森「テンション、雰囲気で持ってくやつじゃん」

若井「元貴んちで起きたんですけど。泊まって、横向きで寝てたら金縛りにあって。耳が床に付いてるじゃないですか?ドドドドドドンってめっちゃ下から叩かれる音がして。でも金縛りにあってるから目は開いてるけど動けなくて。めっちゃうるさいし、どうしようって。そのとき布団で寝てて枕もあるのに、それが謎すぎて」

大森「それは寝てたんだって、夢だって」

若井「〜〜〜違う!　絶対俺聞こえたもん、ドンドンドンドンって」

大森「でもね、うちで金縛りにあってるの若井だけじゃない」

若井「そうだよね。元貴の家、ヤバいんです」

大森「僕三兄弟なんですけど、みんな割と“見える人”なんですよね。僕見えないんですけど」

■霊感の強い家系なのかな?

大森「どうなんですかね?　友達が多い……?」

一同「霊も友達!（笑）」

Column Special

Column3.
ミセスの文化祭

学園祭ツアーが発表されました！　そこで、もしミセスが文化祭をプロデュースするなら？

■ミセスが文化祭をプロデュースするとしたら、何をやりたいですか？
大森「このふたり（大森と若井）が手を組んでプロデュースしたら、チョコバナナとソースせんべいしかない祭りになってしまうので（笑）。いろいろ分担して、プロデュースするしかないね」
若井「そうだね（笑）。僕はね、プラネタリウムがやりたい」
大森「やってたじゃん」
若井「そう。高校3年生の文化祭でプラネタリウムをやったんですけど、当日までに間に合わなかったんですよ」
山中「うそっ!?」
若井「作り途中のものに入って休憩する場所みたいになっちゃったので、リベンジしたいなと思います（笑）」
大森「文化祭で完成しないとかあるの？」
若井「俺もびっくりした。クラスみんなで、すげえ喧嘩してるの!」
一同「あはははは!」
若井「手伝わないやつとかいるから」
高野「あ〜、いるね」
■当日の午前中ぐらいまでは、まだ作ってたりするクラスもあるよね（笑）。お化け屋敷とか。
大森「俺はカフェが良いな。各クラスで、いちばん人気のある女の子しかウェイトレスをやらない」
若井「うわぁ……」
大森「雑誌だからって、"うわぁ"って言うのやめてくれない？　なんか俺だけが言ってるみたいじゃん」
若井「自分だけで言ってたよ、いま（笑）」
一同「あはははは」
大森「それ良くない？　夢の国だよ」
■女の子の反感を買いそうだけど（笑）。
若井「だったら総選挙がいいよ」
大森「総選挙は悲しむ人がいるから、平和じゃないよ。それは学校が求めることじゃない（キリッ）」
若井「同じことじゃん、結局!（笑）」
大森「総選挙は"負け"が出るけど、喫茶店は"勝ち"を決めるだけだから」
若井「それは必然的に"負け"が出てくることだよっ!」
大森「いいじゃん、カフェ」
藤澤「……まあ、ありだね（笑）」
■それなら、逆に男子バージョンも作ったら？
山中「そうですよね（笑）、かっこいい人しかいない……」
若井「バー風とか？」
山中「イケメン男子がミックスジュースを混ぜて出してくれる、みたいな」
藤澤「でも食品を使ったお店って、衛生面で許可をとるのが大変なんですよ」
大森「どこ側からの意見だよ（笑）」
藤澤「なので、僕は詰まるところ、入り口のアーチをこだわりたいです（キリッ）」
大森「すげえ変なところをこだわり出しそう。ここがさあ……とか」
藤澤「で、間に合わなくなる（笑）」
■どんな入り口にしたいですか？
藤澤「宇宙」
一同「あははは」
藤澤「"ここからは違う次元なんだぜ"っていう、そういう宇宙を作りたいです」
大森「宇宙を作りたいってヤバいよ。神みたいになってる（笑）」
一同「あははは!」
■髙野くんは、どうですか？
髙野「俺は神輿をやりたいな」
大森「急に!?」
藤澤「たしかに町のお祭りと文化祭、一緒にやったりもするよね」
若井「あとは軽音部のライヴは欠かせないですよね。体育館でライヴとか」
藤澤「でも、あれやれるのは人気者だけじゃん」
大森「本気のオーディションをして、1位はゼップでライヴできるとか（笑）」
若井「すげえ、スケールが大きい!　あと、ゆるキャラみたいなマスコットがいたら面白いよね」
大森「成績がよくなかった人をマスコットにすればいい」
■すぐに順位をつけるなあ（笑）。
若井「みんな必死で勉強するわ（笑）」
大森「世界観強くなってきた」
■宇宙の門から入って、プラネタリウムや神輿があったり、イケてる店員だけのカフェがあって、成績が悪いとマスコットにされる……。
大森「テーマは、"人生の価値観が変わる文化祭"です（笑）」
一同「あはははは!」





Mrs. GREEN APPLE



Report

僕たちがやりました presents
真夏の僕やりNight～ “そこそこ” じゃ終わらない、夏
2017.08.14@豊洲PIT



Mrs. GREEN APPLEのニュー・シングル「WanteD! WanteD!」がオープニング曲をつとめるドラマ『僕たちがやりました』の一夜限りのトーク&ライヴイベント「真夏の僕やりNight～〝そこそこ〟じゃ終わらない、夏～」が8月14日に豊洲PITで行なわれた。このイベントには、同じくドラマで主題歌を担当するDISH//とMrs. GREEN APPLEがそれぞれライヴステージを繰り広げたほか、主演の窪田正孝をはじめ、間宮祥太朗、葉山奨之、今野浩喜ら俳優陣とのコラボレーションも展開するなど、盛りだくさんのコンテンツが用意された贅沢なイベントになった。あいにく関東は〝梅雨の戻り〟と言われ、一日中、雨が降り続くような天候ではあったが、豊洲PITの会場には、開演前から各俳優&バンドのファンたちが、イベントに期待を寄せて長蛇を作っていた。

イベントの開演は18時30分だったが、その直前まで入念なリハーサルを行なっていたミセスは、夕方、会場内で行なわれた囲み取材にメンバー全員で参加した。さすがに話題のドラマとあって、駆け付けたマスコミの数も20社を優に超える多さだ。俳優陣をセンターに、上手にDISH//、下手（しもて）にミセスが並ぶ。フォトセッションでは、カメラマンから順番に「目線くださ～い」とか「はっちゃけた感じで！」などと、次々にリクエストが飛ぶのだが、それに対してミセスの5人も俳優陣たちに負けない笑顔で応えていた。そう言えば、B-PASSの撮影のときにも、ミセスは編集部で用意した小道具を個々のアイデアで面白く活かしてくれたり、被写体として非常に優秀だったりする。それを山中に伝える



と、「普段からメンバー同士で撮るから慣れてるんですよ」と言っていたのを思い出す。そして滞りなく撮影が終わると、窪田が、大森と藤澤に話しかける場面も。「いくつ？」（窪田）、「僕は20です」（大森）、「24です」（藤澤）。「メンバーの髙野がいちばん年上で……」と丁寧に説明する大森。もしかしたら、窪田はちょっと緊張気味なメンバーの様子を気遣って話しかけたのかもしれない。

そのあとの囲み取材では、大森がメンバーを代表して質問に答えていた。「僕たちは本当に朝からずっと緊張してて……なかなかいつもの活動でこういうイベントに出演することがないので、今日は楽しみたいなっていう、それだけですね。みなさん、テレビで観てた人たちなので光栄です」。さらに質問者から、ドラマの感想を聞かれると、「面白いです！」と一言。隣りにいた窪田から「正直に言っていいんだよ」とツッコまれると、「原作を読んでから曲を書き下ろしたんですけど、ドラマが本当に（原作）そのままの世界だったので、いつも楽しく観てます」と答えた。自分たちの歌がテレビから流れることに関しては、「恥ずかしいけど嬉しいです。友達からも〝観たよ〟とか連絡があるので、そういうのも嬉しいですね」と表情を綻ばせた。イベントに対する意気込みとしては、窪田をはじめ、ミセス大森も、DISH//北村も、「邪魔をしないようにしたいです」と口を揃えて笑いをとったが、このあとのライヴステージでは、それぞれが他の人には決して真似できない個性豊かなパフォーマンスを見せつけることになる。

いよいよイベント本番。まずは「僕やり」俳優チームがカラオケの十八番をワンフレーズ

ずつ歌ったりして会場を盛り上げると、早速ミセスのライヴステージが始まった。

「僕やりNight！　Mrs．GREEN APPLEです。よろしく！」。3000人のお客さんを前にして、大森が放った高らかな挨拶から幕を開けたライヴは「StaRt」を皮切りに、賑やかでキラキラとした音たちが一斉にステージから溢れ出した。発声練習のようなコール＆レスポンスからハンドクラップへ。お客さんを巻き込んで、会場をひとつにしていく姿は、直前まで「緊張してます……」なんて言っていたのと同一人物だとは思えない。どんなときもステージの上では音楽という魔法がミセスを無敵のミュージシャンにしてくれているのだと思う。「今日は僕たちと一緒に遊んでくれますか？」。そうやってフロアを煽ってから、タイトルをコールした瞬間に会場から大きな歓声が湧いたのは「Speaking」だった。ギターを弾きながらスタンドマイクで歌う大森の両サイドで、向き合うようにプレイする若井と髙野。それを後方で見守りながらハイスピードなビートを叩き出す山中。下手側で誰よりも派手なアクションを見せながらシンセサイザーを操るのは藤澤だ。驚くほどに緻密に音を重ねるミセスの音楽は、そのうち誰かひとりが欠けても成立しない。

「こういうライヴとか音楽イベントが初めてという人はどれぐらいいますか？」。大森がフロアに問いかけると、かなりの人数の手があがった。「音楽は人に迷惑をかけない限り、自由ですから。自由に楽しんでください！」。そんなふうに言うと、真っ赤な照明がステージを染めた、攻撃的なロックナンバー「VIP」へとつなぐ。華やかピアノソロに続けて、ベー







ス髙野がステージ際まで歩み出て、一身にピンスポットを浴びる見せ場のシーンで、まさかの機材トラブル。「金髪のおじさんが、かっこつけて前に出てきたけど、機材トラブルで音が出なかったね。全然あるんですよ、そういうことも」と、それすらライヴの醍醐味だとでも伝えるように大森が言い放つと、スペイシーなシンセサイザーとゴリゴリの重低音が否応なしに体を動かすエッジの効いたEDMナンバー「WHOO WHOO WHOO」へと突入した。もちろん、この日はミセスのファンも会場には大勢いたが、それ以上に多かったドラマファンの人たちの前で、まるでミセスは〝これがロックバンドのかっこよさだ〟と、〝音楽の面白さだ〟と印象づけるようなステージを見せつけてくれた。そしてあっと言う間に残すところ、ラスト1曲。「この曲は僕たちに自信をつけさせてくれた曲です」と紹介して、『僕たちがやりました』のオープニング曲「WanteD！ WanteD！」を届けた。その曲の途中、藤澤が一度ステージ袖に捌けてから、窪田ら俳優メンバーを呼び込むと、会場からは悲鳴のような大歓声が巻き起こった。そこからは、窪田と大森がダンスをしながら一緒に歌ったり、間宮と葉山ら俳優陣も交互にマイクをとれば、会場の盛り上がりは最高潮へ。ラストは大森の「せーの！」の掛け声で、大ジャンプをして幕を閉じた。

すべての演奏を終えたあと、窪田は「ミセスさん、最高です。もっくん、すげえ」と興奮気味に感想を口にした。どうやら裏で行なわれた番組インタビューで、窪田と大森、DISH//の北村で、大森のことを〝もっくん〟と呼ぶ間柄になったという。大森は「もっくんって

呼んでくれてる（笑）」と照れ笑い。すると、横から間宮と葉山も「もっくん！　よっ！」と声をかけたりして、初対面とは思えないほど、すっかり打ち解けた様子だった。

　そのあとは、窪田、間宮、葉山、今野がドラマに関する質問に答えるコーナーを挟んで、イベントのフィナーレとなったのはDISH//のライヴだった。ドラマ『僕たちがやりました』にちなんだ漢字が刻まれたインパクトのある衣装に身を包んだ5人は、いきなり1曲目に主題歌「僕たちがやりました」を投下して、熱いロックナンバーでフロアを踊らせていった。頭にヘッドセットを装着することで、ギターやベースを奏でながらも自由にステージを動き、フロアを煽りながら歌やラップを届けるDISH//のステージ。爽快な北村の歌と橘のラップが交錯するミクスチャーロック「虹のかけら」のあと、来年も1月1日に4年連続5回目の日本武道館でのワンマンライヴを開催することを発表した。そして、ラストはドラマのために結成されたスペシャルユニット"DISH//と凡下高がやりました"として9人バージョンの「僕たちがやりました」を披露して、一夜限りのスペシャルなライヴは大盛況のなかで幕を閉じた。

「最後にミセスも呼び込みましょう」ということで、この日の出演者がすべてステージに並んで迎えたエンディング。ここでもメンバーを代表して、「楽しかったです。ありがとうございました！」と、大森は最高の笑顔で感謝を伝えていた。そして、最後は「真夏の僕やりNight～！」という窪田のかけ声で、イベントは大団円。それぞれ出演者たちが深々と頭を下げるなかで、誰よりも深くおじぎをするミセスの5人も印象的だった。

　イベントの終演後、改めてメンバー全員に感想を聞いた。

「ふだん僕たちが対バンをするような機会がないような俳優の方たちと、まったく違うジャンルが交わったところで成立するエンターテイメントだと思います。緊張してしまったんですけど、楽しかったです（笑）」（大森）

「ジャンルを超えたイベントだったからこそ、本当に一人ひとりがラフに楽しんでくれたなっていうのは感じましたね」（藤澤）

「キャストのみなさんと一緒に曲中で踊ったりできて、"僕やり"のドラマと一緒になれた気がしました」（髙野）

「僕たちを初めて観るお客さんもたくさんいたと思うんですけど、お互い探り合いながらも、レスポンスを返してくれるっていう良い掛け合いができたと思います。一緒に作っていく感じが楽しかったです」（若井）

「Mrs. GREEN APPLEは知らないけど、"WanteD! WanteD!"を演奏しはじめた瞬間に、"あ、この曲ね"ってなるのを肌で感じられたのが嬉しかったですね」（山中）

　歌がドラマを盛り上げて、ドラマが歌を盛り上げる、そんな相乗効果となった一夜限りのライヴイベント「真夏の僕やりNight～"そこそこ"じゃ終わらない、夏～」。この日ステージに立った出演者たちは、ほとんどが20代前半の若者たちだった。いま、この世代が作るエンターテイメントが日本のカルチャーの中心にある。そして、Mrs. GREEN APPLEも間違いなく、音楽の側から、その一翼を担う存在なのだということを改めて実感するイベントでもあった。B

set list | 01.StaRt　02.Speaking　03.VIP　04.WHOO WHOO WHOO　05.WanteD! WanteD!



6

ミセスの通信簿

～デビューからこれまでの活動の記録～

メンバーたちは、デビューから2年を振り返ってどのような活動をしてきたのか？
通信簿風にアンケート！　写真は、（ほぼ）自撮りをしてもらいました（笑）。





大森元貴｜活動の記録

項目	内容	よくできた	できた	がんばろう	
ライヴ	真面目に練習に取り組んだ		○		
	ライヴでたくさん汗をかいた		○		
	お客さんと一緒に楽しめた	さらにもっとがんばろう！と思ってます！		○	
バンド	メンバーと仲良くできた	○ よくできた気がしている			制作期間になるとメンバーをビシバシ追い込むので、もっと追い込もうと思います(ニヤリ)。恵まれているなぁと改めて思いました。さらなる高みを目指して精進します!
	メンバーに優しくできた	○			
	メンバーと思い出が作れた	○			
プライベート	行きたいところに行けた	○ ディズニーにいけました			ディズニーに行けたし、ニンテンドースイッチが買えたので満足です！ まだまだお会いしたい人がたくさんいます。
	欲しいものが買えた	○			
	会いたい人に会えた	○			

3年後、5周年に向けての目標

個人的には…

お友達たくさん！ 後輩達にも頼られるお兄さんになれていたら嬉しいなぁと思います。

バンドでは…

海外公演に挑戦したいです。

メンバーからの通信

from 若井

そろそろピザとパスタ以外の好物を見つけよう。

from 髙野

ときどき無邪気に遊びだす元貴。怪我しないように気をつけてね。

from 山中

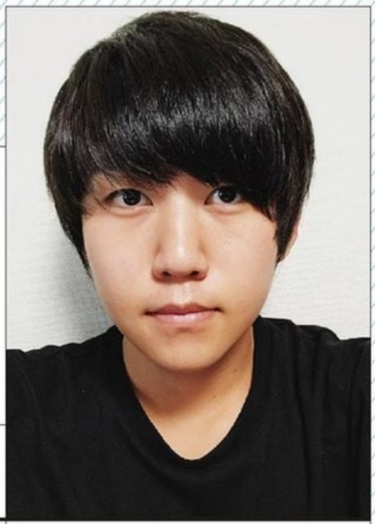
音域がどんどん広くなっています。どこまでいくのかとても気になります。

from 藤澤

ライヴ中に僕の位置から見える横顔、とてもいいです。これからもカッコよくいてください！ メンバーへのちょっかいは程々に……！

from 自分

身体に気をつけて、お仕事好きなのはわかるけど無理しないでね。



若井滉斗｜活動の記録

項目	内容	よくできた	できた	がんばろう	
ライヴ	真面目に練習に取り組んだ		もっと頑張れたよね	○	
	ライヴでたくさん汗をかいた	○			
	お客さんと一緒に楽しめた	○			
バンド	メンバーと仲良くできた	○			まだまだこれからやりたいことがたくさんあります。現状に満足せず頑張っていきましょう。
	メンバーに優しくできた	○			
	メンバーと思い出が作れた	○ 大変よくできた			
プライベート	行きたいところに行けた	○			
	欲しいものが買えた	○			
	会いたい人に会えた	○			

3年後、5周年に向けての目標

個人的には…

もっとカッコいいギタリストになります!

バンドでは…

もっともっと純粋に音楽を楽しんで追求してみんなに発信していけたらなと思ってます!

メンバーからの通信

from 大森

結成当時と比べ物にならないくらいギターが似合うようにだんだんなっていて嬉しいです。その調子で最終的にはギターになってください。

from 髙野

一人暮らし始めたってことで、分からないことがあったら頼ってね!

from 山中

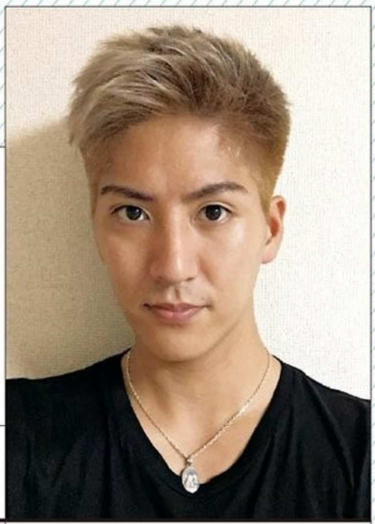
どんどんリーダーらしくなってきました。これからもみんなを引っ張っていってください。

from 藤澤

早く一緒にフッドサルしましょう。教えてください。
メンバーへのちょっかいは程々に!!!

from 自分

体調には気をつけて、これからさらに黒髪に磨きをかけて頑張ってください。あと寝坊しないように。



髙野清宗｜活動の記録

項目	内容	よくできた	できた	がんばろう	
ライヴ	真面目に練習に取り組んだ		もっとやれるはず	○	
	ライヴでたくさん汗をかいた	○			
	お客さんと一緒に楽しめた	○			
バンド	メンバーと仲良くできた	○			休みの日とかも自分が運転して出かけたりとかして、仲は良いと思います! 楽しいことも時には大変なこともたくさんあったけどすべて良い思い出。
	メンバーに優しくできた		○ どうかなぁ。できてたらいいな(笑)		
	メンバーと思い出が作れた	○			
プライベート	行きたいところに行けた	○			僕と涼ちゃんの出身地の長野にツアーで行けたのは感慨深かった。 コントラバスを最近買えた。ライヴでいつか使ってみたいな。 ずっと憧れだったベーシスト、くるりの佐藤さんにお会いできた。
	欲しいものが買えた	○			
	会いたい人に会えた	○			

3年後、5周年に向けての目標

個人的には…

ついにアラサーということで、身体を鍛えていきたい。

バンドでは…

音楽面でもそれ以外でも幅広くいろんな事に挑戦していきたい。

メンバーからの通信

from 大森

ナメられお兄さんとしてこれからも宜しくお願いします。

from 若井

メンバー最年長の知識の豊富さをこれからも見せつけてください。

from 山中

どんどん服が個性的になってきました。さらに磨きのかかった髙野コーデを楽しみにしています。

from 藤澤

地元一緒だけど、プライベートで地元で会ったことないですね! いつか長野で遊びましょう。いつか……。

from 自分

最年長よ。しっかりしていこう!



山中綾華｜活動の記録

項目	内容	よくできた	できた	がんばろう	
ライヴ	真面目に練習に取り組んだ	○（たのしくできた）			1曲で巻き髪がストレートになるくらい汗をかいた。毎回とても笑顔でライヴができている。
	ライヴでたくさん汗をかいた	○			
	お客さんと一緒に楽しめた	○			
バンド	メンバーと仲良くできた	○			休日もドライブやお買い物に行く。休日にいろんな所に遊びに行ったり、イベントごとは必ず集まっている。
	メンバーに優しくできた	○（お互いに）			
	メンバーと思い出が作れた	○			
プライベート	行きたいところに行けた	○			スキューバダイビングをしに青の洞窟に行ったし、お気に入りのブランドを見つけた。大好きなアーティストにも会えた。
	欲しいものが買えた	○			
	会いたい人に会えた	○			

3年後、5周年に向けての目標

個人的には…

もっとレベルアップ

バンドでは…

海外ツアー

メンバーからの通信

from 大森

容姿含めビフォーアフターが激しい綾華ですが、これからも程よい天然さんで頑張ってね。

from 若井

ミセスのパワー担当としてそのパワフルさと女子力でこれからも僕たちを支えてください。

from 髙野

リズム隊として、どっしり構えててくれるからとても心強い。

from 藤澤

年々格好良くなっていきますね！　これからも、お菓子の袋が開けれなかったり、ジュースの蓋が開けれない時は、山中姉さんに頼ります。

from 自分

どんどんライヴ衣装が派手になってきました。スパンコールの次はどうしましょう。



藤澤涼架｜活動の記録

項目	内容	よくできた	できた	がんばろう	
ライヴ	真面目に練習に取り組んだ			○	昔は、必要以上に緊張してガチガチでライヴやってたけど、最近では心身解放して全力で楽しめてます。むしろ走り回って踊ってばかりなので、楽器もたくさん弾きましょうと自分に言い聞かせてます。
	ライヴでたくさん汗をかいた	○			
	お客さんと一緒に楽しめた	○ たいへんよくできた			
バンド	メンバーと仲良くできた	○			オフの日も皆で出かけたりするし、真剣モードな時はケジメ持ってちゃんとお話もするし。良い関係だと思います。同じ出身の髙野と、もっと地元の方でも面白いことやったり大きいライヴをやるのが個人的な企みです。
	メンバーに優しくできた		○		
	メンバーと思い出が作れた	○ とってもよくできた			
プライベート	行きたいところに行けた		○		ゲーム大好きなのですが、テレビとは別で、ちゃんとしたゲーム用のモニターを手に入れるのが今後の課題です。ゲームを通して、出会えたり仲良くなった方々も沢山いるので、引き続きこれからも本気でやっていきます。
	欲しいものが買えた		○		
	会いたい人に会えた	○			

3年後、5周年に向けての目標

個人的には…

バンバン喋れる人としてテレビにバンバンでれるようになっていたい。なります。
もっともっと元貴の楽曲の良さを広げられるプレイヤーにもなっていたいです。

バンドでは…

もちろん国内でも自由に活動していたいですし、海外からもたくさん呼んでもらえるような音楽活動をしていたいです。

メンバーからの通信

from 大森

キーボーディストなのかダンサーなのか僕もわからなくなってきました。

from 髙野

誰よりも髪色の変化が激しい涼ちゃん。頭皮お大事に。

from 山中

髪色が短期間ごとにどんどん変化していきました。次は何色にするのかいつも楽しみです。

from 若井

ガリガリすぎて時々心配になります。栄養バランスを考えてたくさん食べましょう。

from 自分

体調管理には気を付けましょう。



Mrs. GREEN APPLE

WanteD! WanteD!

ミセスの発信するメッセージはいつだって等身大。相手の目を見て、手を取って伝えるような温度感だ。楽曲に共通している想いは「今は“今しかない”」ということ。彼らの今をとくと目と耳に焼き付け、進化し変わり続ける姿をこれからもずっと追いかけていきたい

5th Single

WanteD! WanteD!

2017.08.30 Release

初回限定盤 CD+DVD ¥1,700(tax out)

通常盤 CD ¥1,200(tax out)



初回限定盤



通常盤

[CD]

01. WanteD! WanteD!

02. On My MiND

03. 光のうた

[DVD]

「WanteD! WanteD!」Music Video
(DVD Limited Edition)
The Making of "WanteD! WanteD!"
「MGA MEET YOU TOUR」 at 東京国際フォーラム ホールA on 19th May, 2017より
Lion / おもちゃの兵隊 / 鯨の唄 / サマママ・フェスティバル! / StaRt



Mrs. GREEN APPLE ⇒

ミセスグリーンアップル。'13年4月大森を中心に結成。'15年7月ミニアルバム『Variety』でメジャー・デビューを果たす。10月より学園祭ツアー「Mrs. GAKUSAI TOUR」を開催する。



Mrs. GREEN APPLE
Spesial Cover Original Print Present

初の表紙巻頭特集に登場してくれたMrs. GREEN APPLE、いかがでしたか？ フレッシュな5人の魅力がより伝わると嬉しいです。感想どしどしお寄せください！ 表紙オリジナル・プリントを3名様にプレゼント。ご希望の方は、P.186にある応募券をハガキに貼り、〒&住所、年齢、電話番号、特集の感想、厳しいご意見なども明記の上＜〒101-8450 東京都千代田区神田錦町1-14-2F B-PASS「Mrs. GREEN APPLE表紙プリント係」＞までご応募ください（9月26日当日消印有効）。当選者は10月27日発売のB-PASS12月号当欄にて発表させていただきます。

B-PASS8月号 OLDCODEX表紙プリント当選者
埼玉県／古谷花織さん　東京都／小原蓉子さん　長崎県／川原有理さん

応募者全員サービス	Mrs. GREEN APPLE×B-PASS 特製モバイルカードポケット	P.002の応募方法をご確認の上、ふるってご応募ください!

SPYAIR
THE KINGDOM IS HERE

バンド史上4回目、富士急ハイランド・コニファーフォレストでは3年連続となった
夏の単独野外ライヴ『JUST LIKE THIS 2017』のレポートと、
ニュー・シングル「MIDNIGHT」インタビューの2本立てでお届け!
4人が発する飾らない言葉に、10月に発売される5thアルバム『KINGDOM』への期待が高まるばかりです!!

Text ⇒ 大西智之
Live Photo ⇒ 鳥居洋介、三浦知也、中島未来





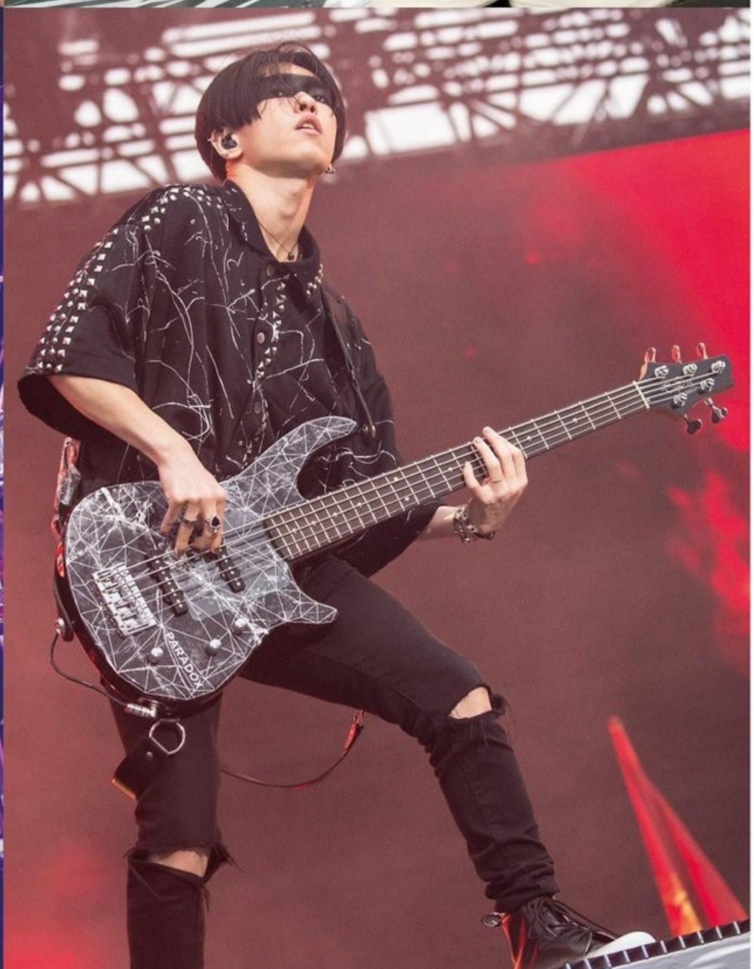
JUST LIKE THIS 2017
2017.07.29 富士急ハイランド
コニファーフォレスト

Live Report









メインステージで火柱が上がった。

大粒の雨が叩きつける吹きさらしの花道に進み出てきたIKEが両膝を突き、叫ぶように歌う。明日や何時かじゃない、今なんだと伝えてくる。

ライヴも後半に差し掛かり、曲は「Turning Point」だ。

切れのいいラップをブチかまし、エッジーなギターリフを鳴らすUZも、太いベースラインを弾き出すMOMIKENも全身ずぶ濡れ。KENTAは広大な会場を見渡しながら重いドラムを打ち鳴らし、その音で1万5000人との現実的な距離感を奪い続けていた。

＊

開演前。雨が降る会場に入ると、コニファーフォレストの敷地いっぱいにスケールを広げた客席。そして4人が掲げた〝ROCK KINGDOM〟というコンセプト通り、タペストリーとフラッグが掲げられた中世ヨーロッパの王国の城を彷彿とさせるステージセットがそびえている。雨で霞むその景色は映画のよう。現実と切り離された空間ができあがっていた。

SEが響き渡り、上手からIKEとUZ、下手からMOMIKENとKENTAが姿を現わし、しょっぱなからトロッコに乗って会場を半周する。そして客席を突っ切る花道の後方にトロッコが着くと、4人は国旗さながらに〝紋章〟を刻んだフラッグを手に、中世の兵士を引き連れてメインステージへ進む。タフなギターリフに導かれて強靭なサウンドが鳴る。曲は今夜のライヴのテーマとして書き下ろした「THE WORLD IS MINE」。〝自由を解き放て〟。真っ直ぐな言葉が飛び込んでくる。この王国では楽しみたい、という意志のもとに行動すれば、その自由が手に入る。ステージのSPYAIRが自由でいることを叶えてくれる。フロントの3人は、楽器やマイクへのダメージを怖れずに、降りしきる雨の中、ウイングや花道でパフォーマンスをする。この天候すら演出の一部だ。「COME IN SUMMER」で弾む、軽やかなサウンドと歌。そこに登場したビキニにパレオという水着姿のダンサーたち。水滴がメンバーと彼女たちをキラキラと輝かせる。IKEとUZだけが花道中央のサブステージに残りアコギ1本と歌で披露する「Stand by me」。アコギが濡れて音の余韻が出ないため、急遽、アルペジオフレーズがストロークで演奏されたが、その響きの温かさは個々の中にある大切な〝あの頃〟の記憶を呼び覚ます。そして、UZ&KENTA、サポートギタリストのtasukuの〝マッスル〟と、IKE&MOMIKEN、サポートキーボーディストの高藤大樹による〝ファッション〟に分かれた2チームがムービーでユーモアたっぷりにdisり合ってからスタートした「BRING IT ON ~Battle of Rap~」。上半身裸のUZとスーツ姿のIKEのラップバトルは、ラップ歴が浅いIKEが曲中にセクシーな声でのラップを入れたりと好勝負だ。そんな闘いを雨は勇ましく見せもした。

「サムライハート(Some Like It Hot!!)」では、濡れたIKEのマイクが故障し、イヤーモニターの音も途切れてしまう。すると1万5000人が歌い、ライヴを作る。

そんなライヴの最後は、「SINGING」の大合唱だった。どしゃ降りの中、会場にいる一人ひとりが声を上げ、気持ちを重ねる。雨があたるメンバーの体からは熱気で白い湯気が立ち上がっている。富士急ハイランド・コニファーフォレストで響くその音楽は、愛で溢れ、この瞬間の景色はどんな映画のどんなシーンよりもドラマチックだった。









New Sg「MIDNIGHT」Interview

並行して制作しているアルバム『KINGDOM』のテーマに沿ってというより、切り離してドラマの世界観に合う、でも俺ららしさがきちんと打ち出せる作品を、とバランスを取りながら制作を進めていきました



IKE Vo.

UZ G.

■雨の中、満員の富士急ハイランド・コニファーフォレストで『JUST LIKE THIS 2017』。どうでしたか?

UZ「気持ち良かったです。雨が降ってしまったことですら良かったなと思えるくらいドラマチックになったし。自分にとってこの先忘れられないライヴのひとつになったな」

■雨も本降りでしたからね。

UZ「嵐か?!くらいの降り方でしたね(笑)」

IKE「降りすぎると吹っ切れるんですよ。気持ちもボーダレスになって、歯止めが利かないくらいエモーショナルになっている自分がいた。しかも、お客さんの雰囲気を含め、会場全体がそれを受け止めてくれる雰囲気になってたんですよね」

KENTA「スタッフも終わった後、やり切った顔をしてました(笑)。アクシデントがありすぎて大変だったと思うんですけど」

IKE「駆け引きがあったんですよ。雨から機材を守るためにテントを出すか?とか。結果的にはキーボードのところだけテントを張って。見栄えがいい方向でやらせてくれた」

KENTA「それこそ〝アコースティックゾーンはメインステージでやる?〟という話もあったんですけど、濡れようよ、とかね(笑)」

■メインステージの屋根の下でできる限りやるなんてことをせずに、どんどん花道やウイングに出てましたね、楽器はダメージを食らうのに。その〝行ってしまえ感〟、吹っ切れた感じが叩き上げのバンドだな、と(笑)。

MOMIKEN「一度濡れたら、楽器がどうとかないですね(笑)。逆に俺らが濡れないようにって下がったらカッコ悪かっただろうし」

UZ「あとで楽器がどうなるとか頭になかっ



た。それよりも観てくれるみんなと一緒に濡れたほうが気持ちいい！って（笑）」

IKE「マイクがトラブルを起こしたり、イヤーモニターの音が聞こえなくなったり。アコギもボディまでビシャビシャで。それでもライヴをやれるバンドの粘り強さは感じた」

KENTA「お客さんもいっぱいで、会場を最大まで使ったから去年より客席の横幅が広かったし、会場も大きく見えたんですね。その景色を見ながら、俺はドラムの前から動けないし、吹き込んでくる雨で背中が濡れる中、叩いていたんです。そしたらフロント3人が3、4曲目くらいから行こうぜ！っていうテンションになってきて。童心にかえったような顔をしてましたよ（笑）」

IKE「だって日常で、どしゃ降りの雨の中叫んだり遊んだり、って今や子供でもしないから。それを大の大人1万数千人集めて、一緒に濡れようぜ、だから（笑）。みんなビシャビシャになりながら楽しんでくれたと思う」

■本当に楽しかったですよ！　そして、その勢いに乗る4人からシングル「MIDNIGHT」が届きます。表題曲は、まとわりつくような熱を感じる曲ですね。

UZ「TVドラマ『ウツボカズラの夢』の主題歌に、というお話をいただいて5月頃に作りました。最初から楽曲のテイストに対するリクエストがあったんですよ。だから、並行して制作しているアルバム『KINGDOM』のテーマに沿ってというより、切り離してドラマの世界観に合う、でも俺ららしさがきちんと打ち出せる作品をと、バランスを取りながら制作を進めていきました」

■先方のキーワードは何だったんですか？

UZ「〝ジャジー〟です。これまで本格的にやったことがないし、まずは研究をしつつ」

■ジャズフレーバーをロックに入れるとどうなるか、ですね。UZさんから曲が上がって、どんなことを感じましたか?

KENTA「雰囲気もプレイも今までの自分たちになかったものでしたから。それに挑戦できる楽しさは感じてました」

MOMIKEN「まずイントロのピアノフレーズが印象的で。いつもと違うテイストに幅の広さを感じたんです。しかもロック色なしでいくのかと思いきやサビで激しくリズムを刻んできて。そのサビに乗るメロディが歌謡曲的で、グッときました」

IKE「俺が最初に感じたのは〝サビで頭打ちのリズムきた、ヤバイ!〟です(笑)。〝どこでリズム取って歌うんだ?〟という想いが押し寄せて。その後に〝いつもと雰囲気が違うね〟ってことを消化していった(笑)」

■ピアノフレーズがカッコ良いです!

UZ「この曲はピアノリフから発展させたんですよ。ジャズって、メロディのコードがセブンスとかブルーノートでロックと違う。そういうマナーに沿って打ち込んだピアノをちょっと速めてみたらこの感じになったんです。だから最初はもっとゆっくりで。ヒップホップでジャズのトラックを使った楽曲ってありますよね、ああいう雰囲気にしようかと思ってたんですけど、テンポを速めて4つ打ちにしたらカッコ良くなった」

■閃きでやってみたらカッコ良かった、という。

UZ「作曲でよくあるんです(笑)」

■ピアノがリズムを刻んでいて、Aメロはジャジーなリズムパターン。確かにリズム隊はチャレンジングですね。

KENTA「ジャズってカチッと決めないカッコ良さがあるというか、全員がメインでリズムになりうるものですよね。ロックは誰かの音を聴いてそこに合わせるけれど、ジャズは各々のグルーヴが合わさってカッコ良い音楽になるって思っていたんです」

■インプロビゼーションが大事ですしね。

KENTA「そこを俺は通ってないし、本格的にやっている人には勝てない。それにUZから〝ジャズに寄るんじゃなくてサウンド感はSPYAIRでありたい〟と言われていたから。基本スタンスは変えずにすべての楽器は俺についてこい、っていう気持ちで叩いたんですよ。プレイとかは新しいんですけどね」

■Aメロでベースがジャジーなラインを紡いでいるところでは、シンバルで表情を出していますよね。

KENTA「ライドシンバルでやってます。あのフレーズは最初、スウィングジャズのプレイヤーがやる感じで片手でと思っていたんです。でもトライしてみると音が弱いんですよね。音をハッキリさせてリズムの縦感をしっかり出すだけの存在感が欲しかったし、ここは両手だな、ということで変更しました」

■ベースがジャズの空気感を強く持ち込んでいるわけですが、近いニュアンスは一度やってましたよね。

MOMIKEN「はい、〝C!RCUS〟で。あれで触れておいてよかった。このレコーディングではいろいろ意識し過ぎて、何がと言えないくらい大変だったんです(笑)。なかでもSPYAIRでありたい、というUZの言葉が大きかった。Aメロのフレーズはジャズのそれだけど、リズムの取り方はロックの〝行ったれ!感〟だったたし。そこが新しさになったな、と。とはいえ、ピアノと合わせた演奏とか休符を挟むフレーズは難しかった」





■で、サビでは16分音符を刻む、と。

KENTA「16分裏ですね。ここで大切にしたのは、ヴォリュームや音像が小さくならないこと。あと、4つ打ちの曲なんですけど、スネアの存在感はしっかり出す。そこって俺の中ではロックで絶対的なんですよ」

■ギターのポイントは話に出ているようにロックである、というところでしょうか?

UZ「そうですね、ちゃんと〝壁〟を作って。その中でもセブンスのジャズっぽいコードを取り入れたからリフがオシャレというか」

■セブンスは「C!RCUS」もそうですが、雰囲気が違いますね。

UZ「ジャズでも泥臭いのとハッピーなのがあって、〝C!RCUS〟は後者なんですね。〝MIDNIGHT〟は泥臭くて、まとわりつく湿度があるというか」

■そしてヴォーカルは、サビもそうだし、Aメロもポイントですね。

IKE「サビの頭打ち問題はプリプロで解消されました(笑)。歌ってみたんですよ、でも頭打ちのビートを俺が刻むと歌ものにならないというか。もっとゆったりしたビートで歌ったほうがいいんだ、と。縦が揃うリズムに対して、歌は横揺れができるような。で、サビの最後の〝熱帯夜〟で合わせていく。オケを意図して無視することを勉強できました」

■ハッキリしたリズムの上で、歌はスラーがきいているというか、流れるような歌。

IKE「別グルーヴなんですよね。2軸で引っ張っていくサビになった。そしてAメロでポイントとなったのは息具合と休符ですね。〝幸せになるわけじゃない〟とかは、どの音符を前に出すか。音を伸ばすとオケをオーバーしちゃうんで、コンパクトで息が多めに発声したほうがいい。逆にラップパートの〝Everybody Lies〟とかは、音がはみ出しているほうがいい、とかね」

■ラップセクションはIKEさんの歌に対してUZさんのラップがリズムを刻んでいて。

UZ「このラップゾーンは、4つ打ちで、ギターもダブルで歪んでいて、ベースもランニングではないですしね。ミクスチャーロックのラップですね」

IKE「ジャズっぽい雰囲気の曲にラップセクションを入れるのが新しいというか、あまりやられていないポイントだと思うんだよね(笑)。このミクスチャー感!」

UZ「完全にこの曲は、ミクスチャーだよね。要素が多いし、リズムも変わりまくる、そういうのもたまにはいいなって」

■そこが面白いし、それに踊れるな、と思いましたよ。

UZ「踊れますか?」

■1曲通してノレる軸が通ってると思います。

MOMIKEN「確かに。こういうリズムチェンジが多い時にKENTAが言うんです、〝1個のビートを感じていく〟って。この曲なら4つ打ちのビートの取り方でリズムチェンジをしていこう、って話をして。するとリズムチェンジしてもバタバタしないんです」

KENTA「それは、最近思ったことで。この曲は4拍から絶対ずらさねぇぞ!って(笑)」

■頑固一徹な職人みたいでいいですね(笑)。歌詞は、どうSPYAIRのメッセージにするか、という面に神経を注ぐ部分もあったのかなと思うくらい、これまでと雰囲気が違う言葉が並んでいますね。

MOMIKEN「でも内容としては自分の居場所や幸せの場所を探しているっていうこれまで発信してきたメッセージが軸だったりするんです。ただ、言葉のチョイスが普段と違うんですね。テーマに沿って言葉の表現を変えてみる。それができたし、いいチャレンジでした」

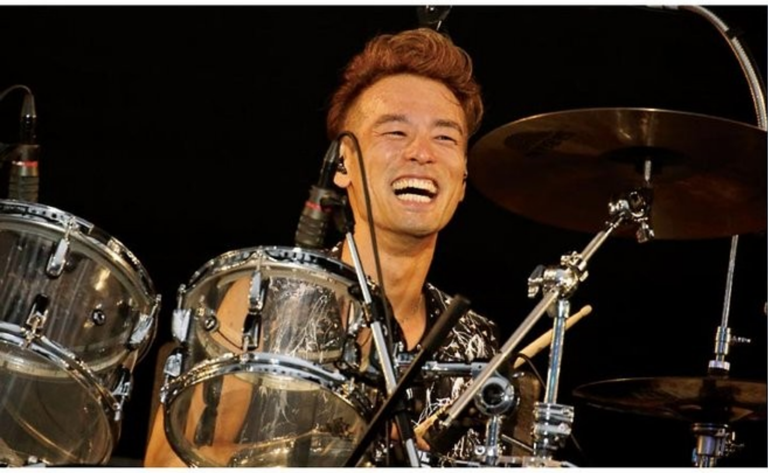
■言葉を選ぶ時に意識した世界観は?

MOMIKEN「他人と比べる格差を表現したかったんですよ。比べる対象がいなければ、幸せになりたいとか、不幸だとか思わないはずなのに、他人がいることでそれを感じてしまうジレンマ。それをハッキリと言わずとも入れていきたいな、と。あとは、ストレートに〝幸せになりたい。〟だったり。自分にとっての幸せはお金だと思ったけれど、あふれた富でさえ贅沢に思えずにいて、一番欲しいものはそれじゃない。じゃあ何なんだと現在進行形で〝もがいてる〟姿だったり」

■〝幸せになりたい。〟その想いに嘘はないから、そうなるために〝嘘も生き方〟と言い切ってしまう主人公がいます。

MOMIKEN「自分の卑しさみたいなものも含め、否定することは何もないんだよ、っていうことも表現したかったんです」

IKE「俺は、1番のAメロにある言葉が好きなんです。道徳ぶっても幸せになるわけではないとか、自分が一番可愛い。そこに人が心の





底に抱える真っ黒い部分が表われていて」

■多かれ少なかれ持っている想い。

IKE「それがあるから、幸せになるために嘘も生き方と思ったりするんじゃないかな。そういう、人間の根にあるものに惹かれたし、人間味のある曲だな、と。歌というものは夢を語ってもいいし、こうやってリアルを突き刺していくものでもありですよね」

MOMIKEN「こういうことを書いておくと、逆に別の曲で綺麗なものをストレートに書くこともできるしね」

■そういう人間の本質を描いた歌だから、歌も、質感が違うというのもある?

IKE「はい。Aメロはまとわりつくような湿度感をイメージしました」

■という新鮮さとらしさが混ざった表題曲のカップリングは「The Way of My Life」。サビでの抜け感のあるロックです。

UZ「これは4、5年くらい前の曲なんです。俺自身は作ったことを忘れていて。カップリング曲を作ろうかなと思っていたら、スタッフが〝あの曲は?〟って。久しぶりに聴いたら、ギターのリフやメロディに光るものがあったので、今アレンジしたらカッコ良くなるってことで詰めていきました」

■光るものって、言葉にすると……。

UZ「今じゃもうこの曲は作れないんですね。基本的にワンコードでAメロをやることもなくなったし。サビは今なら聴くだけで泣ける、みたいなエモいメロディを作りたくなるんです。でも当時はもっと感覚的なところで、ちょっといなたいんですけど、堂々とやっていた。これはこれでありかな、って」

■アレンジしなおしたものをメンバーに聴か

せて。

UZ「当時も、MOMIKENが歌詞を書いて、IKEが歌を録ったんですよ。オケのレコーディングはせずに、デモでは俺が打ち込みで作り込んでいたんですけど」

■歌詞も書き直したんですか？

MOMIKEN「はい」

IKE「前のサビの歌詞を言いたい！（笑）」

■気になるけど、聞いてもいいの？（笑）

MOMIKEN「いいですよ、〝Say，Hello Hello〟でしたね。それを改めて見て、おっとこれは書き直しだな、と（笑）。当時の自分の想いだけしっかり受け取って、すべて変えました。今の成長した俺らの年代の人が思うことを歌詞に落として。あと、当時なかったラップパートが入ってきて、そこはUZが詞を書くことになって。俺が大枠だけ作って、細かい表現……風景とかをUZが描いたんです」

■歌詞は、楽しめなくなった日常でもがきながらも過去の日々に守るものはない、明日がすべてだ、という想いですね。メロディの部分は現在想うことで、時間軸は今。対してラップは過去の情景だったりで、時間軸が動く。

UZ「ラップのリリックを書くにあたってMOMIKENと相談した時に、よりパーソナルでしかも昔を振り返って書いてほしい、というオーダーがあったんです」

■サウンドはスケールがあって、サビは抜け感があります。

KENTA「アメリカのロックを聴いてきた自分がアメリカのドラマーが叩くようなドラムを、という想いで向き合ったんです。いい意味でおおざっぱでパワフルなドラムを目指しました。ルーズなビートを叩けるようになってきたかな、という自分への挑戦でしたね」





■そしてその感じがサビで変わる。

KENTA「サビで一気にギュッと鋭いものに変わるというギャップは気をつけました」

MOMIKEN「ベースは大きく弾くっていう。フレージングで細かく刻もうかな、と思う箇所もあったんですけど、そうすると大きいノリが崩れていくな、と」

UZ「音色を含め、ギターが引っ張っていく曲じゃないですか？　そこは意識しつつ特別なことをやらないというか。曲自体がカッコよくなればいい、というギターですね」

■引き算が利いたアレンジだと感じたけれど。

UZ「そうですね。やっぱりバンドなんで。あまり音を入れるといろいろ聴こえなくなるし。逆に削ぎ落とすことで入れた一個ずつの音が太く、音像がデカくなる。その良さですよね。ギターも、昔だったらエイトビートを刻んでいるだろうけど、全音符にする。ギタリストとしてではなく、アレンジャーとして弾いているかな」

■音の積み方や音像に気を配りつつ、曲として単調にならないところまで踏み込んで？

UZ「音の積み方は変わりました。単調にならないというところも意識しています。Bメロの少しフックを利かせた音作りとコード進行。それでここにアクセントを置くと、サビでガラッと印象が変わる。ドラムとベースは基本1曲通して同じ音ですし、表情をつけるのはギターの役割。昔よりうまくできましたね」

■5年ほど前の曲と今向き合い、煮詰め直したことで、気づくことはありました？

UZ「極端に言えば昔は雑なんですよ。ロックでは適当さも大事なんです。でも当時のデモはまだまだ甘かったな、って。ただ見方を変えれば、コードの影響もあってこの曲って少しなたいんですけど、メロディはいいんですよね。俺の作るメロディ自体、中学生の時から在り方みたいなものは変わってなくて。ただアレンジ技術は努力でいくらでも成長していけるものなんだな、と（笑）」

■UZさんのアレンジ、シャープで好きです。その先に見えてくるバンド感がある。

UZ「これまでアレンジャーさんとやってみて感じることもありました。やっぱり入ってもらうと綺麗なんですよ。それが良さでもあり、でもはみ出したところにバンドのカッコ良さがあったりして」

IKE「そう考えるとこの曲は無骨でいいね」

UZ「人に関わってもらうと、この曲ももう少し音で埋めたくなるだろうね」

IKE「歌うことだけで言うと、Aメロとか埋めて欲しかったよ（笑）。誰かにシェイカーを振って、引っ張ってほしいくらい！」

KENTA「でもこのアレンジだから歌にも緊張感があるし、カッコいいんだよね（笑）」

IKE「間違いない（笑）。バンドっぽさって俺の言葉で表わすと〝インディーズぽさ〟で」

UZ「うん、いい意味で雑っていうかね」

IKE「この曲って、制作当初の情景というか。泥臭いところで鳴らしてた音の匂いが残っていて。それを現在の自分らが演奏したことで、俺たちってバンドの泥臭い音が好きだし、うまいんだなって思った（笑）。久しぶりにKENTAが大陸感のあるドラムを叩いているなとか。それがあるとグルーヴが粘っこ

くなるし、バンドの良さもより出る。歌も、正解のないカッコ良さを求めなきゃいけなかったんです。昔はできてた気がするのになんで今できないんだろう？とか。音符に綺麗にはめてる自分がいたんですね。あとサビは4つ打ちで、このサビ自身が〝抜け感〟を求めていたし、とにかく開ける音。メロディにいなたさはあるとわかっているんだけど、それでも抜けさせてやろう、と思って歌いました！」

■その抜け感が、サビの詞にある〝期待している明日〟につながっている気がします。

IKE「ですね。ここは自信を持って、ドヤ顔でやらないと駄目なんですよ（笑）」

■あと、歌ではサビの〝いつだって〟〝疑って〟の〝っ〟。この曲のすべてのサビでもこの箇所に〝っ〟がきていますが、歌のパワー感というかフックを呼び込む〝っ〟ですね。

IKE「〝っ〟って〝ん〟と同じなんですよ。音がないというか。スタッカートがつくし、歌いやすかったです、確かに」

MOMIKEN「〝っ〟は意識して歌詞の適所に入れていくことが多いんです。フックをつけたい時、はみ出したいと思った時に使うんですね。この曲もそう。〝いつでも〟にするか迷ったうえでの〝いつだって〟〝だったり〟」

IKE「〝いつでも〟だと、歌のニュアンスが少し丸くなるね」

MOMIKEN「そう、なめらかに歌っちゃうんです。あと〝っ〟の前に置いている濁点、これもポイントになったりするんですよ」

IKE「なるほど、気づかなかった！ 工夫されていますねー（笑）」

MOMIKEN「歌いやすいように作っているし、IKEが歌いにくいと感じるところはそれを狙って詞を乗せているんだよ（笑）」





IKE「そうやって自然と引き出された歌だったんだね」

■良さを引き出す詞。ずっと一緒にやってきているからこそ、ですね。そして、このシングルを出した後は、約2年ぶりのアルバム、その後のツアーも発表になっています。新しいアルバムを軸にした動きが始まりそうですね。

UZ「アルバムは、残り1曲をレコーディングしたら全曲揃うんですよ。その曲もデモはできてます。だから、なんとなく見えているんですね。『KINGDOM』というコンセプトを約2年前に立てて、その時期ごとにいいな、と思う曲を作ってきた。それが曲数揃ってアルバムになるっていう感じであるかな」

KENTA「現段階での聴き応えは思った以上に泥臭くて、ザラザラしてるんですよ。シングル曲はキラッとしているんですけど、全体の印象としては男臭くなる気がしますね」

MOMIKEN「しかも浮き足だってないというか。ドシッとしたロック感が強いアルバムになるんじゃないですかね」

IKE「あとジャンルの枠に恐れがないし、音が小さくまとまってないんですよね。地に足をつけて根っこにある音を鳴らしている感じがする。アルバムってバンドの大きい流れを記録するものだ、と思っていて。〝俺ら自分の『王国』を作って音楽をやるから〟っていう。そういう曲たちが揃ったんだな、って。1個のバンドがやる楽曲の振り幅を越えているんだけど、俺らの音だから成立してる感じがいい。オリジナルやっているな、って」

■それは楽しみです！

IKE「楽しみにしていてください」

B



New Single
MIDNIGHT
2017.08.30 Release
¥1,111（tax out）

01. MIDNIGHT
02. The Way of My Life
03. MIDNIGHT（inst.）
04. The Way of My Life（inst.）

SPYAIR ⇒
スパイエアー。愛知県出身。'05年結成。'10年に1stシングル「LIAR」でメジャー・デビュー。'17年10月11日に、前作『4』より2年ぶりとなる5thアルバム『KINGDOM』をリリース予定。'18年1月からは、全国ホールツアー『SPYAIR TOUR 2018 -KINGDOM-』を開催する。





バンドだからこそ、できること。

ベストアルバム『SCANDAL』を引っ提げて廻った、キャリア初の47都道府県ツアー。3月に熊本から始まった長いロードが、7月17日の東京・豊洲PITにて遂にフィニッシュ！　結成10周年を迎えた今の彼女たちだからこそ踏み出すことができた大きな挑戦を経て、4人がつかんだモノとは……？　それぞれが"SCANDAL"と真っ向から対峙したことで改めて見えてきた未来図と、よりタフに、より自由になったバンド像を探る。

Text ⇒ 大西智之


L-R
TOMOMI B.&Vo.
HARUNA Vo.&G.
RINA Dr.&Vo.
MAMI G.&Vo.
SCANDAL

■昨年8月21日のスキャフェス（『SCANDAL 10th ANNIVERSARY FESTIVAL「2006-2016」』）から始まった結成10周年イヤーですが、ファンクラブ限定の『SCANDAL MANIA TOUR 2016』やベストアルバム『SCANDAL』リリースと盛りだくさんの1年でした。皆さんにとっては、どんな年でしたか？

MAMI「ヨーロッパツアー（『SCANDAL TOUR 2016「YELLOW」IN EUROPE』）も、47ツアー（『SCANDAL 2017「SCANDALの47都道府県ツアー」』）もやりましたし、本当にライヴ漬けな1年で。自分たちのやりたいことができた年でもあったんですよ。充実した時間でしたね」

RINA「ツアーしながら新曲を作って、という毎日で。あっという間に1年が過ぎていました。今は各地のフェスに出ていて、秋には対バンツアー（『SCANDAL TOUR 2017〝SCANDALの対バンツアー〟』）。そういう先を見越して、自らを鍛えた1年でした」

TOMOMI「ベストアルバムの選曲はファン投票で決めたのもあり、ライヴで人気の曲が中心に入ってきていて。デビューからずっと、ライヴ中心に活動してきて、自分たちが思うSCANDALというバンドとファンの人たちが見てるものがリンクしていることがうれしかったし、ベスト盤は自信にもなって。それを持っての47都道府県ツアー。そこにはまだ行ったことがなかった県も4県あって。全県制覇したいとずっと言ってきたし、ベスト盤のタイミングでできたことがうれしいんです」

HARUNA「全都道府県を廻ってみて、SCANDALがどういうバンドなのか、どういう印象を持たれているのかを深く考えた1年だったと思います。10年の中には、作家さんに書いてもらった曲もありますし、この数年の自分たちで作ってきた曲もあって。それらをひっくるめてSCANDALなんだ、っていう。ひとつのジャンルにこだわらない、いろんなことに挑戦して、いろんなジャンルを乗りこなせるバンドなんだぞ、というのをいろんな人に見せられたと思います」







RINA「〝SCANDALというバンドはこうあるべき〟みたいなものを再確認した1年やったね。それは47都道府県ツアーが大きかった。求められる曲をしっかりやるってカッコいいな、と感じられて。フェスでもシングル曲をたくさんやったらいいかな、って思えるようになったり。今までって、カップリング曲とかアルバム曲を持ってきたり、新曲を披露してみよう、とか一癖効かせたいという考え方でいた時期もあったんですけど、王道を胸張ってやるカッコ良さを、改めてつかめました」

■47都道府県ツアーは前半の千葉LOOKと後半の水戸ライトハウスを観させていただいたんですが、バンドがタフになったなと思わされましたよ。

HARUNA「自分たちでもやっていく中でどんどんそういう想いは強まりました。できたからこそ得たもの、やらなかったらわからなかった満足感があったんです。ファイナルを迎えてバンドとして自信がつきました」

MAMI「このツアーはトータルで53本あって、進んでいくうちに肩の力を抜いてできるようになってきたし。その時のお客さんだったり、土地、見える景色、気温、季節……そういうものに対応して。その場の気分でいろいろ決

めて、楽曲なり、MCなりをやっていけたんですね。そこには季節をまたいでやってないとできないこともあったし、バンドだからこそリアルタイムに変えていけるんだろうな、とも思えたし。さらに10年迎えたからできたな、とも感じたんです」

■ライヴ後に楽屋でお会いした時に、全公演でセットリストを変えているとおっしゃってましたね。

HARUNA「その理由のひとつはベストアルバムの収録数が36曲と多かったというのもあります。全部を1本のライヴでやるのは不可能だし、だからってできない曲がたくさん出るのは悲しいですから。選んでもらった曲ですし、自分たちもやりたいし」

RINA「それに53本あると自分たちが途中で慣れてしまうな、と思ったんです。でも全公演、新鮮な気持ちで楽しみたかったし、2～3公演観てくれる人もいるだろうから、そんな人たちにも毎回何が起こるかわからないものにしたかったんです。あとは、その日の気分でセットリストを組んで、ライヴができるバンドになりたかった。それが大きかったです」

TOMOMI「土地も変わるし、観にきてくれるお客さんも変わるし。自分たちの気分もそう。毎日何かが違って、言いたいことも変わって当たり前だと思うんですね。そういうことを汲みながら、ライヴの前夜とかにみんなで集まって、今日はこうだった、明日はこんな雰囲気かな?みたいなことを話してセットリストを決めていったんですけど。行ってみたら違うこともあったんです。例えば四国で、そろそろ春も深まったし、桜の曲は止めとこうかという話をして組んだものの、行ってみたら桜がまだ綺麗に咲いていて。今日は桜の曲をやるべき、ということで変更したり。バンドだからできることを楽しめました」

■千葉LOOKのようなキャパ200人ほどの場所もあればZeppクラスの3000人規模の会場も混在しているツアーでしたね。

TOMOMI「ライヴハウスの大きさによっても説得力が出る曲があって、それも考えながらその日その日で選曲しました。現実的にシーケンスを回すのにこの音響卓ではできないとか機材の問題もあったり。そこで臨機応変にやってきましたね。そういう経験でも強くなった気がします」



■結成後、大阪城公園でのストリートからメジャーを駆け上がったバンドですし、インディーズ時代に小さなライヴハウスを廻るというスタンスではなかったでしょうから。それを今、味わっている感じもありますか?

MAMI「そこはすっ飛ばしてきたところでもあるんですよね。当時、バントとはなんぞや?ってところからのスタートだったし、バンドがどういうツアーの廻り方をしてるのかも全然わからなくて。その頃に47都道府県廻れたかって言われたら不可能で。今だからこそできるし、やろうと思えた。それが大きかったと思います」

■小さなライヴハウスを今廻ることで発見はあったんですか?

RINA「自分たちがいかに目でも楽しませているバンドなのか痛感しました。大きく動いて見せたいよね、ってライヴが終わった後、話しましたし。千葉LOOKとか小さなライヴハウスでバンドとしてやれてうれしい。その気持ちは大きいし、得たものも絶対的にあるんです。でもこのスタイルのツアーを続けていくバンドではないのかもしれないなって。お客さん全員がステージを観れて、音が聴こえて満足してほしいんだなって」

■前の3人も、ステップに上がった時だけ顔が見えるという会場もたくさんあって。そんな場所でも観せてもらいましたが、音と空気感で熱を生むバンドだなと確認できたし、観てる側はそこで楽しめましたよ。

HARUNA「そういう感想はうれしい(笑)。でも私たちも後ろのお客さんの顔まで観て、その状況を楽しみたかったりするんですよね」

■バスで寝起きしつつヨーロッパツアーを廻ったり、見知らぬ国でライヴをしたりとチャレンジをしてきたバンドですが、この47都道府県ツアーはやってみていかがでしたか? 過酷なところもあったと思うんですが……。

HARUNA「普通に楽しかったです（笑）」
MAMI「ライヴをして移動して、またライヴをして移動、という行程だったので、土地のグルメとか観光する時間はなかったんですけど。それを自分たちで無理矢理にでも作るという行為に出て（笑）。ツアーに出る前、他のバンドの人からは“仲が悪くなると思うよ”とか言われたりしたんですけど（笑）。いかにバンドの絆を深めるかに切り替えてました」
TOMOMI「いつも通りやったなぁ。前半は特に10日間とか長い旅が多くて、ロード感があったし。気持ちが熱くなりました」
RINA「そのぶん荷造りが大変で（笑）」
HARUNA「もう荷造りのプロだよね！」
RINA「ねっ。でも10日間とかあると、どんな洋服が着たくなるかとかわからないんですよね。何を詰めたらいいかな？ 寒いかな？って4人でLINEしてたね」
TOMOMI「まぁ、最悪現地調達できるからね。海外じゃないし」
MAMI「国内は家です（笑）」
■日本中がマイクローゼット!?（笑） そういえば、以前、ツアーを快適に過ごすために家の環境に近づけるって言ってましたね。
MAMI「私とTOMOはそうです。私は何を着たくなるかわからないし、10日の旅だったら15日分くらい持っていきます。でも最近は控えるようにしていますけどね（笑）」
TOMOMI「私はその日数分しか持っていってないのに、なぜか荷物が重いんですよ」
HARUNA「なんでだろうね？」
TOMOMI「謎（笑）。何持って来てる?って HARUNAに確認したことありますもん。でも内容は変わらないんですよ！」

“SCANDALというバンドはこうあるべき”みたいなものを再確認した1年やったね。それは47都道府県ツアーが大きかった。求められる曲をしっかりやるってカッコいいな、と感じられて。フェスでもシングル曲をたくさんやったらいいかな、って思えるようになったり

HARUNA「ホテルによっては大浴場がついていて、たまに2人で入ったりするんですけど、スキンケア用品とかも一緒なんですよ」
TOMOMI「スキンケアもオールインワンにしたし、シャンプーも1回使い切りのパックのやつにして、今回は一番軽いだろう、と思っているのに、いつも私の荷物が一番重い」
MAMI「Tシャツ1枚、2kgくらいあるんじゃない？（笑）」
TOMOMI「それかな！（笑）」
■あははは！ 観光もしたということですが、思い出に残っている場所はありますか？
RINA「京都で流しそうめんに行った！」
TOMOMI「川の際に店があってね」
MAMI「パワースポットにもなっている貴船神社の近くのね。ちゃんと竹のレーンで、そこに4人横に並んで。結構山の奥地だった」
HARUNA「6月だったね」
TOMOMI「あと、福井で恐竜を観に行ったりもしました。恐竜博物館があって」
RINA「テンションが上がりました！ ずっと行きたかったんです。映画『ジュラシック・パーク』に出てくる研究所が博物館になった、みたいな近未来的な建物なんですよ」
■そうやって絆を深めながら……とはいえこれだけ一緒にいて仲が崩れないのは、今までの積み重ねがあるからなんでしょうか？
MAMI「もちろん意見を言い合うこともあるし、機嫌がよくないこともあるし。でも最終的に頼るのはメンバーしかいないというのが大きいですよね。このツアーを廻っていてもそう。バンドなので、この4人で、っていう想いがあるから、いざとなればすべてを取っ払っていこう、という感じなんですよ」
HARUNA「家族に近いんですよね。うまくいかない日があっても崩れない」
RINA「知らないうちに仲直りしてる（笑）」
TOMOMI「そこにプラスして、支えてくれてるライヴチームの空気がいいというのも大きいですね。風通しがいいというか。いつも何かしら新しい風を送ってくれるから」
■これだけ多くやっているとライヴが日常になってくると言うバンドもいますね。
TOMOMI「ライヴが日常になりますよね。東京で作業をしているよりも健康的な日常（笑）。ホテルに集合する時間も決まっているし、規則正しい生活になって」
■日常になることで、ライヴに向かう気持ちに変化が出たりしますか？
RINA「それは時期によってですね。調子良くていつも最高！みたいな時と、なんでここを上手にできないかな、って話し込んでいる時もあったし。毎回セットリストを変えているというのは、その曲目で初めて本番をやる、ことでもあるから。この曲は前半にあったほうがいいね、ということもやってみてわかる。それを日常の中でたくさん話しました。MCに関しても、SCANDALは4人で曲もMCも伝えるっていうスタイルがいいな、と改めて思って。そこをもっとブラッシュアップしたいね、って言いながら廻っていたり」
HARUNA「ツアーの中で自分のスタイルというか、MCにしても、煽る言葉のテンション感とか大きく変化したと感じているんです。もっとカッコいい自分でいたい、もっと新しい自分を見せたいっていう想いが、53本でどんどん強くなっていって。それはメンバーに、もっと自分らしい言葉があるんじゃない?って言ってもらったりしながら見つけられましたし。そうやってライヴをすることが日常になればなるほど追い込んでいましたね」
MAMI「ライヴが本当に日常だったと思ったのは、最終日の豊洲PITが終わった後に、“明日からはどこにも行かないんだ”と思った時。フェスで前ノリとか当日に泊まることはあるんですけど、それも1泊なので。こんなに荷物軽くていいんだっけ？とか。まだ47都道府県廻っている感覚のままの自分がいて。早くライヴをやりたい、と思っています」
■しばらくいいとか、思わないんですね（笑）。
MAMI「ライヴはやりたくなります（笑）」
RINA「53本の全会場ソールドアウトして、これだけライヴに来たいと思ってくれている人が全国にいることがうれしかったし、いい曲を作ってまたツアーしなきゃな、という気持ちにもなったし。あとツアー中に嫌というほど楽器と向き合って、フィジカルとも向き合いながらやったツアーで。何回も、できないかも、と感じました。楽しかったですけど、それだけじゃなかったから一生忘れないと思うんです。あ

と、やってもやっても楽器もライヴも上達のゴールはないんだな、とも実感しました。もっと良くなりたい、って今も思ってますしね。このツアーでは各会場で最後にお客さんバックに写真を撮っていたんです。で、豊洲PITが終わって、写真を撮るよ、って時にスクリーンが降りてきて、そこに全会場の開場名と日付とその写真が流されて。それを観た時に、こんなにたっぷりツアーをしたんだ、って泣けてきて。感動しました。あの瞬間に廻り切れたんだっていう気持ちになったね」

HARUNA「あれビックリしたよね。何より自分が泣いたことにビックリしました（笑）」

■サプライズだったんですね！　あと、小学生くらいの女の子が何人もいたり。新しいファンが加わっているな、と感じましたよ。

TOMOMI「沖縄とか初期の頃ファンクラブの会員が2人とかだったんですよ（笑）。でも那覇桜坂セントラルが埋まりましたし」

RINA「沖縄のお客さん熱かったしね（笑）」

MAMI「ねっ。土地土地に仲間が増えていっている実感は確かにありました。主要都市では頻繁にライヴをやるわけですけど、そこに何日もかけて来てくれている人もいるわけで。その人たちが地元で観てくれたり、地元に来たからライヴに行ってみよう、そう思って来てくれたんだな、ってことも感じました」

HARUNA「小学生くらいとか、それよりも小さな子とかもいて。ライヴハウスに初めて来た人も多かったんですね。自分たちがきっかけでライヴハウスデビューしてくれるってうれしいんです（笑）。これで違うアーティストのライヴにも行きやすくなるだろうし」

MAMI「普通に高校生の時にSCANDALを聴いていて。10年経って、同世代の子が子供を連れてきてくれたり（笑）」



SCANDAL ⇒
スキャンダル。'06年大阪・京橋で結成。'08年、シングル「DOLL」でデビュー。'12年3月には日本武道館公演を異例の速さで達成。'16年8月に結成10周年を迎え、結成地・大阪にて1万人を動員した野外コンサートを開催。'17年3月から7月にかけて、初の47都道府県ツアーを完遂。10月からは東名阪にて初の対バンツアーを行なう。

TOMOMI「昔観にきてくれていたファンの子たちが、いろんなところに行って、最終的にSCANDALに帰ってきてくれたり。10年あるとそういうこともあって。グッときますよね。〝お帰り〜〟って（笑）」

■観ようと思った時にバンドが健在で、こういった活動をしてくれている、というのはうれしいでしょうね。そして、この期間も曲作りをしていた、という話ですが。

HARUNA「ライヴをやっているとここにこういう曲があったらいいな、とかどんどん出てくるから。それを形にしていくんです」

MAMI「機材を持って廻れないので、ツアー中は各々フレーズだったり歌詞だったりを溜めて。東京に戻った時にそれを出し合って組み合わせたりを繰り返しをしていました」

HARUNA「で、ライヴ当日のリハーサルで作った曲を合わせてみたりして」

RINA「ツアー中に作った何曲かレコーディングしていたりするので、聴いてもらうのが楽しみですね」

■本当に止まらないバンドです（笑）。現時点で生まれてきている曲を見て、今後はどの方向を向いていきそうですか？

RINA「ライヴに来たくなる1枚を作りたい、というのが漠然とあって。ライヴに向いているものができあがるかな、と思っていますね」

■長いツアーで楽しんだり苦労したりしてきたことが次の活動にパッケージされていく感じですね。

RINA「はい。それが形にできるよう、頑張りたいです」


GRANRODEO



GRANRODEO LIVE TOUR 2017 Pierrot Dancin'
2017.08.11 Zepp DiverCity Tokyo

7thアルバム『Pierrot Dancin'』を掲げ、各地のライヴハウスをアツく踊らせまくってきた全国ツアー、ついにファイナル!　奇しくも(!?)KISHOWの誕生日と同日開催となった8月11日、東京公演の模様をレポート!

Text ⇒ 飯島健一
Live Photo ⇒ キセキミチコ(KISEKI inck)











KISHOW vo.

いつの間に季節が秋に変わってしまったんだ?と錯覚するくらい、真夏と思えぬ涼しさをみせたGRANRODEOのツアー最終日。しかしライヴ会場のZepp DiverCityの中は、今が夏真っ盛りであることをハッキリと思い出させてくれるほどの熱気に満ちていた。きっと会場に詰めかけたロデオボーイ&ロデオガールが、ライヴで暴れるためのエネルギーとして真夏の熱気を吸収してしまっていたに違いない。

今回のステージにはライヴハウス公演では珍しくせり出しが設けられ、GRANRODEOがよりファンの近くでパフォーマンスできる仕様になっている。そんな美味しいエサを目の前にぶら下げられて、ファンも落ち着いていられるわけがない。まだライヴが始まってもいないのに、客席は激しく蠢(うごめ)いている。

幻想的かつリズミカルなBGMが鳴りだすと、悲鳴にも似た歓声が響き渡り、会場にいる全員の目がステージに注がれる。その視線の先にある幕が少しだけ開くと、そこにKISHOWが登場し、最新アルバムのタイトル曲「Pierrot Dancin'」のイントロを歌い出した。アルバムと同じく、KISHOWのエネルギッシュでドラマティックなヴォーカルにスポットを当てた演出にファンが興奮していると、それをさらに押し上げるように幕が全開に。荒々しいサウンドを奏でるメンバー全員の姿が現われたのだ。

本誌5月号でもアルバム『Pierrot Dancin'』発売直後のプレミアライヴの模様をお伝えしたが、当然ながらあの時よりも演奏は進化を果たしていた。ここまで17本のライヴを繰り返してきたおかげで、サウンドはよりソリッドに、かつパワフルになり、また良い意味で肩の力も抜けたことで、観客を引っ張っていく堂々とした余裕が演奏から感じられるようになっている。マイクスタンドを肩に担ぎ、せり出しまで出てきて観客を煽るKISHOWの姿も実に頼もしい。

確実な進化が作り上げた圧倒的なサウンドで興奮したファンは、続く「TRASH CANDY」のイントロのダークなシンセ音に素早く歓声を上げ、たたみかけるようなバンドサウンドが鳴りだすと今度は雄叫びと拳を突き上げ、楽曲にシンクロしていく。まるで最初から観客のリアクション込みで曲が作られていたのではと思うくらいの一体感に、進化はGRANRODEOだけでなく、この間のツアーを追い続けたファンも進化を果たしていたことが感じられたのだ。

銅鑼がけたたましく鳴らされ、刹那な音色のストリングスが響き渡り、KISHOWが「涙の華を咲かせましょー!」と叫んで「ナミダバナ」がスタート。アッパーなビートのうえで、雅なのに激しくもあるe-ZUKAのギターが暴れ、KISHOWが艶のある歌唱で、侘び寂びに溢れた恋の歌を紡ぎあげていく。洋楽ロックに匹敵するサウンドを奏でるGRANRODEOだが、間違いなく日本のバンドであることを感じる瞬間だ。

狂おしい刹那の和ロックを堪能させたところで、KISHOWがこの夜最初のMCの口火を切った。「ハロー、Zepp DiverCity Tokyo! ごきげんいかがですか!! ついにやって来ましたファイナル中のファイナル! 本日、山の日にこうやって皆さんと一緒に盛り上がれる機会をいただき、まことにありがと









うございます！」と流暢に挨拶するKISHOWに対し、e-ZUKAも「東京ベイベー！　お台場ベイベー！　追加公演ベイベー！　Zepp Diver Cityベイベー！！　ピエダン最終……追加……えっと、◎▲□%ベイベー！　本当にみなさんのおかげです、ありがとうございます」とお馴染みのベイベー口調で挨拶。ふたりともここまで走り続けてきたことに対して感慨深さを語りながら、「最後ですってよ、みなさん。これで心置きなくツアーが終われるように、みなさん楽しんでいっていただきたいなと。本当にグッとくるね……高校野球とかね（笑）」と軽いノリも交えて、GRANRODEOらしさを発揮した。

MCで束の間の安息を味わったファンも、続く「Glorious days」の重戦車が突き進むようなギター&ベースのリフ、そしてドラムの響きに、再び戦闘モードに。ステージに降り注ぐスモークが、さながらフルスロットルで吐き出されるガスのようだ。

ドラムのSHiNがフロアタムを駆使した重いリズムを叩きだすと、KISHOWが「東京、クラップハンズ！」と号令。すると場内は〝♪オーオーオー、オーオー〟の大合唱が始まり、カオティックな「FAT SHAPER」へと突入。e-ZUKAがガシュガシュッと切り刻むようにかき鳴らすギターのリズムに同化するように、敬礼するかのごとく拳を突き上げるファンの姿は、ステージ上のカリスマに心酔する怪しい団体のようで、どこか恐ろしささえ醸し出している。

そんな物々しい雰囲気は、続く「君に one way love」で一変。みずみずしい恋の思い出が蘇りそうな甘酸っぱいメロディと、KISHOWが優しい歌声で描く一方通行の恋物語。さくら色のスポットライトに照らされたステージ自体が、懐かしい青春の一場面のようにさえ見える。

胸の中にほんのりと温かいものが宿っているのを感じていると、e-ZUKAがギターのフレーズと同じメロディを歌いだす。「日常ホライズン」の演奏前に披露される、ライヴではお馴染みのパフォーマンスだが、この夜は「♪今日でお別れ～。寂しいなぁ……でも来月～、武道館武道館武道館武道館武道館で～、待ってるぜ～」と、最終公演ならではのネタで盛り上げてくれた。

続く「Fake lover's true heart」からは、今回のツアーをバックアップしてくれたFIRE HORNSも加わって熱量の高い演奏を披露。KISHOWの「人生何色にしたいの？　俺はこの色が一番好きだ。人生バラ色～!!」というMCに続いた「バラライ」は、陽気なメロディとFIRE HORNSの派手なホーンサウンドが、日ごろのモヤモヤを吹き飛ばしてくれるようなエネルギーを与える。「Shake the Fake」ではベース瀧田イサムのスラッピングとソウルフルなホーンサウンドが、場内の温度をさらに上昇させたのだ。

ライヴが中盤に入ったところで、メンバーのソロ・コーナーがスタート。ドラムのSHiNが最年少のパワーを活かしたアグレッシブなドラムを叩きまくると、瀧田はフォークギターを弾くようなニュアンスでハートフルなベースを披露。GRANRODEOにとってかけがえのない仲間にスポットを当てた次は、ソロ・コーナーの真打ち、e-ZUKAが登場。王道






の速弾きはもちろん、頭の後ろにギターを担ぎ上げて弾いたり、歯で弦を弾いたりと、トリッキーなプレイでもファンを喜ばせる。さらに「情熱大陸」のオープニングテーマ曲や「アメイジング・グレイス」をブルージーに奏でるなど、e-ZUKAの音楽性の引き出しの多さも披露した。

ソロ・コーナーも終了し、KISHOWがキャノン砲を抱えて登場したところで、e-ZUKAが「Can Do」の軽快なイントロリフを弾き始め、KISHOWが客席にキャノンをうち放つと、会場のテンションは一気に上昇。楽曲も歌詞も、タイトルさえもポジティブな要素に満ち溢れたこの曲は、何度聴いても心が躍るし、音楽に人を励ます力があることを改めて確信できるのだ。

キラーチューンを堪能して身体が燃え上がってしまったが、それを冷ますように、アーバンなジャズナンバー「月に抱かれて眠りたい」が演奏された。シングル「Glorious days」のカップリング曲として初めて聴いた時は、あまりにド直球のジャズナンバーであることに驚きばかりが先行していたが、改めてライヴで聴くことで、この曲の素晴らしさが確認できた。ウェス・モンゴメリーばりのシングル・トーンを駆使したe-ZUKAのギタープレイ。ヘンリー・マンシーニ・オーケストラを彷彿させるソフトで透明感のあるストリングス・アレンジ。大人の恋を甘く気だるいヴォーカリゼイションで演じてみせるKISHOWの歌声。さらにライヴではホーンも加わってよりゴージャスな雰囲気になり、これぞジャズという演奏が堪能できたのである。

メンバー紹介を経て、「今日は残念ながら太陽を見ることができなかったけど、僕たちの太陽はキミたちだよ」というKISHOWのニクイMCを合図に「BIG SUN」を演奏。底抜けに陽気なバンドサウンドと、♪ラララ～のコーラスを会場中で大合唱する光景は、実にハッピーでピースフルだ。

メンバーとファンが一体感を感じたところで、続く「Darlin'」からライヴは怒涛の後半戦に突入。エネルギッシュでキャッチーなサウンドが身体が再び燃え始めたところで、「NO PLACE LIKE A STAGE」のダーク＆ヘヴィな音塊がファンを直撃。客席が一斉にヘッドバンキングで荒れ狂う光景は、何度観ても圧倒される。

続く「ROSE HIP-BULLET」の鬼気迫る演奏で、会場のテンションはさらに上昇したが、GRANRODEOは手を緩めることなく、破壊力ピカイチの「modern strange cowboy」を繰り出してきた。荒れ狂うサウンドとKISHOWの咆哮(ほうこう)に、ファンも我を忘れて乱舞しまくっている。

フルマラソンを全力疾走したくらいの高揚感と疲労感を味わっているファンに、KISHOWが話しかける。「いや～盛り上がったね。大丈夫？　思い残すことなさそう？　せっかく来たんだから、自分なりに楽しんでいってちょうだいよね。俺はちなみに、18本のツアーの中で一番楽しいよ！」。その素直なMCを受けて、e-ZUKAも「このままもう、来週くらいに武道館やりたいね!?」と興奮を口にする。勢いあまって「ツアー中もいろいろあったけど、とりあえず今日を無事に迎えられて、もうすぐ終わろうとしていて……俺はみんなの顔がビールに見えるんだよ！（笑）」とe-ZUKAが笑い

GRANRODEO LIVE TOUR 2017
Pierrot Dancin'
2017.08.11
東京 Zepp DiverCity Tokyo

01. Pierrot Dancin'
02. TRASH CANDY
03. ナミダバナ
04. Glorious days
05. FAT SHAPER
06. 君に one way love
07. 日常ホライズン
08. Fake lover's true heart
09. パラライ
10. Shake the Fake
11. Can Do
12. 月に抱かれて眠りたい
13. BIG SUN
14. Darlin'
15. NO PLACE LIKE A STAGE
16. ROSE HIP-BULLET
17. modern strange cowboy
18. UNDER THE SKY
ENCORE
19. Once & Forever
20. move on! イバラミチ
21. Y·W·F
W ENCORE
22. Punky Funky Love







に走ると、KISHOWも「俺はいいちこに見えてきた！（笑）」とかぶせる場面もあったが、最後はKISHOWが「これからもGRANRODEOを御贔屓に。僕達のことを追っかけてくれれば、いい景色を一緒に見れると思うんで。またこの空の下で会えるのを信じて、楽しみにしていてください。また一回り成長して帰ってきます。ありがとうございました！」と真っすぐな想いを言葉にして、本編ラストの「UNDER THE SKY」を演奏。e-ZUKAの穏やかなアコースティックギターで始まり、次第に壮大になっていくサウンドの上で、KISHOWのヴォーカルが力強くドラマチックに響いて、観客の心を空のような清々しさで満たしてくれたのだ。

演奏を終えてメンバーがステージを去ると、すぐさまアンコールが叫ばれる。数分後、KISHOWの似顔絵がプリントされたTシャツ（e-ZUKA直筆）を着用したメンバーと、目隠しをしたKISHOW、そしてバースデーケーキがステージに登場。そう、この夜8月11日はKISHOWの誕生日。観客も一緒に「ハッピーバースデー・トゥ・ユー」を歌って、KISHOWの42回目の誕生日を祝わったのだ。もちろんそこはお笑い好きのGRANRODEOのこと、お祝いのハッピームードだけでは終わらせない。e-ZUKAが「とりあえずそのケーキの上のローソクを……身体に垂らしてくれない？」と無茶振りすると、KISHOWも「今日お越しの皆さんに、2500等分しますんで」とホラを吹く。しまいには客席から〝顔から～！（ケーキに突っ込め）〟という注文が飛んできて、KISHOWは「顔から～じゃないよ！ オマエら俺を何だと思ってるんだ!?　そうです、目立ちたがり屋の芸人です（笑）」とおどけてみせる。そんな楽しい時間を挟みながら、アンコールは「Once & Forever」をプレイ。ダンサブルなサウンドで会場が今一度熱気を帯びたところで、〝イー・アール・サン・スー〟という中国語SEを合図に、最新シングル「move on! イバラミチ」もプレイ。アジアテイスト全開のイントロフレーズとアッパーなビートに、ファンも踊りまくっている。

さらにテクノとロックを融合させたユニークナンバー「Y・W・F」も演奏してアンコールが終了したが、まだまだエネルギーの残っているファンが「もう一回！」とコール。それに応えてのWアンコールは、KISHOWの母上大絶賛という（笑）「Punky Funky Love」を披露。サビのタテノリビートとキャッチーなメロディが、これで最後とばかりにファンを踊り狂わせた。

パフォーマンスを終え、KISHOWとe-ZUKAが去り際のステージ袖でハイタッチとハグをする姿に、これでツアーのすべてが終了したのだと実感させられたが、9月には日本武道館で〝G12 ROCK☆SHOW 道化達ノ宴〟が、11月には沖縄で〝G7 ROCK☆SHOW 忘れ歌を、届けにきました。〟が開催される。そう、GRANRODEOはまだまだmove on!し続けるのだ！ B

GRANRODEO ⇒
グランロデオ。KISHOW（Vo.）、e-ZUKA（G.）の2人組ロックユニット。'05年11月、1stシングル「Go For It!」でデビュー。9月22、23日に『GRANRODEO LIVE 2017 G12 ROCK☆SHOW 道化達ノ宴』と題して日本武道館2デイズ公演を行なう。

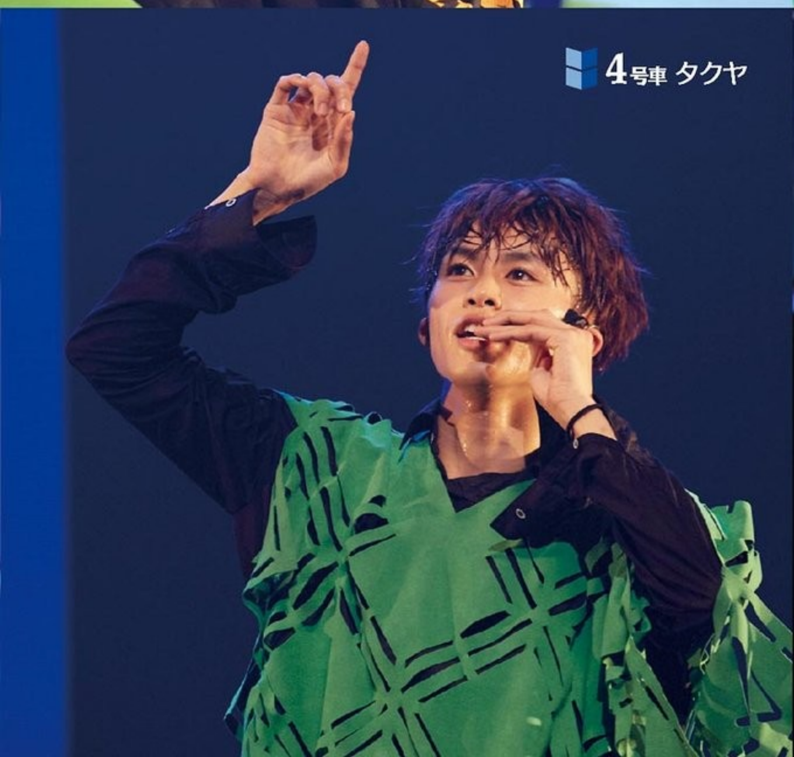




1号車 コーイチ



7号車 タカシ



4号車 タクヤ





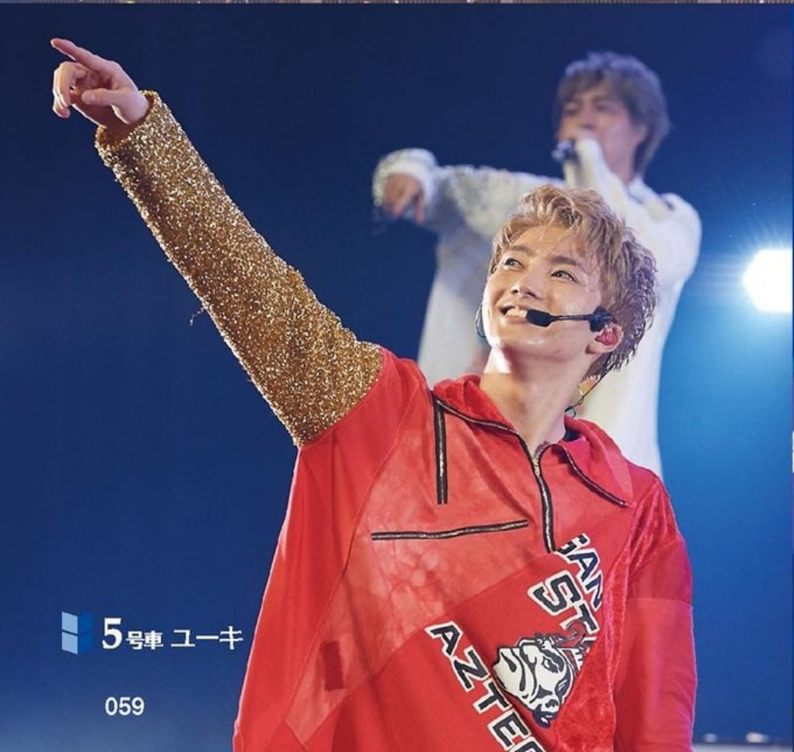
2号車 カイ



3号車 リョウガ

超特急★





5号車 ユーキ



6号車 ユースケ

超特急★

Bullet Train 5th Anniversary Tour 2017 “Trans NIPPON Express”FINAL

2017.08.08 東京国際フォーラム ホールA

4月末からスタートした全国ホールツアーの最終地、8月8日・東京国際フォーラム。長いツアーで磨かれてきた歌、ダンスを存分に発揮し、ステージ上の7人が本当に楽しそうにパフォーマンスしている姿が印象的だった。ツアー終了の数日後に答えてもらったアンケートとあわせて、たっぷりとお送りする。

Text ⇒ 瀧本幸恵









超特急史上、最長にして最多となった全21ヵ所23公演の全国ツアー『Trans NIPPON Express』が、〝8号車（超特急のファン）の日〟でもある8月8日、東京国際フォーラム ホールAにてファイナルを迎えた。とにかく最初から最後まで、ステージ上の7人も、会場を埋め尽くした5千人の観客にも〝笑顔〟が溢れ、今の超特急のエンターテイナーとしての充実ぶりが感じられる内容となっていた。

幕が上がり、ステージ中央のビジョンに〝TOUR FINAL〟の文字が浮かび上がる。次いで、映像とともにメンバーが一人ずつスポットライトに照らされてステージに現われ、7人が横一列に並ぶと「We Can Do It!」のイントロが流れる。重いビートに合わせてクールに踊る7人。「カッコいい!」と声を上げたくなるオープニングでは、会場がペンライトを消す超特急初の試みの演出もあり、観客はメンバーそれぞれのキメの表情や動きに黄色い歓声を上げる。コーイチ、タカシの歌声も国際フォーラムの大きな会場にしっかりと響き渡っていて、完璧なスタートだ。続いての「Believe×Believe」では、〝ビリビリ〟という歌詞に合わせてメンバーが変顔をしてみせるのだが、ビジョンに顔のアップが映し出されると、おもしろさもさることながら、額に光る大粒の汗にキュンとさせられてしまう。メンバーが初っ端から全力で観客を楽しませにかかってきているのがわかる。

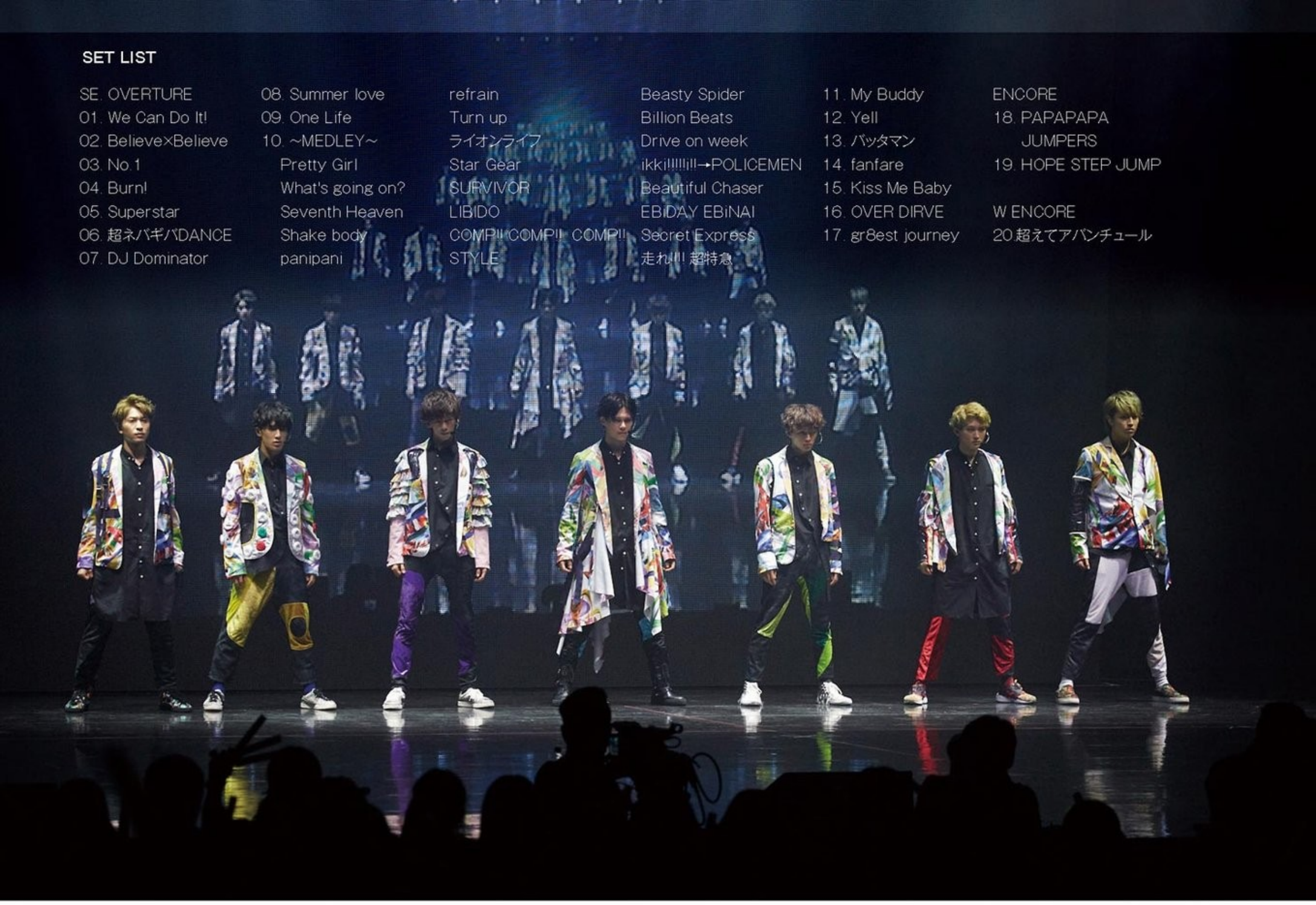
「最高の一日にしようぜ!」というユーキの言葉から始まった3曲目「No.1」では、8号車の〝バイ! ハイ!〟という合いの手とのタイミングもばっちり。「Burn!」「Supersta

SET LIST

- SE. OVERTURE
- 01. We Can Do It!
- 02. Believe×Believe
- 03. No.1
- 04. Burn!
- 05. Superstar
- 06. 超ネバギバDANCE
- 07. DJ Dominator
- 08. Summer love
- 09. One Life
- 10. ~MEDLEY~
  - Pretty Girl
  - What's going on?
  - Seventh Heaven
  - Shake body
  - panipani
  - refrain
  - Turn up
  - ライオンライフ
  - Star Gear
  - SURVIVOR
  - LIBIDO
  - COMP!! COMP!! COMP!!
  - STYLE
  - Beasty Spider
  - Billion Beats
  - Drive on week
  - ikki!!!!!i!!→POLICEMEN
  - Beautiful Chaser
  - EBiDAY EBiNAI
  - Secret Express
  - 走れ!!! 超特急
- 11. My Buddy
- 12. Yell
- 13. バッタマン
- 14. fanfare
- 15. Kiss Me Baby
- 16. OVER DIRVE
- 17. gr8est journey

ENCORE
- 18. PAPAPAPA JUMPERS
- 19. HOPE STEP JUMP

W ENCORE
- 20.超えてアバンチュール



r」とさらに盛り上げ、ようやく最初のMCへ。すでに会場の一体感は最高潮を迎えていて、お決まりの自己紹介も8号車のセリフ込みでパーフェクトな仕上がりだ。

そして、本ツアーが始まったときは最新曲だった「超ネバギバDANCE」を観客も一緒に踊り、「DJ Dominator」などを披露すると、お待ちかねの本ツアーの〝肝〟と言える30分間のノンストップメドレーに突入。7人でのいつものパフォーマンスもありつつ、アレンジを変えたものや、セレクトされたメンバーで新たなフォーメーションを見せたもの、それぞれのソロなど、単に曲のサビを並べただけのメドレーではなく、この為に練られたプログラムを、歌い、踊り続ける。特に10曲目「SURVIVOR」から、16曲目の「Drive on week」の中盤の流れに、ワクワクが止まらなかった。ソロや初めて見るフォーメーションでのダンスがありつつ、ステージに夢中になっている間にいつの間にか衣装チェンジをしていて、7人が再び揃う瞬間には、違う衣装の7人がそこにいる。個人技を存分に楽しんだところに、また集まったときの7人の佇まいがカッコ良く、改めて「超特急、最高!」と思える瞬間でもあった。ラスト「走れ!!! 超特急」まで、21曲を〝走り〟きった渾身のステージだった。

メドレーが終わると、一息つくと思いきや、なんとそのまま7月26日に発売されたばかりの最新曲「My Buddy」を披露。すでに8号車はしっかり歌詞を覚えていて、ポップで明るい楽曲を会場一体となって歌う。その後、ようやく2回目のMCタイム。長いツアーだったということで、コーイチとユーキが地方でバッティングセンターデートをした話や(実は、二人きりでなくタクヤもいたというツッコミがあったり)、北海道で〝ご飯モンスター〟ことユースケが名産のラムを驚くほど食べたことなど、旅の思い出も語ってくれた。

「悔いのないように、素敵な時間を過ごしてください」(タクヤ)と語りかけ、後半戦は「Yell」からスタート。ジャジーな雰囲気での「バッタマン」、タクヤがツアー中に撮影した写真とともに歌われた「fanfare」、イントロが流れた瞬間から大きな歓声が上がった「Kiss Me Baby」と、これでもかと盛り上がる曲を畳み掛ける。ラストは「gr8est journey」を、金銀の紙吹雪が舞う中で歌い、7人はステージをあとにした。

しかし、もちろんこのままでは終われない。観客からの大きなアンコールに呼ばれて戻ってきたメンバーは、長いと思っていたツアーがあっという間に終ってしまうという思いと、8号車への感謝の思いを伝え、「HOPE STEP JUMP」を感情を込めて歌う。さらにこの日はダブルアンコールにも応え、「超えてアバンチュール」も披露。メンバーもファンもすべてのエネルギーを使い切るかのような盛り上がりで、ラストを締めくくった。

長いツアーの最終日ということで、少し感傷的な感じになったりするのかな?と思ったが、とにかく〝笑顔〟が深く印象に残る一夜だった。それはきっとメンバーもファンもここが最終駅でなく、通過駅だとわかっていたからだと思う。そのとおりに、年末には5万人を動員するアリーナツアーを行なうことも発表。この先もさらに多くの8号車とともに、超特急の旅は、続いていく。B

た30分メドレーの“Star Gear”からの“SURVIVOR”が好きでした！　特に“SURVIVOR”は僕のソロダンスがあり気合いが入った1曲です!!　久しぶりにやる曲だし、もしかしたら初めて聴くという人も多いのではないかと思い、ソロダンスでは既存のダンスを中心に自分で考えました!!　今回のソロダンスは皆自由に自分で考えていたので、そこはそれぞれ結構気合いが入っていると思います!」

タカシ「“Beasty spider”からの“Billon Beats”の繋ぎは大好きでした。あそこのパートは歌っていてより気持ちがこもったし、気持ちよかったです。あとは“ikki!!!!!i!!”からの“beautiful Chaser”の繋ぎのリョウガのソロは衝撃的でした。寸劇チックになってるし面白かったです」

Q. 今回のセットリスト&演出、このパッケージでのツアーは終わりましたが、今後も機会があればやりたいなぁ、進化系をできるなぁという演出だったり、パフォーマンスはありますか?

コーイチ「上下したリフターを使って、さらにそれが客席の上に移動する!!!ような演出!」

カイ「リフターを使った高いところ、メインステージだけではなくセンターステージ、エンドステージなどありとあらゆるところから登場して8号車を驚かせるメドレーや、水と炎、雷など自然のものを使ったライヴをしたいです」

リョウガ「“メドレー”はこれからもいろいろな場所で披露していきたいと思っています！　またアレンジバージョンの“バッタマン”のように、他の曲でもガラッとイメージを変えたバージョンで披露していけたら、8号車の期待をいい意味で裏切れると思うので是非やりたいです(^o^)」

タクヤ「それこそダンサー個々にもっと表現できるようになったら、1曲丸々1人でやってみたいです」

ユーキ「今回のツアーをもっと活かしていくとしたら、ビジュアルポイのスキルをもっと上げて、リフターを使って色んな形を魅せられたら面白いのかなとも思います!　“バッタマン”のアレンジバージョンはもっと色気のある感じでJazzyに魅せてみたいです！　リフターから空に放たれてみても面白そうです!」

ユースケ「今後、機会があればやってみたい演出は、マジックやトリックショーみたいなエンターテイメントなことをやってみたいです!!　例えばリョウガの体が半分なのに踊っている!とかちょっと目を疑うような光景を見せたいです!」

タカシ「ズバリ、8号車の近くに行けることが嬉しかったのでまたやりたいです。超特急は距離感を大事にしているので、ほぼ0距離で8号車に会いに行けるのは本当に楽しかったし、間近で笑顔を見ることができて良かったなと思いました」

Q.長いツアーが終わったと思ったら、「超フェス」目前。気付いたら夏が終わってそうですが、夏らしいことは何かできましたか?まだできてないけど、隙間を見つけてこれはする!ということでも教えてください。

コーイチ「花火を見に行きたい。夏祭りに行きたい。夏を感じたい」

カイ「まだ夏らしいことはできていないですね。絶対にどこかで友人たちと花火をします。あとはもう風鈴の音がどこかで聞ければ満足です(笑)」

リョウガ「僕自身アクティブなタイプではないので、季節にちなんだことというのは基本的にしない系なのですが、ライヴの中で、スイカを食べたり、水鉄砲を乱射したり……8号車と一緒に夏らしいことができているのが幸せです(^o^)　夏風邪を引かないように気を付けて過ごしていきたいです(^o^)」

タクヤ「やっぱりこの夏も超特急はライヴで駆け抜けていきたいので、線香花火ができればいいです(笑)」

ユーキ「正直プライベートでは夏らしいことは何もできてません(笑)。でもそれ以上にこの季節、この会場でしかできない、そんな今の超特急でしか見れない最高のライヴがあるのでめちゃくちゃ幸せな思い出を8号車と作ってます!!」

ユースケ「夏らしいことはできていないのですが、絶対にしたいのはどこでもいいので、お祭りの焼きそばをたらふく食べることです!!　どうしてかわからないのですが、お祭りで食べる焼きそばって世界一なんですよ！　夏になったらどうしても食べたくなるのですが、今はまだ食べていないので、8月31日までに食べてみせます!!」

タカシ「花火大会に行きたいです！　東京でどでかい花火を見たことがないので見てみたいです！　あと南国に行きたい!!　夏と言えば海!!　永遠の憧れです」 B

超特急 ⇒
ちょうとっきゅう。メインダンサー（カイ、リョウガ、タクヤ、ユーキ、ユースケ）&バックヴォーカル（コーイチ、タカシ）グループ。'12年6月、1stシングル「TRAIN」でCDデビュー。'17年7月26日に13thシングル「My Buddy」をリリースした。12月24日・幕張メッセイベントホールを皮切りに全国4ヵ所5公演のアリーナツアーが決定。












“Trans NIPPON Express” Special Q&A

Q.「Trans NIPPON Express」ツアー23公演、お疲れ様でした。無事終了した率直な気持ちと、今ツアーで自分やメンバーが成長したなぁと思うところを教えてください。

コーイチ「全公演を通して、一定のクオリティのものを提供できるようになったと思います!!」

カイ「始まる前は23公演って長いし、ずっと終わらないんじゃないかと思っていたのですが(笑)、始まったらあっという間に終わってしまいました。長い期間だったので、身体の調子を崩さないように自分でペース配分だったりケアだったりができるようになったかと思います。あとは、演出家さんの力を借りて魅せ方を学びました」

リョウガ「始まる前は4ヵ月間ライヴ三昧と考えると、とても長いツアーになるなと覚悟していたのですが、いざ始まると本当にあっという間でした。初開通の場所が何ヵ所かあったので8号車の輪が広がったツアーになっていればいいなと思います。成長したと思うところは、23公演という多いライヴだけど、その日しか来れない人も当然ながらいるわけで、その1回のライヴを大切に、その日だけのライヴを、いつもと違う何かをするという意識がより高まったと思います」

タクヤ「今までで一番長いツアーでしたが、終わってみたらあっという間でした。その中でもたくさんのストーリーがあって、思い出深いツアーになりました。特に今回初開通が多くて、毎回MCで初乗車の人を聞くときに僕の想像を越えてきてくれる人数の人が手を挙げてくれて、輪が広がってるんだなととても嬉しかったです」

ユーキ「長かったようで終わってみると寂しさを感じるくらいあっという間でした! でも今回のツアーは1回1回その地方でしかないライヴの空気感だったし、ダンス面でもソロダンスがあったり色んな挑戦を常にしている、そんなライヴでした! 僕自身、正直なところまだまだで課題が見つかり、それを年末年始にすべて発散できるようにするという目標ができてます!」

ユースケ「今回のツアー、超特急史上一番長く、初開通する地方も多くて、このツアーは超特急の青春を感じられたツアーだと思いました! もちろん内容もメドレーやビジュアルポイを使った新たなパフォーマンスをして、さらにエンターテイメント性を追求することができたツアーでした! 僕含め7人のメンバーの成長を感じられたのは、“公演ごとに、どの公演も違うダンスや違うパフォーマンスをしよう!”と話し、挑戦してきたことだと思います!」

タカシ「今回は4ヵ月間と今までよりも長期間続くツアーだったので、体調管理にはすごく気を遣いましたね。ヴォーカリストとしてのコンディション、声帯の点検もかなりしましたし、ストレッチなどもしっかりしました。ツアーを通して違う表情を魅せることもできたんじゃないかなと思います。公演数も多いから歌でもダンスでも表情でも自分の中の引き出しからバンバンだして試していくこともできました。常に色んな姿を見せてやるって気持ちでした」

Q. 今回のノンストップメドレーで、「ここの曲の繋ぎが好き」「ここのパフォーマンスがお気に入り」などなど、特筆しておきたいことは?(個人的には「ライオンライフ」からの「Star Gear」の切り替えが、おーっ!と思って好きでした)

コーイチ「リョウガの女装?(笑)の部分からの、怒りのダンスが大好きです!!!」

カイ「武道館で僕の“LIBIDO”のためだけに用意されたトロッコは贅沢だと思いました(笑)。“Pretty Girl”～“What's going on?”の繋ぎは驚いた方も多いかと思いますし、久しぶりに“What's～”を踊って気持ちよかったです」

リョウガ「“What's going on?”からの“Seventh Heaven”の切り替えでタカシの“愛が動きだぁぁぁあす”は、“おぉぉ、そう来るか!”と皆さん思っただろうし、何よりタカシの決め台詞(?)に多くの人がやられたのではないかと思います。ちなみに僕も“ライオンライフ”からの“Star Gear”の繋ぎ、好きでした(^o^)」

タクヤ「ダンサーそれぞれのソロパートです。今までそんなになかったソロパートですが、実際ステージで1人で踊ってみてとても気持ちよかったです。この限られた時間の中でどう表現しようかと、自分もすごく考えたし、それぞれの個性が見えてたと思います。ただ後悔はしてないけど、納得もしてないので今後に繋げていきたいです」

ユーキ「僕が一番好きだったところは“Billion Beats”のソロダンスのところが個人的には感情も入ってとても好きでした! 繋ぎとしてはあれだけドタバタして色んな曲が展開していく中での“LIBIDO”はいい意味で違和感があって面白かったです!」

ユースケ「僕はフォーラム公演でやっ

Da-iCE
君色





Da-iCEの夏うたに新たに加わる、ニュー・シングル「君色」。これまで彼らが夏に届けてくれていた、アッパーな楽曲たちとはひと味違った、切なさ成分がたっぷり入ったミディアムチューンです。現在2度目のホールツアー中のDa-iCE。シングルについてのほか、ツアーの手応えから(ネタバレなしです!)、彼ら自身の思い出の夏うたまで、いろいろ話を聞きました。

Text ⇒ 筧真帆　Photo ⇒ 大川晋児
Hair & Make-up ⇒ 大野弥生(P-cott)

■ちょうどいま「Da-iCE LIVE TOUR 2017 -NEXT PHASE-」ツアーの真っ最中ですね。2度目のホールツアーとなりましたが、手応えは？

想太「やっぱりリハーサルだけだと想像できなかったところが、実際ステージが始まってみて、お客さんの反応だったりを見たうえで、自分たちのやってきたことが、良かったのかなって知ることができました。それまでは、どんな反応が来るかとか不安しかなかったんですけど、回を重ねていくごとに不安が拭えてきている感じがするので、これからが楽しみですね」

■大輝くんの地元・小樽での初ライヴも組み込まれて。誕生日サプライズもあったようで、思い出も色々できたのでは？

大輝「ほんとありがたいですね。地元でライヴできると思ってなかったんで。案の定、会場は古くなってました、老朽化がすごくて」

雄大「裁判所はきれいでしたね」

大輝「裁判所？ 隣りね（笑）、できたばっかりの。それとは対照的に、（会場となった小樽市民会館は）歴史があり過ぎて。なんだったら親の世代も、そこで成人式あげたくらいなんで。久しぶりに行って、古いなあと思って、その感じがむしろ懐かしいなと思いました」

想太「誕生日のお祝いは、演出のひとつを切り取って、サプライズでケーキを出しました」

■ライヴそのものを、地元でやってみた感じとしては？

大輝「う〜ん、地元感があったかって言われるとちょっと……。ライヴ自体はどこの会場も一緒なので。サプライズで祝ってくれたりという嬉しさはありましたけどね。あと色んなところから来てくれる方がいて、顔なじみの子とかもいたから、地元でやってる感じというか〝いつものホーム感〟がありました」

■その〝いつものホーム感〟を、地元に持って行けたっていうのがグッとくるよね。

大輝「そうですね」

■このあとのツアー先も、群馬、千葉、厚木、神戸の会場がありますが、今回のツアーはメンバーの地元を網羅してるのでしょうか？

大輝「スタッフさんに聞いて確かめたわけではないんですが」

雄大「おそらく、そうなんだと。大輝くんの小樽は誕生日で、想太の神戸はラストですし。たぶん意識的なんじゃないかと」

■前回のインタビューで、ライヴもクリエイティブなところに踏み出していきたいという話をしてくれましたが、具体的にはどんな面を？

大輝「そうですね、今回のツアーからいくつかのところに参加してるのですが……具体的には、（ツアー中なので）言えないです……（笑）。言える要素がないなあ」

雄大「ツアーが終わった後に、実はこういうところに関わっていました、というネタバレができればね」

■わかりました。6月リリースだった「トニカクHEY」もすでにライヴで披露していますよね。ライヴ映えするから早くやりたいと言っていましたが、実際反応はどうでしたか？

大輝「ワンマン以外にも各所でやっていて、ありがたいことにレスポンスもいただけますし、こういう曲をリリースして良かったなと思いました」

もうアゲアゲな曲は出しきったかなと。
どういう夏曲にするかというのを皆でけっこう話しました。
バラードがいいよねというのと、アッパーなのとの間を取れたんじゃないかと

Da-iCE
君色

■その超アッパーな「トニカクHEY」からの、新曲「君色」が、甘酸っぱい夏うた。「ハッシュ ハッシュ」「エビバディ」「パラダイブ」とアゲアゲ系とは一味違う夏うたになりましたね。

大輝「次は、そういう方向に行きたいなという気持ちはありました」

想太「もうアゲアゲな曲は出しきったかなと。夏曲を出すと言うのは去年から決まっていたんですが、どういう夏曲にするかというのを皆でけっこう話しました。バラードがいいよねというのと、アッパーなのとの間を取れたんじゃないかと」

■皆さんの希望の方向性を込めるべく、アレンジなどに何かオーダーしましたか？

大輝「ギターを生に差し替えたよね」

雄大「いちばん最後のギターが、少しリット（だんだんテンポを遅くすること。リアルダンドの略語）かかってるのは、想太がやりました」

想太「ギターは2回録りなおしてもらってますね。1回録ってもう1回録りなおしてもらって、最後リットをかけてもらうために、3回弾きなおしてもらってます」

雄大「アルペジオのリズムと、リットの録りなおしをお願いして」

■あのギターの生音感が曲の切なさを増長して、聴きどころですね。また「君色」というタイトルも素敵です。〝夏色〟ならありそうだけれど、夏の空を〝君色〟と表現するポエトリーさ。曲名は最初からあったのでしょうか？

雄大「これもけっこう色々あったんです」

大輝「最初は〝ハナモゲラゴウ〟みたいな歌詞









大野雄大
Yudai Ohno
Vocal

工藤大輝
Taiki Kudo
Performer

岩岡徹
Toru Iwaoka
Performer

がついていて、そこから仮がついて、幾度とない修正を重ねて行きました。タイトルも何パターンもあったなか、話し合いを経て落ち着いたという感じです」

■最初の段階の歌詞では、「君色」というワードは入っていた？

想太「一発目は入ってなかったです」

大輝「選考を重ねているので、その過程で入ってきました。なので、最初の歌詞からはだいぶ変わりましたね」

想太「最初からのテーマや世界観は変わらず、〝夏の片思い〟みたいな内容にすることは一貫しました」

■君色以外にどんなタイトルが？

大輝「〈夏空〉とか。基本は歌詞に入っているフレーズなんですけどね。〈君色の夏〉とか。〈夏空は君色〉とか（笑）。最終的に分かりやすさという意味もあって、〈君色〉になりました」

徹「ありきたりすぎないフレーズというか、そのほうがメンバーも好きなんですよね」

■曲はいつごろ完成したのでしょう。

想太「ちょうど〝トニカクHEY〟のリリースイベントに廻っているときですね」

大輝「めちゃめちゃ最近です！」

想太「MVを撮ったのも6月下旬とかですね。完成から解禁までこんなに早いのは初めてですね！」

■それと振り付けが、一緒に楽しめるものがあるんですよね。

想太「そうですね。手を一緒に振るような動きだったりとか、クラップだったりとか、振り付けの中に最初から盛り込まれているんです。それを真似して、一緒に手を振ってもらっ

今回のは、踊っていて初々しさが伝わるというか、胸がキュってするんです。サビとか特に、アァァーーって感じ（笑）。サビで感情がむき出しになる曲だなあと。踊っていて気持ちいいです

Da-iCE
君色



和田颯
Hayate Wada
Performer



花村想太
Sota Hanamura
Vocal

たりすると、楽しくなると思いますよ」

■じゃあ、メンバーの皆さんのダンスは？

想太「今までよりは見た目的に、そんなにガツガツ踊っているように見えないと思います。優しさや切なさが、気持ちを表わすように表現されている振り付けだと思うので、見ていて真似しやすいと思いますよ。踊ってみようかな、と思える振りだと思います。Aメロはちょっと難しいけどね」

颯「確かに、ちょっと難しい」

想太「4人が床でそれぞれ違う動きをして、立っていくんですけど、そこは難しいと思いますね」

颯「今回のは、踊っていて初々しさが伝わるというか、胸がキュってするんです。サビとか特に、アァァーーって感じ（笑）。サビで感情がむき出しになる曲だなあと。踊っていて気持ちいいです」

雄大「気持ち重視！」

想太「〝気持ちイイ重視〟に聴こえた」

雄大「まあ、合ってる（笑）」

■MVはグアムで撮ったそうで。皆さんグアムに行かれたことは？

大輝「僕は初めて。……あ、全員初めてだ」

想太「ツアー初日の2日前まで行っていたという（笑）。3日間行ってました」

颯「うち2日間ほど、素敵な大雨で（笑）」

大輝「グアムと言っても、例えば1週間行って、4日ほど仕事して、残り3日間はオフ、というような芸能感は一切ないです！　行って撮って帰ってくるという」

想太「天気のせいもあって、飛行機乗る直前まで撮ってましたからね」

颯「雨が降ってもいいように屋根のあるとこ


Da-iCE
君色

ろでダンスシーンの予定だったんですけど、横殴りの雨でした（笑）」

大輝「夕方に着いてそのまま撮る予定だったんですが、雨があまりにもすごくて中止になって、そのままホテルに帰りました」

■じゃあ、そのぶん近くをブラっとできたりは？

想太「夜までホテル近くのショッピングモールが開いていたんで、ちょっとショッピングしました」

大輝「おみやげ買う時間ぐらいはありました」

颯「バナナチップスがおいしかったです」

■ささやかなグアム旅だったんですね。そしてカップリングですが……。

雄大「〝Star Flyer〟！」

大輝「Star Flyerだと飛行機だよ（笑）」

■〝Fly Higher〟ですね。この曲は大輝くんが詞曲で参加。どうやって曲ができていったのでしょう？

大輝「これは制作の段階から一緒に作りました。作家さんとコライトして、お互いやりたいことを伝えるという制作過程でした。TAKAROTさんとコライトするのは初めてだったのですが、面白かったです」

■トロピカルハウスがベースになっているのが何より心地い良いですね。

大輝「正確には、トロピカルハウス〝風〟なんです。2番は普通に2ステップだったり、1番も実際にトロピカルハウスなのはAメロだけで、Bメロからピアノ入ってきますし、要素を入れてる、っていうだけですね。あくまでもJ-POPです」

■それと歌詞がとってもポジティブで！

大輝「そうですね、珍しいですね。そういう曲も書いたほうがいいかなと思って」

■今年頭のアルバム取材（2月号）のときに、まさにそんな話をしていたんですよね。〝次のステップに行くためにメンバーそれぞれに必要なこと〟という質問で、徹くんから大輝くんに「キラキラな歌詞を書いてほしい、大輝くんらしくないストレートなやつ」という提言がありました。大輝くんは「書くけど決まらないから、今年は決まるように頑張る」と答えていましたが、これで実現した？

大輝「いや〜（笑）。キラキラかどうかわかんないですが。そう受け取られるんですけれど、実際にはちょっと入ってますよ。これまでは、そういう発注がなかったというか。僕のパブリックイメージというのがあるというか（笑）。曲調もこんな感じなので、メロディに合わせたところもあって」

■雄大くん、以前は大輝くんの歌詞を〝へそ曲がってる〟と言っていましたが、今回のは歌ってみてどう？

雄大「すがすがしいですね！　音色がすがすがしい感じというか、音数も少なくて繊細で、声も弾ける（ハジ）ようなのがいいのかなと思いつつ、それだけだと軽すぎるので、ニュアンスを入れたり、語尾処理をしたりしながら、歌いました」

想太「僕は、軽快に歌うということだけ意識しました。あとは聴きやすくしたい、という思いだけ」

■これは「君色」のカップリングとして作ったのですか？　それとも、この曲単体として作ったのでしょうか。ちょうど8月終わりの頃のリリースであることや、「君色」のカップリングとか、流れがばっちりハマるなと思って。

大輝「この曲は春に作ったので、夏想定で作ってはいたと思うんですが、厳密にどこを狙うかというのは考えていなかったですね」

■じゃあ、うまいことハマったんですね。

大輝「そうですね。同じタイミングで想太が〝Sugar High〟（「トニカクHEY」収録）を作っている頃でした」

颯「僕、ピアノが入ってくるところが好きですね」

雄大「小室（哲哉）さんっぽいんですよね」

颯「そっから上がっていく感じが好き」

想太「この曲、早く披露したいんですよね〜」

大輝「みんなで騒ぎたかったんですよ。ヴォーカルはいつもしっかりと全部歌ってるから、それを1回解放して、イェーイっていうパートが、ダンスパート以外であったらいいなと思って。結局歌ってるんですけど（笑）。脳内イメージでは、メンバーが騒いでます」

徹「カップリング曲は、披露しないで終わる、ということがこれまであったんです。だけどこれは披露したいですね！」

■ツアー中でも、新曲を足すことはあります？

雄大「多少はあるかもしれないし、ないかもしれない（笑）」

■期待しています。そしてツアーもまだまだ長いですが、ルーティーンにならないような心がけはしていますか？

大輝「今回は土日がメインで、そんなに毎日のようにやるわけではないから、前のツアーより、幾ばくか気持ちがラクかと思います」

想太「期間は長いんですが、公演数が飽きるほど多いわけではないので」

大輝「8月はツアーはお休みで、フェスやa-nationにも出ますしね。そこがいったん折り返し地点かなと。そこでまた気持ちもリセットして、9月から臨めると思います」

■ちょうど「君色」のリリースが8月末ですし、この新曲を聴いて、秋から新しいお客さんとも出会えるといいですね。

大輝「ほんと、たくさん聴いて、ライヴにも来て欲しいですね」 B



初回盤A



初回盤B



通常盤

12thSinple
君色
2017.08.30 Release
初回盤A CD+DVD ¥1,500（tax out）
初回盤B CD+DVD ¥1,500（tax out）
通常盤 CD ¥1,000（tax out）

［CD］
01.君色
02. Fly Higher
03.君色 -English ver.- ※通常盤のみ
［初回A・DVD］
「君色」Music Video
The making of 君色
［初回B・DVD］
「大阪LOVER」Music Video
The making of 大阪LOVER







Da-iCE ⇒
ダイス。5人組ダンス&ヴォーカルグループ。'14年1月15日にシングル「SHOUT IT OUT」でメジャー・デビューを果たす。1月17日に初の武道館公演を成功させた。現在「Da-iCE LIVE TOUR 2017 -NEXT PHASE-」を開催中。





Summer Song

**メンバーにとっての“夏うた”とは?
多少思い入れに個人差はあるようですが(笑)、どんな曲が出てきたのでしょう?**

■“片思いする人の為の夏の主題歌”という「君色」のキャッチフレーズより、それぞれ個人的な“メンバーの夏うた”を教えてください。
想太「はい! 僕から。BoAさんの“Shine We Are!”です。中1の頃かな? ラジオにハマっていて。当時フラれたとき、ラジオから流れてきたのが“Shine We Are!”で。そんなに切なくない曲だし、むしろアッパーな曲なのにすごく涙を流したので、これを聴くだけで胸がしめつけられる感じがするな」
雄大「僕はTUBEさんで“シーズン・イン・ザ・サン”。思い出とか特になく(笑)。ズバリ夏。もう聴いたらテンションアガる!」
想太「懐かしいな~」
雄大「けっこう色んなランキングでもずっと上位に入ってるよね」
颯「RIP SLYMEさんの“熱帯夜”ですかね。小学生のときに、ずっとコーラのCMで聴いてたと思う。そのあとフェスで観たとき、めちゃめちゃテンション上がったなぁ。カッコよかった!」
徹「僕はWhiteberryさんの“夏祭り”。夏になると思い出すな。当時、よくかかってたからね。小さいときの思い出が、ファーっと出てくる感じ」
雄大「あれ、ほんといい曲っすよね」
想太「いい曲」
大輝「僕はDA PUMPさんの、“Love Is The Final Liberty”かな。PVがめっちゃ頭の中に浮かんできた。当時DA PUMPさん、めっちゃ好きで、CDも全部持ってたな。この曲のPVは特に夏っぽくて」
雄大「DA PUMPさんも夏のイメージ強いよね。声からして夏っぽい」
大輝「沖縄(の出身)だから強いんじゃないかな。夏に夏感。テンポ速くない曲も、たいがい夏っぽく聴こえるしね。“Crazy Beat Goes On!”とかも夏だし」
想太「俺、DA PUMPさんの“SUMMER RIDER”好きやった!」
大輝「特にm.c.A-Tさん(が作っていた)時期は、特に夏っぽい」
想太「m.c.A-Tさんが作ってた時期があるんや! やっべ! 僕らも作って欲しいな」
■そうこうしているうちに、Da-iCEの曲も、夏うたの定番曲に仲間入りでは?
想太「いやいやいや~」
大輝「まだまだですよ~」
■でもDa-iCEといえば“夏”っていう印象強いですよ。現に夏うた、いろいろありますし。
想太「まあ夏うたのときは、気合い入ってますからね(キメ顔)」
大輝「もちろん。でも昔の曲はすごいよね。CDが100万枚や200万枚とか売れて、テレビやラジオくらいでしか触れる媒体がなくてっていう時代での認知度と、今みたいに色んなところから情報が入ってくるのとでは拡散力も違うしね。先人たちが素晴らしすぎる。だから1曲に絞れないくらい、いい曲があるよね、夏うたって」



今年4月、メジャー1stシングル「Connect」を発表しライヴを重ね、ソロアーティストとして、その音楽的志向をアピールした田口 淳之介。そんな彼の決意や魅力が目一杯込められた1stアルバム『DIMENSIONS』が完成。様々なトライが光る今作について、素直な言葉で語ってくれた。

Text ⇒ 森朋之　Photo ⇒ 山本さちこ
Hair&Make-Up ⇒ 竹島健二　Styling ⇒ 富田彩人



DIMENSIONS

田口淳之介

JUNNOSUKE TAGUCHI



■1stアルバム『DIMENSIONS』が完成しました。EDM、ヒップホップ、レゲエなどがバランスよく取り入れられた素晴らしいアルバムだと思います。この作品によって、田口さんが志向する音楽もしっかり提示できたのでは?

「そうですね。すべての楽曲、サウンドを含めて妥協は一切していないし、いいアルバムになったと思います。自分自身が好きだなと思う曲を入れていったんですけど、似たような曲もないし、バランスも取れているんじゃないかな」

■『DIMENSIONS』(次元)というタイトルについては?

「アルバムのタイトルはすべてでき上がってから決めたんですけど、1曲目に〝DIMENSION〟という曲が入っていて。楽曲はDJ UPPERCUTさんに作ってもらったんですが、歌詞は自分で書いたんですよ。いろいろな方面から発信することで、次元を超えた存在になりたいという決意を込めているんですよね」

■実際、田口さんはいろいろなフィールドにアプローチしてますからね。

「自分でも活動範囲は広いなと思っていて。俳優業もそうだし、もちろん楽曲から知ってくれた人もいるだろうし。そういう意味でも、いろんな〝次元〟があるんだろうなと思います。主軸はずっと音楽だし、そこはブレないようにしたいと思っているんですけど、年齢によってもやれることは変わってきますからね。そこは常に探っていきたいです」

■アルバムの楽曲についても聞かせてください。まず、制作はどんなふうに進めていったんですか?



「デビュー・シングル(「Connect」)も入っているんですけど、去年の段階で作っていたものもあれば、今年に入ってから制作したものもあるという感じですね。曲が揃ってきたところで全体の構想をさらに練って、仕上げていって。基本的にはトラックが先なんですよ。音楽制作のスタッフにデモを上げてもらって、自分が〝いいな〟って気に入ったものを形にして。途中でテイストが変わった曲もありますね。たとえば〝Raindrops〟は、デモを聴いた段階では〝ありきたりかな〟という気がしていたんです。でも、メロディを乗せて、歌詞を書いていくうちに自分に馴染んできて。さらに雨音をイメージした音を足したり、少しずつ味付けを加えていって、今の形になったんですよ。そのままやるというよりも、そうやって手を加えることのほうが多いですね」

■田口さん自身のクリエイティビティも加味しながら、しっかりと個性を備えた楽曲に仕上げていく、と。

「はい。〝CRIMSON〟も(デモの段階とはまるっきり違う形になってますね。最初は完全にEDMだったんだけど、メロディだけを残してアレンジをまるきり変えました」

■すごく大人っぽい曲ですよね、「CRIMSON」は。歌メロは歌謡曲テイストですけど、サウンドがカッコよくて。

「そうなんですよね。同じメロディでもアレンジによってこんなに変えることができるんだなって改めて思ったし、曲のテイストを変えたので、もちろん歌詞も変えました。アルバムの発売は9月なんですけど、夏っぽさが欲しいなと思ったし、青春の燃えるような恋心と夏

の熱さみたいなものを重ねることで、さらに世界観を広げて壮大でいて、爽やかな曲に仕上げました。そういう作業は1曲1曲、かなり集中してやりましたね。制作の進行的にも何曲も同時に進める感じではなかったし、そこは良かったかなと。あと〝こういう曲だったら、普段の自分も聴くだろうな〟ということも意識していましたね。リスナー側の立場というか」

■田口さん自身が普通に聴けるアルバムにしたかった。

「そうですね。せっかく作ったのに、自分で長く聴かないっていうのはつまらないので。将来的にはライヴでパフォーマンスするので、ステージングのことを考えながら、くり返し聴いてますね」

■「G・O・N・G(feat.DAZZ)」はダンスホール・レゲエのテイストを取り入れたナンバー。こういうサウンドも田口さんのルーツのひとつですよね？

「はい。DJのSHIMOTAKUくんにトラックを作ってもらって、DAZZくんをフィーチャーして制作したんですけど、どちらも大阪の音楽仲間ですね。〝こういう曲を作りたい〟と提示させてもらって、上げてもらったトラックをさらにガラッと作り直してもらったり。制作の途中でゼロから作り直せるのも、今の環境があるからだと思うんですよ。こちらの要望に200%で返してくれるし、本当に信頼できる人たちなんですよね」

■理想の音楽を一緒に作れる仲間に支えられたアルバムなんですね。

「僕自身もすごくリスペクトしてますからね。自分とはバックボーンが違ったりしますけど、



1st Album
DIMENSIONS
2017.09.13 Release
初回盤A CD+DVD ¥3,900(tax out)
初回盤B CD+DVD ¥3,900(tax out)
初回盤C CD ¥3,000(tax out)
通常盤 CD ¥3,000(tax out)

初回盤A 初回盤B
初回盤C 通常盤

01 DIMENSION
02 Moment
03 Raindrops
04 G・O・N・G(feat. DAZZ)
05 Connect(Music Video Version)
06 FRIDAY NIGHT
07 GOEMON(feat. HIFANA&KIRA)
08 Gradations
09 CRIMSON
10 On My Way(feat. Elli-Royal)
11 On the Moon(Acoustic Version) -Bonus Track-

〝この人、カッコいいな〟と思うクリエイターと仕事ができるのはすごく幸せだなって。息が合う人たちと一緒にやってると、やっぱり楽しいんですよね。そこは音楽活動において絶対に譲れないところです」

■「G・O・N・G(feat.DAZZ)」ではアグレッシブなラップも披露してますね。

「テーマが〝ゴング〟なので〝格闘家の入場ソングになったらいいね〟なんて話しながら作っていました。確かにここまでガッツリとラップすることは今までなかったですね。もしかしたらビックリする人もいるかもしれないけど、まあ、それも自分の一面として受け取ってもらえたらなと。すごく盛り上がれそうな曲だし、自分のことを知らない人も自然とノレる曲になったと思います」

■「GOEMON(feat.HIFANA&KIRA)」は和のテイストが印象的な楽曲です。

「〝GOEMON〟も〝こういう曲を作りたい〟という提案をさせてもらって、そこから制作が始まったんです。HIFANAさんの〝WAMONO〜和モノ〟という曲がすごく好きなので、やっぱり和のテイストは入れたいなと。リリックもそのサウンドに沿った内容になっています」

■「今宵の宴 百花繚乱」という歌詞もありますからね。

「この曲でもラップをやってるんですけど、HIFANAのKeizomachine!さんからは〝とにかく韻を踏んでくれ〟とリクエストされました。それはラップの基本だし、いろいろと勉強させてもらいながら、リリックの世界観を膨らませていった感じですね。レコーディングはHIFANAさんのスタジオだったんで











すけど、普段の環境と違うので緊張しました。そこでもいろいろとやり取して。その場でしか出てこないバイブスもあるし、お互いの提案のなかで広がっていった部分もあって。けっこう大変でしたけど、制作のなかで積み重ねたものがうまく出ていると思います」

■田口さんのラップとKIRAさんのヴォーカルの絡みもいいですよね。

「KIRAちゃんがメインのサビを歌ってくれているんですけど、大阪のシーンでずっと活躍しているシンガーだし、すごくパワフルなんですよ。切磋琢磨というか、こっちも〝負けてられない〟という気持ちになりましたね」

■HIFANAとは以前から交流はあったんですか?

「そうですね。友人を介して知り合ったんですけど、HIFANAさんが出演するイベントに行って、そこで話をしたり。〝いつか一緒に曲を作ってみたい〟と思っていたんですけど、その頃は環境的に難しかったので。実現まで8年くらいかかりました。だからこそ、その分、最高な曲ができました」

■やっぱりクラブカルチャーが好きなんですね、田口さんは。

「総じて言えばストリートカルチャーということになるんだろうけど、それだけでは語れない部分もたくさんあるんですよね。あと、大阪のシーンは好きですね。ずっと現場で活躍し続けるパワーはすごいなって思うので。メジャーとかアンダーグランドとかは関係なく、グサッと突き刺さる音楽だったり、自分が〝これはカッコいい〟という直感を大事にしたんですよね」





■「On My Way(feat.Elli-Royal)」の歌詞には、田口さんのリアルな心情が刻まれていて。

「このアルバムの締めくくりの曲ですよね。〝DIMENSION〟は自分の決意を示した曲だから、最後は未来を感じさせる曲にしたかったんです。そうすることでアルバムにストーリーを付けられると思ったし、最初と最後の曲は譲れないなって。確かにリアルな歌詞というか、自分が思ってることをそのままリリックに込めました。こういうことを普通に話したら角が立つかもしれないけど(笑)、音楽だったらポジティブに受け取ってもらえると思うので」

■「さっと通過した30年」「少年時代の甘えはもうない」というフレーズも印象的でした。30代になったことは一つの区切りだったりしますか?

「そう思います。ちょうど活動のフィールドが変わったタイミングでもあるし、キリがいいというか、男としても人間としても節目だと思うので。20代を越えて、これからどう熟成していくかっていう……。もちろん昔は甘えていたというわけでは全然ないんだけど、今は自分の力で勝ち取っていく時代ですからね」

■アーティストが自分で発信できる環境がありますからね、現在は。

「それはすごくいいことだと思うんです。SNSやYouTubeが普及して、リスナー側も簡単に情報が手に入るようになったので。僕らは時代の一歩先の感覚を持っていないといけないし、何でも簡単に手に入るからこそ、心に響くものを作らなくちゃなって。ライトなんだけど深いものというか……」

■〝ライトだけど深い〟というのは重要です



田口 淳之介 ⇒
たぐちじゅんのすけ。'85年11月29日生まれ。'99年より芸能活動を開始。'16年、ソロ・アーティストとして新たなスタートを切り、'17年4月にメジャー1stシングル「Connect」を発表。'18年1月24日・ゼップ名古屋からツアーを開催。

よね。間口が広く、誰でも楽しめるけど、実はしっかりと内容がある作品じゃないと、本当のヒットにはつながらないので。

「〝売れる、売れない〟ということはそこまで意識してないんですけどね。自分が良いと思う楽曲を発信しますけど、価値観は人それぞれだし、どんなふうに受け止めてもらえるかもわからないので。いろんなものがあるなかで、自分が好きなモノをチョイスするのが普通じゃないですか。自分のカラーだったり、譲れない部分をしっかり持っていることも大事ですけどね。それが曖昧になると〝自分って何だろう？〟と思ってしまうので」

■アルバムが完成したことで、アーティストとしてのスタイルが明確になった実感もあるのでは？

「そうですね。トラックに関しては洋楽がベースになっているけど、メロディラインには歌謡曲、J-POPの要素をたっぷり入れています。聴いてくれる人は日本人がメインだし、僕自身J-POPも好きだし。そこは馴染みやすくしたいなと思っています。〝Connect〟をリリースした後、いろんなステージを踏ませてもらったことも大きかったと思います。イベントによってお客さんの層も違ったし、そのたびに反応も違って。そのなかで〝自分のパフォーマンス、踊って歌うことで勝負できる〟と思えたというか。あとはいい曲を作って、知ってもらえる機会を増やしていきたいですね」

■〝ソロアーティストとして勝負できる〟と思えたのは確かに大きいですね

「今まで培ってきたものもありますからね。いきなり始めたわけではないし、これまでの経験が自分のベースになっているわけだから。そこは感謝だなって。あとはもうちょっとアーティストしてのキャラクターを確立できたらなと」

■でも田口さんって、キャラを作ってるわけではないですよね。こういうインタビューの場でもめちゃくちゃ自然体だし。

「確かに自分でも〝裏表がない人間だな〟って思うかも（笑）。普段からわりとオープンだし、楽曲のテイストによって自分のスイッチが切り替わることはあっても、〝作る〟みたいなことは全然やってないですからね」

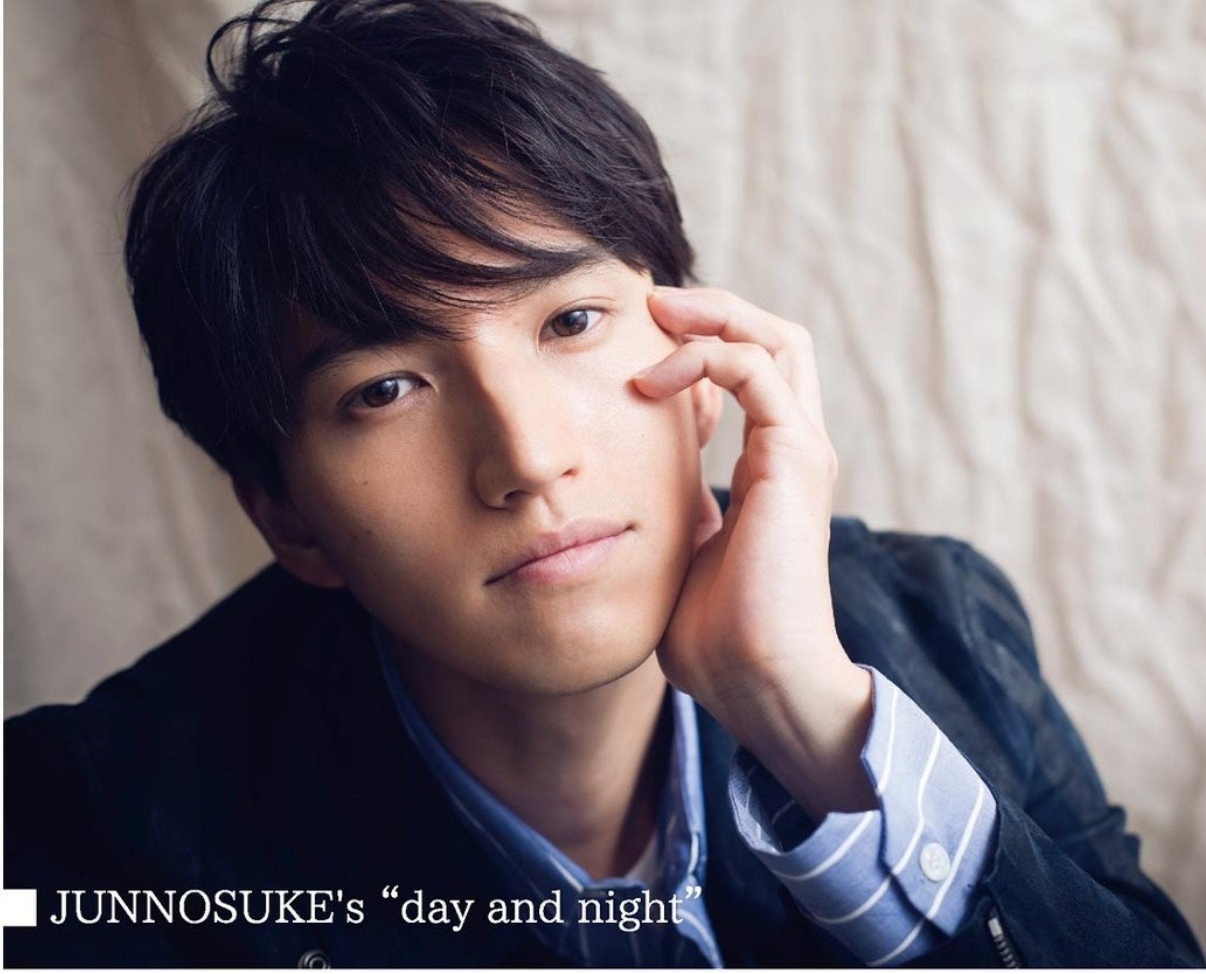
■将来的なビジョンもさらに広がってきたのでは？

「アルバムができ上がったばかりなので、まだわからないですけどね。音楽に関しては、やりたいことをやれる環境があるし、今のペースで続けていきたいと思います。好きなアーティストとのコラボも増やしていきたいし、そこは自由にやれたらなと。今回のアルバムに参加してくれた人たちもそうですけど、仲間も自分の一部だと思ってるんですよ。アルバムを通して、自分の仲間を紹介したいという気持ちもあるし。あと逆に自分が呼ばれるのも面白いと思うので、〝田口とコラボしたい〟という方はぜひ連絡してほしいです（笑）。ラッパーでもシンガーでも、どちらでもやれるように準備しておくので」

■アルバムの新曲をライヴで体感できるのも楽しみです。

「既に次のライヴも発表になってますし、やっぱり生で聴いてもらえるのが一番伝わりますからね。世界観を作り上げるだけではなくて、会場に来てくれた人たちとひとつにつながることをテーマにしたいんですよね」

Ⓑ



夕暮れ時や夜に聴くもよし、爽やかに朝から聴くもよし、そんなアルバムですが、田口さんのそれぞれの時間帯の過ごし方とは?

■アルバム『DIMENSIONS』の楽曲にはいろんな時間帯が描かれていますが、田口さん自身は朝型ですか? それとも夜型?

「あまり夜は起きてないですね。だいたい0時くらいに寝てるし、遅くても2時には寝るようにしているので。起きるのは8時くらいかな。犬の散歩をしなくちゃいけないから、最近はもう少し早く起きたいんですけどね。地面が熱くなっちゃうので」

■毎日8時に起きるって、めっちゃ早起きですね!

「そうかもしれないですけど、世の中の人たちはもっと早くから起きてますから(笑)。アルバムに参加してくれたSHIMOTAKUくんが周りのアーティストに"朝はちゃんと起きないとあかんで"って言っていて、その影響もあるかもしれないですね。SHIMOTAKUくんは午前中からジムに行ったり、シャキッとしてるんですよ。最初は"ちょっと意外だな"と思ったんだけど、そういう生活サイクルは理にかなってるじゃないですか」

■そうですね。

「よく"リリックは夜中に書く"という人もいるけど、僕は断然、朝なんですよ。夜はあまりいいフレーズが浮かんでこないので。今回のアルバムのリリックも、ほとんど朝とか昼に書いたんじゃないかな」

■では、夜更かしはあまりしない?

「しなくなりましたね。昔は飲みに行くこともあったし、朝まで飲むようなこともあったんですけど。眠くなっちゃうんですよ(笑)」

■まだそんな年齢ではないと思いますが(笑)。クラブにもあまり行かないですか?

「何となく遊びに行くことはなくなりましたね。気になってるDJが出るときとか、友達のイベントとか、そういうタイミングのときは行きますけどね。クラブでも飲まないんですよ、最近は。車で行くし」

■アルバムには「FRIDAY NIGHT」という曲もあって。この曲みたいに"夜を楽しむ"みたいなシチュエーションは、想像というか、妄想ですか?(笑)

「そうですね(笑)。"FRIYDAY NIGHT"は僕のある友達をイメージしているんですよ。シティボーイの彼のことを想像しながらリリックを書いたというか(笑)。そういうウキウキ感もアルバムにはあっていいのかなって。パリピも東京には多いですからね」

■確かに。朝、犬の散歩の後は何をやってるんですか?

「えーと、まずはメールのチェックかな。夜の間に送られてきたメールを確認して、返すものは返して。で、13時くらいに昼メシを食べて……そういえば今日は朝から何も食べてないですね」

■もう16時ですが。

「(笑)普段は朝、ヨーグルトとバナナを食べたりするんだけど、今日はたまたま何もなかったので。いつもだいたい2食なんですよね。以前ほど大食いじゃなくなったし」

■楽曲の制作も日中にやってることが多いですか?

「昼とか夕方が多いかな。大阪のアーティストと曲を作ることも多いから、メールで音源をやりとりしながら形にしてるんですよね。僕はそこまでトラックメイクをするわけではないから、パソコンがあれば十分なので。海外のクリエイターと一緒にやるときも基本はメールなので、特に困ったことはないです。"ここをこうしてほしい"とお願いして、待ってる間に他のこともできますからね。超効率的です」

■すごい。しっかりしてますね!

「制作に関してはわりとテキパキしてるかもしれないですね。ただ、それは自分の興味があることだけなんですよ。好きなこと、やりたいことは効率的に集中して進められるんだけど、家事とかは全然ダメなので(笑)。そこは波があるかもしれないです」

■では、夜の時間帯に必ずやることは?

「何だろう? 湯船には浸かるようにしてますけどね。塩を入れて、ミネラルを摂ったりとか。近くの温泉に行くこともありますね。23時くらいに行って、帰ってきてそのまま寝たり。あとは音楽を聴いたり、SNSを見たり。わりと地味ですよ」

■地味というか、すごく健康的ですよね。歌詞には"夜"って言葉がけっこう出てきてますけど、好きな時間帯はやっぱり昼?

「そうですね。どうやら昼の人だったみたいです(笑)」



DANCE EARTH PARTY
POPCORN

“ダンスでアースをハッピーに”をコンセプトに活動をしているユニットDANCE EARTH PARTYが、
8月30日にニュー・シングル「POPCORN」をリリース！
昨年に続き10月に開催される主催イベント“DANCE EARTH FESTIVAL 2017”に
向けて作られた一枚だという。最高にポップでハッピーな表題曲を中心に、
カップリングの「WAVE」「D.E.P!!!」の制作エピソードも含めてメンバーに話を聞いた。

Text ⇒ 斉藤 碧



EXILE ÜSA


EXILE TETSUYA


Dream Shizuka

DANCE EARTH PARTYとしていろんなものをどんどんお届けしていきたいと思っているので、こうしてグループの新たな一面を見せられるのは嬉しいです。節目となる素敵なシングルに、こんなにも彩り鮮やかな楽曲を収録できてすごく幸せだなって思います

■今回のシングルは、10月に開催される『DANCE EARTH FESTIVAL 2017』に向けて準備した1枚だそうですね。

Dream Shizuka「そうですね。初開催の去年のフェスを経て、いろいろ反省点が見えてきて、もっとみなさんと楽しめる楽曲……たとえば、タオルを振ったりとか、手を横に振ったり、みんなで声を出したりと、そういう楽曲がほしいと思ったのが、今回のシングル制作のキッカケでした。だから、"こういう景色を見たい"という私達の想いが主体となって、自然と楽曲が集まってきたんです。まさに理想通りの3曲が揃ったなと思います」

■その中でも、リード曲「POPCORN」はとびきりポップなナンバーですが、この曲で見たかった景色はどういったものでしたでしょうか……?

EXILE TETSUYA「この曲はもう、タオルを振り回して"盛り上がっていこう!"みたいなイメージです。あと、今回このシングルを作るにあたって、"歌詞のテーマはどうしよう?"という話をしていた時に"弾けちゃう曲がいいよね"って意見があって。"どうせ弾けるなら、"愛が弾けて止まらない!"というテーマにしようって話になったんですよ(一同笑)」

Dream Shizuka「改めて聞くと照れますね(笑)」

EXILE TETSUYA「俺も言ってて恥ずかしいよ(笑)。でも、"弾ける"ことがテーマなんだとしたら、ÜSAさんが初めて覚えたステップ"ポップコーン"を歌詞に取り入れたらいいんじゃないかって思って。『Eダンスアカデミー』(テレビ番組)で子供に教えても、キャッチーですごく喜んでくれるし、これだな、と。タイミングがいい感じに重なって、すんなり"POPCORN"という曲ができあがりました。あまりにもストレートすぎたんで、Shizukaちゃんからは"POP・CORN"がいいんじゃないかっていう提案もあったんですけど、最終的にはシンプルに"POPCORN"になりました(笑)」

■先日、『E.G.EVOLUTION』(7月にさいたまスーパーアリーナにて開催)でも披露されていましたけど、すごく盛り上がっていましたよね。

Dream Shizuka「おかげさまで会場の皆さんにも盛り上がっていただけたかと思います」

EXILE ÜSA「実は3人とも緊張していて、あんまり余裕がなかったんですよ(笑)。Shizukaちゃんはこれが E-girlsとしての最後のステージなんだという気持ちでいるし、僕らも僕らで、いきなりE.G.familyの一員になって戸惑いもあるし、"(E.G.familyのステージに)出ていって大丈夫なの!?"という不安を背負いながらだったので……結構記憶が曖昧です。でも、楽しかったのは間違いないですね! ずっと見たかった光景……約3万人のお客さん達がタオルを回す光景を見られたので、手応えはかなりありました」

EXILE TETSUYA「去年のDANCE EARTH FESTIVALを経て、ここに至るまでの道ですごく進化できたなって感じがありました。僕らのやりたいことをさらに色濃く出せたという実感もありましたし、新しいDANCE EARTH PARTYらしい、オリジナルスタイルのステージが見えた第一歩だったなと思います」

■ちなみに、フェスのステージに立つのと、EXILE TRIBEのステージに立つのと、E.G.familyのステージに立つのって、パフォーマンスする時の意識は変わるものなんですか?

EXILE ÜSA「変わりますよ。でも、これからはEXILE TRIBEでもあり、E.G.familyでもあるという立場になりますからね。どこにいても自分達の空気感を作らなければいけないなって、この2日間を通して改めて感じました」

■Shizukaさんは、レコーディングの時はどういうところを意識して歌っていましたか?

Dream Shizuka「やっぱり英語の発音ですね。みなさんを楽しませるためには、自分自身のテンションも高めていかないといけないんですけど、何と言っても言葉数が多いので苦戦しました。ライヴもレコーディングも、そこはちゃんと歌詞が伝わるように意識して歌いました。そういうのもあってか、あまり記憶がありません(笑)」

■(笑)。一方、ライヴではカップリングの「WAVE」も披露されていましたが、こちらはお二人(ÜSA・TETSUYA)も気持ち良さそうに歌っていらっしゃいました。

EXILE TETSUYA「そう見えました? やってる側としては緊張しまくってましたよ。"POPCORN"の場合は"ガヤがShizukaちゃんの声に被らないように"っていうところでの緊張だったんですけど、"WAVE"はこれをしくじったら次はないなって」

Dream Shizuka「オーディションみたいですね(笑)」

EXILE TETSUYA「そう、本当にそんな感じでした。しかも、ShizukaちゃんはE-girlsとして先にステージに出てましたけど、僕達は出番まで控え室で何回も曲を流して、何回も歌ってから本番に臨みましたからね(笑)。でも、マイクを握ってステージに立つことで、みなさんとの距

離がさらに縮まったような気がしましたし、ヴォーカリストの苦労を知った分、Shizukaちゃんにも歩み寄れたのかなと思います。いろいろと新鮮で楽しかったですね」

EXILE ÜSA「そうだね、クセになりそうです。そう言いながら、味をしめて3曲目の〝D.E.P!!!〟ではサビにまで声を入れちゃうっていうね（一同笑）。そうやって、僕らが徐々にしゃしゃり出ていく感じも、この作品の聴きどころかなと思います」

■そもそも、今回3人で歌おうって決まったのは、どういう流れだったんですか？

EXILE ÜSA「この〝WAVE〟という曲は、DANCE EARTH PARTYをこの3人でやると決まった頃からアイデアとしてあって。その中でも、ダンスパートなのか？　誰かゲストを呼ぶのか？って、アイデアが空欄になっているパートがあったんです。と同時に、〝僕らももっと声を出したほうがいいんじゃないか〟という話も出てきたので、こういうスタイルになりました」

■Shizukaさんは作詞にも参加されていますが、2人が歌う前提での作詞だったんですか？

Dream Shizuka「いえ、それは後から決まったことで。初めはLauren Kaoriさんが書いてくださった歌詞を元に、私が歌うからには、自分なりに経験してきたことや想いを入れたいなと思って参加させていただいたんです。だから、私の歌録りも先に終わっていましたし、まさかお二人が声を入れるとは思っていなかったんですけど、仕上がった音を聴いてみたら、お二人のパートがあるからこそ、〝WAVE〟の持つ穏やかさと海を感じさせる空気感というのが引き立たせてもらえているのかなと思いました」

EXILE TETSUYA「僕らもね、初めはリラックスした感じで〝試しに歌ってみましょう〟というノリでやらせてもらってたんです。でも、スタッフさんもすぐに〝これは歌ったほうがいいね〟という雰囲気になっていたので、〝歌わせていただけるなら、ぜひ！〟と。新しいチャレンジをさせていただきました」

■ご自分では、お二人が歌う意義についてどう感じていますか？

EXILE TETSUYA「DANCE EARTH PARTYは、〝音楽の旅〟をテーマに活動しているんですけど、僕ら（ÜSA・TETSUYA）はガイドさんみたいな役割なのかなって思いますね」

EXILE ÜSA「〝盛り上げ〟ガイドね（笑）」

EXILE TETSUYA「そう。最終的に目指すのはそこなのかなって」

Dream Shizuka「それいいですね！　私も覚悟を持ってE-girlsを卒業しましたし、これからはDANCE EARTH PARTYとしていろんなものをどんどんお届けしていきたいと思っているので、こうしてグループの新たな一面を見せられるのは嬉しいです。節目となる素敵なシングルに、こんなにも彩り鮮やかな楽曲を収録できてすごく幸せだなって思います」

■そして、節目の時だからこそ、3人の歌声が乗った自己紹介ソング「D.E.P!!!」も生まれたのかな？と。

Dream Shizuka「そうかもしれませんね。〝D.E.P!!!〟ができたのは私が卒業を決める前だったんですけど、タイミング的に合ったのかもしれません」

EXILE TETSUYA「うん、巡り合わせだね。良い流れになってきてる！」

■じゃあ、レコーディングもすんなり終わりました？

EXILE TETSUYA「いや、レコーディングはまたオーディションみたいな感じでした（一同笑）。この曲は〝WAVE〟と違ってメロディもちょっとあるので、Shizukaちゃんだけが歌うという選択肢もあったんですよ。でも、僕らがE-girlsやEXILEのメンバーだというのはわかっていても、DANCE EARTH PARTYのことをまだ知らない人が多い今だからこそ、〝この3人でDANCE EARTH PARTYです！〟というのを、〝3人の声〟で届けたいという気持ちがありました。こうして形にできて一安心しています」

■E-girlsではクールなお姉さんという印象が強かったShizukaさんも含めて、この曲を聴けば〝意外と陽気な人達なんだ！〟って思うでしょうしね。

Dream Shizuka「陽気な人達って……！（笑）　でも、たしかにこの曲は陽気ですよね」

EXILE TETSUYA「そうだね。10月のフェスを楽しみにしてほしいなと思います」 B



CD+DVD



CD

New Single
POPCORN
2017.08.30 Release
CD+DVD ￥2,000（tax out）
CD ￥1,200（tax out）

［CD］
01.POPCORN
02.WAVE
03.D.E.P!!!
04.POPCORN (Instrumental)
05.WAVE (Instrumental)
06.D.E.P!!! (Instrumental)
［DVD］
01. POPCORN (Music Video)
02. WAVE (Music Video)

DANCE EARTH PARTY
POPCORN

DANCE EARTH PARTY ⇒
ダンス・アース・パーティー。EXILE ÜSAのライフワーク・プロジェクト「DANCE EARTH」をベースに誕生し、2015年に現体制に。2017年2月に1stアルバム『I（ワン）』をリリースした。今後は、10月14日、15日に幕張海浜公園Gブロックにて、主催イベント"DANCE EARTH FESTIVAL 2017"を開催する。

Flower

たいようの哀悼歌

6人組ダンス&ヴォーカルグループ・Flower（フラワー）が、
15枚目となるシングル「たいようの哀悼歌」を8月23日にリリース。
“孤独”や“絶望”をテーマとした表題曲やカップリング曲「Stranger」制作時のエピソードはもちろん、
E.G.family新体制後の気持ちも含めて、パフォーマーの藤井萩花、中島美央、重留真波の3人に語ってもらった。

Text ⇒ 斉藤 碧





グループとしては、今までと変わらず、バラードを通して他人の言葉に寄り添っていける楽曲を届けていきたいという想いもありつつ、E.G.familyの中でもそれをFlowerの強みとしてより打ち出していけたらいいなと思います

■E-girlsが新体制になるにあたって、FlowerもE.G.familyの一員として活動することが発表されました。みなさんは先日E-girlsを卒業されたばかりですが、19人体制のE-girlsとしてのラスト公演『E.G.EVOLUTION』を終えてどう感じていますか?

重留「新体制を発表したのが今年の6月5日なんですが、7月16日の『E.G.EVOLUTION』(さいたまスーパーアリーナ公演)をもってE-girlsが19人体制から11人体制に変わりました。E-girlsを卒業した私達はもちろん、メンバー1人1人にとっても新たなスタートというか、それぞれが輝ける場所、行くべき場所に向かって走り出したんだという感覚があります。だから、Flower自体は一から再スタートということではないですし、メンバー全員Flowerに懸ける気持ちは変わらないんですけど、Flower専任としてどこまでFlowerのことを進められるのか?というのが、今後の私の役割なのかなと思っています。グループとしては、今までと変わらず、バラードを通して人の言葉にできない感情に寄り添っていける楽曲を届けていきたいという想いもありつつ、E.G.familyの中でもそれをFlowerの強みとしてより打ち出していけたらいいなと思います」

■Flowerとしては「モノクロ」(13thシングル)と新曲「たいようの哀悼歌」を披露されましたが、特に「たいようの哀悼歌」は、荒野を旅する人の孤独や絶望を描いた楽曲ということで、良い意味で他のグループとは異質なオーラを放っていましたね。

藤井「ありがとうございます。『E.G.EVOLUTION』の公演は、E-girlsだけでなく、E.G.familyには本当にいろんなジャンルのいろんなアーティストがいるんだなというのをより実感した公演でした。私達も、E.G.familyの中でFlowerがやるべきことや、Flowerが表現してみなさんに伝えられることをより明確にしていきたいという想いを持って準備していったんですが……もともとのセットがE-girlsのために用意されたものなので、その中で自分達の色を出すにはどうしたらいいのか? その演出を考えるのはすごく大変でした。〝たいようの哀悼歌〟って、〝孤独〟や〝絶望〟をテーマにした曲でもあるし、独特の世界観が強いので、正直、どこでも披露できるような曲ではないと思うんです」

■たしかに、聴く側も気合いを入れて聴かないといけない曲だなとは思います(笑)。

藤井「そうですよね(笑)。でも、それをあえて『E.G.EVOLUTION』でやることで、ポップで明るいE-girls、無機質なShu



重留真波
シゲトメマナミ
Performer

今回は今までにない迫力を感じていただける楽曲になっていると思います。恋愛ソングのイメージが強かったFlowerが〝孤独〟や〝絶望〟を表現するという意味でも、大きな一歩を踏み出した曲です

uKaRenの世界観とはまた違う空気を届けられたんじゃないかなと思っています。MV撮影の時もそうだったんですが、ダンスというよりは、曲の世界観に引っ張られる形で、感情がそのまま動きになったような感覚でパフォーマンスをしました。私自身も披露していてゾクゾクッとしたし、お客さんも何か感じ取ってくれているといいなと思います」

■では改めて。そもそも、ファンタジックな恋愛ソングを王道としていたFlowerが、今、こういった楽曲に挑戦することになったのはなぜなんでしょうか？

藤井「この曲は今、すでにアニメ『将国のアルタイル』のエンディングテーマとして放送されているんですけど、そのタイアップが前提にありました。だから、アニメのイメージに沿った中東アジアっぽいテイストになっていますし、恋愛ソングの場合、今までだったら繊細な歌声やメロディで表現することが多かったんですけど、今回は今までにない迫力を感じていただける楽曲になっていると思います。恋愛ソングのイメージが強かったFlowerが〝孤独〟や〝絶望〟を表現するという意味でも、大きな一歩を踏み出した曲です」

中島「ライヴでも迫力がすごかったんですけど、最初の（鷲尾）伶菜のフェイクが、心の底から出てきた叫びのように聴こえて……私は〝たいようの哀悼歌〟を最初に聴いた時から、一瞬にしてこの曲の虜になりました。それこそ、MV撮影までの準備期間も、結構リピートして聴いていたんです。今までの曲も準備期間によく聴いていたんですが、今回は暇さえあれば1日中聴いてるくらい、この曲にハマりました（笑）。恋愛ソングという括りではない曲なので、より多くの人に届けばいいなと思います」

■レコーディングには立ち会ったんですか？

重留「レコーディングも立ち会いましたし、最終的に仕上がった音源を伶菜が聴く時にも一緒に聴かせてもらいました。レコーディング中は全員で行くと邪魔になってしまうので、手の空いているメンバーが何人かで差し入れを持っていったりしたんですけど、伶菜も喜んでくれました。自分達のヴォーカルは鷲尾伶菜しかいないですし、パフォーマーとしてはヴォーカルがいないと成り立たないので（笑）、伶菜のケアは大事にしていきたいなといつも思っています」

藤井「そういえば、今回のレコーディングには作詞をしてくださった小竹（正人）さんもいらっしゃってくれました。今、Flowerはみんな中国語を勉強中なんですけど、小竹さんも大学時代に中国語を習っていたらしくて、教わったりしました（笑）。歌詞からも学ぶことが多いんですけど、小竹さんと話していると知らないことをたくさん知れるんで



中島美央
ナカジマミオ
Performer

す。それに、〝この1行の歌詞を歌うのにこんなに悩んでるんだ〟とか、ヴォーカルのこともよく知ることができるので、パフォーマーにとってもレコーディングの現場はすごく大切だなと思います」

■MVももう撮影されたそうですね（取材は7月末）。

重留「はい。今まではセットを組んでいただいて撮ることが多かったんですけど、今回は〝白雪姫〟（2013年発売の6thシングル）ぶりにロケで撮影させていただきました。海だったり空だったり、すごく壮大な仕上がりになっているので、MVを観ていただけるとこの楽曲がよりリアルに伝わるんじゃないかなと思います」

中島「特に観ていただきたいのは、焚き火のシーンです。焚き火を背にしてみんなで輪を作ってパフォーマンスしているんですけど、そこはすごく綺麗に仕上がっていると思います」

重留「うんうん。あと、今回は砂浜でダンスシーンを撮影したんですけど、それが結構踊りにくくて……（一同笑）。でも、そういう大変だったシーンも映像として観ると、メンバー内でも〝素敵！〟ってなったので、みなさんにも早く観ていただきたいなと思います」

■また、カップリングには、周りに流されずに自分らしいスタイルを貫く女性を描いた「Stranger」が収録されます。この曲はどうやって選んだんですか?

重留「私は大体いつもライヴを想定してカップリング曲を選ぶことが多くて、これまでは〝ライヴで最後にやるならどういう曲だろう？〟という選び方をしていたんですが、今回は、バラード曲が大半を占めている『Flower Theater』（昨年行なったツアー）を経て、〝モノクロ〟や〝ラッキー7〟（2015年発売の11thシングル「瞳の奥の銀河」収録）に並ぶような楽曲がほしいなという話をメンバーとしていたので、この曲を選ばせていただきました。この曲もリードと同じく小竹さんが作詞してくださったんですけど……強い女性が主人公で、棘のある言葉がグサグサ刺さってくるんです（一同笑）。でもきっと、私と同じ世代の子達に問いかけている楽曲だと思いますし、私達がパフォーマンスすることで刺激を与えられたらいいなと思います」

中島「私はとにかく衝撃を受けましたね。距離感の近い作家さんだからこそ、自分自身に〝自分らしくしているか？〟と問いかけられているような気になりました。でも、〝子犬や子猫を　飼い慣らすのは得意　無邪気な子供には　割と懐かれる方よ〟っていう部分は、すごく萩花っぽいなって思いましたね（一同笑）。萩花って、すごく子供好きなんですよ。で、子供好きな理由も歌詞とリンクしていて。そういうリアルに当てはまる部分が小竹さんの歌詞にはあるので、読んでいてワクワクしましたし、ライヴでやるのが楽しみになりました」

■実は私も、「Stranger」は萩花さんっぽいイメージで聴いていたんですよ。前回の取材（B-PASS8月号）の際に、みなさんがカラフルな衣装を着ている中、萩花さんだけ全身黒い衣装で〝自分らしさを貫いてるなぁ〟って思って（笑）。



佐藤晴美
サトウハルミ
Performer

藤井「ふふっ。〝Stranger〟っていうのも、特に誰かに言ったわけじゃないんですけど、実は最近の自分の中でのテーマだったんですよ。だから、不思議なリンクを感じました」

重留「伶菜も共感しながら歌えたみたいで〝すごく楽しかった！〟って言っていたし、今の私達にピッタリの曲なんだろうね」

中島「うん。それもやっぱり、小竹さんだからできたことなんだと思います」

重留「ただ、そういう一面もありつつ、1つの作品としては、〝たいようの哀悼歌〟もそうだし、初回盤には〝熱帯魚の涙（Asiatic version）〟だったり、『Flower Theater』の映像も入っていて、Flowerのいろんな面を観ていただけるシングルになっていると思うので。このシングルを通してFlowerの表現の幅を感じていただいて、今後に期待していただけたら嬉しいです」

Flower ⇒
フラワー。鷲尾伶菜（Vocal &Performer）、藤井萩花（Performer）、重留真波（Performer）、中島美央（Performer）、佐藤晴美（Performer）、坂東 希（Performer）の6人組ダンス&ヴォーカルグループ。'10年結成、'11年10月にシングル「Still」でデビュー。現在、今作のリリース記念ハイタッチ会「Flower花の集い ～2017～」を開催中。


初回生産限定盤A


初回生産限定盤B


通常盤


期間限定アニメ盤

New Single
たいようの哀悼歌
2017.08.23 Release
初回生産限定盤A CD+DVD ¥4,491（tax out）
初回生産限定盤B CD+DVD ¥1,713（tax out）
通常盤 CD ¥926（tax out）
期間限定アニメ盤 CD ¥926（tax out）

[CD]
01. たいようの哀悼歌
02. Stranger
03. 熱帯魚の涙 Asiatic version（A／B盤のみ）
04. たいようの哀悼歌 instrumental

[DVD]
01.「たいようの哀悼歌」Music Video
02. Flower Theater 2016 ～THIS IS Flower～ THE FINAL（A盤のみ）

[CD] ※アニメ盤
01. たいようの哀悼歌 -Another version-
02. たいようの哀悼歌 -Another version- TV edit
03. たいようの哀悼歌



藤井萩花
フジイシュウカ
Performer



坂東 希
バンドウノゾミ
Performer

androp

andropがこんな装いで、海でウェイ?! 2017年の夏を堂々飾る最高の1曲が放たれた。
大注目のヒップホップユニットCreepy Nutsとガチで作り上げた「SOS! feat. Creepy Nuts」。
サウンドもリリックも、ミュージックビデオも、随所に散りばめられた遊び心がたまらない。
楽しい夏でも残念な夏でも、彼らがとびきりの夏にしてくれます! Vo.内澤、G.佐藤に直撃!

SOS!

Text ⇒ 宮本英夫



■「SOS！ feat. Creepy Nuts」のミュージックビデオ、最高ですよ。笑って観てますけど、これ、笑っていいんですよね？

佐藤「笑ってもらったほうがありがたいですね（笑）」

内澤「自分たちが笑ってるんで」

■映像やビジュアルの話もたっぷり聞きたいですけど、まずは曲の話から。この曲でがっつりコラボしているのが、ヒップホップユニットのCreepy Nuts。そもそも、いつ頃からつきあいを？

佐藤「ベースの前田くんがヒップホップが好きで、ラッパーのR-指定くんをYouTubeとかでよく観てたんですね。で、Creepy Nutsがたまたま家の近所でフリーライヴをやっていて、観に行って、そこで声をかけて」

内澤「一緒にご飯を食べるような仲になって、僕もそこに参加して、"いつか一緒にやりたいね"という話をしていたんですけど、やっと実現しました。R-指定くんはすごく実力があるし、DJ松永くんもトップDJなので、ヒップホップ・シーンだけじゃなくて、日本の音楽シーンを牽引してくれるような、大きなユニットになるんじゃないかなと思ってます。一緒にやって、すごく刺激をもらいました」

■リスナーによっては、「畑が違うんじゃないの？」って、思う人もいるかもしれないけれど。

内澤「畑が違うから、向こうの畑で当たり前になっているものが、こちらから見るとものすごく新鮮だったりするんですよ」

■それは、たとえば？

内澤「僕で言うと、誰かと一緒に歌詞を作ったのは初めての体験だったんですけど、R-指定くんはいろんな言葉を持ってる人なので、言葉が出すぎちゃって、逆にどれをチョイスするかで悩んでるんですよ。ラッパーの人って、当日スタジオに入ってその場でリリックを書く人もいるぐらい、即効力を持った人たちだということは聞いていたんですけど、実際目の当たりにするとけっこう驚きますよね。自分は歌詞を書く時に、相当悩んで、1日1行できるかどうか、ぐらいまで悩むことがあるんですけど、それとは全然違っていて」

佐藤「今回のレコーディングも、その日スタジオに集まって、"こういう構成だけど、どうする？"というところから始まって、"OK、わかった"って、すぐ書き始めるみたいな」

内澤「でもDJ松永くんが言うには、R-指定くんは"僕が知ってるラッパーの中では一番歌詞を作るのが遅い"って。すごく悩んで作る点は似てると思います」

佐藤「言葉は出てくるけど、それで本当にOKなのか？って、決定するまでが長いと言ってました」

■それはだいぶ、カルチャーショック。

佐藤「ですね。歌詞もない、ラップも乗ってないトラックを作るのも、僕らは初めてのことなので。松永くんはわかってるんですよ、R-指定くんのラップがここにこういう感じで入るだろうって。でも僕らは、最後に完成してみて"ああ、なるほどね"っていうことがあったりしました。今まで通りの作り方なら、ここにギターを入れたほうがいいと思っても、松永くんが"いや、ここはシンプルなほうがラップが入れやすいから"とか、言葉が乗ってない状態のトラックに対して言ってて。それも、カルチャーショックでしたね」

内澤「あと、僕たちがAメロって言ってるところを、バースって言ったりとか。"バース？ ああ、Aメロのことか"って、僕たちもバースって言い始めたりして（笑）」

■あはは。急にヒップホップ通になったかのような（笑）。

内澤「そこの、2バース目はさ……とか」

佐藤「ちょっと大人になった気がしましたね（笑）。かっこいい！って」

内澤「サビじゃなくて、フックとかね。パンチラインとか（笑）」

佐藤「そんな感じで、わいわいやってました。高校生の部室ノリですね」

内澤「しかも男子校のね」

■そういうことは、今までのandropにはまったくなかったでしょう。

佐藤「この二人の人柄は大きいです。フリースタイルをやってる時のR-指定くんを見て、すごく怖い奴だと思ってたけど、全然そんなことなくて。松永くんも、すごいボケをいっぱい持ってるし（笑）。俺らにないものをいっぱい持ってたから、面白かったですね」

■曲作りの第一歩は、どんなふうに？

内澤「一緒にやることが決まって、まずヒップホップの手法を取り入れたいと思って、サンプリングをやってみようと。じゃあ何をサンプリングする？ということになって、出てきたのが"ツァラトゥストラはかく語りき"だった。『2001年宇宙の旅』で有名な曲で、こういう誰もが知ってる曲のほうがわかりやすいし、キャッチーだし、いい意味で笑えるだろうなと思ったので。それを使ってデモを作って、それからCreepy Nutsと打ち合わせして、という順番でしたね。"こういうデモがあって、夏曲にしたくて、ものすごくバカをやりたい"って」

佐藤「せっかくやるなら、突き抜けたいから」

内澤「あとは"矛盾というものをテーマにしたい"という話をしました。そしたらR-指定くんが、夏曲はいろいろあるけれど、俺は夏





に対して〝ウェイ!〟って騒ぐほうじゃなくて、〝ケッ!〟って思ってるタイプの人間だからって。その視点はものすごく面白いから、〝ウェイ!〟って思ってる人間と、〝ケッ!〟って思ってる人間が、同じところで絡み合う歌にしようと。どちらも正しいじゃないですか、夏を楽しもうが楽しむまいが。それが一つの曲の中で共存して成り立つのは、すごく面白いと思って、R-指定くんが〝ケッ!〟って思ってる歌詞を考えて、僕が〝ウェイ!〟って思ってる歌詞を考えて、テーマや単語をメールで送り合って、進めていきました」

■曲調的にも、ハッピーなパーティーノリのフックと、シニカルでクールなバースとの対比が、すごく面白い。

内澤「その対比が、夏だけの対比じゃなくて、物事を見る視点ということで。仕事でも何でもそうですけど、切り取り方の角度によって、楽しくも思えるし、楽しくなくなりもする。そういうことを考えるという、大きなテーマにつながるんじゃないかと思ったので」

■これを聴いて、Run-DMCとエアロスミスの「Walk This Way」を思い出しましたね。曲調は全然違うけれども、サウンドの対比とジャンル感の融合に、共通点があって。

内澤「まさに〝Walk This Way〟が、みんなの中の共通認識としてありました。あの曲がなければ、その後のヒップホップ・カルチャーは変わっていたかもしれないと思えるほど大きな曲で、あれを目指そうと。そこで誰もが知ってる〝ツァラトゥストラはかく語りき〟をサンプリングしようという話になったんです」

絶対やらないだろうと思われている僕らがそれをやることに、意味があると思ったんですよね。それを楽しんでくれればいいなって

■でも正直、これをandropのお客さんがどう思うか?という怖さはなかったですか。

内澤「ああ、そうですね、怖さはありましたね。やってこなかったことだし、どちらかというと、やらないだろうと思われている部類のバンドだと思うんですよ」

佐藤「〝andropはこうあるべきだ〟というものを、俺らが普段思っている以上に、周りの人のほうがイメージが固まっていて。〝そんなことないんですけどね〟って思っていたとしても、実は僕らとのギャップがあったりしたんで」

内澤「怖さもありましたけど、それを自分たちがやるには、このタイミングだと思いましたね。今はそういう部分で、音楽業界全体にも自粛的な流れがあって、面白いことをやろうと思っても、売り上げにつながらないと判断されたらできないとか、メッセージが強すぎるから流せませんとか、そういうものがどんどん増えてきてると思うんですよ。だからこそ今やるべきだと思ったし、絶対やらないだろうと思われている僕らがそれをやることに、意味があると思ったんですよね。それを楽しんでくれればいいなって、本当に思ったので」

■カップリングの「Sunrise Sunset」は、すでにライヴでは演奏している、とてもストレートで心地よいレゲエ・チューン。統一感があって、新しいリスナーにも入りやすいシングルだと思います。

内澤「そうですね。どっちも聴きやすい曲だなと思いますし。僕らのことを知っていて、Creepy Nutsを知らない人もいると思うので、彼らを知るきっかけにもなってほしいです」

■あらためて、ミュージックビデオについても聞きたいんですが、雨が降り注ぐ海で、みなさんの格好含め、絶妙です(笑)。

内澤「ツアーの合間に、ミュージックビデオを撮る日が決まっていて、その前日に打ち合わせがあって。その時に監督が〝まだ何も考えてないから、いまみんなで考えよう〟と」

佐藤「撮影場所も、内容も、衣装も、一切考えてないと。で、ロケバス1台だけ押さえてるんで、どこでも行けますと(笑)。それが初回盤のドキュメンタリーフィルムに、すべて収められてるんですけど、まるでドッキリのような」

内澤「それが監督の狙いだったんです。〝自分たちの殻を壊す〟というのが僕らのテーマだったので、だったら〝その殻は自分たちで壊せ〟という監督の思いがあって。〝Voice〟など、これまでにも監督をやってくれている、僕らもすごく信頼している監督が、〝俺の映像監督人生すべてを懸けるから〟と言ってくれて」

■熱いなあ。素晴らしい。

佐藤「それで翌日の天気予報を調べたら、どこ見ても雨で、はあ?みたいな(笑)」

内澤「沖縄だけ晴れてたから、沖縄行くか?という案も一瞬出つつ」

佐藤「でも今回のテーマが、夏の楽しみ方は人それぞれ自由だということなので。どんなにいい天気でも、部屋でクーラーつけてテレビ観てる奴もいれば、大雨でもワーッと盛り上がって海に行く奴もいるだろうということで、雨でも海行っちゃおうぜ!って。前日にすべてが決まった勢いがあったからこそ、この格好もできたんだろうし」

内澤「佐藤くんも、自分でこのバンダナとタンクトップを選んだから、できてるんだと思うんですよ。他の人が選んでたら、絶対着てないと思う(笑)」

佐藤「しかも、これが1週間前の打ち合わせだったら、〝やっぱりやめよう〟って考え直したと思う(笑)。前日だと、もう戻ることはできないから」

内澤「その日は2時間しか時間がないから、打ち合わせを終えてすぐ買い物に行って。みんなで原宿へ。で、みんなで選んで、更衣室の扉をバッと開けたら、佐藤くんがこの格好でいて(笑)。〝それいいじゃん!〟って、すげぇ面白かった。〝バンダナの巻き方、これでいいのかな?〟とか言いながら(笑)」

■浮き輪買って、水鉄砲買って、サングラス買って、麦わら帽子買って。最高ですね。

内澤「すべてが偶然なんですよ。ここに映ってる海の家も、偶然だもんね」

佐藤「ロケハンもしてないから。とりあえず内房に行ってみるかって、ダーッと車で走って、〝うーん、ここじゃないな〟ってさらに走って。〝あ、海の家があった〟って、その場で交渉して」

内澤「雨が降ってたから、今日はお客さんがいないからいいですよって、貸してくれたんです



よ。晴れてたら、たぶん無理だった」
佐藤「自転車でみんなで走るシーンを撮ろうとか言ってたんですけど、"自転車が押さえられなかったんで、走ってください"って（笑）。すべては即興のノリで、しかもミュージックビデオはiPhoneで撮ってます」

■え、そうなの？ それはすごい。

佐藤「ミュージックビデオはiPhoneで撮ってるんですけど、初回盤に入ってるドキュメンタリーは4Kで撮ってる（笑）」

■ふははは。それ、なにか間違ってる気がする（笑）。

内澤「すごくいい映りで」
佐藤「すべてが収められてます（笑）。でもミュージックビデオはiPhoneだから、誰でも作れるんですよ」
内澤「そう、誰でも作れるんだけど、そういう発想はないだろうと。考え方次第でこういうこともできるんだよというメッセージもあるんです」

■そこですね。今回の曲を通して、andropが伝えたいメッセージの核心は。ここからまた、いろんなことが始まる予感がします。

佐藤「去年、image worldという自分たちのレーベルを立ち上げて、やれることの幅が広がったし、いろんなトライがやりやすくなったので。一番変わったのはメンタル面で、今までは見なくてよかったもの、やらなくてよかったものにも、なるべく関わるようにしたりとか、聴き手との距離をもっと近づける感覚になったんです」
内澤「今の時代、いろんな音楽の届け方があるけれども、自分たちでもっと責任を持ってやっていかないと、納得したものが届けられないと思うので。まだまだたくさんやりたいことや、できてないことがあるので、今回みたいに、andropを知ってる人が、おっ！と驚くようなことと、andropを知らない人も驚くようなことを、これからもやっていきたいなと思ってます」

■楽しみにしてます。最後に、おまけの質問を。実際には、andropは海でウェイ！派ですか、海なんてケッ！派ですか。

佐藤「夏は好きです。でも海に入るのはそんなに好きじゃなくて、きれいな海を見ながらビールを飲んでいたい派です」
内澤「リズム隊の2人は海にも行ってたりすると思うんですけど、僕は全然行かないです。ちっちゃい頃に蟹取りとか海釣りに行ったぐらいで、海は全然知らない。どちらかというとandropは、メンバー全員そういうタイプではないですね。誰もウェイ！じゃない（笑）」
佐藤「だから憧れをやってみた感じです」
内澤「嫌いじゃないです。本当は、行ってみたいんですよ」
佐藤「僕は沖縄によく行くんですけど、朝までやってる飲み屋もあれば、朝からやってる店もあって、24時間やってるんですよ。だから、明日が休みだという時に、1泊で沖縄に行ったりします。1泊とはいえ、ほぼホテルに帰らずに、ずっと飲んでる（笑）。沖縄ってなんとなくハードルが高そうだけど、航空券も安いし、1泊でも十分楽しめる。お勧めです」

■これをきっかけに、andropのライヴにウェイ！なファン層が急に増えたら、ちょっと面白いじゃないですか。

佐藤「テンション上がりますね。おお、ギャルがいる！みたいな（笑）」 B



L→R
伊藤彬彦_Dr.
内澤崇仁_Vo.&G.
佐藤拓也_G.&Key.
前田恭介_B.



New Single
SOS! feat. Creepy Nuts
2017.08.23 Release
初回盤 CD+DVD ￥2,300（tax out）
通常盤 CD ￥1,200（tax out）

01. SOS! feat. Creepy Nuts
02. Sunrise Sunset
03. Prism（one-man live tour 2017 "angstrom 0.8 pm" tour final）
04. SOS! feat. Creepy Nuts（instrumental）

androp ⇒
アンドロップ。'09年12月、1stアルバム『anew』でデビュー。'16年10月に自主レーベルimage worldより、アルバム『blue』を発表。'17年5月、ユニバーサルミュージックとタッグを組み、シングル「Prism」をリリースした。9月に対バンツアー、10月28日に日比谷野音にてワンマンライヴを行なう。

WEAVER

A / W

5月にEP「S/S」をリリース、そしてこの秋届けられるのはEP「A/W」。
エレクトロとバンドサウンド、今のWEAVERが打ち出したい音が
1年を通し季節を意識して制作された今回のコンセプト。秋/冬バージョンはいかに?

Text⇒橘川有子

■前作「S/S」の時から、今作「A/W」を踏まえて制作していたのですか?

奥野「今年どんな作品を作るか話すなかで、対になる作品がいいねとなったんです。前作は春/夏がテーマだったので、今回は秋/冬に。季節を連想できる曲って心に残るから、それも魅力でした。どっちにどの曲を入れるかを話す段階で〝Another World〟は既にありましたね」

河邉「〝だから僕は僕を手放す〟も〝S/S〟ツアーで新曲として演奏していました。お客さんは聴いたことがないはずなのにすぐに乗ってくれて伝わる曲なんだなと感じました」

■頭文字が〝A〟〝W〟になっている1曲目「Another World」は、どこから着想を?

杉本「ここ最近の僕らの流れである、エレクトロやハウスっぽさを意識して作りました。WEAVERには少し哀愁感というかマイナー感がある楽曲は少ないと感じていたので、リード曲として大切に届けたいなと思いました。作り始めた当初は、クリーン・バンディット(英出身4人組によるクラシックをベースにしたエレクトロユニット)なんかをよく聴いていたこともあって、ストリングスとピアノのアンサンブルが美しい曲にしたいと思っていました。ただ、作り進めるうちに僕らの今をサウンドに落とし込んだほうがいいと思って、リフのシンセの音などを入れたりして、生とエレクトロの融合感をはっきりさせるほうへシフトしていきましたね」

奥野「僕らが聴いたデモは、杉本の中で〝シンセをこうしたい〟というイメージがありつつ、まだ突き詰めきれてない段階だったと思います」

杉本「デモは哀愁感を意識していたため、少し暗い印象もあったんです。そこで今回はMaozonさんの持つ明るさや派手さを加えたら面白い科学変化が起きそうだなと思って、アレンジをお願いしました」

■Maozonさんは三代目J Soul Brothersの楽曲を手がけていたり、WEAVERとは少し意外な組み合わせという印象でしたが、それが狙いだったんですね?

奥野「はい。バンドとコラボするのは初めてと言っていて、最初は少し遠慮してたね(笑)」

杉本「でも遠慮なく(らしさを)出してくださいって話してからは、対等に話し合えていい刺激を交換できました。シンセで僕がイメージしてた音へ導いてくれたり、サビ裏で流れるキャッチーで華やかなフレーズは僕にはない発想だったので、すごく新鮮でした」

河邉「ドラムに関しても、サビのハイハットはどうしようかとか細かな部分も含めて生音と打ち込みのレイヤー感をその場で話し合って作れました」

杉本「僕ら自身も最近は生音の良さと打ち込みの良さ、それぞれをより理解しながら作れているので、〝Another World〟は理想的なバランスになりました。歌詞の世界観なども含めてやっと等身大の僕らを表現できたと感じています」

■歌詞のテーマはどうやって決めましたか?

河邉「メロディを聴いてからイメージするのはいつも通りでしたが、A/Wというお題があったのでそれに当てはまる単語をいろいろと考えました。その中で〝Another World〟という言葉を思いついて、さらに別の世界ってなんだろうって。そこから、日ごろ過ごしている世界だけが自分の世界のように感じてしまうけど、実際は一歩踏み出せばいろんな世界が広がってるんだよ……ってところへとたどり着いたんです」

■煌びやかさもありつつ、リスナーや自分たちの世界を広げる1曲になりましたね。続く「だから僕は僕を手放す」はかなりアップテンポな、強さもある曲で。

杉本「BPMはそれほどでもないんですよ」

奥野「でもすごくテンポが速いと錯覚してしまうほどアッパー感が出てますよね」

杉本「ライヴ映えする曲を出したい気持ちはあったんですが、今はエレクトロを突き詰める時期だからもう少し先でもいいかなと思ってました。そんな時、アニメ『サクラダリセット』主題歌のお話をいただいて。いいお話ですし、強くていいメロディが生まれたのなら、リアルタイムでそれを届けるべきじゃないかって思ったんです」

■温存せずに、今打ち出すべき曲、と。歌詞も杉本さんが手がけていますね?

杉本「はい。実は今回はメンバーみんなで作品に関わろうということで、3人が歌詞を書いたんですよ。僕の歌詞が選ばれたのは、ヴォーカルだからこそ書ける、メロディに乗った歌詞が印象に残ったのかもしれません。アニメでは主人公たちが特殊能力を使って未来や自分たちを変えていく。そこから僕は勇気や自分の意思を持つ大切さを感じて、今の自分を手放して新しい未来へ踏み出す勇気も必要なんじゃないかなって歌詞に落とし込んでいきました」

■この曲はいしわたり淳治さんがアレンジで参加されています。



河邉徹
Dr.&Cho.

奥野翔太
B.&Cho.

杉本雄治
Pf.&Vo.

杉本「歌詞を書かれる人なので、そこから制作に関わってくださいました」

奥野「なぜ歌詞のこの部分が弱いかなど、論理的に解説してくださったり」

杉本「僕は作詞の経験が浅いので、なるほどなと思いました。逆にサウンドに関しては、デモがわりとしっかりできていたのでそれをブラッシュアップするために力をお借りした感じです」

■バンド感のある曲ですし、ベーシックは「せーの」で一発録り？

河邉「はい。これまでにないくらいバンド感の強い曲なので、別々でなく一緒に演奏することでその空気感も封じ込められるのかなと。フレーズも今までにないようなスネアの位置だったりしますし、バンドだなって感じられる曲でライヴで叩いても楽しいですね」

杉本「だからこそ、レコーディングではリズムのレイヤー感はより慎重にやりました。曲自体がポップなので、生音のままだと今自分たちが目指しているサウンド感と離れすぎてしまうかなと。いしわたりさんとの打ち合わせでも、〝生と打ち込みの割合を、6：4……、いや7：3くらいで〟と数字で伝えたら困惑してましたね（笑）」

■そして「Photographs」はストリングスが美しいバラードですね。

杉本「これは『JAL浪漫飛行』Web CMのお話をいただいて制作したんですが、絵コンテからイメージを膨らませました。先方から僕らのピアノの旋律が美しい楽曲が好きだと言っていただいたので、そのイメージに沿うような楽曲になればいいなと。ストリングスアレンジは、何度もお世話になっている河野圭さ



生音の良さと打ち込みの良さ、それぞれをより理解しながら作れている

んに手伝っていただきました」

奥野「バラードは隙間もあるので、そこを狙っておいしいフレーズを弾きやすかったりします。とはいえ、隙間を全部埋めるのはダサくなるし。普段は実際に弾きながら考えることが多いんですが、この曲に関してはピアノとドラムだけのデータをもらって、そこからベースのデータを綿密に作っていきました」

■パソコンだと手癖が出るわけではないし、新しいアイデアも浮かびやすいのでは？

奥野「ええ。キーボードやマウスを使いつつフレーズを頭で考えるので、手癖でつい弾くような流れにはならなかったし、いつもなら考えないようなものも出てきました」

杉本「間違って打ち込んだやつを聴いてみたら、〝かっこいい！〟って喜んでたよね（笑）」

奥野「そういうのもあります（笑）」

河邉「ドラムは今回のEPで一番〝息遣い〟が聴こえるものになりました。初めてレコーディングで入ってもらうエンジニアさんでしたが、以前渡辺美里さんとのコラボ曲でお会いして、いつか一緒に録りたいと話していたんです。やっと実現したんですが、その場にある素材を最大限に活かして僕が理想とする音にしてくれるなと感じました」

■歌詞は家族の温かな物語ですね。

河邉「CMで流れるストーリーから着想して書きました。まずは歌詞の冒頭で、女性が主人公でその人がどんな状況か分かってもらえるように描き、娘と一緒に旅をする親の思い出とかがいろいろと浮かんでいく……といった物語を書いていきました」

■前作に続いて、今回もカバー曲が1曲。「Hello，Again～昔からある場所～」を

カバーしようと思ったのは?

杉本「以前から、僕らがスタッフさんと飲みに行くたびに〝この曲はいいね〟って話になってたんです」

河邉「今回も同様にその話題になったので、僕が何気なくカバーしてみたらどうですか?って」

杉本「その場にいた全員が〝それだ!〟ってなりました(笑)。実際にアレンジする段階になってからは、思いがあるからこそ今のWEAVERっぽさを前面に出したいねって。それで僕と奥野でそれぞれ考えて、奥野のアイデアが採用されました」

奥野「メロディがすごくいいので、僕らが今やろうとしている〝サウンドで聴かせる〟ということを推し進めすぎると原曲の良さを消してしまう。かといって、歌を聴かせることばかりに意識を向けると平坦なバラードになってしまうんですよね。原曲の良さとピアノバンドとしての僕ら、デジタルサウンドの面白さをうまくバランス取るためにどうしたらいいかを常に頭に置きながら作りました。初めは打ち込みのドラムから作ったりもしたんですが、バラードは生とデジタルの変わり目をスムーズに移行するのが難しくて」

杉本「そういえば、最初のほうでホワイトノイズの〝ショワー〟って音を入れてみようかって話も出て(笑)。奥野は、COLDPLAYとCHAINSMOKERSのコラボ曲のイメージがあったみたいだけど、僕がそれとは違う曲を勘違いしちゃったんです(笑)」

奥野「結果オーライだよ(笑)」

■ラストは「心の中まで」のJazztronikさんによるリミックス。これ、めちゃくちゃカッコいいです!

杉本「〝S/S〟はセルフカバーをやりましたが、別の人に僕らの楽曲をリアレンジしてもらったらどうなるだろうって興味があったんです。また、そもそも〝Shake Shake〟や〝Another World〟はクラブでかけてもらえるような音楽を意識して作ってもいるので、クラブシーンの方にアレンジしてもらったら僕らの発想にはないものが生まれるんじゃないかという期待もありました」

河邉「完成したものをスタジオで聴いて、最高だなって。打ち込み感が強いけど生に匹敵するような高揚感もあり、それでいてピアノの美しさもしっかりと出しているのがすごいと感じました」

杉本「今回リミックスしていただいたことで、ライヴでこんなことを試したいという新しいアイデアがたくさん生まれました。ツアーでは、ピアノバンドとしてのカラーとクラブミュージックの横ノリのシーンを対比できたら面白いライヴができると思っています!」B



New EP
A / W
2017.09.13 Release
CD ¥1,574(tax out)

01. Another World
02. だから僕は僕を手放す
03. Photographs
04. Hello, Again ~昔からある場所~
05. 心の中まで(Jazztronik Remix)

WEAVER ⇒
ウィーバー。'04年バンド結成。'07年に現在の3人編成となり、神戸を中心に活動をスタート。'09年10月、ダウンロードシングル「白朝夢」にてデビュー。'17年5月にEP「S/S」をリリース。10月からツアーがスタート。

WEAVER in SSAW(春夏秋冬)

暑いと寒さが恋しくなったり、その逆もしかり。3人の好みの季節は?

■「S/S」「A/W」と四季が揃いましたが、3人が好き、または苦手な季節は?

河邉「めっちゃ寒がりなので冬は苦手ですね。逆に夏はどんなに暑くても心底嫌だなぁって思ったことはないんです。毎年“こんなに寒くて、もしかして死ぬんじゃないか”って思うほど(笑)。でも大人になって少しずつ苦手意識は軽減してきました。“首”と名がつく体の部分を温めるといいとか、ヒートテックみたいな防寒用インナーを着るなど、冬の過ごし方を学習したから。高校から大学1年ぐらいが寒がりのピークでしたね。一回、女の子から“「寒い寒い」ってずっと言われても、おもろないねん”ってフラれたこともあります(笑)」

杉本・奥野「あははは」

河邉「寒がりな僕の鉄板ネタです(笑)」

奥野「僕は嫌いな季節はなく、なかでも夏は一番好きです。めちゃめちゃ汗かきなんですけど、“あっつ~”って言いながら涼しい部屋に入る気持ち良さもあるし、単純に体温が上がると高揚感を感じていろんなことをやってみたくなる。それと小学生の頃は、祖父の別荘に家族で1週間くらい泊まって、虫取りしたり遊んだりした楽しい思い出もたくさんあるし、いい思い出が詰まってます」

杉本「冬にだってクリスマスとか楽しいことはあるよ。2人と違って僕は暑さがめちゃめちゃ苦手。寒さは重ね着すればなんとかなるけど、夏は裸になる以上のことはできないじゃないですか(笑)」

■夏が苦手な人の共通意見ですね?

杉本「(笑)。ま、でも冬が好きですね。年末にかけて感じる焦燥感みたいなものに惹かれたり、あとは“枯れた”感じ、無骨なものに魅力を感じるので、雪が降った後のモノクロの世界を見ていいなと思う。それに、オシャレをするなら秋から冬のほうが楽しいですね」

■気になるファッションはありますか?

杉本「この秋はシャツインとかサスペンダーとか気になりますね。全体的にリバイバルな感じがします。流行りも入れつつ自分らしさのバランスを考えたオシャレをしたいですね」

奥野「杉本は学生の頃からファッション誌をよく見てた。僕はまったく興味がなかった……というか雑誌を見て何をしたいのか全然理解できなかった(笑)」

河邉「俺もそう(笑)」

杉本「(苦笑)。色の組み合わせとかを見てたんだと思う。僕はそういう写真とかをずっと見てきたから、アートワークの色の組み合わせとかも、合う/合わないがすぐにイメージできるけど……2人にはピンときてないこともあるよね(笑)」

■では、秋/冬で思い浮かべる音楽は?

杉本「山口百恵さんの“秋桜”ですね。フォークソングをよく聴いていたのですが、冬に向けての切ない感じの曲が多いなと。“冬が来る前に”とかもそうですし」

河邉「最近思うのは秋の歌って、つまりは夏の終わりを歌ってるんじゃないかなって。夏の名残が香るような、それこそ森山直太朗さんの“夏の終わり”とかが浮かびますね。夏の終わりに感じる哀愁感、終わってほしくないというあの感じがいい」

杉本「どうしても夏に持って行きたがる(笑)」

奥野「僕は冬=クリスマス。秋=夏の終わり、みたいな直接的なイメージしかない。曲ですよね……」(と考える)

杉本「好きな曲があるじゃん!」(と耳打ち)

奥野「あ、そうだった。“スノースマイル”(BUMP OF CHICKEN)大好きでした。でも、以上です!(笑)」B



さくらしめじ

あやまリズム♪

この春、高校生になったフォークデュオ“さくらしめじ”。精力的にライヴ活動をするなか、ニュー・シングル「あやまリズム」を8月23日にリリース。軽快なリズムに乗せて“ごめんねソング”を聴かせてくれます。高校生活のこと、さまざまなライヴのこと、そして新作と、多岐にわたって本誌2度目のインタビュー。

Text ⇒ 花倉有紀子

■前回、アルバムインタビューをさせてもらったのは3月で、中学卒業前でした。4月に始まった高校生活は順調ですか？

雅功「友達がたくさんできて、毎日ワイワイ楽しくやっています。中学は地元の小学校から上がってきた人が多かったけど、高校はいろんなところから来てるので、みんな個性が違うので、話してるだけでも面白いです」

彪我「僕も友達が増えて、いいスタートダッシュを切れているかな。お昼休みに一緒にお弁当を食べたり、あとは学校以外でも携帯でやり取りしたりしてますね」

■勉強のほうは中学の頃とは違いますか？

彪我「難しくなってきていますね……」

雅功「うん、すごい難しい（苦笑）。まだ中学の復習もあるんですけど、高校の勉強に進むと数学なのに“P”とか出てきて、“こんな記号があるんだ、英語じゃん！”って（笑）」

■得意不得意教科も出てきました？

彪我「僕は中学と同じで数学が苦手だなって。テストがあったんですけど、全教科のなかで一番点数が低くて。逆に良かったのは情報科学っていうパソコンを使う教科でした」

雅功「僕は苦手なのは昔からずっと英語で、文法を覚えるのが苦手なんです。一番好きなのは国語か社会なんですけど、今回はなぜか数学の点数が一番良かったです」

■さすがに学校の部活をやる時間はないですよね。

雅功「入ってないですけど、部活やっている友達の話を聞くのがすごい好きなんですよ。“昨日、試合があってさぁ”みたいな話を聞くと、う〜ん、青春！　いいなぁって思う（笑）」

彪我「あなたも青春真っ盛りでしょ（笑）」



たなかがく
田中雅功
2002年1月24日生まれ

たかだひょうが
髙田彪我
2001年10月23日生まれ



さくらしめじ⇒
2014年6月、中学1年生の時に結成したフォークデュオユニット。'17年3月に1stミニアルバム『さくら〆じ』をリリース。7月より日本各地のライヴハウスで月1回の『菌育 in the 家』ライヴを展開中。

■確かに（笑）。2人がこの1学期の間に青春を感じた出来事と言えば？

雅功「体育祭でみんなと仲良くなったことですね。僕は大縄に出たり、100メートル走と全員リレーを2回走りました」

彪我「僕もやっぱり体育祭です。長い棒を4人で持って走りながらグルグル回る〝台風の目〟っていう競技に出たんですけど、入学してすぐの体育祭だったので、そこではまだ仲を深められませんでしたけど（苦笑）」

■そんな学校生活がありつつも、さくらしめじとしてはアクティブに動いていたわけですが、まず4月には東京ドームシティホールでのワンマンライヴがありました。そこでは各自が自作曲を歌ったり、2人だけのパートも多くて音楽への情熱を感じました。今、振り返ると、どんなライヴでしたか？

彪我「あのライヴで新しい音楽を見つけたと感じました。自分で曲を作ったこともそうですし、新しいバンド編成でやったこともあって、これまで歌ってきた曲もアレンジが変わっていたり、高校生になって一発目のライヴとして相応しいものになったんじゃないかな」

■彪我くんの自作曲は、1人で歌った「ポンコツデリシャスロード」ですよね？

彪我「初めてちゃんとA・Bメロ、サビという構成で作った曲をあんな大きい会場で発表するっていうので、練習のときから緊張して、本番は歌えないんじゃないかって思いました」

雅功「ほんとに緊張してたので心配していたんですけど、本番はすごい良かったよね」

彪我「でも雅功も緊張してたよね（微笑）」

雅功「そう（笑）。でもリハーサルのほうが緊張していて、本番ではリラックスできたかな」

■雅功くんが披露したのは「勉強したいのに？」ですが、それぞれ曲作りの段階では悩みを相談し合ったりもしましたか？

彪我「相談はしてないですけど、お互いが仮で作った曲を聴き合って、"雅功の歌いいね～"って褒め合ってました（笑）」

■それぞれの曲作りはどこでしていたんですか？

雅功「基本的には家です。できたやつをスタッフさんに送ってアドバイスをもらうんですけど、それにどう自分なりに挑もうか考えるのも楽しくて」

彪我「僕も曲作り中はスタッフさんとのやり取りが多くて、それが作詞作曲の勉強にもなったし、曲の完成度も上がっていく一方で、これからも曲を作るときはいろんな人とのやり取りを大事にしていけたらって思いました」

■そして現在は『菌育 in the 家（はうす）』という月1のツアー中で、1年かけてライヴハウスを廻ってるんですよね。埼玉と新潟を終えたところですが、ここまでどうですか？

雅功「今回お客さんから3つキーワードをもらって、それで彪我が歌詞と歌をその場で作る"即興ソング"っていうのを始めたんです」

彪我「メロディと歌詞を僕が作って、ギターは雅功に即興で弾いてもらうっていうね」

雅功「でも即興なので彪我がどんなメロを歌うかとか、僕がどんなコード進行でいくかっていうのをお互い探りながらやるから結構な高確率でまとまんなくて。特に歌詞が（笑）」

彪我「もらうキーワードが突拍子もないので……。リハーサルではスタッフさんにキーワードをもらって練習するんですけど、"背骨"とか言われたりして、難しいんですよ（苦笑）」

雅功「でも僕たちが成長できるテーマだと思うので楽しんでいます。ライヴハウスはアットホームな感じがしてお客さんの反応も勉強になっています。これから歌やギターはもちろんトークでも楽しませて、もっとライヴをレベルアップできればと思います」

■8月頭には事務所の仲間が集まるイベント『EBiDAN THE LIVE2017～Summer Party～』もありましたね。

雅功「事務所は同じ世代の子も多いんですけど会える機会が普段そんなにないので、1年に1回集まって、みんながどれだけすごいライヴをしているのかを間近で感じると、僕らももっと頑張らなきゃって刺激になります。MAGiC BOYZなんて同い年とは思えないぐらい会場を盛り上げるパワーがすごくて」

彪我「僕はDISH//さんがバンドで演奏するのを今回初めて生で観たんですけど、今まで4人だったのがドラムが加わったことで、さらにバンド感が増していてカッコよかったです」

"しめじ史上一番難しい曲だな"って思いました。コード進行も展開も速くて慣れるのに時間がかかったんですけど、慣れると楽しい曲です



雅功「本当カッコイイよね！ それに先輩たちみんなすごく優しいんです。ああなりたいなって思います」

■ではここから新曲「あやまリズム」について伺います。キャッチーなタイトルですよね。

雅功「この曲は"ごめんね"をテーマに歌っていて、友達と喧嘩をするところから葛藤を経て謝るところまでが描かれているんです。だから歌っていてイメージしやすかったですし、みんな1回はこういう経験をするんじゃないかなぁ。謝りたくても恥ずかしかったり、強がったりして言えないことってありますよね。僕らも友達とか両親、先生に対しても経験していることなのですごく共感しました」

■2人の間でこういう経験は？

彪我「（2人の間では）喧嘩しないですからね」

雅功「謝ることはちょくちょくありますけど。演奏で失敗したときとか"ごめん、ごめん"って。あまりお互い"失敗したでしょ！"って指摘しないので、逆に悪い気持ちになって」

■じゃあ普段なかなか謝れない人と言えば？

雅功「やっぱりお母さんですかね。お母さんに謝るのは恥ずかしいし、強がっちゃうんです。だからこの曲を歌ってもその場面が思い浮かびます。喧嘩の原因はどれも小さくて、些細なことで口をきかなくなったりして（苦笑）」

彪我「それある～！ 僕も謝れない人は母かな。悪いことして黙っていると"なんで謝んないの？"って（笑）。謝っても怒っているし、だからと言って謝らないと"なんで謝らないの？"ってさらに怒るので、最近は悪いと思ったらすぐ"ごめんなさい！"を言ってます。争

いごとはなるべく避けたいので（笑）」

■オトナですね（笑）。それにしてもこの曲の曲調は〝リズム〟というタイトルなだけあってリズミカルで明るいナンバーですね。

雅功「ポップで爽やかですよね。でも最初に楽譜をもらってギターを弾いたとき、〝しめじ史上一番難しい曲だな〟って思いました。コード進行も展開も速くて慣れるのに時間がかかったんですけど、慣れると楽しい曲です」

■続く「fragile」は今までライヴでカバーしてきたなかから選ばれたそうですね。

雅功「『菌活の旅』っていう47都道府県を廻る旅をしていたときに、毎回各県の出身アーティストさんの曲をカバーしていて、最終日の東京でカバーしたのがこの曲でした。最終日に歌ったこともあって思い出深い大切な曲だったので音源化できて嬉しいです。歌い分けは彪我がメインで僕はハモを歌う箇所が多かったんですけど、アコースティックな曲調でラスサビにかけて音が広がる感じが気に入っています。しめじのレパートリーのなかでも一番しっとりしているんですけど、歌うときに彪我が部屋の電気を消しているのを見て、曲に対する気持ちの作り方がすごいなって驚きました」

■彪我くんはどうして暗いなかで歌ったの？

彪我「初のカバー曲のCD化ということでライヴでやるときよりも世界観を作っていかなきゃと思って、まず気持ちを曲に合わせていくために部屋を暗くして、しっとりした空間で歌ってイメージを掴もうとしたんです。さくらしめじの曲にしなきゃいけないという挑戦でもあったので、どうすれば自分たちなりの〝fragile〟になるかを考えながらやるのは難しさもありながら楽しかったです」

■その他にこれまでライヴでカバーしてきた曲のなかで特に思い出に残っているものは？

雅功「『菌活～』のスタートが秋田県だったんですよ。そのときにカバーしたのがBUMP OF CHICKENさんの〝天体観測〟で、アコギでやったんですけど、当時はカバーにも慣れていなかったので緊張で震えながらやりました（笑）。でもそれ以来この曲をやる機会がたまにあったんですけど、しめじの雰囲気とはまた全然違う曲なので、それを自分たちなりに歌うのがまた楽しい作業ですね」

彪我「僕が印象に残っているのは千葉で歌った倉木麻衣さんの〝Secret of my heart〟です。英詞があるんですけど、僕は留学したこともなかったので当然しゃべれないし発音も上手くないので（笑）、最初はどうすればいいのか悩んだんです。でもそのとき、ちょうど『菌唱』っていうワンマンライヴのリハーサルをしていて、サポートしてくださっていたドラマーの方に発音を教えてもらえて助かりました」

雅功「そのドラムの方が歌も上手な方で〝英語をしゃべろうとせずに、雰囲気を噛み砕いてそれっぽく歌えばいい〟って教えてもらえて。おかげでそれっぽく歌えたよね（笑）」

■選曲のバリエーションが面白いのでいつかカバー集とかも聴いてみたいですね。さて、シングルのもう1曲は「ケセラセラララ」。これまた新たなメイン曲になりそうな予感がします。

彪我「これもポップな曲調なんだけど、〝あやまリズム〟とはまた違う感じですよね。歌詞に〝風〟っていうワードが入っているんですけど、歌詞だけじゃなくて曲調も風にのっているような、爽やかでステキな曲なんです」

雅功「同じメロはサビだけで展開が多い曲なので飽きないし、新鮮な気持ちで歌えます。しめじには〝みちくさこうしんきょく〟っていうライヴの最後にみんなで一緒に歌える曲があるんですけど、それに次ぐみんなで楽しめる曲を目指して制作したのでBメロでクラップを入れたり、サビも歌いやすかったり、Eメロの〝ケセラセ～〟もみんなで歌える感じになっていて、ライヴに向いていると思います。ちょうど昨日、初披露したんですけど、初めて聴く曲なのにみんなノリノリになってくれていて、この曲のパワーを感じました。これからみんなと一緒に歌うのが楽しみです」 B



5th Single
あやまリズム
2017.08.23 Release
はじめまして盤 CD　¥926（tax out）
通常盤 CD　¥1,112（tax out）



はじめまして盤

01. あやまリズム
02. fragile（cover）
03. あやまリズム（Instrumental）※はじめまして盤
03. ケセラセラララ※通常盤


通常盤



新山詩織

さよなら私の恋心

■昨年11月にリリースされた3rdアルバム『ファインダーの向こう』以来のインタビューなので、この期間どんな日々を過ごしていたかも伺いたいんですが。

「わりと時間がたくさんあったので、自分から友達を誘ってご飯に行ったり、いろんな人と会う機会を敢えて作ってました。そういえばあの子どうしてるかな？って。全然会ってなかった高校の同級生とかに連絡して」

■そういう誘いって緊張しませんか？

「前だったら躊躇してましたけど、積極的な自分がいて（笑）」

■そうなんですね！　今回のシングルは、そんな成長のタイミングにも相応しいですね。

「はい！」

■「さよなら私の恋心」は、サウンドプロデュース、作曲、編曲がCharaさん、歌詞は新山さんとCharaさんとの共作で。そして、そのMVの監督が岩井俊二さんという。素晴らしい布陣で制作されたんですね。

「そうですね。私にとっては、ほんと前々から好きで聴いていた、見ていた方たちだったので、今回ご一緒できたことは、ほんと嬉しかったです」

■まずは、このコラボレーションが叶った経緯を伺えますか？

「アルバムをリリースして、ツアーも終わって、次はどうしようか？ってスタッフさんたちと話していた中で、自分が今までカバーしてた曲や、今までの曲を振り返った時に、Charaさんの名前が挙がって、そこからご一緒できたりしないかな？って話をさせていただいたのがスタートでした」

■Charaさんの楽曲はずっと聴いていたん



前作アルバム『ファインダーの向こう』から、約10ヵ月ぶり。今年1枚目となるシングル「さよなら私の恋心」は、Charaをプロデューサーに迎えての共作曲。新山詩織の歌声がピュアに響く、やさしく女性らしい1曲となった。そしてミュージックビデオは岩井俊二監督が担当。豪華な顔合わせとなった今作について聞いた。

Text ⇒ 高橋美穂

ですか?

「でも、Charaさんを知ったきっかけは、歌じゃなくて、それこそ岩井俊二監督の映画『スワロウテイル』だったんです」

■じゃあ、今回『スワロウテイル』繋がりでは、二人の方との共演が一気に叶ったと!

「はい。だから、最初はCharaさんの演技の魅力から好きになって。それと同時に〝Swallowtail Butterfly ~あいのうた~〟から、歌も聴き始めたんですけど。中3くらいの時でしたね」

■Charaさんのどんなところに惹かれたんでしょうか。

「今回お会いしてみても思ったのは、年齢関係なく、常にピュアで、可愛らしい方で。しかも、その中に強さがあって。ほんとに素敵な女性だなあって思いました」

■初めてお会いしたのは、コラボが決定してからですか?

「OKのお返事をいただいてから、Charaさんのライヴを観に行かせていただいて、終わった後に初めてご挨拶させていただいて、そこで改めて〝お願いします〟って、自分からお願いしました」

■資料では、Charaさんが新山さんの声を「かっこいい声」ってコメントしてらっしゃいますよね。

「お会いした時から、声を褒めてくださって。〝私、声フェチなんだ〟って(笑)。で、私もです、って」

■そこで共感し合えたと(笑)。

「はい。私自身も今まで大事にしてきた声っていう部分を聴いてくださった上で、今回プロデュースもしていただけたことが、すごく嬉しかったです」

■じゃあ、この楽曲は新山さんの声からインスピレーションを受けて生まれたものなんですかね?

「ライヴでお会いした後日に、Charaさんのプライベートスタジオにお邪魔したんです。どんな曲にしようかっていう打ち合わせと、深くまで話せていなかったのでコミュニケーションも兼ねて。そこで、私と初めて会った時にこんなフレーズが浮かんだんだよね、ってCharaさんがギターを持って歌ってくださったのが、曲の最初の♪さよなら私の恋心~、のところで」

■おー、まさしくインスピレーションですね。

「そうなんです。そこから二人で、LINEで歌詞をやり取りしながら固めていって、最終的にはプリプロで詰めた感じです。打ち合わせの時に私から、〝私をCharaさんの色に染めてください!〟ってお話したんですけど、だからこそ、歌詞も一緒に作っていけたらいいなっていう想いがあって。今までにない自分を引き出してもらえた曲になったと思います」

■歌詞からは、お二人の心の距離が近いように感じられますよね。

「何よりCharaさんの人柄があってこそだったと思います。娘さんが私と同い年みたいで、娘さんの話を聞いたりとか。他愛のない話もしてくださって、私も自然とリラックスできたと思います」

■歌や曲に関しては、どのように仕上げていったんでしょう。

「切ないけれど微笑むような優しい気持ちで歌えたらいいねっていうことで、歌録りは進めていきました。サウンドも、私の今まで聴いてきた音楽や、見てきた景色についてお話したら、それらを取り入れながらデモを作ってくださって。だからこそ、私もその中を泳いでいくように制作ができて、自分らしい自由な気持ちを出せたと思います」

■《優しいだけじゃおかしいな/おかしいことは悲しいな/悲しいことが優しいな/優しいだけじゃおかしいな》っていうフレーズは、特にこの曲の切ないけれど優しいところを言い当ててると思いました。

「ここはCharaさんが出してくださった言葉なんです。これは失恋した女性の歌なんですけど、吹っ切ろうとすればするほど、相手のいい部分や楽しかった時間や、わりとプラスなところが見えがちだったりするんじゃないかなって。でも、怒りや迷い、もやっとした部分もあって、そこと行ったり来たりする、吹っ切るまでの葛藤を出せたらいいなと思ってたんですけど、自分じゃどうも言葉で上手く表わせなくて。それを話した時に、Charaさんからこの言葉が返ってきて、まさにそうです!って。ここは、この曲で一番言いたい部分でもあります」

■岩井俊二さんのMVについても伺っていきたいんですが、ワンカットで撮影されていますよね。

「はい。ワンカットのMVは初めてだったので。当日も、リハーサルで何度も流れを確認して、休憩を入れて本番で同じことを何度も



10代の頃の自分は、もうここにはいないんだっていうのを、表わせたらいいなっていうのはありました

やった中で、みんながいいね!ってなったワンテイクを選んだんですけど。岩井さんの中でも、デモを聴いてもらって世界が浮かんでいたと思うんですけど、わりと当日に動きが決まったり、いっぱい出てくる女の子たちの位置や表情もその場で、このほうがいいんじゃないかって変えながらだったので、一日の中で生み出されたワンカット映像ですね」

■たくさんの女の子たちは、インパクトありますね!

「私も当日現場に着いて、撮影した部屋に入った後にずらずらっとたくさん女の子が来て、お!?ってびっくりしました。聞いてなかったので」

■聞いてなかったんですか!?

「でも、その女の子たちが涙を流してる表情とかが、この曲の切ない部分や優しい部分を表わしてくれたので、この映像で曲が、聴いてくれる人にもさらに響くと思いました」

■うん、いろんな表情の女の子がいる中を新山さんが歩きながら歌う映像によって、この楽曲がいろんな人に寄り添ってくれるということが、メッセージとして伝わるはず。

「おっしゃっていただいた"寄り添う"っていうことは、岩井さんからも、女の子たちに寄り添うように歩いてみて欲しいって言われて、私もそういう意識だったので、ちゃんとそれが伝わってよかったです」

■伝わってますよ。ライヴでは、より「寄り添い感」が出そうな気もします。

「こないだ『情熱大陸ライブ2017』で、弾き語りで初披露したんですけど。音源とは違った良さが出る曲だなあと思って。またワンマンでいろんな人に聴いてもらいたいですね」

■今までの新山さんの楽曲の中でも、特に女性に聴いて欲しい楽曲だと思います。

「そうですね。Charaさんにお会いした時も、ほんと女性らしいなって思ったし、私も今回の曲は、より女性らしい気持ちで歌えたらいいなって思ったので、そういう部分も伝わって欲しいですね」

■今までは「等身大」や「世代感」が新山さんの魅力でしたが、ここからは女性らしさも新たな魅力になっていきそうですね。福山雅治さん作詞作曲の「恋の中」も、大人の女性の感じは出ていたけれど。

「"恋の中"は、(出演していたドラマ『ラヴソング』の劇中歌であり、宍戸春乃という)役である自分じゃない自分がいた上での歌唱でしたけど、今回はCharaさんと歌詞も一緒に作って、新山詩織として歌ったっていう意味でも、今の自分を出せたと思うので。10代の頃の自分は、もうここにはいないんだっていうのを、今までのファンの人たちにも、最近知ってくれた人にも、表わせたらいいなっていうのはありました」

■それにしても福山さんにCharaさんに……豪華ですよね!

「いやあ……だからこそ、私も吸収していかなきゃいけないと思います」

■そして2曲目の「らくがきちょう」は、新山さんお一人の作詞ですね。

「NTT(西日本)さんに『就活生応援MOVIE』テーマソングのお話をいただいてから、いくつかの候補の曲から選んだんです。自分自身、同級生よりは一足早く社会に入って、だからこそ就活の厳しさや苦労はなかなかわからないし、すべてを理解するのは難しいけど、私なりにどう書いたらいいのかな?って考えた時に、幼稚園児くらいまで振り返ってみて。その時って、いわば自由な環境の中にいたんじゃないかなって。昔から絵を描くのが好きで、毎日描いてたんですけど、まだ真っ白い紙にひたすら好きなものを埋めていく、あの感覚こそ大事なところに立った時に忘れがちなのかなって。いわば初心ですよね。その純粋で素直な気持ち、自分らしさを、そういう時だからこそ忘れないでいて欲しいなって、私なりの願いを込めて書きました」

■そう、就活の時期って人生の紙が埋まっているような気がしてしまいますけど、実はまだまだ自由に描ける時期なんですよね。

「そうですよね。きっとまだ余白はたくさんあるから。今の自分でどんな絵を描くかは、自分次第で。そこを伝えられたらいいなって思いました。あとは、高校の同級生がちょうど就活の時期に入る時だったので、最初に話した、友達に会った時に取材のように聞き出して話してもらったりして」

■だからこそリアルなんだと思います。新たな一歩に相応しい2曲になりましたね。

「改めて2曲通して聴いて、"さよなら私の恋心"ではピュアでいる気持ちをCharaさんに教えてもらったと思うし、"らくがきちょう"では就活とかで難しい立ち位置にいる人にもそれを伝えたいなって。そこで2曲が繋がってると思いますね」 B



9th Single
さよなら私の恋心
2016.11.30 Release
初回盤 CD+DVD ¥1,500(tax out)
LIVE盤 CD+DVD ¥1,700(tax out)
通常盤 CD ¥1,000(tax out)



初回盤



LIVE盤



通常盤

01. さよなら私の恋心
02. らくがきちょう
03. さよなら私の恋心-Instrumental-

新山詩織 ⇒
にいやましおり。'96年2月10日生まれ。埼玉県出身。'13年4月17日、シングル「ゆれるユレル」でメジャー・デビュー。'16年11月に3rdアルバム『ファインダーの向こう』をリリース。9月2日、六本木EXシアターにて弾き語りライヴを行なう。

The Latest 新山詩織

友達に会ったり、お稽古ごとを始めたり? なかなかアクティブな新山さんです。

■今作のリリースまでは少し余裕もあったようですが、ハマったことはありました?
「ちょっと茶道を始めました」
■おお! 何かきっかけはあったんですか?
「前から知っていた方の知り合いの方が茶道の先生で。前々から声はかけてもらっていたんですけど、やっと体験に行けて、ドはまりしました(笑)」
■抹茶が好きって言ってましたよね。
「そうです。だから、お茶をもっと極められたら、と思って(笑)」
■それにしても、茶道って、ただお茶を味わうだけではなく、お作法もありますよね。
「そうですね。まだ始めたばかりなので、お茶を振る舞うほうではなく、お客さんとしての振舞い方みたいなことを学んでいるんですけど」
■精神面にも影響してきそうですね。
「精神統一できますね。シーンとした中で、正座して、ひとつひとつじっくりやるっていうのが、意外とすごく難しくて。ひとつ座ることも、ひとつ立つことも、全部がゆっくりで、しかも決まった形があったりするから、すごい難しいです」
■ライヴハウスとは真逆の世界ですね(笑)。
「そうですね(笑)。でも、居酒屋さんで座布団に座る時も、意識したりしています(笑)」
■さっそく日常で活かしているんですね。
「面白いですよ」
■年齢を重ねても続けていけそうな趣味ですよね。
「そうですね。頑張って続けていこうと思います!」

New Era®の[59FIFTY®]¥5,500(税別/ニューエラ tel.03-5773-6733)



Akko Gorilla
talk about New Era®

■[59FIFTY®]が凄く似合ってますね!
「有難うございます! いや、実は今までツバが真っ直ぐな帽子って自分には似合わないと思っていてあんまり被ってなかったんですけど、被り方次第でイケちゃいましたね(笑)」
■これを機にチャレンジしていこうという思いは芽生えましたか?
「そうですね。後ろ被りだったらベレー帽っぽい感覚でイケるから被りやすいのかも。でも前被りでも良い感じのバランスが掴めたら被ってみたいと思っているので、これから自分のベストな感じを探っていこうと思います」
■今回はグレーを選ばれましたが、その理由を教えて下さい。
「私は髪色が派手な上に選ぶ服も派手だから、帽子は落ち着いた色が似合うんですよね。普段も帽子を被る時は、黒やグレーが多いです」
■洋服と帽子のバランスの取り方はどうでしょうか?
「キャップ自体がスポーティなものだから、カジュアルな時でもスポーティ過ぎないコーディネートに合わせるようにしています。今日はお気に入りのアロハシャツに描かれたUFOと、キャップの色をリンクさせたところが、実はさり気ないポイントだったりしています(笑)」
■ちなみに初めてNew Era®の帽子を被ったのはいつ頃ですか?
「確か、中学生の頃ですね。真っ赤な[59FIFTY®]を買ったんだけど、サイズがあることを知らなくて、一番前に置かれているものを買ったんですよ。そしたらピッチピチ(笑)。その後、しばらくトラウマになりました(笑)」
■そのトラウマはもう完全に乗り越えられたんですね(笑)?
「はい! 自分にぴったりのサイズを選べば、こんなにも被り心地が良いんだと実感できたので(笑)。頭のサイズをきちんと測って買うべきだということをみんなに伝えたいです!」
■では被り心地の良さ以外で、あっこゴリラさんが感じるNew Era®の魅力とは何でしょうか?
「やっぱり種類の豊富さじゃないですかね。[59FIFTY®]以外にも本当に色んな種類の帽子があるから、見ているだけで楽しいですよね。まだまだ試したことがない形がたくさんあるから、これから少しずつ挑戦していきたいです!」 B

Fall & Winter 2017 **Akko Gorilla's Recommend Item**



The Trapper
¥6,800(税別/ニューエラ)

「めっちゃ可愛い♡ シルエットも色も、もう全部が私好みです! MA-1とセットっぽく合わせても良いし、シンプルな服に合わせて帽子を目立たせても良さそう。完全に秋冬はコレばっかり被ると思います! 色違いでネイビーとカーキ、両方予約済みでーす!」

あっこゴリラ ⇒
レペゼン地球のラッパー。リズムで会話する動物、ゴリラに魅了され、ドラマー時代に〈あっこゴリラ〉と名乗りはじめる。その経歴から、自由に生み出されるスタイルは唯一無二。9月23日(土)、24日(日)に行われる『りんご音楽祭2017』への出演が決定。akkogorilla.yellow-artists.jp

B-PASS Presents

08

Text ⇒ 菊池美里
Photo ⇒ 藪内努(TAKIBI)

New Era® meets あっこゴリラ

日本のHIP HOP界を引っ掻き回す(?)期待の新星、あっこゴリラが登場!
New Era®を代表するベースボールキャップ[59FIFTY®]を、
クールな着こなしに合わせて個性的に魅せてくれました。



レジェンドPの楽曲の作り方
発表＆権利の管理のしかた
そしてプロモーションと
モチベーションUP秘術を徹底追跡

レジェンドなボカロP達がどうやって楽曲を作り、発表し、権利を管理し、展開し、メンタルを保ってきたかを徹底的に紐解き、次世代のボカロPを目指すクリエイター達へ分かりやすく成功への道を指南する本。投稿動画「ハッピーシンセサイザ」が450万再生を誇るEasyPop、「ダンシングサムライ」のかにみそP、「【鏡音リン】メランコリック」のJunky、「独りんぼエンヴィー」の電ポルPへの超ロング・インタビューを実施。

ネット時代の ボカロP 秘伝の書

好評発売中

仁平淳宏
一般社団法人
日本ネットクリエイター
協会理事

A5判／176頁
本体価格
1,667円＋税



増補改訂版

3.11からの手紙／音の声

写真・ことば 石井麻木　**好評発売中**
A5変型判／176頁／本体価格2,200円＋税



震災から6年以上が経ち、復興の「ふ」の字もみえない場所がまだまだあるにも関わらず、世間では関心が薄れつつあるのも事実である今。東北の様子の3年間をおさめた『3.11からの手紙／音の声』にその後を追加し、少しでも風化を妨ぐため、写真とことばで再び放ちます。東日本大震災直後から毎月写し続けてきた東北の様子を、ことばと共に時系列で掲載。そしてこの6年の間に東北の地で鳴らされてきた音楽を写真で届けます。

【主な掲載アーティスト】浅井健一 / ACIDMAN / ATSUSHI / 内郷げんこつ会 / エセタイマーズ / 片平里菜 / 後藤正文 / 斉藤和義 / サンボマスター / the HIATUS / THE BACK HORN / The Birthday / the LOW-ATUS（細美武士、TOSHI-LOW） / ストレイテナー / SLANG / 高橋優 / タテタカコ / 東京スカパラダイスオーケストラ / TOSHI-LOW / 怒髪天 / 中村達也 / 難波章浩 / NAMBA69 / BRAHMAN / 降谷建志 / 細美武士 / ホリエアツシ / 武藤昭平 with ウエノコウジ / 百々和宏 / 箭内道彦 / Romeo's blood / 渡辺俊美（五十音順・敬称略）

四六判／360頁
本体価格2,037円+税

C階段で行こう!

クジヒロコ 著



祝！ 結成30周年。
スピッツで鍵盤弾いて19年
はじめてのクージー本

重版出来

1998年から現在まで19年、600本以上にわたり
スピッツのサポート・キーボーディストをつとめている
クージーことクジヒロコ。
彼女が鍵盤弾きとして体験してきた数々の場面、
スピッツのレコーディングやライブ環境の変化等を語りつつ、
スピッツの有料会員限定SNS「トンガリヴィレッジ」での公開分に、
本書用の書き下ろし編も加えた60編におよぶツアー日記や、
草野マサムネ×タブレット純×クジヒロコによる空想ラヂオ企画、
ミスチルのサポート・キーボーディストSUNNYとの鍵盤談義、
スピッツのアルバム『隼』プロデューサーである
石田ショーキチとのレコーディング・メモリーなど、
超濃密なフル・ボリュームでお届けします。



和嶋慎治 著／四六判／240頁／本体価格1,500円+税

重版出来!!

和嶋慎治
屈折くん

人間椅子の中心人物、和嶋慎治による初の自伝!!
幼少期からバンド結成、現在までを明かす!!

怪奇派ロックバンド、人間椅子の中心人物、和嶋慎治による初の自伝。弘前が生んだ東北のトリックスターが、奇想天外な人生を明かす。「メンヘラ」でも「こじらせ」でもない、僕を作ったのは“屈折”だった──。家族に溺愛された幼少期から、ギターを猛練習した中学時代、人間椅子結成、そしてようやく食えるようになった現在まで。和嶋慎治のすべてがここにある!! 特別対談＝みうらじゅん／シソンヌじろうも掲載!!

・家族に溺愛された幼少期
・漫画に魅せられた小学校時代
・ギターを猛練習した中学時代
・文筆家志望だった高校時代
・仙台でのお気楽な浪人時代
・男と男の友愛を深めた大学時代
・イカ天の栄光と挫折
・敢えて選んだ試練まみれの道
・知られざる2年間の結婚生活
・UFOに連れ去られて激変した歌詞と性格
・アパートの階下から出てきた孤独死体の衝撃
・人間椅子メンバーとの出会いと友情
・暗黒時代に考え抜いた死生観
・50歳にしてようやく食えるようになった喜び

全国の書店、楽譜・書籍お取扱の楽器店・CDショップなどでお買い求めいただけます。店頭に無い場合は小売店にお取寄せをお申し出ください。
株式会社シンコーミュージック・エンタテイメント 営業部 TEL:03-3295-4191（電話でのご注文はできません） http://www.shinko-music.co.jp


RIZE



L→R
KenKen_B.
金子ノブアキ_Dr.
JESSE_Vo.&G.
Rio_G.

RIZE

帰ってきたサンダーボルト

RIZEが7年ぶり8枚目のオリジナル・アルバム、その名も『THUNDERBOLT～帰ってきたサンダーボルト～』を9月6日に投下する。人気アニメ『銀魂』エンディングテーマ「SILVER」を始めとした最新ナンバーはもちろん、これまでのライヴで磨かれてきたファンお馴染みの定番曲も収録。結成20周年を迎えたRIZEが贈る、“自己ベストを塗り替える”であろう新たなるマスタピース！　JESSE（Vo.&G.）と、長年にわたるサポートギタリストであり、RIZEの楽曲制作を共に担う重要人物・Rio（G.）の2人に、本作についてじっくり語ってもらった。

Text ⇒ 大西智之

■配信を含めたシングルの発表やライヴ、フェスの出演にそれぞれのソロ活動と、この数年はいろんな動きがあったし、あまりそう感じてなかったんですが、RIZEとしてのアルバムは、7年振りなんですね。

JESSE「7年ってヒドイよね（笑）。普通のバンドのファンだったら待ってないよ」

■でもRIZER（RIZEファンの総称）は待っていたわけですよ。

JESSE「そうだね（笑）。このアルバムは新しいことを始めたというより、一番RIZEっぽいところに戻ってきた感じがあるのね。そこで自己ベストを塗り替えた気分です」

■ストーリー性、各曲の聴感……様々な面でアルバム1枚の作品性を感じたんですが。

JESSE「そう言われるとうれしいけれど（笑）。そこを意図して作ったつもりもなく。頑張ったのは1曲1曲を大事に作り上げていくことだったから」

Rio「曲順を練ったし。試行錯誤もして、どの順番が最高のストーリーかとかにはこだわりましたから。そこでアルバムの作品性を感じてもらえてるのかもしれないですね」

■曲順を決める時にポイントとなったのは？

Rio「〝帰ってきたサンダーボルト〟を頭にもってきたいというのは絶対でした」

JESSE「というのも〝帰ってきたサンダーボルト〟は、リリックがRIZEっぽいし。RIZERに向けてるからね」

■まず祭りを感じるインタールード「PROJECT FROM THE EAST TOKYO」がきて。

JESSE「実は1998年にリリースしたインディーズ盤の1曲目で、それをそのまま入

れたんです」

■原点の1曲目と同じ、それはドラマチックですね。で、「帰ってきたサンダーボルト」が始まる。これってオケが打ち込みでしょ？ このアルバムの始まり方はヤラレました（笑）。

Rio「狙い通りです（笑）」

JESSE「で、2曲目でモロに90年代のアメリカ西海岸なギターリフに入り。〝Good Day〟に行く、という流れはいいよね」

■はい。まず、「帰ってきたサンダーボルト」の話から。オケを打ち込みのトラックにするアイデアはどこからきたんですか？

JESSE「俺がデモを作って。それはトラックからサビでバンドサウンドになる構成だったんだけど。あっくん（金子ノブアキ）が〝この曲は全部トラックでもいいんじゃない？ 俺の音、入ってなくていいから〟って。それは俺も意外だった。生楽器ではギターの音が入っているけれど、あのフレーズから曲に入るのは気持ちいいし。うまくいったね」

■リリックはカミナリ落としに来たとか、生きることに興奮しろっていう、ストレートでグッとくる言葉が入っている。

JESSE「〝散りばめられたリスナーの灰〟とかね」

■その〝灰〟という言葉は「TKC」にも出てきますね。身近な人の死を経験した人にとってはそこに繋がる言葉でもあります。ここではどういう意味を含んでるんでしょう？

JESSE「今回〝灰〟と、あと〝傾（かぶ）く〟というワードは肝なんですよ。特に〝どれだけ傾き上げる〟かは、俺の中でアルバムの全体的なテーマでもあって」

■〝傾く〟という言葉にはどんなイメージを持っています？

JESSE「言葉にしなくてもいい振る舞い。やり投げだと90mオーバーいくか、100m走なら10秒切れるか、っていうところに線があるじゃん。たいていそこを越えた選手は始まる前かゴールする時に叫び声をあげるんですよ。それって大事だし、俺の中では傾いているうちのひとつで。自分を奮い立てて、本気を出す。それこそ灰になるまでね。俺だったらライヴで、毎回本気でやってケガとか怖くないんですか？って言われるんだけど、それでケガをして歌えなくなる、ギターが弾けなくなる、ミュージシャン生命が終わってしまったとしても本望だし。そう思えるようになったのは最近なんですよね。今まではどこかでリミッターがかかってた。最近リミッターを外したから。出せるところまで出したい」

■それが傾いているということ。

JESSE「そうそう。で、〝TKC〟で使った〝灰〟になるわけだけど、みんな灰になっているのに気づかず生きていたりする。灰になって、ふっと吹いたら消えちゃうのに何故か吹かれないように自分を守っている人間がいる。1回散ったほうがいいのにね。逆に〝帰ってきたサンダーボルト〟で使った灰は、一回ふわって散ったものを集めてみようって。そこでまだ俺燃え尽きてないや、って気づいた時に、〝傾く〟んですよね」

■その熱量の次に流れてくる曲が、「ALL DOGS」で……。

JESSE「うん、戦友たちの死を受け入れて、それに杯を交わすような、ね。この曲の制作の日にエンジニアの犬が亡くなって。〝今日は作業を飛ばそう〟って言ったら、逆にみんなと一緒にいて忙しくしていたいと。OKってことで作業したわけだけど、そこでできた歌詞なんです。犬も家族だしね。その死を受け入れた時に、K（Pay money To my Painのヴォーカル。JESSEは同バンドのTUYOHI、ZAXとThe BONEZを組んでいる）のこととかふと思って。俺の亡くなった友達はみんな天国に行ってるんだな、という曲ができた。あいつ大丈夫かな、成仏できてるかな、と思っていたけど。ここで戦友への乾杯をしたんです」

■で、「Good Day」という、〝Bad Day〟もある日常を歌った曲にいく。

JESSE「昔の歌詞は悪いことがあるからこれがいいことに感じられるという見せ方だったんですよ。でも、そんな悪いことばっか話してもね。昨日と今日の違いが理解できるようになったというのが一番の〝Good Day〟のコンセプト」

■1日1日、同じじゃない。

JESSE「うん。でも昨日が〝Good Day〟だったとして、今日もそう変えることが自分にはできるというか。例えば、今日財布を落としたらマイナスだけど。それを友達に話したら、〝メシを奢ってやるよ〟とか。友達の想いだったり、そこで話したことが思い出になれば、〝Good Dayになれたね〟って。Kが亡くなったことなんて〝Good Day〟の要素はない、でもそのことでThe BONEZが生まれたわけ。ようするに〝Good Day〟にするかは気持ちのありよう。自分にとってそういう後押しをしてくれるのがずっとRIZEの役割だったし、ということはRIZERにとってもそうだったのかな、とも思うし。俺らが人を救ってたなんて大それたことを言える立場ではない。でも自分はRIZEに救われてたから」

■この日常を〝Good Day〟に変える方法はすぐできることで。それに気づいたことで自分を変えられるのは救いですよ。

JESSE「それが音楽の力だよね。『Tears in heaven』なんて本当は超哀しい歌じゃん？ でもあの曲を書けたからエリック・クラプトンは心のよりどころというか着地点を見つけられたんだと思うんだ。あとこの曲はミュージックビデオが超カッコいいの。〝ONE SHOT〟のMVから俺が携わっていて。アルバムのMV3部作は繋がっているんですね。前からのRIZEを知っている人は絶対興奮すると思う！」

■MVはストーリーを描いてるんですか？

JESSE「モロに！」

■それは楽しみです！ 5曲目の「うしろの少年」は、童謡的な空気感がある曲ですね。

JESSE「最初の声はうちの娘なんですよ。学校に行く前にお願いして。〝遅れちゃう〟とか言われながら（笑）」

Rio「この曲は新しいことができましたね。ちょっと童謡の不気味さを意識したんです」

■薄ら暗さも感じる中、ギターが軽快なリズムを刻んでいたりもして。それが対極の世界観なのに、妙に合っていて。遊び感、余裕感も感じさせてくれます。

Rio「不思議ですよね（笑）。これは歌詞と歌が後で。楽曲が先に固まっていたんですよ」

■では、「かごめかごめ」の世界観を入れるというのも後から？

Rio「そう。JESSEが来れない時期に3人で合宿していて。そこである程度固めてたんですね。で、最終日にJESSEが着いて、瞬時に〝うしろの少年誰〟って歌い出したんですよ。そこで古くから伝わる童謡にある薄ら気味悪い感じが曲に出たし。だから偶然、化学反応が起きたというか」

JESSE「何事も瞬時に系だから、俺(笑)」

Rio「しかも正解は〝うしろの正面〟だっていう(笑)。でも間違ってるのにそれがいい(笑)。JESSEはこのワンワードから歌詞を膨らませていくことになって。できたらすべてがハマるという現象が起きました」

■詞も言葉遊びっぽくもあり、裏の意味を勘ぐりたくなる。「かごめかごめ」も歌詞の意味を掘っていくと感じ方が変わるし。

JESSE「それはある。そこで俺が思ったのは、結局想像力だなと。想像力って音楽やアートの大事なところで。〝Imagination〟もアルバムのキーワードなんです。このアルバムは想像力を止めさせない言葉や音だらけだと思うから。レイジ・アゲインスト・ザ・マシーンみたいに政治に対して闘っているバンドもいて、昔から俺らにも少なからずそれはあるけど、基本娯楽の一部でしかない。それを大々的にした結果が〝うしろの少年〟だね(笑)」

■それにしても「うしろの少年」が偶然の産物ってヤバいですね。科学反応の集まり!

JESSE「〝EXPERIENCE〟(7thアルバムタイトル)から〝EXPERIMENT〟になった感じだね(笑)。実験をしまくった」

■実験も閃きだけに終わらず、奥に掘っていくっていう。

RIZE



JESSE「実験って、ただ闇雲にこれとこれを入れてみてじゃなくて。これを作りたいという結果を見て、自分の中にしっかりある法則に沿ってこれを入れてみよう、って吟味しながらするもの。そんな実験の下、気がついたらMARVEL(驚異、不思議)なものができるんだよね。今回収録した中には7年間煮詰めた曲もあるしね。〝NOTORIOUS〟なんかいつできた?って感じだし(笑)」

■では、今回のアルバム収録に向けて、数年前の曲ももう一回煮詰め直して。

JESSE「〝PARTY HOUSE〟以外すべて再レコーディングしてますし。アレンジを煮詰め直してます。〝LOVEHATE〟なんてシングルとアルバムでテンポが30違いますもん」

■「LOVEHATE」って別曲に聴こえます(笑)。アレンジでは、「JUSTICE」がツボでした。基本的に同じフレーズのリフレインで構成されていて、シンプルでカッコいい。

Rio「これはKenKenがこのリフを持ってきて、そこから膨らませていったんです。重厚に聴こえるかもしれないけど、確かにアレンジ的にはシンプルなんですね。KenKenひとりで詰めてたらマニアックな曲になってただろうけど、あっくんや俺のアイデアが入って、JESSEの歌が重なったら、RIZEとして格好いい曲になった」

■シンプルさにロックのカッコ良さがある。

Rio「それは言えます。シンプルさはアルバム全体で意識したんですよ。今の時代、音を幾重にも重ねて、という作り方をする。でも、楽器本来が持つ力をみんなに聴かせたいし、知らしめたいから。なるべく重ねる本数も減

らす。そういう努力をしましたね」

■そしてこの歌詞がまた良くて。

JESSE「ヤバイよね。〝JUSTICE〟の歌詞は、これまでやってきた〝heiwa〟〝American Hero〟〝Dear Mr.President〟の流れの聴かせ方。最後に正義は勝つと教えられたけど、現実世界で最後に正義が勝った？と思うし、正義が勝てないようになってるのかな、とか考えちゃうよね。その時にimaginationが一番強い正義だって思ったんです」

■主題となる正義も二面性があって。例えば戦争の英雄が、平和な時代では人殺しでもある。そういう捉え方もしてる気がしましたが。

JESSE「そうだね。今日この時点でも、正義として捉える国もあれば同じことが正義じゃない国もあるし。正義っていうのは時代や場所で変わるんだっていうのはだいぶ思いました。あと自分の娘に話したことで……例えばちょっとした嘘をついてたとして、その嘘を改めて正直になったところで周りからの見られ方は何も変わらないことって多々あるわけで。でも例えそうだとしても、自分自身しかわからないとしても、私は変わったと思い、貫くことが俺は正義だと感じるんです。一方でその変わった人のハートが満たされるためには、周りが理解してくれなきゃなんですよね。〝人がどう思おうが私は変わった〟って強く信じ続けるのって簡単じゃないし。周りが何も変わらずとも自分は信念を持って生きるのは難しいことだから」

■はい、難しいと思います。ミディアムテンポの「Where I belong」は心を振るわせる曲だなと。

JESSE「RIZEの良さって、〝NAME〟にあると思っているんですね。ああいうみんなが〝取りにきたがる〟曲、〝集まりにきたがる〟曲を最近作ってなかったな、って。だから〝Where I belong〟は、どんなキッズでもコピーできるような、歌えるようなシンプルなコード進行で、心に残るようなものを意識したんです。そこで、何を歌おうかっていう時に、1stアルバムでもディレクターを務めてくれた丸山さんが、昔のJESSEを知ってる人に向けて、今のJESSEは何を思っているのかを形にしたら？って。そこで、昔と今と俺は何が違うのか考えてみたら結局変わらずに、まだ何かを探し続けているなって。で、それでいいんだ、と思えたんです」

■長い時間を感じさせる曲になりましたね。

JESSE「そうだね。これって自分が自分に書いた手紙なんだけど、全RIZERに当てはまるんじゃないかな。あの時どうだったっけ？て向き合ってみたら、今も変わらず探し続けている、って。そこで俺は何も変わってねぇ駄目だ、じゃなくて。変わっちゃいけないことがあるよね、っていうことを再確認する曲なんだよね。もちろん変わらなきゃいけないこともあるし、嫌でも変わったところもある。俺も、キレなくなったしね（笑）。そこは娘のおかげだけれども、根っこの大事なところは変わってないよね、っていう」

■だから「till today nothing is over」なんですね。

JESSE「そう、〝今日も〟探し続けるっていうのがいいよね」

■この曲で未だ変わらないことが歌われてい





RIZE ⇒
ライズ。'97年、JESSE、金子ノブアキにより結成。'00年にシングル「カミナリ」でメジャー・デビュー。'06年よりKenKen（B.）が参加。結成20周年イヤーに突入する'16年にメジャー・デビュー時のレーベルであるEPICレコードジャパンに復帰。現在、全40公演の全国ツアーを実施中。12月20日には、自身初の日本武道館公演を開催する。

るように、アルバム全体に、変わらず今もファイティングポーズを取り続けている姿がありますね。

JESSE「ファイティングポーズを解いたら終わりだと思うしね」

■サウンドアプローチでの遊び心、いい意味での余裕感は随所にあるけれど、言葉と一緒に届いた時にはヒリヒリしたところで闘っている姿が見えるし。

JESSE「間違いないね」

■その余裕感と闘っている姿がパッケージされているのが、今の年齢のRIZEのリアルなのかな、と。若い時は熱や力だけで押していただろうし。

JESSE「確かに。背伸びしなくなったね。昔は背伸びばっかしてたけど」

■若い時は背伸びが必要だったりもするし。

JESSE「背伸びしないと。辿りつけないところがあるからね」

■でも今は地に足をつけて、闘っている。そんなリアルな今が息づく、そして闘いを止めないRIZEの1枚。

JESSE「そうだね。死んでなくて良かったなと思っていたんだけど、RIZEを止めなくて良かったな、って一番感じてます」

■そして20周年のロングツアーの後半戦が9月23日から始まって、ファイナルは初の日本武道館ですね。

JESSE「シンプルに言うと、"武道館でRIZEが何をしたか知ってる?"って言われるようなライヴを俺らは求めている。まだ自分たちでもちゃんとした絵は見えてないけど。春のツアー、秋のツアーを使って、武道館で何ができるか、という実験中だから。今回のMV3部作も武道館に反映されていくしね」

■では動きを追いかけているとどんどん楽しみが増えていく。

JESSE「追いかけておいたほうがいいよ。俺らが発信するグッズからMVから、すべて連動していくからね」 Ⓑ



初回生産限定盤



完全生産限定盤



通常盤



完全生産限定盤アナログ盤

8thアルバム
THUNDERBOLT～帰ってきたサンダーボルト～
2017.09.06 Release
初回生産限定盤 CD+Blu-ray ¥4,630（tax out）
通常盤 CD ¥2,778（tax out）
完全生産限定盤アナログ盤 2LP ¥3,333（tax out）

［CD］
01. ～PROJECT FROM THE EAST TOKYO～
02. 帰ってきたサンダーボル
03. ALL DOGS
04. Good Day
05. うしろの少年
06. ～What time is it～
07. ONE SHOT（EP edition）
08. JUSTICE
09. NOTORIOUS（ALBUM ver.）
10. LOVEHATE（ALBUM ver.）
11. In or out
12. TKC
13. COLOURS
14. PARTY HOUSE（ALBUM MIX）
15. Where I belong
16. ～PROGRESS～FIRE BALL
17. SILVER

［Blu-ray］
RIZE TOUR 2016 "RIZE IS BACK"ツアーファイナル〈2016.11.27 Zepp DiverCity〉ライヴ映像
RIZE TOUR 2016 "RIZE IS BACK"ドキュメンタリー映像



[L to R] 岡田翔太朗：Dr. 高津戸信幸：Vo. & G. 山下拓実：G. 渡辺雄司：B.　※山下拓実(G.)は療養中のためインタビューは欠席

今回は全部差し替えてもらったので、かなり新しい質感になったと思います」
渡辺「俺もややこしいことはせんとこうと思って。海外の音を聴くと難しいことを全然やってないんですよね。単純にリズムが気持ちいいっていうのが多いんで、それをやってみました」
高津戸「ここまでいっぱい作ってると、素直に自分がいいと思える曲を探して、新しいものを試したくなるんですよね。そしてこの歌詞もさっきの理論で。〈もう飽きた〉から書いて、何に飽きたんだろう?みたいに考えていって」
■そこから入るんだ、面白いよなぁ。
高津戸「もうね、全体像が見えないんですよ、最近。ハハハハ。自分が面白いと感じるままに、〈もう飽きた なんでもあげるから 心の中まで見せてあげる〉と繋げて、ドバーッと書いていった感じですね。これは閉じこもってる自分にもう飽きたよっていうことなんですけど」
■この歌詞がまた興味深いというか。短い言葉の羅列に挟み込まれた少し長めの文章が、自分の本心だったり、決意だったりするから。
高津戸「確か“Kenka”の歌詞をつけたのは4月、アメリカ公演のあとなんですよ。そうそう、“Kenka”と“Schroedinger”は同時期に書いたから、どちらも悩んでないで行こうぜっていう内容で、リンクしてるんですよね。それくらい、アメリカでの体験が衝撃的だったという」
■それはどういうところに対してだろう?
高津戸「まさに自由な国だったんで、偏見だらけな自分を痛感させられたんですよね。夢に向かって頑張ってる、愛すべきヘンタイばっかりだったから。俺らも悩んでないで精一杯やればいいじゃん、好きなことをやれてるんだから!っていう。“Kenka”と“Schroedinger”はすごく、そのエッセンスが入っているなって」
■うん。だから〈恥ずかしかった自分自身を受け入れればいい〉って歌ったときに、〈無いものは無いけど 探したらあるかも〉って言われたときに、振りきれたんだなぁと思ったの。
高津戸「ほんとに。このままを受け入れればいいし、欲しけりゃ探せばいいんですよ」
■前までは、はんぶんこずつだったのに、〈ありがとうも ごめんねも 全部あげる〉んだもん。
高津戸「あはははは。そうだよ。もう全部あげるよ。やるしかないんだったら、やればいい」
■そういう意味では「Kenka」と「Schroedinger」は、MAGIC OF LiFEの現在地ですね。
高津戸「やっぱり今が曲に入るんだよねぇ」
岡田「ノブは自分の経験とか、今思っていることを音楽に反映できるヴォーカリストなので、一緒にやっててすっごく楽しいんです」
高津戸「こういうときにアーティストだなぁと思います。そしてアメリカを含めた海外で受けた刺激の大きさを、改めて感じますよね」
■ずっと夢として掲げてきた日本武道館。けど海外公演、特にヨーロッパでのライヴは、武道館を経験したバンドでもなかなかできないことで。夢は別方向へも広がっているんだなって。
高津戸「そうですね。もちろん武道館に立ちたいし、東京ドームでも歌いたいし、日本で成功したいんですけど。アメリカやフランスやドイツでも本当にいろんな人が支えてくれて、たくさんの人が喜んでくれたので、戻りたいという想いが今は強くあるし。ヨーロッパツアー、アメリカツアーができるようになりたいっていうのが、新たな夢、明確な目標になってますね」 B

MAGIC OF LiFE ⇒
マジックオブライフ。'03年8月、DIRTY OLD MEN結成。'12年4月、現メンバー構成に。'14年10月、バンド名を改名。'16年9月にアルバム『X-1A』をリリース。9月24日・渋谷クアトロよりワンマンツアーがスタート。

MAGIC OF LiFE

強力なタイアップシングルを含むニュー・アルバム『Niemeyer(ニーマイヤー)』を9月6日にリリース。
描く物語もメッセージも、サウンド感も、より自由に遊び心が溢れた作品となった。

Text ⇒ 山本祥子

■前作からキッカリ1年でニュー・アルバムが到着。しかもそのタイトルには『Niemeyer』という、私は振り絞っても建築家の名前しか浮かばない、聞きなれぬ単語が掲げられてます。
高津戸「そう。そのオスカー・ニーマイヤーさんから取りました。遊び心のある作品になったので、タイトルも自由でいいな、好きな人の名前をいただいちゃおう!っていう感じですね」
■タイトルにするほど好きなポイントは、どういうところなんだろう?
高津戸「自国に貢献されてて。"自由な曲線"という新しい発想で建造物を生み出して、それをほんっとに亡くなる直前まで描き続けていて。そういうふうに僕らもずっと作り続けられたらいいなぁくらいの気持ちですね。メンバーにはLINEで投げたんです。"好きな人の名前でもいい?"、"いいよー"みたいな」
■フフフ。そのやりとりに思わず納得してしまうほど、今回の遊び心は振りきれてますよね。
高津戸「そうですね。"はじまりの日々"だったり、"スキルフラワー"だったり、キーとなる楽曲はいっぱいあるので、アルバム収録曲を久しぶりに思いきって作った感じ。こんなの面白そうとか、この組み合わせはどうだろう?とか」
渡辺「新曲に関しては、スタジオに入ってみんなでワイワイ作った印象があるな」
岡田「あとはこう、最近の作品に共通することですけども、ノブ(高津戸)の楽曲に対するスケッチがより上手になったというか。数年前はアコギと声だけで作ってたから、僕たちもストロークから手がかりを得てカタチにしてたんです。でも最近は自分の頭の中の音を、例えば、ピアノが鳴ってたらピアノを入れてくるし。それに対してリアクションして作るから、奥行きも含めてサウンドが広がりやすくなったっていう」
■そうやって作られたであろう新曲が、オープニングから3曲続けて並んでおります。
高津戸「1曲目の"Answer"はとても明るくて。○も●も△も×も、さりげなく側にある笑顔も、涙も、すべて答えであり、間違いなんてないよ、だから躊躇しないでっていう曲ですね」
■そのテーマは最初から見えていたのかな?
高津戸「まぁアタマの〈○●△×〉は一緒に歌ってもらえたらいいなって感じで最初からあって。けどそのあとの歌詞はもう書いては消し、書いては消しの繰り返しで、まず自分の伝えたいことはなんなのかな?から始まった気がしますね。常に伝えたいものを探してるけど、曲を作ることでどんどん吐き出していて、もうなくなっちゃって。なので書き進めながら、俺は今、こういうテーマを描きたいんだなぁなんて気づける。"Answer"は特にそうでしたね」
■サウンドメイクに関してはどうでしたか?
岡田「この曲はダンサブルをキーワードにフレーズのやりとりをして、レコーディングでもそこを意識してやりましたね。ただ、ダンサブルと言っても全然重くない感じ」
渡辺「俺もこんな軽く弾いたことないわ!っていうくらい(笑)。16分でベースを弾くのも、♪"ドゥダドゥダ"みたいなオクターブのフレーズも初めてで。今までで一番わかりやすくノれるんじゃないかなと思いますね。なのでまぁ1曲目として抜群の役割を発揮してみました」
■大きな扉に足を踏み入れたら、ストーリーテラー、高津戸信幸の真骨頂とも言える2曲目「見えない私と見える僕」にグッと掴まれる。
高津戸「これはもう楽しんで書きましたね。内緒話って気になるじゃないですか。冒頭で〈私 秘密があるの〉って言われたら、その先がすっごく読みたくなるから、そういう物語を書いていこうと思って。ちょっと非現実的なほうが楽しいかな、じゃあ姿を見えなくしちゃえ!って。結果、かわいい恋の話になりましたよね」
■本当にショートショートを読んでいるような、もしくは少女漫画な世界観だなぁと思って。
高津戸「確かに少女漫画っぽいかもしれない」
岡田「アレンジする際も、こういう物語の曲は特に、歌詞が乗ってるとすごくヒントになるので。雄司(渡辺)から出てきた転調するアイデアも、歌詞がハッとする瞬間だったりして。じゃあその前はブレイクにしようよってなったりね」
渡辺「あと、いろんなリズムを試したよね。最初に聴いたときは、もう少しロックなイメージだったんですよ。けどやってみたら違うなーってなって。みんなで出し合ってるうちに、歌詞にも曲にも一番合うこのリズムになっていったという。俺はバンドバンドしたのが好きだから、出すアイデアも基本それなんだけど(笑)。他の人の要素を取り入れながら作ることで、すごく良くなったなぁと思いますね」
■次にバンドバンドした曲が出てきますから。
渡辺「ハイ。"Jewelry"はど真ん中です!」
高津戸「実際に雄司から"速いロックな曲がほしいわー"って言われたんですよ。その想いに応えるべく、俺は部屋でひとり、〈star〉って叫んでんだよ、ギターを掻き鳴らしながら」
渡辺「フフフフフ。アホやなぁ」
■けど単にロックに攻め込むのではなくて、Aメロはすごくお洒落だし、構成や緩急の付け方も全部ひっくるめて、新しい感じがしました。
高津戸「そうそう。このロックであってロックじゃないようなバランスは相当面白いと思う」
■新曲で言うと「Kenka」はまったく別の新しさ、実に気持ちのいい裏切り方をされます。
高津戸「やってみたかったんです、このザ・ビルボードな感じ。なのでデモも全部打ち込みで作って、メンバーに渡して」
岡田「素直にワクワクする曲だなって思いましたね。しかもやり始めたらリズム録りはすごくシンプルで。キックとスネア、一応ハイハットも置いといたんですけど、叩いたのはキックとスネアだけ。リズムのエキスだけ録音して、それを打ち込みの音に差し替えてもらって。今までドラムに対して打ち込みを一緒に鳴らしていたところを、



New Album
Niemeyer
2017.09.06 Release
CD+DVD ¥3,000(tax out)

01. Answer
02. 見えない私と見える僕
03. Jewelry
04. はじまりの日々
05. 線香花火
06. Kenka
07. スキルフラワー
08. Schroedinger
09. 乱舞ランデブー
10. それでいい
11. スターチス ~Acoustic Ver.~



A I M Y O N

あいみょん

シンガー・ソングライター／あいみょんが
1stアルバム『青春のエキサイトメント』を
9月13日にリリースする。
1stシングル「生きていたんだよな」から
2ndシングル「愛を伝えたいだとか」
3rdシングル「君はロックを聴かない」まで
さらに映画『恋愛奇譚集』の主題歌として
書き下ろされた「漂白」など
色とりどりの全11曲を収録した本作。
自身の音楽ルーツの話と共に、
各曲へ込めた想いを語ってもらった。

Text ⇒ 三沢千晶

〝青春〟といえば何でも許されるような気がする、その言葉のズルさが好き。そして音楽は一種の興奮状態から生まれるというあいみょん。そんな彼女の1stフルアルバム『青春のエキサイトメント』は、まさに青春の興奮から出来上がった曲たちだ！

■曲調や音がちょっと大人の世代が好きそうな感じですよね。それはあいみょんさんのルーツに関係しているのかな？

「まさにそうです（笑）。父親が音響関係の仕事をやっているから音楽的にも私より詳しし、聴いている音楽もBOØWYとか浜田省吾、吉田拓郎、ボブ・ディラン、ジャクソン・ブラウンとかだったので、そのまんま影響を受けましたね。男性アーティストが多いですが、女性だとBENNIE Kとかユーミンさんとかを聴いていました」

■プロフィールには、ビートルズの名前も挙がっていますね。

「ビートルズもお父さんの部屋で初めて聴いて。学生のときって、CDとか買うお金がないじゃないですか？　だからお父さんの部屋にあるCDを聴く感じだったんですよね。そのときにビートルズを見つけました」

■お父さんの部屋、宝庫ですね。

「いろいろと発掘しましたよ。浜田省吾さんのCDはごっそり、スピッツさんもごっそり聴きましたね（笑）。『空の飛び方』っていうアルバムは、結局自分のモノにしちゃいました（笑）」

■（笑）あるある。いやでも本当、あいみょんさんの音楽を聴いて、音楽はもちろんですけど、あいみょんさん自身を好きになりました。

「え、うれしいです」

■なぜかというと、歌詞がとても正直。だからこそ胸に刺さりました。いろんなメディアで〝歌詞が過激〟だと言われていましたけど、私はそうは思わないんですよね。

「私自身も過激というワケではないと思ってるし、そう言ってもらえると素直に〝そうなんです。私、そんなに怖い人間じゃないですよ〟って言えます（笑）」

■そんなふうに正直で、真っ直ぐな歌を歌えるあいみょんさんに惹かれます。私自身は昔、アルバム収録曲でいうと「マトリョーシ

青春のエキサイトメント



カ」のように、本当の自分を出せない子でした。

「そうなんですね。この歌を作ったキッカケは、持っていたマトリョーシカなんですけどね、かわいいんだけどよく考えたら同じ顔ばかり出てきて気持ち悪いなと思って。そこから本当の顔の下にあるもうひとつの顔だったり、女性の二面性を感じて書いたんです」

■なるほど。あいみょんさん自身はどうなんですか？

「私もすぐに心を開くタイプでもないですし、すべてを知られたくない感はあるかな。それを音楽だとオープンにできるんですよね」

■アーティストとしての〝あいみょん〟と、プライベートの〝あいみょん〟の顔があると。そんな「マトリョーシカ」を含め、1曲めから順に込めた想いを聞かせてください。まずは「憧れてきたんだ」ですが、これだけ音がすごくないですか？　ナマ感が半端ない。

「これは倉庫でがむしゃらに歌ってる感じにしたくて、Hi-STANDARDのツネさん（恒岡章）と2人で一発録りしました。このアルバムのプロローグのような曲です。童話にたとえると、〝昔々　あるところにこんな女の子がいました〟の部分ですね。私はこんなアーティストに憧れてきたんだよって」

■ちなみにあいみょんさんのロックスターは誰なんですか？

「浜田省吾さんとか、スピッツもそうですし、ブルーハーツも。こないだ福岡のイベントで初めてクロマニヨンズのライヴを観たんですよ。やっぱりすごいなと思いましたね」

■「生きていたんだよな」はピアノとギターの音がキレイですね。とにかく泣けました。メ



好きな人と同じ音楽に心を熱くしたのもめっちゃ青春の興奮やし、プールに忍び込んだりするときもめっちゃ興奮しますよね。私が音楽をやっている今も青春やし、もちろん10代だけが青春じゃないと思ってる

ジャー・デビュー曲ですから思い入れも深いと思いますが。

「これは上京するタイミングで、実家で作った最後の曲なんですよ。たまたま飛び降り自殺のニュースをテレビで観てしまい、心の中のモヤモヤを歌にしました。まさかこれがリリースされるとは思ってなかったんですけど、スタッフさんに〝これでいこう〟と言ってもらえたので、〝あ、私はこれでいいんだ〟と思えた曲です。それにこの曲を出したことが、それまで以上に〝命〟について考えるキッカケになりましたね」

■「君はロックを聴かない」は3rdシングル。懐かしめのアレンジですね。

「そうですね。夏っぽさといなたい感じというか。去年の夏頃に作った曲です」

■私は学生の頃にもらったカセットテープを思い出しましたよ。

「えー、めっちゃ青春じゃないですか（笑）。青春時代の好きな音楽の共有？　あれって、なんであんなにうれしいんやろ？って思いますよね。好きな子が自分の好きな歌を好きになってくれる喜び？　特に学生の頃って、音楽で繋がれた気がするんですよね。私はお父さんやおばあちゃんにカセットテープを大量にもらった覚えがありますよ（笑）。そこからカルチャー・クラブの〝カーマは気まぐれ〟とかクイーンを知ったりしました。お父さんからもらった尾崎豊さんのアルバム『17歳の地図』のカセットテープは、今でも大事に持っています」

■〝こんな歌であんな歌で／恋を乗り越えてきた〟という歌詞がありますが、あいみょんさんの〝恋を乗り越えた1曲〟って何ですか？

「私、HYさんが大好きで、〝366日〟はめちゃくちゃ響いてずっと聴いてました。仲宗根泉さんにラブソングを教えられたんじゃないかというくらいに聴いていた時期がありましたね」

■そして「マトリョーシカ」があり、軽快なサウンドの「ふたりの世界」。これを聴いたときに、〝あ、これ私だな〟と思いました。〝自己中心的に進む恋愛とこの先の不安が〟のくだりとか（笑）。

「私の歌を聴いてくれた人の思い出やリアルな気持ちとリンクしたらいいなと思いながら歌っているので、そう言ってもらえると本当にうれしいです。これはリリース前からライヴでけっこうやっていた曲で、女性ファンからの人気が高かったんですよ」

■やっぱり（笑）。けっこう具体的な歌詞ですよね。あいみょんさんの生態が描かれているんじゃないですか？

「全部の曲の中で一番リアルっちゃリアルですよね。生活感がある（笑）というか、本当に実体験で書いているので」

■「いつまでも」は世の中への愚痴？と思いな

がら聴いていました。

「これは上京したての頃に作った曲で、音楽業界とか生活に対して思っていたことを書きました。私、同情の中でもっともキライなのは、死んだあとに天才って言われることなんですよ。それやったらどんなにけなされてもいいから生きているうちに天才って言われたい、って、すごく思った時期があったんです」

■2ndシングルとなった「愛を伝えたいだとか」。収録曲の中でこの曲だけ唯一ファンクテイストですね。

「チャレンジしました。基本的にはジャンルに捉われたくないんですよ。でも私はフリッパーズ・ギターとか好きだったのでいつかはやってみたいと思ってたんですよね。作ってるときはどうなることやら?と思ってましたけど、楽しかったです」

■主人公の男の子は、本当にカノジョのことが大好きなんだな〜って思える歌詞ですね。

「私、男性が女性に対してすごく必死な様が大好きで。ディスってるワケじゃなく、本当にかわいいなって思うんですよ。なので私が思うかわいい男性像、女々しい男性の姿を書いてみました」

■実際、あいみょんさんはそういうタイプの男性を好きになるの？

「いや、わりとしっかりした方に惹かれます（笑）」

■（笑）次、「風のささやき」はバラードですね。

「これはアルバムの最後にできた曲なんですよ。けっこうギリギリまでこだわって作りました。というのは、ただの泣けるバラードにしたくなかったので、人間的な不安定感を、音とかヴォーカルで出せないかなというところにこだわっていましたね」

■内容的には自己嫌悪、ネガティヴな部分ですもんね。

「引きこもっちゃってる感じ。これを書いたのも上京したてで、いろんなことに苛立ってた時。当時は〝がんばれ〟って言われるのがすごくイヤでした。メジャー・デビューって傍から観たらすごく華やかじゃないですか？　でも実は生活はすごく苦しくてバタバタしていて。そんなことを言えない中で、それでも音楽を作るという時に〝がんばれ〟と言われると、何を知っているの？と思っちゃって。私は仕事として音楽をやっている意識はなくて、もともと趣味として始めた音楽と人とのご縁が相まって、この活動を続けられていると思っているんです。だから〝がんばれ〟という言葉は仕事になっちゃう気がしてイヤだったんですよね」

■その気持ち、わかります。

「そう感じた時から、アーティスト仲間に対してライヴの時とかは〝楽しんで！〟って言うようにしています」

■続く「RING DING」はアルバム中もっとも弾けていてポップで賑やかな曲ですね。この歌の主人公みたいな友達がいたらいいなと思いました。聴いていて勇気づけられますもん。

「そういってもらえるとうれしいです（笑）。最初の〝ため息は酸素の無駄使い〟って、私が昔から言っていた言葉なんですよ。そこから広げていきました」

■「ジェニファー」を聴いたときには昔の恋を思い出しました。別れてしまった彼が、今の私に対して言っているような感覚です。

「お？　まさにこれはそうなんですよ。男性が昔の懐かしい人を想って歌っている。でもジェニファーっていうのは人の名前ではなく、聴く人それぞれの何かの象徴というか。それこそ甲本ヒロトさんがインタビューで〝リンダリンダ〟について、〝リンダとは誰でもなくてみんなの心の中で出来上がるモノ〟というようなことをおっしゃっていて。私もそういうブルハ方式で作ってみました。なので、みんなの中で想像を掻き立ててほしいなと思います」

■そしてラストソングがバラード「漂白」。映画『恋愛奇譚集』のために書き下ろした曲なんですよね。

「一番最初、監督さんに物語を口頭で伝えてもらった時に、もうイメージが湧き上がってきて作っていきました」

■これは初恋の光景が浮かんできました。〝どうしようもなく心が汚れた日は／あの日を思い出して…〟というフレーズにあるように、何かあった時にはそこに戻って心を浄化するんだと思います。

「私もめっちゃイヤなことがあったときには、友達とアホなことやって笑ったことを思い出したり、当時の動画を観たりしますよ」

■音楽もそうですよね。あの頃好きだった曲を聴いているとパワーが充電されたりする。

「そうなんですよ！　それこそ青春じゃないですか？　好きな人と同じ音楽に心を熱くしたのもめっちゃ青春の興奮やし、プールに忍び込んだりするときもめっちゃ興奮しますよね。私が音楽をやっている今も青春やし、もちろん10代だけが青春じゃないと思ってるしね。私が60歳、70歳になった時にこのインタビューを読み返して、めっちゃ変なこと言ってるとか、めっちゃカッコつけたこと言ってるとか思うかもしれない」

■それも青春だと？

「（笑）そうそう。青春とは興奮なんですよ」 B



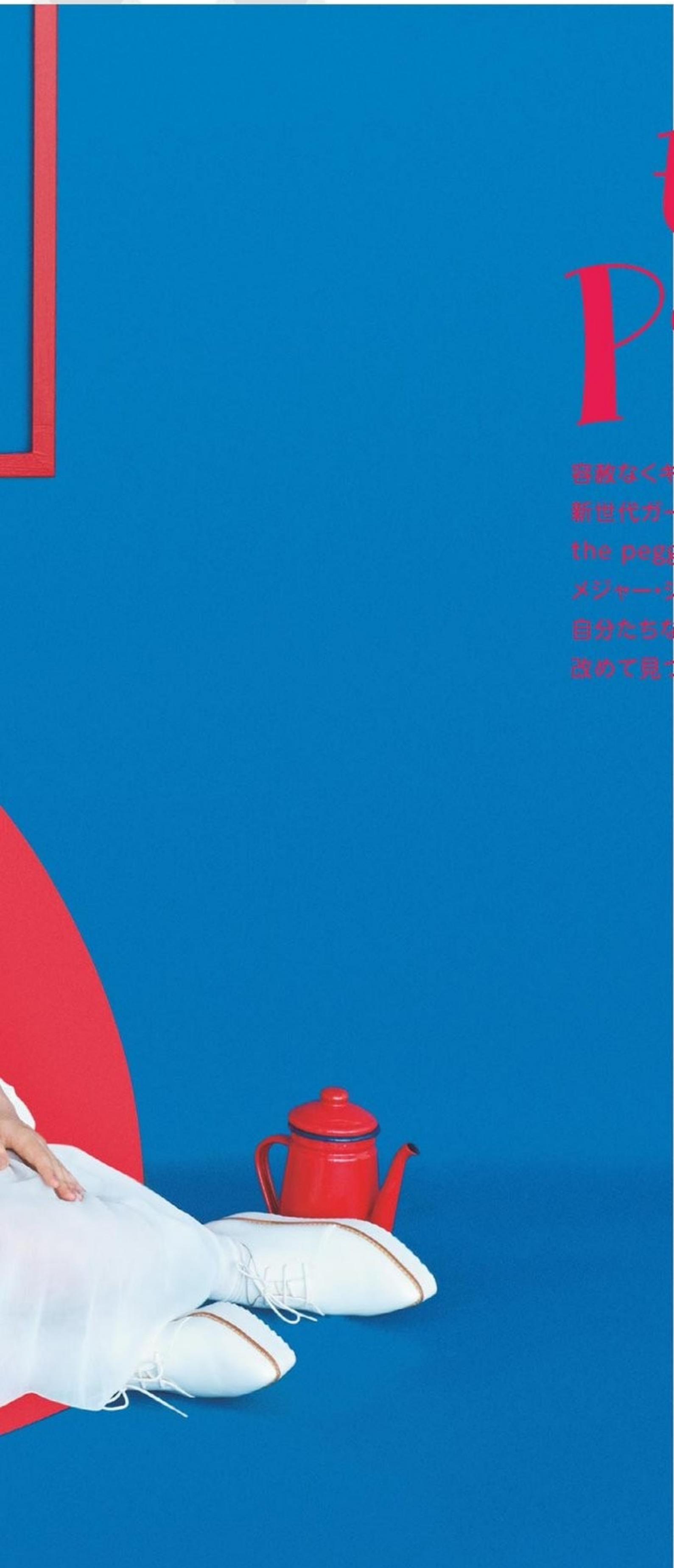
1st Full Album
青春のエキサイトメント
2017.09.13 Release
¥2,800（tax out）

01.憧れてきたんだ
02.生きていたんだよな
03.君はロックを聴かない
04.マトリョーシカ
05.ふたりの世界
06.いつまでも
07.愛を伝えたいだとか
08.風のささやき
09.RING DING
10.ジェニファー
11.漂白

あいみょん ⇒
1995年生まれ。兵庫県西宮市出身のシンガー・ソングライター。2015年3月4日、タワレコ限定シングル「貴方解剖純愛歌～死ね～」をリリースし、19歳でデビュー。2016年11月30日、1stシングル「生きていたんだよな」でメジャー・デビュー。10月14日（土）大阪・心斎橋Music Club JANUS、10月28日（土）東京・渋谷WWW Xにて、初のワンマンツアー“TOUR2017「excitement of youth」”を開催する。

the peggies

容赦なくキャッチー!　圧倒されるほどロック!
新世代ガールズバンドシーンのホープ、
the peggies(ザ・ペギーズ)が2ndシングル「BABY!」をリリース。
メジャー・シーンで活動することで、
自分たちならではの武器を
改めて見つめた3人が出した答えとは!?



L→R
石渡マキコ_B.
北澤ゆうほ_Vo.&G.
大貫みく_Dr.

BABY!

Text ⇒ 山本祥子


BUTLER
COUNTY

歌詞も曲もキャッチーで可愛いけど、演奏はしっかりしてるんで。そこで、私たちはロックバンドだ、みたいな部分を聴かせられたから。逆にこんなにもポップな曲でそれができたことは自信になりましたね

■スイッチを入れた瞬間、飛び込んでくるギターと歌声、しかもスーパーキャッチーなフレーズ。これは躊躇なく掴む気満々ですね。

北澤「そうです。前作に続き、こんなに簡単な英語ある?っていうくらい、聴いたら誰にでもわかって、すぐに歌えて、耳にも印象にもずーっと残るというね」

■まさに前作に続きなんだけど。キャッチーとかポップとか可愛いとか、インディーズ時代はむしろここじゃないところ、ロックバンド然とした曲を押し出していたと思うんです。

北澤「そうですね。前は〝可愛いとか言われたくない〟みたいな意識が絶対的にあって。だから自分の声質や歌詞の表現とは裏腹に、バンドアレンジで攻めてみたりとか、いろいろしてたんですけど。まぁそれを1つの方法としてできることはいいと思うんだけど、女子であることを自分で煙たがって、女子だからできる表現をやらないっていうのはもったいないなぁとも思ってて。あとこう、女の子らしさを出すと女の子のファンがつかないって考えちゃってたんですよね。アイドル的になってしまうんじゃないかという想いもあって。でも中途半端に〝私たち可愛いって言われたくないんです〟とかやってると、女と女ってわかるから、思惑的なものが」

■逆に意識してんじゃんっていうね。

北澤「そうそうそう。私たち、女子であることに関してオープンだし。みんなの味方だよって伝えたいという気持ちが生まれてからは、可愛らしさも出していいじゃんって思って」

■ただその頃合いはなかなか難しくて。

石渡「だから歌詞も5、6回書き直してて」

北澤「結局、最初に書いたやつになったんですけど。遠回しな言い方にしたり、近づけてみたり、試行錯誤したからこそ、いや、そうじゃないなってハッキリ見えてきて」

石渡「書き直していくうちにゆうほ(北澤)のリアルになっていったかもしれないけど、今のこの歌詞だと、いろんな人にあてはまったり、引っ掛かる部分がたくさんあると思うから」

大貫「そうそう。いい意味でゆうほっぽくない、女の子を代弁する気持ちで作ったのかなって思って。そういう意味でも新しいthe peggiesのカタチだと思います」

北澤「〝BABY!〟に関してはまったく実体験じゃないお話を書いたから、それを自分で受け入れるのに時間が掛かったというか。今まではそのままじゃないにしろ、自分をベースに少しフィクションを入れて、みたいな歌詞がほとんどで。ここまで作家的に、少女漫画を描くような気分で書いたのは初めてだったから。すごく勇気ある一歩でしたね、本当に」

■今、3人が月面着陸した絵が見えた。

一同「あははははは」

石渡「意識的にはそれくらい事件だよね。初々しい女の子の想いの曲をポン!と出すのは」

■私はフェス映えしそうな曲だなと思ったの。耳にした人の中に片っ端から土足で上がり込んでいくような曲だよなぁって。

北澤「そう、それがしたくて。この曲に関してはもう容赦なくキャッチーで、とにかくみんなに聴いて!っていう感じで作ったし。意外とここまでキャッチーに振りきれてるガールズバンドって、いや、ガールズバンドに限らず、私たちの周りにはいないかなぁと思ってて。この攻めが今の邦楽ロックの中で新鮮に響けばいいなって思ってますね」

大貫「そもそも、私たちすごいでしょ、なんて思ってバンドやってるわけじゃないから」

北澤「シンプルだし、全然特別なことしてないし、下手したら私でもできるんじゃない?って思うようなものでもいいものはいいし。聴いたときに漠然と〝この子たちは本当に音楽が好きなんだ〟って感じたり、理由はわかんないけど、とにかくいいんだよというものこそ、一番替えが利かないし、そういう存在になりたいなって思っているので。より感覚的に、これがいいと思うっていうゴールに向けて制作していきたいと思ってます」

■とてもシンプルだけど、単純な曲ではないからさ。例えば、好き、愛してる、会いたいとかいう表現は一切ないし。どんな相手とどこへ行ったみたいな限定する情景もない。でも漠然としてないの。すっごく切実に響く。

北澤「〝好き〟っていう言葉は、中学3年のときに最初に作った〝アイラブユー〟って曲以来書いてないんですよ。〝好き〟はまだとっておきたくて。今はその言葉を使わずにリアルさを求めて挑戦しているところがあって。だから誰かの日記なんじゃないか?というようなリアルな歌詞ではないと思うんです。でも結果としてここまでリアリティが生まれたのは、全体のバランスがちょうど良かったのかなって。そこが何度書き直しても埋められなかった部分なんだろうなぁって」

■さっき言ってた少女漫画っていうのが本当にぴったりで。聴きながら、右往左往してる主人公の女の子、めっちゃ見えたもん。

一同「あははは。そうそうそう」

北澤「だから〝the peggies可愛い〟じゃなくて、この曲で、〝女の子って可愛いなー〟って思ってもらえたら嬉しいですよね」

石渡「歌詞も曲もキャッチーで可愛いけど、演奏はしっかりしてるんで。そこで、私たちはロックバンドだ、みたいな部分を聴かせられたから。逆にこんなにもポップな曲でそれができたことは自信になりましたね。ライヴでやってるときも、ああ、バンドやってる!っていうのをすごく感じられる曲なので」

■キャッチーなオープニングに、間髪入れずにドラムとベースが入ってくる。なんならちょっと食い気味に乗っかってくるからね。

大貫「ただのJ-POPじゃないぞっていう」

■サビに至ってはベースも一緒に歌ってるし。

石渡「フフフ。その分、エイトビートでがっつり刻んでる部分もあったりして、曲の中で緩急があって、いいベースだと思います(笑)」

■しかも曲と一緒にサウンドもどんどんどんどん展開していくんだよね。

北澤「歌がすっごくシンプルだから、通して聴いたときに退屈にならないようにっていうのは意識しましたね。Aメロも1番と2番でギターのバッキングの仕方とか、ベースの入るタイミングが違ったり。それこそ1番、2番、最

後のサビの歌詞も全部違いますし。そうやって変化を見せることによって聴いていて発見のある曲になったなって思います」

■ラスサビに至っては、ドラムもベースも歌もの枠を逸脱するボリューム感で。

大貫「ハハハ。この前も3人で話してたんです、ウチら音がめっちゃデカいよねって」

北澤「ライヴでも容赦なくくるから、2人とも。私も歌い甲斐がありますね」

■個人的に「BABY!」はヴォーカリゼーションがたまらなくて。〈ふたりしかいない世界で 当たり前に〉を繋げて歌う感じとか、〈君と出会えたみたいに〉の字余り加減とか。

北澤「感覚で作る部分と、メロディに合わせて書く部分のバランスですよね。私は今まで感覚で書いてきたから、字余りも、言葉がヘンなところで切れてても、気にしたことがなくて。気づいてからの学習の成果が（照）」

石渡「あとは元気はつらつ！とかじゃなくて、意外と大人っぽい落ち着いた歌い方だったりするから、それも入り口を広げてると思う」

■このあとに「ずっと」を置く感じ、タチ悪いわぁ。数秒前まであんなに眩しかったのに。

大貫「そうそうそう。いきなり大人になっちゃった（笑）」

北澤「自分たち的にも振り幅を見せたいっていう気持ちがあって。まぁそれは前作もそうで、王道と遊び心な楽曲に入れてて。今回はどちらも王道だけども、少女らしい恋と、大人の女性としての恋愛。私たちも一応20歳を超えているので、年相応の恋愛観も伝えたいなという気持ちで、2曲目に入れました」

■〝あなたのいない朝を自分から迎えに行き〟ますからね。

石渡「でも、そういうものだもんね（微笑）」

北澤「いつも思うのは、ずっと一緒にいたいとか、この人じゃないとダメだって思ってたのに、なんでみんな簡単に、私もそうだけど、別れたりできるんだろう？って」

石渡「あの言葉は一体なんだったんだろう？って思うよね。でも嘘じゃなかったし」

大貫「あと、なんであんなに辛かったのに、大丈夫になっちゃうんだろう？って」

■確かに。偶然装って計算するのも女の人だし。だけど付き合い始めて何かあるたびに、扉が少し小さくなって、小さくなって、小さくなって、パタンッてしまった瞬間。

一同「もう二度と開かない！　ハハハハハ」

北澤「そういうのに対して私は、結局、別れるんだったら全部嘘じゃん！なんて思ってたんだけど。少し大人になって、いや、あれも本当だったし、本当だったのに終わるってことはそれなりのストーリーと意味がその恋愛にはあるんだよなって思えるようになって。曲間2秒でそれを表現してみたという」

■内容といい、サウンドといい、ゆうほちゃんの声じゃなかったら、激シブの歌だよ。

一同「確かに」

大貫「〝BABY!〟は3人で前向きに、ポップでワイワイやってるんですけど、〝ずっと〟はもっと歌を聴かせる、演奏もじっくり聴いてもらうみたいな感じで音を作ったし。そういうふうに演奏してるから、バンドとしてのサウンド的な振り幅も出せている気がする」

北澤「単にテンポを遅くしました、みたいな曲には絶対にしたくなかったし。このテンポである必要性が伝わるバンドサウンドと歌にしたいなっていうのはすごくありましたね。バンドのバラードってハードルが高いと思うんですよ。だからこそ、自分たちはリード曲でもバラードを、スローとかミディアムじゃなくて、ザ・バラード！な曲も自信を持って出していきたいという野望があるので。そこへのステップになったらいいですよね」

■だってきっと明らかに、ザ・バラードな曲でもドラムとベースはデカいと思うし。

大貫「絶対にデカい（笑）。サポートじゃないから、メンバーだから。ただゆうほの歌のお手伝いをするだけじゃなくて、3人がバランス良くちゃんと意味のある音を出すっていう」

石渡「それこそ意思のある演奏だよね」

■また、「ずっと」は1個1個の音色がとっても気持ち良くて！

北澤「この曲は2パターンのアレンジを考えて。もう一個はギターも轟音な感じで歪ませて、バンドインした時にバーン！とくる感じで、私は最初、そっちにしたかったんです。でもいろいろ考えていくうちに、それって本当に〝the peggiesは歌を大事にしてると言えるのか?!〟って。今まで〝the peggiesは歌を届けたいんです〟なんて言ってきたけど、それに嘘偽りはないのだろうか？みたいな」

■うわっ、この曲でも自問自答が入った?!

一同「そうそうそう（笑）」

北澤「カッコ良く見せたい、ライヴ映えしたいという想いにまだ引っ張られてる自分がいて、だからすごい揺れて。轟音ギターと比べたときにこのアレンジは超マイルドに聴こえて、攻めてない感じがしたんです。けど攻めるっていろんなカタチがあるし。それがせっかく〝BABY!〟でできたのに、2曲目で潰しちゃうのもなぁと思って。最後の最後、ンンーッ！って感じで今のカタチに決めて……ほんとに良かった（ニッコリ）」

■この2曲がライヴに入ってきたら、またちょっと伝わるものが変わりそうだよね。

北澤「まさしく。今回の2曲で自分たちがどうなりたいのかすごくわかったから、それが聴いてくれる人にも伝わったらいいなって思いますね。the peggiesらしさは上乗せされたアレンジとか、もの珍しいフレーズじゃなくて、歌心と3人の音バランス、そういう根本にあるんだなーって」 B



New Single
BABY!
2017.09.06 Release
初回生産限定盤 CD+DVD ¥1,389（tax out）
通常盤 CD ¥972（tax out）

［CD］
01.BABY!
02.ずっと

［DVD］
BABY! Music Video

the peggies ⇒
ザ・ペギーズ。中学校の同級生で結成。'11年から活動開始。'15年に初のワンマンライヴを開催。'17年5月、1stシングル「ドリーミージャーニー」でメジャー・デビュー。9月15日に自主企画イベント『ダブダブdeペビペビ』を渋谷WWWにて開催。



もっとみんなに気持ちを伝える手段を増やさなきゃいけないなという課題も見えてきました」

■ライヴをやっていて一番嬉しい瞬間って？

「疲れるところですかね（笑）。ライヴをやっていると体力を消耗するじゃないですか？　みんなが汗をかくことで細胞が動いて代謝しているから、イコール、"生きること"みたいな（笑）。だからライヴがすごく好きなんです。みんなが躍動してるなぁとか、汗が蒸気になって混ざり合ってるなぁとか思ったり。6月の東京ライヴでは、みんなの汗が蒸気になって床が濡れてキュッキュって鳴ってたんですよ（笑）。私のライヴって、アグレッシヴに頭を振ったりする人も多くて。だから私も負けずに感情を開放したいなと思って、日々研究しています」

■それは興味深いです。どうやって研究を？

「開放的になる訓練というか、普段は無意識に動かしている身体だけど、どういう筋肉を使って動かしているのかを知ると、開放的になれる瞬間があるんです。だから自宅で好きな曲を聴きながら踊ってみたり、叫んだり、ケリを入れて空を切ったりしています。それでたまに部屋の器物が破損するみたいなこともあるんですけど、頑丈な家なので助かります。壁が薄かったら、今頃苦情が来ていたかも（笑）」

■あはは。ちなみに何を破損したんですか？

「壁に掛けていた時計が落ちました。それでしばらく家に時計がなくて、落ちていた時計の破片をまた踏んだり（笑）。でも好きなアーティストさんのライヴやライヴDVDを観たりすると気分が高まって、自分も早くライヴがしたくて抑えきれなくなってそうなっちゃうんです（笑）。私、音楽以外のはけ口があんまりなくて、常にライヴや楽曲制作にパワーを傾けているので、ライヴをしないと家のなかが大変なことになっちゃうんですよ（笑）。だから、今年はライヴができる機会が多いので嬉しいですね。11月3日には赤坂ブリッツで"UNIVERSE"というワンマンライヴをやらせてもらうんです。4月のワンマン"BIRTH"からこのファイナルの"UNIVERSE"まで、元々は繋げる予定はなかったんですが、タイトルを考えるなかで自然と繋がりが生まれていて……"BIRTH"で生まれたみんなの想いが繋がって、UNIVERSE（宇宙）になるというところに気付いて、自分でもハッとしました。UNIVERSEは、英語では"宇宙"や"世界"っていう意味ですけど、ラテン語では"ひとつひとつの個体が列をなして新しい個体になる"という意味もあって。だからファイナルに向けて、これからのライヴも通して、みんなで想いを繋げていきたいです」

■では最後にファイナルに向けて意気込みをお願いします。

「ライヴサーキットは、ファイナルまでにまだ名古屋、大阪、仙台があるので（取材は8月上旬）、そのなかでもっと丁寧にライヴを運んでいけたらと思います。ライヴごとにタイトルを変えて、それに合わせてセットリストも組んでいますし、毎回違ったテイストでお届けしているので、そちらも楽しみにしていただきたいです。そして、集大成になる11月3日の赤坂ブリッツも是非遊びに来ていただけたら。綾野ましろとしては、これからも北海道を拠点に日本にとどまらず世界でも活動させてもらっているアニメソングのジャンルで、もっとたくさんの人に音楽を届けられるようにまだまだ頑張っていきますので宜しくお願いします！」 B

綾野ましろ ⇒
あやのましろ。北海道洞爺湖町出身・札幌在住。'14年にメジャーデビュー。現在、マンスリーワンマンライヴを展開中9月16日大阪 FANJ twice、10月29日宮城 HooK SENDAI。11月3日赤坂BLITZにて、One-man Live 2017「UNIVERSE」を開催する。

綾野ましろ

透明感ある凛とした歌声が印象的な、北海道在住の女性シンガー綾野ましろが初登場!
展開中のマンスリーライヴの手応えと、11月の赤坂ブリッツへの想いを語ってくれた。

Text ⇒ 花倉有紀子

■ましろさんは歌手デビューして3年になりますが、今でも札幌を拠点に活動されている理由はなんでしょうか?

「歌手になりたいという夢ができてから、洞爺湖町という小さな村から札幌に出てきて音楽をやってきたんですが、そこからの出会いは北海道に根付いたものが多いんです。だからこそ、北海道に住みながら日頃感じることを歌詞や曲作りに活かせたらいいなと思っていて。それが他のアーティストさんにはないカラーになるんじゃないかなと考えています。それに事務所も北海道にあるのですごくやりやすいですね。ただ移動に時間がかかるので、冬とかは大変ですけど(苦笑)」

■アニソンシンガーとして活動されていて、今までのシングルほとんどが人気アニメの主題歌になっていますが、そもそもその道を志したのは?

「最初はジャンルに捉われない歌手になることが目標で、音楽に触れるのが好きだった幼少時代から、ロックでメロディがしっかりした音楽が好きだったんです。それが、札幌に出てきて、音楽をプロデュースしてくださっている安田史生さんと出会ってから、そういうジャンルを確立できたという意識もあったので、そこを大切にしたいと話し合いながら楽曲のデモを作るようになってきて。そのなかで、私が元々アニメが好きだったこともあり、アニソンのなかに自分が好きな楽曲のテイストが多いことに気付いてからは"アニソン"というジャンルをカッコイイなと思うようになって、その道を目指すようになりました」

■アニソンは世界的にも評価が高いですし、ましろさんも7月にあったLAのアニソンイベントに参加されたり、これまでもドイツやシンガポール、台湾などのイベントに出演してきました。アニソンシンガーだからこそ、活動に広がりを感じることもあるんじゃないですか?

「アニソンでデビューさせていただくきっかけがなかったら、こんなに海外に行くことも日本のアニメ文化の広がりを知ることもなかったと思いますし、日本から遠く離れている国でも自分を知ってもらえているのは、アニメに関わらせていただいていることが大きいなって思います。今はアニソンという文化が世界ですごく発展しているので、日本からライヴに行くことに対してみなさんすごく興味を持ってくださるんです。北海道から海外へ行くとなるとすごく時間はかかっているんですけど、行ってみると気持ちの距離の差はあまり感じることがなくて。みなさんが日本のことを好きになってくれるきっかけがアニソンだとしたら、逆に私はアニソンファンのみなさんとイベントでお会いすることで海外のことを好きになるきっかけにもなっているので、アニソンってすごいなと思います。今年もこの後イベントで香港に行ったりするので、楽しみです」

■そして2017年は"ライヴ年"と謳ってライヴ活動に重きを置いているましろさんですが、6月から月1で、「HELLO」「DEAR」「BELIEVERS」など毎回タイトルの違うワンマンライヴをしています。それとは別に、4月には「BIRTH」と銘打たれたライヴもありましたが、一連のタイトルには繋がりを感じますよね?

「もともとライヴを大切にしたいなとデビュー当時から思っていたんですが、なかなかワンマンライヴをやる機会がなく、次までに時間があいてしまうことが多かったんです。ライヴでせっかく築いた大切な居場所が日々の生活のなかで薄れてしまうのは寂しいし、ファンの方も同じ気持ちなんじゃないかと思っていたので、2017年はライヴをたくさんしようと思ったんです。でもいきなり何本もやるとギャップもあるので、まずはマンスリーワンマンをやってみようと。そのなかで、初の2デイズを東京でやったりしたんです。その前にあった4月のライヴは私の誕生月でもあって、"新たな綾野ましろを打ち出したい"という意味や5月にシングル"NEWLOOK"のリリースが決まっていたこともあったので、そこからの意味を込めて"BIRTH"というタイトルにしました」

■シングル「NEWLOOK」では、ビジュアルイメージも大きく変わり、楽曲も突き抜けたロックになっていますが、ご自身にとってのターニングポイントというべき作品になったのでしょうか?

「"NEWLOOK"は今までの自分を汲みつつ新しい一面を出せたら、と思いながら制作しました。今まではみんなを応援したい気持ちをどう表現したらいいのかわからなかったんですけど、ライヴでみんなと接するなかで、引っ張る自信や責任感も大きくなってきて。だからこの曲では、作詞家さんと一緒にではあるんですけど、自分に偽りなくみんなの背中を押せる歌詞を作れたと思います。カップリング(「ANGEL HORIZON」と「Dolly Girl」)では私も作詞をしていて、3曲ともライヴのことを思ってコール&レスポンスができるような歌詞を作っているんですけど、なかでも"Dolly Girl"はこれまで通ってこなかった可愛らしい曲に挑戦しているので、ライヴでのアクセントになっていると思います。これまでは力強い楽曲を"綾野ましろカラー"としてやってきたので歌いこむ曲が多かったんですが、ハードな曲ばかりだとライヴでは限界もあって表現の幅も狭まるので、自分の表現方法を広げる意味でも違ったテイストの曲をやりたかったですし、今後もファンの方のいろんな感情に寄り添える楽曲を増やしていきたいです」

■お話を聞いていても、とてもライヴを大切にされていますが、ふだんライヴをやる際に心がけていることってなんですか?

「"ライヴは私とみんなの居場所だよね"っていつも言っているんですけど、そのためにみんなが思いやりを持って周りの人の気持ちを考えて行動してほしいし、それぞれが自由に遊べる場所でもあってほしいという想いがあるんです。それがだんだんみんなにも伝わってきているとは思うんですが、反面まだ伝わりきらないこともあって。私が歌のなかで表現できることも限られているので、

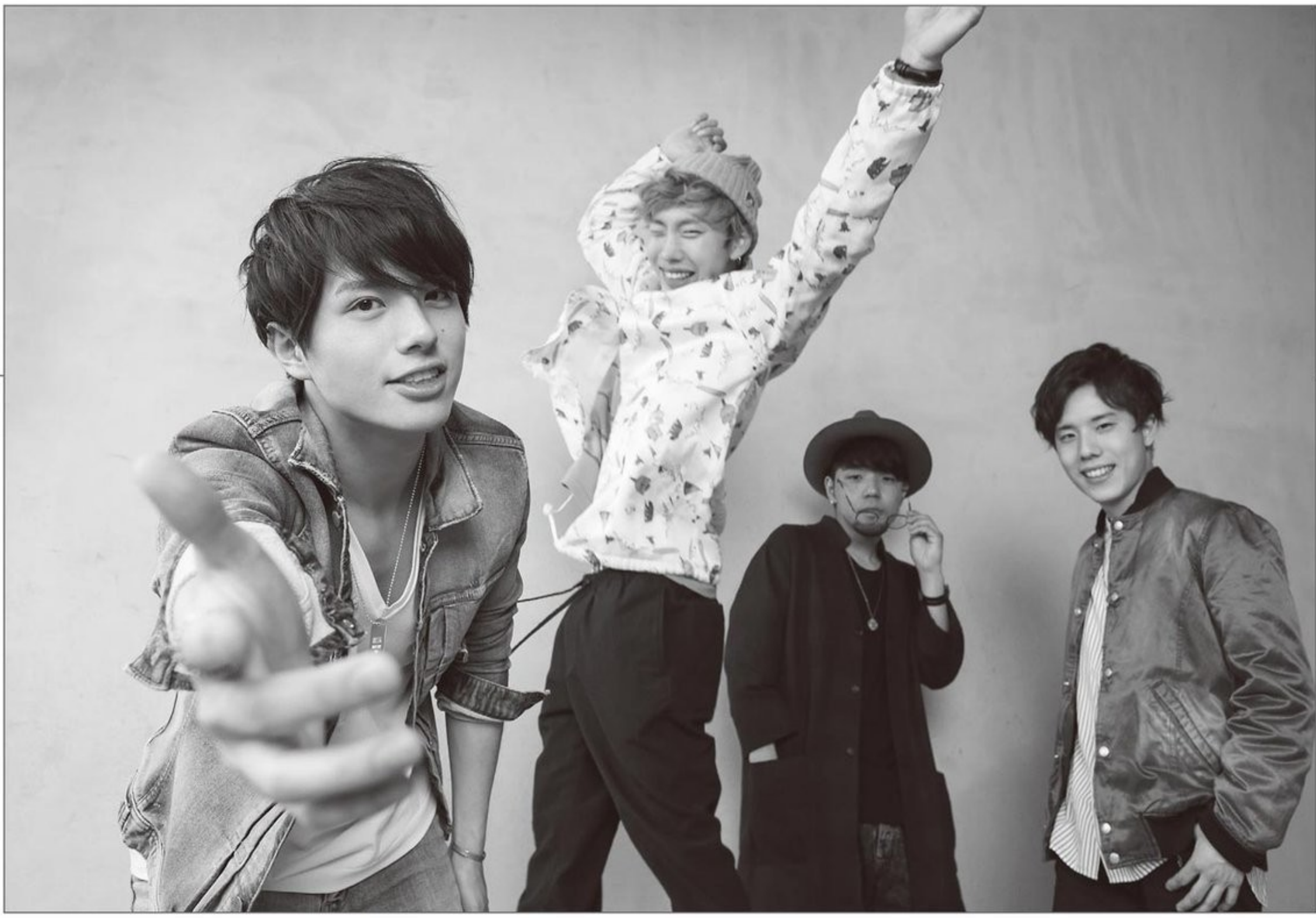

CD+DVD


CD

New Single
NEWLOOK
2017.05.17 Release
CD+DVD ¥1,481(tax out)
CD ¥1,204(tax out)

CD
01 NEWLOOK
02 ANGEL HORIZON
03 Dolly Girl
04 NEWLOOK instrumental

DVD
NEWLOOK MUSIC VIDEO
NEWLOOK ミュージックビデオ・メイキング



[L to R] Mizki：Vo. tatsuma：Dr. ニワケン：B. 陽介：G.

■商品を前に向ける的な?

tatsuma「おー! 近いです!」

陽介「商品を棚の一番前に揃えるみたいな意味なんですよ」

■なるほど。お客さんが商品を買うと、次に置いてあるものが奥まった状態になっちゃうから、それを前に出すっていう。

陽介「そうです。それと、顔をあげて前向きにいこうという歌詞の内容をかけてます」

■カップリングの「120% ～BOOM BOOM SUMMER～」は、まさに夏といった感じですが、この曲はMizkiさんが徳永暁人さんと共作をされていると。

Mizki「普段からいいメロディを作りためているんですけど、その中の一曲を膨らませてもらって、この形になりました」

ニワケン「僕らって今まで季節感のある曲を作ってこなかったんですよ。そういう意味では新しい一歩になったかなって」

tatsuma「やっぱ夏ソングはバンドに一曲は必要ですね。夏＝フェスみたいな連想もあるし、パーティー感も出るし」

陽介「この曲は、歌詞を書いているときからMVの絵が頭に浮かんでいたんですよ」

Mizki「真夏に赤いオープンカーを走らせて、女の子を迎えにいくみたいな(笑)。そのことを話したら、同じイメージを持ってましたね」

陽介「書いていて楽しかったです。ただ、2曲とも夏っぽいので、夏の曲でデビューする印象になるかもしれないんですけど、僕らとしては秋もCellchrome、冬もCellchrome、春も……」

Mizki「なんか、今の選挙みたいだったけど」

陽介「ははははは(笑)。結局、どんなときでも人の心に寄り添える曲、聴いてもらえる曲を作っていきたいです」

■そもそもCellchromeというバンド名はどういうところから出てきたんですか?

陽介「"Cell"は細胞で、"Chrome"は合金という意味があって。4人それぞれの音楽性がくっついて、新たな何かを生むという意味があるんですけど……(笑)」

tatsuma「それは後付けなんですよ(笑)」

ニワケン「最初は響きで決めたんです。あまり攻撃的ではないものにしようとか」

tatsuma「濁点は入れずにとか、ロゴにしたときに丸くなるようにとか。最近のバンド名ってなんかすごいものが多いけど、それだとただのパンチだけで終わっちゃう気がしたから、そうならないものにしようと思ってました。略すとしても"セルクロ"ですぐ略せそうだなとか。でも、Mizkiは最初、この名前に反対してて(笑)」

Mizki「コメダ珈琲に3人がいて、僕が合流したら、"このバンド名で!"って言われて(苦笑)。でも、そういう意図があってこの名前にしたというのを聞いて、今は納得していますし、この名前でよかったなと思ってますね」

■バンド名もそうですし、今日のお話にもあったように、壁を設けずにいろんな人に曲を届けたいというのが、このバンドの根本にはあると。

Mizki「そうですね。みんなが知っているバンドになりたいし、あとは地元の名古屋を盛り上げたいという気持ちもあって。僕らが有名になって、恩返しできるようになれたらいいなって」

陽介「最終的には名古屋名物にね」

Mizki「そのためにも、今はいっぱい曲を書いて、いっぱいライヴをして、と思ってます」 B

Cellchrome ⇒
セルクローム。'15年に結成、名古屋を拠点に活動する4人組ロックバンド。今作「Stand Up Now」でメジャー・デビューを果たし、9月15日に名古屋Electric Lady Landにてデビュー記念フリーライヴを開催する。

Cellchrome

爽やかかつキャッチーな1stシングル「Stand Up Now」でメジャー・デビュー。名古屋発の4人組ロックバンド“Cellchrome(セルクローム)”、初登場です。

Text ⇒ 山口哲生

■2015年11月に名古屋で結成をされたそうですね。

tatsuma「元々は、陽介以外の3人でバンドをしていたんですよ」

■3人は同級生だったり?

Mizki「いや、各々で音楽活動をしていて、そのときにライヴハウスで知り合いました」

tatsuma「で、陽介と一緒にやることになったんですけど、彼が持ってくる楽曲にポップなものが多かったから、今までやっていた曲とのギャップが出てきて。だとしたら、いっそ楽曲も一新して、新規バンドとして始めようって」

ニワケン「お茶の間にも出ていきたいし、もっと幅を広げて活動していきたいなと思っていたんですよね」

Mizki「そのためにも“こういうジャンルはやりたくない”ではなく、とにかくいい音楽をやっていこうっていう」

■ポップなものをやるという基盤がありつつ、全員の音楽的なルーツは結構バラバラとか?

ニワケン「あってるところはあってるけど、バラバラなところはバラバラですね」

Mizki「基本的に全員が好きなのは……ハードロックとか?」

陽介「そうだね。そこは一緒かな」

Mizki「僕は、元々ギタリスト志望だったんで、それこそハードロックとか90年代ヴィジュアル系とかアニソン、ギターがテクニカルな曲を練習していたんですけど、気づいたらマイクを持って歌ってましたね(笑)」

tatsuma「僕は、バンドのドラマーという存在に初めて感銘を受けたのがSIAM SHADEの淳士さんで。そこから淳士さんがリスペクトしているDREAM THEATERのマイク・ポートノイとかを掘りさげていって」

■Mizkiさん同様、テクニカルなものに惹かれていった感じですか?

tatsuma「そうですね。僕も洋楽のメタルやハードロックはよく聴いてました」

■ニワケンさんのルーツというと?

ニワケン「母親がRadioheadとかU2とかが好きだったんで、僕も一緒に聴いていたんですけど、一時期マキシマム ザ ホルモンにハマっていたことがあって。そのときに初めてライヴハウスに行ったんですよ(笑)」

陽介「お母さんと一緒に?」

ニワケン「そう。そこで上ちゃんを見て、俺もベースやってみたいなって。そこからKORNとかLIMP BIZKITとかを聴くようになりました」

陽介「僕はギターを始めたキッカケが、父親経由で知ったLed Zeppelinで。そこから僕もテクニカルなものに惹かれていったんですけど、高校のときにMr.BIGにどハマりしたんです。でも、ギターがキッカケだったけど、ハードロックでバカテクだけど全体を聴くとポップっていう音楽が、僕はすごく好きなことに気づいて」

■それが作風にも影響を与えている、と。

陽介「そうですね。J-POPも聴いていたので、完全な洋楽志向にはならずに、日本のポップスの雰囲気も取り入れつつというか」

tatsuma「陽介は専門学校に通っていて、理論的なものに関しては間違いなくメンバーの中で一番知識があるんですよ」

陽介「逆に、みんなはライヴハウスにずっと出ていたから、そのバランスがガチッとあって軌道に乗った感じはしますね」

■いいバランスがとれているんですね。

Mizki「音楽だけじゃなくて、人間的なバランスもいいんですよ」

陽介「性格的にもメンバー間のバランスがすごくいいです。tatsumaはお調子者で、Mizkiはちょっと天然なんだけど、まっすぐで真面目。僕は超几帳面なザ・A型っていう感じで、ニワケンは物事を冷静に見るタイプで」

■本当にバラバラですね。

tatsuma「でも、バラバラだからこそ、お互いの足りない部分を補いあえてるなって」

ニワケン「今回リリースするシングルの歌詞はMizkiと陽介が共作してるんですけど、そこもいいバランスがとれてるんですよ。Mizkiは自分の思いをぶつける感情的なタイプだけど、陽介は理論的で譜割や響きを大事にしているので」

■そのシングル「Stand Up Now」でメジャー・デビューですね。

Mizki「結成してから、僕と陽介と一緒に曲を作っていたんですけど、リリースするごとに自分達も成長していきたいし、今までやっていなかったものを作っていきたいと思っていて。そのなかで、今回は小田桐(ゆうき)さんの楽曲を作り上げていくということになったんですけど、タイトルで“Stand Up”と言っているように、メジャー・デビューということで、ここから自分達が始まるという曲を作りました」

ニワケン「最終的にいいものになったんですけど、音作りで結構苦戦したところが多くて。僕はラウドなものが好きだったから、ベースの音もゴリゴリさせていたんですけど、今回はイメージ的に爽やかな感じにしたかったんですよ。でも、低音はしっかりさせたいなと思って」

tatsuma「最終的な全体のミックスはすごくこだわりました。しっかりとロックな部分は残しつつ、煌びやかで爽やかなサウンドメイキングというのは、かなり意識していましたね」

■たとえばテイラー・スウィフトみたいなキラっとしたニュアンスを踏まえながらも、ロックバンド然としたサウンドになっていますね。

tatsuma「そうですね。低音以外の部分でも、ロックであることは大事しながら作りました」

■あと、この曲は、アニメ「コンビニカレシ」のオープニングテーマになっていて。

Mizki「この歌詞、コンビニ用語を1ヵ所だけ入れてるんですよ。ちょっとわかりづらいかもしれないんですけど(笑)、“face up”っていう言葉がそうで」


コンビニカレシ盤


通常盤

1st Single
Stand Up Now
2017.08.23 Release
コンビニカレシ盤 CD+DVD ¥1,500(tax out)
通常盤 CD+DVD ¥1,000(tax out)

[コンビニカレシ盤]
01. Stand Up Now
02. Stand Up Now -TV SIZE-
03. Stand Up Now -INST-
Extra Track
MIDNIGHT CHROME~Special Edition~
Guest 寺島拓篤

[通常盤]
01. Stand Up Now
02. 120% ~BOOM BOOM SUMMER~

#08



Text ⇒ B-PASS
Photo ⇒ 薮内努(TAKIBI)

New Era®の[9TWENTY™]¥3,800(税別/ニューエラ tel.03-5773-6733)

AKLO ⇒
アクロ。2012年のデビュー作『THE PACKAGE』が、iTunes総合チャートで初登場1位を獲得。2ndアルバム『The Arrival』は、iTunes Best of 2014のHIP HOP / ラップ部門で年間最優秀アルバム賞を受賞。2016年に所属レーベルをトイズファクトリーへ移し、今年、自身初のドラマ主題歌曲となる『Different Man』を盟友JAY'EDとの共同名義でリリースしている。

Hit The Street w/New Era®
AKLO

New Era®がサポートしたCLUB HARLEMの特別な一夜を渾身のライヴで盛り上げたAKLO。ファンの間ではNew Era®フリークとしても知られる彼へ、ライヴ直前にインタビューを敢行した!

■最近は[9TWENTY™]がお気に入りだそうですが、どんなところが魅力ですか?

「クラシカルな雰囲気と浅い被り心地のフィット感ですね。ツバがカーブしてコンパクトに見えるシルエットも凄く良いなと思っていますね」

■洋服に合わせやすいという人も多いようですが、いかがでしょうか?

「確かにそうですね。あと、僕の場合は最近になってまたオーバーサイズの服を着るようになったので、そういう時にキャップがコンパクトに見えると、ファッション自体がアップデートされている感じがして良いのかなって思います」

■今季もさまざまなシーズナルデザインの[9TWENTY™]がリリースされますが、何か気になるアイテムはありますか?

「8ボールやアイスクリームをモチーフにしたSymbolシリーズはヤバいですね。ピザのミニロゴとかも最高ですし。このシリーズはすべてコンプリートして被ってみたいです」

■今日のライヴも[9TWENTY™]を被って登場されるとか?

「はい。超オーバーサイズのトップスにこの[9TWENTY™]を被ればバッチリだと思います(笑)」

■New Era®が1ヵ月間に渡ってサポートするイベント、『MONSTER -HARLEM 20th ANNIVERSARY SPECIAL Supported by New Era®-』のスペシャルゲストにキャスティングされた感想は?

「いやー、ニューエラさんはホントにセンスがある(笑)。って、それは冗談ですけど、大好きなブランドに指名していただいて光栄です。CLUB HARLEMも久々なんで、今日はパワフルなセットを組んでいるんです。みなさんのエネルギーが爆発するようなライヴにしたいですね!」 Ⓑ

Fall & Winter 2017 AKLO's Recommend Item

9FIFTY™ Original Fit
¥5,800(税別/ニューエラ)



「その時代のカルチャーにヤラれているのもありますが、1990年代的なデザインにはいつも魅力を感じちゃいますね。このColor Blockシリーズはどれも良いけど、あえて選ぶならゴールデンステート・ウォリアーズですかね」

吟遊詩人“高橋 優”が、独自の切り口で世の中を考察するコーナー

高橋 優 連載

その校則を蹴っ飛ばせ。

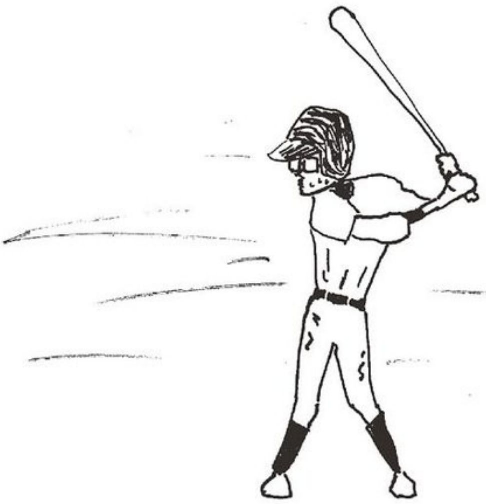


高橋 優 >>>

たかはしゆう。'83 年 12 月 26 日秋田県生まれ。O型。'10 年 7 月 21 日にシングル「素晴らしき日常」でメジャー・デビュー。ニッポン放送「オールナイトニッポンサタデースペシャル 大倉くんと高橋くん」が、毎週土 23 時 30 分～O.A. 中!! 公式サイト【http://www.takahashiyu.com/】ニュー・シングル「虹／シンプル」が発売中!! 9月2日(土)、9月3日(日)に、秋田県 鳥海高原 花立牧場公園 花立グラウンドにて、秋田 CARAVAN MUSIC FES 2017 を開催する。

第百十回

それぞれの夏



五十年に一度の大雨。という言葉を今年だけで何回聞いただろう。そう思ってしまうほど連日どこかで大雨が降っている今年の夏。皆さんの地域はいかがですか？今これを読んでくださっているあなたが無事であることにまず感謝。そんなあなたにとっての大切な方もまた無事でありますようにと願うばかりです。

「虹」という楽曲を書かせていただいたキッカケもあり、今年の夏は僕は高校野球に釘付けです。

これほどまでに奇跡は起こるものなのか。

人は毎日感動を起こすことが出来るのか。

驚きと涙の連続。最初はホームランが出た瞬間や負けたあと泣きながら土をかき集める球児の姿など、試合のハイライトでよく使われるようなシーンで感動していたのだけれど、段々視点が移り変わって、大差をつけられて負ける可能性が高まっている中でも毅然とした表情でキャッチャーとアイコンタクトを交わす投手の表情に感動したりするようになってきました。

最後の最後まで諦めない。

チームメイトに不安を感じさせない。

逆転の可能性はゼロではない。

練習通りやろう。

野球そのものを楽しもう。

…平然を装うその表情からは様々な心掛けやそれまでの選手の日々が垣間見えてきて、もう泣けます。そのまま点差は縮まらず、負けが決まった瞬間に抑えていた感情が溢れ出てくるように顔をグシャグシャにして泣き出す選手。そのシーンでまた胸が熱くなります。

うん、君は試合には負けたよ。でも君が僕の心を一番熱くしたよ。…とか一人でテレビに向かって泣きながら話す自分どんだけキモいんだと思いながら(笑)。

試合に負けて勝負に勝つという言葉が僕は好きです。勝負どころをどこに置くかは自分次第です。野球。というルールの中だけで言えば点数があり数字での勝ち負けが全て。しかし、感動に点数はつけられません。そして、その試合から球児たちは何を掴み取り、その後の人生にどう活かしたか？という部分にも点数はつけられません。甲子園で負けて失敗して恥をかいても、そこを終着地とせず、自分の人生という名の勝負にはさらに挑んでいってほしいなーと思います。ん？　じゃあそう言う自分はそれを実行できているか？という自問がいつも次に始まり、よし、それじゃ自分も頑張ろう。と結局なります。

勿論、九回最後の攻撃でまさかの逆転サヨナラ勝ち。みたいなシーンも感動します。そういう奇跡が、きっと精一杯生きている人の日々の中には起こりうるのだなーと思います。そういうときの、解き放たれたような笑顔は本当に虹より美しく、見せてもらえて幸せだと思います。

高校球児たちに負けないくらいの情熱やトキメキを胸に、何歳になっても今を生きていたいものです。

九月二日、三日開催の秋田CARAVAN MUSIC FES 2017 in 由利本荘。

僕にとっての夏。球児たちにとっての甲子園。高橋にとってのキャラバンフェス。球児の背中に学び、僕も全身全霊で奇跡のような時間を起こしにいこうと思います。

2017 8/18 たかはしゆう

三色丼と紅しょうが

題字 岡田翔太朗

MAGIC OF LiFE 連載

【第九十九回】

「Answer」MVと学生時代

Text ⇒ 山本祥子
※山下拓実(G.)は療養中のためインタビューは欠席

「Answer」Music Video at 栃木翔南高校










ニュー・アルバム『Niemeyer』収録の「Answer」のミュージックビデオは栃木の高校を借りて、学生にも協力してもらって撮影。MVについてと、それぞれの学生の頃の話を聞いてみました。

■昨日、「Answer」のMVを栃木で撮影してきたとお聞きしましたが。

岡田「ハイ。台風がくるって言ってたのに、恐ろしいほどのカンカン照りで」

高津戸「たぶん監督さんが歌詞からイメージしてくれたんだと思うんですけど、栃木の高校にお邪魔して、生徒さんにも参加してもらって。実際、時間が押すくらいテイクを重ねちゃったのに、みんな元気で、一生懸命やってくれて」

渡辺「今回のMVは全編一発撮りなんです。だから生徒さんは暑い中、常に緊迫感でね」

高津戸「けど教室で喋るシーンとか、めっちゃうまくって。演技には見えなかったです。もうすぐ完成するらしくて。楽しみやー」

■そっか。完成までのそのスピード感は一発撮りだから。

高津戸「そうそうそう。誰より、何より、協力してくれた生徒の皆さんに見せたいよね」

■そしてせっかくなので、みんなの学生時代の話も聞きたいなぁと思っています。

高津戸「翔ちゃんの学生時代、知りたい!」

岡田「今と全然変わらないよ。電車で30分の距離にある高校から友達と歩いて帰ったり。チャリでお台場に行ってみたり、ひと夏に7回(笑)。目的は自転車で遠くに行ってみたいっていう。片道30キロ。最初は3時間掛かってたんですよ。けど信号の少ない道を探しだして、最終的に45分で行けるようになっちゃって」

■まさに都会のアドベンチャーですね(驚)。

岡田「あと学校帰りに渋谷に行ったら、スカウトに声をかけられたんですよ。イケメンの友達かと思いきや、僕のほうで。当時からぽっちゃりしてたんでなんだろうと思ったら、テレビ番組の企画で、イケてない学生を改造するみたいな。けど僕は全然知らなかったから、次の日、学校でちょっと自慢気に話したら、"あのイケてないやつが出るテレビね"って言われて、ショックでした」

高津戸「すげぇな。俺らは学校終わりに校舎前のパン屋に寄って、近くの河原で仲間と食べながら星空を見るとか、なんか競争して、罰ゲームで好きな子に告るとか、そんな遊びだよ」

岡田「あ～、最っ高!」

高津戸「俺、中学校の頃はお調子者だったんですよ。でも高校に入ったらヘンに"俺は特別なんだ"みたいになって。授業を受けないで図書館に行ったり、ひとりで絵を描いてみたり。クラスではすっかり煙たがられちゃって」

■部活は何かやっていたんですか?

高津戸「軽音楽部で友達とバンドを組んで、ハイスタとかのコピーに明け暮れてましたね。そう、1年の文化祭で視聴覚室を借りてライヴをやったんです。そしたらクラスのみんなが話しかけてくれるようになりまして」

■いやいや。高校の文化祭でバンドをやると、女子は「キャー!」ってなるんじゃないの?

高津戸「ええ、モテましたよね。あははは。バレンタインデーはマジで青春! 渡り廊下に呼び出されて、もじもじしながらチョコレートを渡してくれたりとか。可愛かったぁぁぁ」

渡辺「ええなー。俺は中学でバレーボールやりながら家でベース弾いて、塾に行ってました」

■中学生だと、一番燃えていたのは部活?

渡辺「いやぁ、一応キャプテンだったんですけど、そんなに真剣な部でもなかったし。そもそも部員数が少なくて、ほぼヤンキーっていう」

■(笑)。バンドを組んだりはしてなかったの?

渡辺「楽器をやってる人がいないんですよ。なのでベースは家でひとりで弾いてましたね」

高津戸「けど中学生で楽器始めようと思ってベースを選ぶやつって、絶対ヘンタイだよね」

渡辺「小6の時に兄貴とハイスタのライヴビデオを観て、兄貴はそれでギターを買って。けどハイスタってベースがかっこいいし。自分は中学に入ってすぐベースを買ってもらいました」

高津戸「ええーっ!? ハイスタと言ったら、やっぱりギターヒーローでしょ」

岡田「ハイスタは3人ともカリスマですからね。僕もドラマーとしてすごく憧れてました」

■面白いね。それぞれの街でハイスタを聴いて、自分の楽器のヒーローを見つけたっていう。

一同「確かに!!」

MAGIC OF LiFE ⇒ マジックオブライフ。高津戸信幸(Vo.&G.)、山下拓実(G.)、渡辺雄司(B.)、岡田翔太朗(Dr.)による4人組ロックバンド。'03年8月、DIRTY OLD MEN結成。'12年4月、現メンバー構成に。'14年10月、バンド名を改名。'17年9月6日に、ニュー・アルバム『Niemeyer』をリリース。9月末からアルバムツアーを開催。

(タイトルの由来)高2の時、バンド結成にあわせ、「DIRTY OLD MEN」と最後まで争ったバンド名が「三色丼」。4ピースになったゆえに"紅しょうが"がトッピング? バンド名が一新されて、ある意味シーズン3か!?

※当連載のカラー写真をB-PASSホームページ< http://www.shinko-music.co.jp/ >にちょこちょこ掲載中。アクセスしてみてね!

部内で担当しています。キー局は人数が多いぶん、その仕事ごとに人がいるのですが、ローカル局の技術部員は最小人数で機械という機械すべてを任されています。それは多くのことに関われるという利点でもありますし、やらなければいけないというプレッシャーにもなります。なんでも屋みたいなものですね。私が主に担当しているのが、音響関係の機材です。音響機材の購入からそれらの保守、メンテナンスなどに関わることが多いです。勤務時間は10時出社で18時ですが機材トラブルが起これば深夜近くまで残ることもあります。何か起きたらその対処に向かうということが多いため仕事内容的にはかなり不定期です。問題が起きなければ一番暇な部署のはずなのですが（笑）、毎日何かしらトラブルが現場では起こっています。音響機材だと、マイクが急に壊れたら取り替えて修理に出したり、放送機材だと、放送を出す電波の機材が調子悪くなったら山へ向かったり。突発的に起こるので、常にスタンバイしている感じです。その為いつでも出動できるように会社近辺に自宅があります。そうでないと災害などで対応できなくなるので。ルーティン作業としては、放送の大枠・タイムテーブルのプログラムのチェックを毎日行なっています。これは予め4月・10月に大まかなものを作成し、毎日2日後のデータを放送機械に流し込んでいます。放送局の要となるこの機械には 放送する番組やCM情報がすべて集約されています。機械から現場には"1ST（NACK5の本社スタジオ）から放送していますよ"とか"CMにあと何秒で入りますよ"といったことを2日前に流されたデータから逆算して教えてくれたりします。これがうまく働かないと、スタジオで流した音楽も、放送に乗らなくなってしまうので大事です。ほかは総務省やロケに関係する手配、申請書類の作成などの事務的な仕事もあります。入社して数ヵ月は、マスター（コントロール）ルーム（※主調整室／テレビ局にもある）という音声を監視している場所で、マイクで拾った音が電波に乗り、送出されるまでの一連の流れを学んだり、ミキサー研修として生放送現場のミキサーをしていたりと、デスク外での仕事が多く、会社のデスクにいないのが当たり前でした。今後は、いつか海外での生中継に行ってみたいなと思っています。昔は難しかったのですが、今はネットワークが充実してきて海外でも気軽に中継できるようになってきたみたいなので、その際はバカンスも兼ねたいですね（笑）。

Q：目指す人にアドバイスを！

初めに、ラジオで何に携わりたいのか明確に何をやりたいのか決めるのが大事です。私は技術部（無線機材の取り扱い）がやりたかったので、無線の勉強をしました。音響を極めたいのか？　番組を作りたいのか？　パーソナリティーになって話したいのか？　ラジオには様々な関わり方があります。まずは何をしたいのか、それを実現する為には何をしたらいいのか。目指すべき目標と、そこから逆算した現在の自分について考えることが大事かなと思います。ちなみにラジオ局の仕事は、編成や制作であれば理系の知識が必ずしも必要ではないのですが、技術職は各局機械オタクの巣窟（笑）になっていますので、付いていけないかもしれません（笑）。

DREAM-PASS

ラジオ局で働くには

・ラジオが好き
・何をやりたいのか決める
・専門的に知識を増やす

MUST ITEM



はんだごて
会社に1台で、使っているのは主に私です。



携帯ラジオ
外中継中のOnAir確認や、電波が正常に出ているか確認するときに使用しています。電波が届かないというリスナーの声で、このラジオ片手に調べに行ったりもします。



ヘッドフォン
現場に行くときに使うものです。音響現場では定番のタイプです。



らじっと君
NACK5のキャラクターです。LINEクリエイターズスタンプが販売中です。



手帳
これに会議や特番などのスケジュールを書き込んでいます。

憧れの音楽業界への近道教えます!

DREAM-PASS ドリパス! vol.52



小澤明音さん

FM NACK5　技術部

日本工学院八王子専門学校
電子・電気科　電子工学コース 卒

音楽業界に興味はあってもどんな仕事があるの？　どうやってなればいいの？　そんな疑問にお答えする連載第53回目！　ラジオ局の技術部として活動する、小澤さんにお話を聞きました。

Q: この仕事を始めるきっかけは？

BUMP OF CHICKENがすごく好きで、最初は出演する番組を聴くためにラジオを聴き始めて、高校の時は毎日欠かさずといっていい程、ウォークマンでラジオを聴いていました。丁度将来の職について真剣に考え始めるタイミングだったのもあり、ラジオ好きからそのままラジオに関する仕事をしたいという思いになったのがきっかけです。番組の顔となるパーソナリティーや裏方のディレクターではなく、裏で密かに彼らを支えられるような仕事を考えていて、一番ぴったり合うのが放送局の局員だったんです。機械をいじったりするのも好きで、その両方ができる技術部の仕事を選びました。進路は無線の勉強ができて機械に携われる電子・電気という学科がある日本工学院を選びました。親には最初は全然話を聞いてもらえず、実際に無線免許（第1級陸上無線技士）を取得したことで認めてもらえました。普通は局員になりたくても、専門学生はとってもらえないのが現状です。無線の免許があると大卒と同等という証明になるので、放送局からするとアピール力があるそうです。専門で勉強していたときは、ヘッドホンアンプなどの電池で動くような小さい電圧のものを作っていたのですが、実際に働くと、設備が数千ボルトとか大きい電気で動かすものなど、それまで手をつけたことのないものだったので、そういう部分では戸惑いました（笑）。触れれば即感電してしまうような機械の保守や、重い機材を運ぶ力仕事もあり、初めはラジオの仕事でこんな危険かつ肉体労働をやるとは思っていませんでしたね（笑）。就活は、とにかく募集があれば受けようという気持ちでいたんですけど、はじめに受けていたところがダメで……。夏前くらいにNACK5の募集を見つけて、今年で勤続3年目になります。好きだった機械にも触れられ、ラジオにも携われるので、やりがいを感じています。

Q: 詳しいお仕事内容を教えてください。

音響の機材と放送電波を出す放送の機材を取り扱うのが主な仕事ですが、会社のパソコンや空調設備なども

JOB PHOTO





スタジオです▲▶



FM NACK5
79.5MHz

東京・埼玉を中心とする首都圏を放送対象地域とした放送局。radikoでの配信地域は、埼玉・東京・神奈川・千葉、茨城・栃木・群馬の1都6県。また、radiko.jpプレミアム（有料エリアフリー聴取）参加局。

8月末〜9月中旬の最新リリース
久しぶりの大作も登場
シングルが多め、こまめにチェックを

08.30 on sale | album | KICK THE CAN CREW
KICK!

SPEEDSTAR RECORDS／初回盤DVD付 ¥4,000／通常盤 ¥3,000

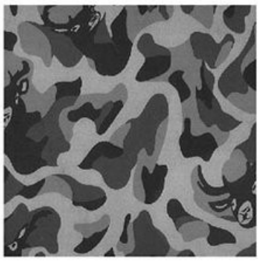


約14年の時を経た、00年代初頭にラップをJ-POPリスナーに浸透させた功労者の復活作は、各自のスキルアップに加え人間的成長も刻む期待以上の仕上がり。"まだまだやりつくした感ゼロ"と宣言するリード曲02.を筆頭に、かつてなく緻密なマイクリレーの04、名曲「タカオニ」「カンケリ」を彷彿させる10.など、3人の連携は鉄壁。ミドルテンポ、グルーヴィーでメロウな曲が多く、大人になったリスナーの耳にフィットするはず。（宮本）

[CD]01.全員集合　02.千%　03.今もSing-along　04.SummerSpot　05.なんでもないDays　06.完全チェンジTHEワールド　07.また戻っておいで　08.また波を見てる　09.I Hope You Miss Me a Little　10.タコアゲ　[DVD]Music Video 他

08.30 on sale | mini album | tacica
新しい森

SME Records／初回盤A BD付 ¥2,778／初回盤B DVD付 ¥2,593／通常盤 ¥1,667



風通しの良いバンドサウンドが印象的だった昨年の6thフルアルバムの感触を引き継ぎつつ、ツアーメンバーをレコーディングに起用してより一体感かつライヴ感ある音へ。ダイナミックに疾走する01.や明るくキャッチーな02.、開放感溢れる03.はもちろん、ファンキーなベースとフォークソングが合体したような04.やロックバラード06.など、ミドルテンポの曲から感じ取れるうまみとコクがいい。また一歩進化を遂げたミニアルバム。（宮本）

[CD]01. mori　02.諦める喉の隙間に新しい僕の声が吹く　03.YELLOW　04.群青　05.youth　06.回転盤　[BD･DVD]Live in TIMELINE for "jacaranda"

09.13 on sale | album | 田口 淳之介
DIMENSIONS



UNIVERSAL J／初回盤A･B DVD付 ¥3,900／初回盤C･通常盤 ¥3,000

メジャーデビュー･シングル「Connect」を含む1stフルアルバム。トロピカルハウス以降のシンセサウンド、ヒップホップ、ダンスホールレゲエなどを自在に取り入れたトラック、そして、"ここから自分のエンターテインメントを確立させてみせる"という意志を散りばめたリリックなど、田口 淳之介のソロアーティスト像をリアルに描き出すことに成功している。抑制の効いたヴォーカル表現とアタックの強いラップのバランスも印象的。本当に才能豊かなアーティストだと思う。（森）

[CD]01.DIMENSION　04.G･O･N･G(feat. DAZZ)　05.Connect(Music Video Version)　06.FRIDAY NIGHT　07.GOEMON(feat. HIFANA&KIRA)　08.Gradations　09.CRIMSON　10.On My Way(feat. Elli-Royal)　11.On the Moon(Acoustic Version)-Bonus Track- 他 全11曲　[DVD]Music Video

09.06 on sale | album | RIZE
THUNDERBOLT〜帰ってきたサンダーボルト〜

Epic Records Japan／初回盤BD付 ¥4,630／通常盤 ¥2,778／アナログ盤 ¥3,333



約7年ぶりのアルバム。その01.が、結成翌年のインディーズ音源と同じというところからドラマチックだが、02.での"カミナリを落としに来たんだ"という宣言、緊迫感とダークさを持つヘヴィロック13.と、RIZERを熱くする。童謡に漂う薄暗さとJESSEの記憶違いというユーモアをロックに混ぜ込んだ05.の遊び心と余裕感は現在の彼らならではだ。15.のラップが連れてくる"あの頃"と"今"を繋ぐ諦めきれない想いが心を震わせた。（大西）

[CD]01.〜PROJECT FROM THE EAST TOKYO〜　02.帰ってきたサンダーボルト　05.うしろの少年　06.〜What time is it〜　08.JUSTICE　10.LOVEHATE(ALBUM ver.)　13.COLOURS　15.Where I belong　16.〜PROGRESS〜FIRE BALL 他 全17曲　[BD]LIVE&BACKSTAGE映像

09.06 on sale | album | シド
NOMAD

Ki/oon Music／初回盤A DVD付 ¥3,611／初回盤B 写真集付 ¥3,611／通常盤 ¥2,870



3年6ヵ月振りとなる待望のオリジナルアルバム。ストリングスがシリアスな雰囲気を与えながらも、再会の景色を力強く描いたドラマティックな01.を始め、メロウに酔わせる04、ヘヴィなギターを轟かせる05.に、荒廃的でインダストリアルな07.や、スキルフルなプレイをさらりと聴かせるフュージョンな08.など、次から次へと飛び出してくる彩り豊かな楽曲群に身体も心も踊らされる。作品を締めくくるバラード10.も絶品。（山口）

[CD]01.NOMAD　02.XYZ　03.硝子の瞳　04.スノウ　05.躾　06.バタフライエフェクト　07.低温　08.KILL TIME　09.螺旋のユメ　10.普通の奇跡　[DVD]NOMAD -Specialインタビュー映像-

09.06 on sale | album | 神聖かまってちゃん
幼さを入院させて

WARNER MUSIC JAPAN／初回盤DVD付 ¥4,900／通常盤 ¥3,000



TVアニメ「進撃の巨人」エンディングテーマ「夕暮れの鳥」を含む3年ぶりのオリジナルアルバム。社会と自分に対する憎悪、諦念、挑発を表出させながらも、聴き終わったあとは不思議な清涼感に包まれるソングライティングはさらに進化。シューゲイザー、アイドルポップ、クラシックなどを共存させたサウンドメイクも印象的だが、何よりも素晴らしいのはの子のメロディセンスがさらに活かされていること。明らかに最高傑作。（森）

[CD]01.夕暮れの鳥　02.イマドキの子　03.陸上部の夏　04.ねこねこレスキュー隊　05.非国民的アイドル　06.まいちゃん全部ゆめ　07.雲が流れる　08.緑の長靴　09.僕はぬいぐるみ　10.おはよう　11.光の言葉　12.日々カルチャア　13.不安定ねこくらげ　[DVD]ライヴ映像

09.06 on sale | album | GRAPEVINE
ROADSIDE PROPHET

SPEEDSTAR RECORDS／20th Anniversary Limited Edition DVD付 ¥4,000／通常盤 ¥3,000



聴き手に委ねられた＝読み解きが止まらぬ歌詞、ホットなグルーヴ、密度の濃いサウンド。言葉にすればいつものバインだけど、感触は軽やかで猛烈に開けている。本作の幕開け曲として配置されたことで新たな意味を放つシングル「Arma」。〈このままここで終われないさ〉語りかけるような歌声は、02.のグッと腰を落としたギターのアンサンブル、最小限の音で核心を突く05、渾身の11曲とともに、20周年の宣言として高らかに響く。（山本）

[CD]01.Arma　02.ソープオペラ　03.Shame　04.これは水です　05.Chain　06.レアリスム婦人　07.楽園で遅い朝食　08.The milk(of human kindness)　09.世界が変わるにつれて　10.こめかみ　11.聖ルチア　[DVD]ライヴ、Music Video、ドキュメンタリー映像

※価格はすべて税抜き価格で表示しています

09.06 on sale | album | MAGIC OF LiFE
Niemeyer

STELLA OFFICE／CD+DVD ¥3,000



既発曲の多さはMAGIC OF LiFEの1年間の躍動の証。しかしそれ以上に、アルバムのために制作された楽曲に込められたチャレンジ精神と探究心と遊び心は、彼らの広がり続ける夢の矢印と言えるかもしれない。聴いた側から口ずさみたくなる01、言葉の羅列のようなリリックと打ち込みを前面に押し出した異色作06、提供曲のセルフカバー10、ライヴではテッパンの11.まで、どれもこれも繰り返し聴きたくなる名曲揃いだ。（山本）

［CD］01.Answer 02.見えない私と見える僕 03.Jewelry 04.はじまりの日々 05.線香花火 06.Kenka 07.スキルフラワー 08.Schroedinger 09.乱舞ランデブー 10.それでいい 11.スターチス～Acoustic Ver.～ ［DVD］ライヴ映像

09.06 on sale | album | MERRY
エムオロギー

FIREWALL DIV.／初回盤DVD付 ¥3,500／通常盤 ¥3,000



バンド名の頭文字である「M」と、「イデオロギー」を組み合わせた造語を掲げた約2年10ヵ月振りのフルアルバムが到着。彼らららしいパンキッシュで攻撃的な楽曲群に、倒錯的に、官能的に、風刺的にと、鮮烈なインパクトを与える言葉達が刻まれているが、なかでも、バグパイプと聖歌隊風なコーラスを交えた02.や、琴の音色と悲鳴や叫び声が絡み合う10.がとにかくカオティック。その世界観に激しく打ちのめされる。（山口）

［CD］01.「M」World Order 02.MASS CONTROL 03.犬型真性MASOCHIST 04.gaudy 05.平日の女 -A面- 06.Black flag symptom 07. 傘と雨 08. F.J.P 09. Happy life -reprise- 10. SIGHT GLASS 11. エムオロギー ［DVD］ライヴ映像

09.13 on sale | album | GLIM SPANKY
BIZARRE CARNIVAL

Virgin Music／初回盤DVD付 ¥3,700／通常盤 ¥2,700



ウッドストック周辺のロックやブルース音楽を根っこに持つ男女2人組新世代ロックユニットの3rdアルバム。ジャニスを思わせるハスキーでパワフルなヴォーカルの松尾レミ、ペイジがとりついたようなギターリフが絶品のギター亀本寛貴が全身全霊を傾けたロック作品が完成。ライヴライクな曲もバラードも、彼らの色に満ちた曲ばかり。50代以上の音楽好きには懐かしく、若い人には新鮮に聴こえる世代を超えた好盤である。（伊藤）

［CD］01.THE WALL 02.BIZARRE CARNIVAL 03.The Trip 04.吹き抜く風のように 05.Velvet Theater 06.END ROLL 07.Sonntag 08.ビートニクス 09.美しい棘 10.白昼夢 11.アイスタンドアローン ［DVD］ライヴ映像

09.06 on sale | EP | uchuu,
KEEP ON

SPACE SHOWER MUSIC／初回盤DVD付 ¥2,000／通常盤 ¥1,389



Key.脱退で4人編成になったが、プログラミング×生バンドのグルーヴでスケールの大きなダンスロックを生み出す基本は変わらず。アナログシンセサイザーによるぬくもりある音像、アグレッシブなギターロックを組み合わせた01.は、レトロフューチャーなトキメキを呼び覚ます必殺技だ。よりダンスミュージックに接近した02、キャッチーな歌ものに特化した03、アコギと弦が美しく響く04.など、どの曲にもアイデアが溢れている。（宮本）

［CD］01.Keep on living in my music, 02.over myself 03.未来都市 04.am 2:35 05.TimeLINE ［DVD］ライヴ映像

09.20 on sale | album | yonige
girls like girls

WARNER MUSIC JAPAN／¥2,300



話題のロックバンドのメジャーデビュー作。と言っても、相変わらず主人公は渇望を抱えた普通の女の子で。詞曲を手がける牛丸ありさは目の前で起こる現象の、その周りに渦巻く思惑や欲望までもを感じ取り、メロディにして、歌詞にして、歌にして、少しぶっきらぼうに手渡す。ごっきんのベースが歌声の一番近くで寄り添う。10.から伝わってくる"変わんないから"みたいな決意と、全10曲が示す未来の予感のコントラストが眩しい。（山本）

01.ワンルーム 02.さよならプリズナー 03.各駅停車 04.バイ・マイ・サイ 05.スラッカー 06.おうまさん 07.沙希 08.とけた、夏 09.また明日 10.トーキョーサンセットクルーズ

09.13 on sale | album | あいみょん
青春のエキサイトメント

WARNER MUSIC JAPAN／¥2,800



天才肌のシンガーソングライター、あいみょんの1stフルアルバム。ファンキーかつロック、たまにフォーキーな彼女のサウンドは世代を超えて心に刺さる。言葉を選ばない、辛辣かつ、ストレートな歌詞は、言いたいことをダイレクトに伝えてくれるが、それは時にたまに鋭い凶器になる。インディーズ時代の空気をそのまま残した楽曲陣が◎。名刺代わりとなる1枚目らしく、楽曲の幅が広く、彼女の未来が期待できる仕上がりだ。（吉田）

01.憧れてきたんだ 02.生きていたんだよな 03.君はロックを聴かない 04.マトリョーシカ 05.ふたりの世界 06.いつまでも 07.愛を伝えたいだとか 08.風のささやき 09.RING DING 10.ジェニファー 11.漂白

08.23 on sale | album | androp
SOS! feat. Creepy Nuts

ZEN MUSIC／初回盤DVD付 ¥2,300／通常盤 ¥1,200



R-指定とDJ松永によるCreepy Nutsを迎えた異色のサマーソング01.は、「ツァラトゥストラはかく語りき」を大胆にサンプリング。壮大なトラックをバックに、"夏が大好きなリア充"と"夏が大嫌いな非リア充"の対立構造（というよりは、後者による妬み僻みのオンパレードのほうが的確?）を描きつつ、最後は肩を組んで大団円に持っていく流れがかなりピースフル。レゲエな02.も心地よく、終わらない夏のお供に是非!（山口）

［CD］01.SOS! feat. Creepy Nuts 02.Sunrise Sunset 03.Prism（one-man live tour 2017 "angstrom 0.8 pm" tour final） 04.SOS! feat. Creepy Nuts（instrumental） ［DVD］Music Video、Documentary film、Commentary Video

08.23 on sale | single | 福耳
ブライト / Swing Swing Sing

AUGUSTA RECORDS／初回盤DVD付 ¥1,600／通常盤 ¥1,200



オフィスオーガスタ所属のアーティストたちによる「福耳」。来年結成20周年を迎えるこのスペシャルユニットの5年ぶりのニュー・シングルだ。後悔の言葉を口にするんじゃなく、この瞬間を共に生きよう、と告げる長澤知之作の01。モータウンビートにのせて、悩んでたら終わっちゃうんだよ 走れ、まずはそれから、と歌う秦基博作の02。共に力強いメロディと歌詞に背中を押される2曲だ。プロデュースは、山崎まさよし。（伊藤）

［CD］01.ブライト 02.Swing Swing Sing 03.ブライト（Instrumental） 04.Swing Swing Sing（Instrumental） ［DVD］RECORDING DOCUMENTARY

08.23 on sale | single | 凛として時雨 DIE meets HARD

Sony Music Associated Records／初回盤DVD付 ¥1,600／通常盤 ¥1,200



新曲リリースはおよそ2年振り。11人の脚本家を起用した新機軸のパニック・コメディ、テレビ東京系ドラマ24『下北沢ダイハード』オープニングテーマ01.は、ドラマのテーマを汲み取ったシリアスかつシュールな出来栄えで、ノイズギターにヘヴィかつダンサブルなビート、ポップなメロディに言葉遊びを駆使した歌詞のマッチングが絶妙。よりダークでハードエッジな02.もメロディは非常にポップで、時雨健在を印象付ける充実の1作。（宮本）

[CD]01.DIE meets HARD　02.I'm Machine　03.DIE meets HARD(Koji Nakamura Remix)　[DVD]Music Video、DIE HARD RADIO

08.23 on sale | single | FTISLAND Paradise

WARNER MUSIC JAPAN／初回盤A・B DVD付 ¥2,000／通常盤 ¥1,200



バンド結成10周年イヤーにふさわしい、ストレートなラブソング。ドラマティックなバラードに乗る、バンドサウンドがとても抒情的で美しい。それもそのはず、MIXのエンジニアには、リンキンパークを手掛けるクリス・ガーランドを起用。圧倒的に音が広がる、気持ちのいい仕上がりに。イ・ホンギが手がけた歌詞には、これまで応援してくれたファンに対して、"ずっと一緒に歩いていこう"というメッセージが詰まっている。　（吉田）

[CD]01.Pradise 02.Stay what you are 03.What about me?　04.Champagne(初回A)　04.A light in the horest(初回B)　04.Shadows(通常盤)※04.は「FTISLAND Arena Tour 2017 - UNITED SHADOWS - Live at 日本武道館 2017.6.2」音源　[DVD]Music Video、ライヴ映像 他

08.23 on sale | single | Flower たいようの哀悼歌（エレジー）

Sony Music Associated Records／初回盤A DVD付 ¥4,491／初回盤B DVD付 ¥1,713／通常盤 ¥926／期間限定盤 ¥926



E-girls新体制後、初となるFlowerのニュー・シングル。彼女たちらしい、世界中の陰を背負いながらも、光をもがきながら探し歩み続けるようなミディアムバラード。決して明確な答えを出さず、聴き手の心に訴えかけるこの曲はとても悲しい愛の歌だ。小竹正人の切なく、苦しく、深い歌詞の世界を、どんなダンスで色づけてくれているのか、MVで体感してもらいたい。人に見せない本音を覗かれているなと、ハッとする02.も必聴。（吉田）

[CD]01.たいようの哀悼歌　02.Stranger　03.熱帯魚の涙(Asiatic version)※初回A・Bのみ　04.たいようの哀悼歌 instrumental［期間限定CD]01.たいようの哀悼歌 -Another version-　02.たいようの哀悼歌 -Another version- TV edit　03.たいようの哀悼歌［DVD]Music Video 他

08.23 on sale | single | 雨のパレード Shoes

SPEEDSTAR RECORDS／初回盤DVD付 ¥2,000／通常盤 ¥1,200



楽曲から滲み漂うノスタルジー。ドラマ『下北沢ダイハード』に書き下ろし寄せた結果だろうけれど、今春発表のアルバム『Change your pops』に込めた強い決意の続きでもある。だからこの曲で歌われる〈あの頃〉は思い出して懐かしがるものではなく、今の自分を奮い立たせるスイッチなんだ。もちろん1個1個の音も、全体の音質も、音に乗った言葉も、言葉の余韻も、すべてが美しい。初回盤は全15曲収録のライヴDVD付き!　（山本）

[CD]01.Shoes　02.Thunderbird　03.Voice　04.Hollow［DVD]ライヴ映像

08.30 on sale | single | SPYAIR MIDNIGHT

Sony Music Associated Records／¥1,111



表題曲はTVドラマ『ウツボカズラの夢』の主題歌だ。アタックの強いピアノリフ、大人びた空気を発するベースライン&ドラム、ギターのコード感……大胆にジャズの要素を取り入れつつ、ロックに染めたサウンド。さらにはラップセクションを挟みSPYAIR流ミクスチャーロックを作り上げた。"幸せになりたい。"という欲求の下、泥臭く生きる姿を描いた歌詞に滲む主人公の葛藤からは、自分の居場所を探すさまが伝わってくる。（大西）

01.MIDNIGHT　02.The Way of My Life　03.MIDNIGHT(inst.)　04.The Way of My Life (inst.)

08.23 on sale | single | キュウソネコカミ NO MORE 劣化実写化

Getting Better Records／初回盤DVD付 ¥1,500／通常盤 ¥1,000



01.は、誰もが一度は怒りやら失望やらを覚えたことがあるであろう「漫画の劣化実写化」がテーマ。アッパーなビートの上で、劣化実写化でありがちなことに対してメスを入れていきながらも、それがどうなのかは<自分の目で見て決めろ>と、他者の意見に流されがちな世相も斬ってくるところはなんとも彼らしい。03.はタマホームのCMソングとしてオンエア中だが、一度でいいから歌詞に目を通してみてほしいファストチューン。　（山口）

[CD]01.NO MORE 劣化実写化　02.イキがいいのだ　03.家　[DVD](架空の)実写版「滅びのレッカ」メイキング、おまけ"海賊盤ダメダメキャンペーンビデオ撮影"、「NO MORE 劣化実写化」Music Video

08.30 on sale | single | 04 Limited Sazabys Squall

NIPPON COLUMBIA／初回盤DVD付 ¥1,600／通常盤 ¥1,000



一気にトップスピードに達するリズム、エッジが立ちまくったギターサウンド、ポップな攻撃性と抒情的な切なさが混ざったメロディライン。いまやロックシーンの中心的な存在となったフォーリミのニュー・シングルは、バンドの個性を前面に押し出したアッパーチューンに仕上がっている。生まれや育ち、環境のせいにせず、自分の運命は自分で切り開けというメッセージを含んだ直接的な歌詞にも強く心を揺さぶられてしまう。　（森）

[CD]01.Squall　02.happiness　03.capture　[DVD]YON FES 2017 LIVE MOVIE & OFFSHOT

08.30 on sale | single | KEYTALK セツナユメミシ

Getting Better Records／初回盤DVD付 ¥1,800／通常盤 ¥1,200



通算12作目のシングルは「桜花爛漫」以来2年振りのアニメ『境界のRINNE』主題歌。義勝の得意技の疾走感、和風メロディに季語を織り込んだ歌詞と、明るさと切なさが交錯する世界観は夏の夜の花火のように美しい。武正の02.はエッジの効いたロック、八木の03.はファンタジックでクレイジーな独自の作風、巨匠の04.はアコギの鮮烈な響きと切ない恋の終わりを描く歌詞がジャストフィット。4人の個性満開だ。（宮本）

[CD]01.セツナユメミシ　02.タイポロジー　03.誓い　04.さよならを。夏、[DVD]代々木でリバパパパラダイス 2017.3.29 at 代々木公園野外ステージ

08.30 on sale | single | Da-iCE
君色

UNIVERSAL SIGMA／初回盤A・B DVD付 ¥1,500／通常盤 ¥1,000



夏の終わりにリリースされる新曲は、軽快なメロディとは裏腹に、ビートが切なく響く片想いソング。届きそうで届かない相手への思いを、歌声を重ねながら聴き手を包み込む。この曲は、恋をした瞬間のもどかしさと、焦燥感を一緒に味あわせてくれる、臨場感あふれる1曲だ。02.はライヴで盛り上がるだろう心地いいダンスチューン。Da-iCE史上初となるアリーナ2daysを控え、みんなで歌える楽曲が仕上がった。（吉田）

［CD］01.君色 02.Fly Higher 03.君色 -English ver.- ［DVD A］「君色」Music Video、Making ［DVD B］「大阪LOVER」Music Video、Making

08.30 on sale | single | Mrs. GREEN APPLE
WanteD! WanteD!

EMI Records／初回盤DVD付 ¥1,700／通常盤 ¥1,200



面倒くさいことは見てみないフリをして、まっすぐ向き合わずにスルー。手軽に安易に繋がれることだけで満足している。"僕らは逃げている"と歌った後に、間違いながらも"僕らは生きている"という想いにたどり着く、通算5枚目のシングルの01.は、若者の現実心理を鋭く突いた曲だ。リズムの立ったスピード感のある音が今のミセスの勢いを映している。バンド結成前に作られた曲を初バンド音源化した03.も収録。（伊藤）

［CD］01.WanteD! WanteD! 02.On My MiND 03.光のうた ［DVD］MusicVideo、Making、ライヴ映像

08.30 on sale | single | ザ・クロマニヨンズ
どん底

Ariola Japan／CD ¥1,000／7インチアナログ盤 ¥1,200



少年時代にロックンロールから受けた稲妻みたいな衝撃は、貫通することなくカラダの中でうごめいていて、もはや他の臓器と同じように働きまくっているんだと思う。見たり聴いたり感じたことをとびきりの音楽にして響かせるっていう機能だ。だから今作にも当然のように"今"という時代の空気が詰まっている。メンバーに聞いたら「何も考えてなかったよ」なんて笑われそうだけど、〈どん底だから あがるだけ〉沁みる。いや、燃える。（山本）

01.どん底 02.ぽー

08.30 on sale | single | 菅田将暉
呼吸

Epic Records Japan／初回盤DVD付 ¥1,667／通常盤 ¥1,000



ジャンルレスな映画に主演し、異なる顔を見せる俳優、菅田将暉。衝撃の歌手デビューから3ヵ月弱で、新曲を発表。この曲は彼自身も作詞に参加したギターロック。不器用で、がむしゃらな恋愛観が描かれた歌詞に、彼のあまり語られていない恋愛への素顔が見えるようだ。表現力に長けた役者だからか、歌声にしっかりと表情が乗っているのはさすが。すがるように訴えるように歌う姿が想像できる疾走感溢れるナンバー。（吉田）

［CD］01.呼吸 02.雨が上がる頃に 03.呼吸(Instrumental) ［DVD］Music Video

08.30 on sale | single | DANCE EARTH PATRY
POPCORN

rhythm zone／CD＋DVD ¥2,000／CD ¥1,200



"国や世代を超える共通言語＝ダンスを通して争いのないラブ&ピース"をテーマにEXILE ÜSAが提唱するプロジェクト「DANCE EARTH PARTY」のニュー・シングル。ポップコーンみたいに、みんなハジけてジャンプ!とか、タオル回そう、準備はOK?という歌詞のとおり、01.は10月に開催される「DANCE EARTH FESTIVAL '17」のライヴをイメージしたような楽曲だ。青空の下で盛り上がる画が浮かぶ。（伊藤）

［CD］01.POPCORN 02.WAVE 03.D.E.P!!! 04.POPCORN(Instrumental) 05.WAVE (Instrumental) 06.D.E.P!!!(Instrumental) ［DVD］Music Video

08.30 on sale | single | 銀杏BOYZ
骨

初恋妄℃学園／¥1,200



3ヵ月連続リリースの第2弾。01.は、峯田が主演を務めていたドラマ『奇跡の人』のエンディングで使われていた楽曲を、バンドバージョンにアレンジしたもの。ポップながらも儚くて甘酸っぱいサウンドが切なく、アウトロのコーラスもかなり美麗。02.は1stアルバム『DOOR』に収録していた「援助交際」をリアレンジ。全楽器が直情的に激しくかき鳴らされていた原曲を、ドリーミーなギターやノイズ音で再構築している。（山口）

01.骨 02.円光

08.30 on sale | single | 四星球
お告げ ～さあ占ってしんぜよう～

Getting Better Records／限定盤DVD付 ¥1,980／通常盤 ¥1,300



メジャー1st"占い"シングルという形でリリースされる本作は、星座占いを題材にしたポップソングを、途中から神様のお告げを元に完成させていくという01.に加え、12星座をモチーフにした楽曲を収録した全13曲(!)で構成。また、感傷が爆発するミディアム07.にはチャットモンチーの橋本絵莉子が、よりよい星座を作るべく会議をするコント11.にはKEYTALKの八木優樹が参加と、概念ぶち壊しまくりの超豪華大作です!（山口）

［CD］01.お告げ 02.牡羊座『潮騒ぎ』 07.乙女座『蛍の影 feat.橋本絵莉子』 08.天秤座『天秤の座』 10.射手座『四星球聴いたら馬鹿になる』 11.山羊座『哺乳類星座会議 feat.八木優樹』 13.魚座『お詫び ～さあ謝ってしんぜよう～』 他 全13曲 ［DVD］「メジャーデビューというボケ」検証映像アーカイブス

08.30 on sale | single | 大森靖子
draw (A) drow

avex trax／CD＋DVD ¥2,500／CD ¥1,000



TK（凛として時雨）の作編曲による表題曲は、鋭利な狂気を感じさせるギターと性急に突き進むビート、感情のままに激しくアップダウンを繰り返すメロディがぶつかり合うアッパーチューン。大森靖子が初めて自分自身のことを反映させたというリリックはもちろん強烈だが、彼女のリアルな言葉を歌に結びつけるためには、サウンドの強度を極限まで高める必要があったということだろう。彼女にとっても分岐点になる1曲だと思う。（森）

［CD］01.draw(A)drow 02.わたしみ 03.サイレントマジョリティー ［DVD］Music Video

09.06 on sale | single | amazarashi
空に歌えば

Sony Music Associated Records／初回盤A DVD+グッズ付 ¥1,900／初回盤B グッズ付 ¥1,580／通常盤 ¥1,200



過去にアニメ「東京喰種√A」「乱歩奇譚Game of Laplace」への提供曲はあったが、新曲が「僕のヒーローアカデミア」OPになると聞いて、amazarashiの世界観に合うのか?と思ったのはどうやら杞憂だった。ストレートなピアノロック、かつてなくポップなメロディは新機軸だが、歌詞に込めた闘争心や少年の成長物語は確かにamazarashi。自らの信念を曲げず、少年ジャンプ王道マンガの世界観にぴたりと寄り添う挑戦作だ。（宮本）

[CD]01.空に歌えば 02.月光、街を焼く 03.たられば 04.たられば -acoustic ver.- 05.空に歌えば -instrumental-（初回A・通常）05.空に歌えば -TV edit.-（初回B）[DVD]ライヴ映像 他

09.06 on sale | single | ポルノグラフィティ
キング&クイーン / Montage

SME Records／初回盤DVD付 ¥1,760／通常盤 ¥1,204



通算45枚目のシングルは、両A面。岡野詞曲の01.は、「ワールドグランドチャンピオンズカップ2017」のテーマソング。歌詞の中にも、バレーボールのイメージに重ねるように"誰よりも高く飛ぶんだ 精一杯その手を伸ばして"とか"勝利をこの手で掴もう"といったワードが使われる。刻む心拍数のように正確に打ち続ける四つ打ちのビートも緊張と期待を煽る。また02.はTVアニメ「パズドラクロス」のOPテーマ曲。（伊藤）

[CD]01.キング&クイーン 02.Montage 03.夕陽の色
[DVD]「キング&クイーン」Video Clip、「夕陽の色」Making Clip

09.06 on sale | single | シナリオアート
サヨナラムーンタウン

Ki/oon Music／¥1,165



繊細さと激しさが交互に押し寄せてきて、サビのパートに入った瞬間に一気にカタルシスへと導く。ファンタジックな世界観とリアルな恋愛感情が自然に共存する歌詞、男女ツインヴォーカルを活かしたシアトリカルな表現を含めて、シナリオアートの特性がしっかりと活かされたニュー・シングル。リスナーの頭のなかに映像を呼び起こし、"ここではない、どこか"へ連れていくような感覚もまた、このバンドの大きな魅力だろう。（森）

01.サヨナラムーンタウン 02.ハローグッバイ 03.サヨナラムーンタウン Instrumental（クミコと歌おうver.）04.サヨナラムーンタウン Instrumental（コウスケと歌おうver.）

09.06 on sale | single | My Hair is Bad
運命 / 幻

EMI Records／¥1,000



スタートと同時にトップスピードに達する性急なサウンドのなかで"君"との別れの瞬間を刹那的に切り取ったアッパーチューン「運命」、豊かな抒情性を備えたメロディラインとともに「恐ろしいぐらいに冷めていくんだね」と呟く女性を描いたミディアムナンバー「幻」によるダブルA面シングル。指輪をテーマにした同じシーンを男女ふたりの視点から映し出す2曲からは、椎木知仁のソングライティングの深まりが感じられる。（森）

01.運命 02.幻

09.13 on sale | single | Little Glee Monster
明日へ

gr8! records／初回盤DVD付 ¥1,574／通常盤 ¥1,204



全員見事にタイプが異なる彼女たちが、初めて一緒に歌詞を描き上げたミディアムチューン。リアルな若者の今を歌ったこの曲は、未来が怖くてしかたないけれど、明日に向かって走るしかない、答えを探す旅に出ようと背中を押してくれる。彼女たちの美しく、強いコーラスがとても立体的に響き、より説得力を持つからこそ、勇気を与えてくれるはず。"ニセモノになんてなりたくはないよ"と強く歌う、メッセージ性の強いナンバーだ。（吉田）

[CD]01.明日へ 02.COLORS 03.SAY!!-Studio Live ver.- 04.明日へ-Instrumental-
[DVD]ライヴ映像

09.06 on sale | single | 新山詩織
さよなら私の恋心

Being／初回盤DVD付 ¥1,500／LIVE盤DVD付 ¥1,700／通常盤 ¥1,000



ギター、ベース、ドラム、そして彼女自身が奏でるアコギによる演奏。極力音数を減らしたシンプルなサウンドだからこそ、歌詞のひと言ひと言が、彼女の歌声とともに粒のようになって宙を舞いながら届いてくる感じがした。あなたとも思い出とも、もう少し一緒にいたいという、素直でピュアな恋心を歌った最新シングル。サウンドプロデュースはCharaが手がけ、切ないけれど優しい新たな彼女の音楽世界を感じさせる曲になった。（伊藤）

[CD]01.さよなら私の恋心 02.らくがきちょう 03.さよなら私の恋心-Instrumental-
[初回盤DVD]Music Video+Making [LIVE盤DVD]ライヴ映像

09.13 on sale | EP | WEAVER
A / W

A-Sketch／¥1,574



新たに提案するニューディスコを音で具現化した前作EP「S/S」の流れを継いだコンセプトEPの第2弾。ハネるサウンドに緩やかに流れるポップなメロディが印象に残る01.は、見えない壁の内側で、誰もが同じように生きていくんじゃなく、自分なりの夢を求めていこう!と歌われるポジティブソング。同曲を含む新曲3曲のほか、My Little Loverのカバー曲04.や、既発曲の別バージョンの05.も収録。ツアーが楽しみになった。（伊藤）

01.Another World 02.だから僕は僕を手放す 03.Photographs 04.Hello, Again ～昔からある場所～ 05.心の中まで（Jazztronik Remix）

09.13 on sale | single | スキマスイッチ
ミスターカイト / リチェルカ

AUGUSTA RECORDS／初回盤DVD付 ¥1,800／通常盤 ¥1,200



01.のテーマの捉え方が素晴らしい。追い風に乗るのではなく、逆に向かい風（苦難）を捉えて、凧のように高く舞い上がれ!という視線にである。人生は順風満帆に進むことなんてほとんどなくて、強い風に向かい乗り越えながら行くことばかり。その向かい風を力に換えるというテーマに惹かれた。穏やかに始まり、サビで一気に加速している音作りも新鮮だった。ブラスとストリングスを駆使したアレンジのポップな02.も魅力的。（伊藤）

[CD]01.ミスターカイト 02.リチェルカ 03.さよならエスケープ 04.ココロシティ
[DVD]スキマスイッチのミッドナイト・グッドモーニン!!-3-THE MOVIE

Text ⇒ 伊藤博伸、大西智之、宮本英夫、森朋之、山口哲生、山本祥子、吉田可奈

News Rush!!

今月も人気アーティストの
リリース情報や熱いライヴレポートなど
内容満載でお届けします!

live | BugLug



「自由～ASOVIVA～区域 Revenge」@代々木公園野外ステージ 2017.08.09

89(バグ)の日。BugLugが代々木公園野外ステージでフリーワンマンライヴを敢行した。昨年は、Vo.一聖のケガによりメンバー4人でのアクトとなったが、今年は同場所に5人揃って終始明るいムード。猛暑の中、アッパーな曲を連打すると、集まった2千人はモッシュを繰り返し、激アツの光景が広がった。またこの日発売の新曲「新人生」も初披露し、曲中で観客全員をしゃがませて一斉にジャンプさせたりと、新たな一体型パフォーマンスも誕生。盛り上がりは加速する一方で、ラストの「ASOVIVA」が終わっても拍手は鳴り止まず、予定外のアンコール! 5人は昨年のリベンジをきっちり果たし、最高の笑顔でステージを後にした。9月3日より47都道府県ツアーもスタート。BugLugの"新人生"は既に力強く動き出している。(文■赤木まみ)

news | BENI
あの名曲たちをCITY POPでアレンジ&カバー



前作から約4年振りとなるBENIの英語詞カバーアルバムシリーズの新作『COVERS THE CITY』が到着。9月13日にリリースされる本作は、2010年以降に大ヒットした男性ヴォーカルの楽曲をすべて"CITY POP"にアレンジ。選曲は意外なものが多く、どんな仕上がりか想像がつかないはずだが、聴けばBENIの歌声が心地よく響き、新たに生まれ変わった名曲たちにびっくり&うっとりしちゃうはず(サカナクション「新宝島」はすごい)。自宅でかければ、一気にオシャレな雰囲気に早変わり、通勤や通学に聴けば、いつもの道のりがちょっと素敵に見えるかもしれません。

news | INORAN
発売記念のサイン会も開催!



LUNA SEA、Tourbillonのメンバーとして活動しているINORANが、自身のソロ活動20周年記念となるセルフカバー・ベスト・アルバム『INTENSE/MELLOW』を8月23日にリリースした。今作は新曲「Ride the Rhythm」を含む【INTENSE SIDE】と、新曲「Shine for me tonight」を含む【MELLOW SIDE】の2サイドで構成。8月31日より、発売記念のサイン会を愛知・福岡・大阪・北海道・東京で実施。東京は、9月30日(土)タワーレコード渋谷店 B1 CUTUP STUDIOにて行なわれる。作品インタビューは、8月31日発売のMASSIVE Vol.27をチェック!

live | ASH DA HERO
2017.07.28@渋谷TSUTAYA O-EAST



アルバムの世界観とはまったく別の物語をステージ上で新たに作り上げるロックンロールショウ。「かかってこいよ!」と煽った「BRAND NEW WORLD」、振り付けで一緒に踊る「JAPANESE ROCK STAR」、フラッグを掲げて「反抗声明」を歌うASHの姿はまさしくヒーローそのもの。だが、MCで「ヒーローでいさせてくれてありがとう」と語りかける等身大の姿は、ライヴで掴んだ観客の心をより深く掴んだに違いない。シンガロングあり、金平糖の投げ込み(!!)あり、タオルも回すルール無用のショウは誰しもを笑顔にした。9月21日より全国ツアーを開催。(写真■緒車寿一)

news | Over The Top
無我夢中に生きる人を全力で応援!



5月のメジャー・デビュー、そして初のワンマンライヴを成功させた、元NMB48岸野里香率いるOver The Topが早くも、8月30日に2ndシングル「ビバ無我夢中」を発売! リスナーを応援したいというOTTのテーマに沿った、"人生一度きりみんな無我夢中にやろうよ! ガムシャラになろうよ!"という、ポップながらどストレートな応援歌になっています。その他、カップリングも、聴き手に寄り添う熱い楽曲揃い。初回盤A付属のDVDにはワンマンライヴの映像、初回盤Bにはミュージックビデオとメイキングが収録されているので、どちらもチェックを! ライヴもアツいですよ!

news | 舞台『煉獄(れんごく)に笑う』
大千秋楽をライブ・ビューイング!!



2.5次元系舞台で大人気の鈴木拡樹を主演とし、8月24日より上演中の人気舞台『煉獄に笑う』。8月8日に開催された「テレビ朝日・六本木ヒルズ夏祭りSUMMER STATION」でのイベント内で、この日登壇した鈴木拡樹、崎山つばさ、前島亜美、村田洋二郎より様々な発表がされた。9月10日(日)大阪・森ノ宮ピロティホールで行なう大千秋楽公演が、全国各地の映画館でライブ・ビューイング、さらにCSテレ朝チャンネル1にて生中継が決定! また、本公演は和楽器バンドの楽曲「雪よ舞い散れ其方に向けて」がテーマソングとなっており、こちらも含めて要チェックだ。

news | 吉田凜音
16歳、堂々メジャー・デビュー!



2000年生まれの16歳、YouTubeに公開された「りんねラップ」が注目され、ラッパー、シンガー、モデル、女優として活動する吉田凜音がメジャー・デビュー。「メガシャキ」CMソングに起用された「STAY FOOL!!」(フレーズに聴き覚えあるはず!)を含む7曲入りミニアルバム『STAT FOOL!!』が8月23日にリリースされた。「大人から押し付けられるものをやりたくない」と言い切る彼女。一切妥協のない音楽への本気度は、様々な名クリエイターと作り上げたこの7曲を聴けばわかる。可愛らしいルックスとちょっとハスキーな声、この若さですでに小悪魔的な魅力も!

超特急
8月28日（月）豊洲ピット※
29日（火）豊洲ピット※
30日（水）豊洲ピット※
31日（木）豊洲ピット※
9月 1日（金）豊洲ピット※
12月24日（日）幕張メッセイベントホール
25日（月）幕張メッセイベントホール
27日（水）横浜アリーナ
30日（土）名古屋・日本ガイシホール
1月 6日（土）大阪城ホール
info<bullettrain.jp/>
※対バンあり

DISH//
9月17日（日）日比谷野外大音楽堂
1月 1日（月）日本武道館
info<dish-web.com/>

DOG inTheパラレルワールドオーケストラ
9月 9日（土）ゼップダイバーシティ東京
info<inu-para.com/>

AAA
9月 2日（土）ナゴヤドーム
3日（日）ナゴヤドーム
8日（金）京セラドーム
9日（土）京セラドーム
13日（水）東京ドーム
14日（木）東京ドーム
30日（土）福岡ヤフオクドーム
10月 1日（日）福岡ヤフオクドーム
info<avex.jp/aaa/>

ハ

BugLug
9月 3日（日）クラブチッタ川崎
15日（金）ヘブンズロック宇都宮VJ-2
17日（日）秋田クラブスウィンドル
18日（月）仙台ダーウィン
22日（金）大阪バナナホール
24日（日）高知X-pt.
26日（火）奈良ネバーランド
27日（水）松坂マクサ
29日（金）福井チョップ
10月 1日（日）富山ソウルパワー
8日（日）新潟スタジオネックス
9日（月）長野クラブジャンクボックス
14日（土）山形ミュージック昭和セッション
15日（日）青森クォーター
17日（火）函館クラブココア
20日（金）盛岡クラブチェンジウェイブ
22日（日）郡山ヒップショットジャパン
26日（木）京都ファンJ
28日（土）熊本B.9 V1
29日（日）宮崎SRボックス
31日（火）鹿児島キャパルボホール
11月 2日（木）広島セコンドクラッチ
4日（土）松山サロンキティ
5日（日）徳島クラブグラインドハウス
7日（火）甲府コンビクション
11日（土）金沢AZ
12日（日）岐阜クラブG
21日（火）和歌山シェルター
23日（木）岡山クレイジーママキングダム
25日（土）大分ドラムBe-0
26日（日）佐賀ガイルス
28日（火）長崎ドラムBe-7
30日（木）ライブライズ周南
12月 2日（土）松江AZTiC canova
3日（日）米子AZTiC laughs
5日（火）神戸バリット
7日（木）高崎クラブフリーズ
9日（土）水戸ライトハウス
10日（日）柏パロッツァ
16日（土）沖縄・宜野湾ヒューマンステージ
17日（日）沖縄・宜野湾ヒューマンステージ
1月12日（金）浜松窓枠
13日（土）名古屋レニーリミテッド
20日（土）ヘブンズロック熊谷VJ-1
24日（水）滋賀ビーフラット
26日（金）高松ダイム
28日（日）福岡ドラムロゴス
2月17日（土）新木場スタジオコースト
info<buglug.jp/>

BUMP OF CHICKEN
9月16日（土）幕張メッセ国際展示場1～3ホール
17日（日）幕張メッセ国際展示場1～3ホール
23日（土）北海道立総合体育センター 北海きたえーる
24日（日）北海道立総合体育センター 北海きたえーる
10月 3日（火）朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンター
8日（日）静岡エコパアリーナ
31日（火）大阪城ホール
11月 1日（水）大阪城ホール
18日（土）広島グリーンアリーナ
12月 9日（土）宮城・セキスイハイムスーパーアリーナ
16日（土）石川産業展示館4号館
info<www.bumpofchicken.com/>

THE BEAT GARDEN
9月 9日（土）梅田クラブクアトロ
23日（土）渋谷ツタヤO-WEST
info<thebeatgarden.com/>

BIGMAMA
10月15日（日）日本武道館
info<bigmama-web.com/>

BREAKERZ
11月12日（日）広島セカンドクラッチ
15日（水）札幌キューブガーデン
18日（土）高松モンスター
26日（日）静岡サウンドシャワーアーク
29日（水）仙台ダーウィン
12月 1日（金）新横浜ニューサイドビーチ
3日（日）熊本Be-9
4日（月）福岡Be-1
9日（土）梅田バナナホール
10日（日）名古屋レニーリミテッド
15日（金）渋谷ツタヤO-EAST
info<breakerz-web.net/>

flumpool
9月16日（土）仙台サンプラザホール
18日（月）秋田県民会館
23日（土）岐阜市民会館
24日（日）富山県民会館 ホール
29日（金）札幌わくわくホリデーホール
10月 1日（日）函館市民会館
6日（金）高知県民文化ホール オレンジホール
7日（土）岡山市民会館
9日（月）名古屋国際会議場センチュリーホール
10日（火）大阪フェスティバルホール
13日（金）新潟県民会館 大ホール
15日（日）大宮ソニックシティ 大ホール
21日（土）和歌山県民文化会館 大ホール
22日（日）なら100年会館
11月 1日（水）神戸国際会館こくさいホール
3日（金）徳島・鳴門市文化会館
4日（土）滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 大ホール
12日（日）富士市文化会館 ロゼシアター大ホール
19日（日）伊勢崎市文化会館
22日（水）宮崎市民文化ホール 大ホール
23日（木）熊本・荒尾総合文化センター 大ホール
25日（土）福岡・アルモニーサンク 北九州ソレイユホール
30日（木）市川市文化会館 大ホール
12月 2日（土）パシフィコ横浜 国立大ホール
3日（日）パシフィコ横浜 国立大ホール
9日（土）福井市文化会館ホール
10日（日）三重・NTNシティホール（桑名市民会館）
15日（金）広島上野学園ホール
16日（土）米子市公会堂
info<www.flumpool.jp/>

Fo'xTails
11月 3日（金）梅田ジーラ
18日（土）青山リズム
info<hxfoxtailsx.com/>

04 Limited Sazabys
11月16日（木）クラブチッタ川崎
23日（木）ブルーライブ広島
24日（金）福岡ドラムロゴス
26日（日）高松フェストハレ
30日（木）松本キッセイ文化ホール・中ホール
12月 7日（木）新潟ロッツ
9日（土）仙台ピット
1月 6日（土）ゼップ札幌
13日（土）ゼップ大阪ベイサイド
14日（日）ゼップ大阪ベイサイド
18日（木）ゼップ東京
19日（金）ゼップ東京
25日（木）ゼップ名古屋
26日（金）ゼップ名古屋
info<www.04limitedsazabys.com/>

フレデリック
11月11日（土）岡山クレイジーママキングダム
12日（日）高松フェストハレ
19日（日）札幌ファクトリーホール
25日（土）金沢エイトホール
26日（日）松本アレックス
12月 2日（土）福岡ドラムロゴス
3日（日）広島クラブクアトロ
8日（金）仙台レンサ
9日（土）ネックス新潟
16日（土）ゼップ大阪ベイサイド
17日（日）ゼップ名古屋
21日（木）ゼップ東京
info<frederic-official.com/>

星野源
9月 9日（土）さいたまスーパーアリーナ
10日（日）さいたまスーパーアリーナ
info<www.hoshinogen.com/>

マ

宮野真守
9月 2日（土）岡山市民会館
9日（土）石川・本多の森ホール
15日（金）大阪オリックス劇場
16日（土）大阪オリックス劇場
18日（月）わくわくホリデーホール（札幌市民ホール）
23日（土）静岡市民文化会館 大ホール
10月 1日（日）ベイシア文化ホール（群馬県民会館）
7日（土）名古屋国際会議場センチュリーホール
15日（日）横浜アリーナ
28日（土）ゼビオアリーナ仙台
29日（日）ゼビオアリーナ仙台
info<miyanomamoru.com/>

ヤ

遊助
8月27日（日）大阪オリックス劇場
9月 3日（日）仙台サンプラザホール
5日（火）よこすか芸術劇場
6日（水）よこすか芸術劇場
9日（土）広島文化学園HBGホール
16日（土）大宮ソニックシティ大ホール
17日（日）大宮ソニックシティ大ホール
23日（土）大阪オリックス劇場
24日（日）大阪オリックス劇場
29日（金）東京国際フォーラム ホールA
info<www.yuusuke.jp/>

ゆず
9月21日（木）熊本県立劇場 演劇ホール
23日（土）長崎ブリックホール
27日（水）金沢歌劇座
30日（土）函館市民会館
10月 2日（月）リンクステーションホール青森
10日（火）松山市民会館
12日（木）米子コンベンションセンター BiG SHiP
16日（月）大阪フェスティバルホール
17日（火）大阪フェスティバルホール
24日（火）名古屋センチュリーホール
25日（水）名古屋センチュリーホール
11月 7日（火）パシフィコ横浜 国立大ホール
8日（水）パシフィコ横浜 国立大ホール
10日（金）パシフィコ横浜 国立大ホール
info<yuzunowa.com/>

UNISON SQUARE GARDEN
10月 8日（日）高知X-pt.
9日（月）高知X-pt.
11日（水）出雲アポロ
17日（火）高崎クラブフリーズ
19日（木）新潟ロッツ
20日（金）新潟ロッツ
22日（日）盛岡クラブチェンジウェイブ
27日（金）熊本 B.9 V1
29日（日）周南ライジングホール
11月15日（水）ゼップ東京
16日（木）ゼップ東京
18日（土）仙台ピット
22日（水）クラブチッタ川崎
24日（金）高松フェストハレ
26日（日）ブルーライブ広島
27日（月）なんばハッチ大阪
12月 4日（月）福岡ドラムロゴス
5日（火）福岡ドラムロゴス
8日（金）ゼップ大阪ベイサイド
9日（土）ゼップ大阪ベイサイド
13日（水）ゼップ名古屋
14日（木）ゼップ名古屋
23日（土）ゼップ名古屋
info<unison-s-g.com/>

ラ

RIZE
9月23日（土）新潟ロッツ
24日（日）金沢エイトホール
26日（火）富山マイロ
28日（木）長野クラブジャンクボックス
30日（土）高崎クラブフリーズ
10月 5日（木）ヘブンズロック宇都宮 VJ-2
7日（土）郡山ヒップショットジャパン
9日（月）秋田クラブスウィンドル
11日（水）青森クォーター
12日（木）盛岡クラブチェンジウェイブ
14日（土）仙台レンサ
29日（日）名古屋ダイアモンドホール
31日（火）岡山クレイジーママキングダム
11月 2日（木）福岡ドラムロゴス
4日（土）鹿児島キャパルボホール
5日（日）宮崎SRボックス
7日（火）大分ドラムBe-0
9日（木）松山ダブリュースタジオレッド
11日（土）高知X-pt.
15日（水）山梨コンビクション
16日（木）浜松窓枠
18日（土）なんばハッチ大阪
12月20日（水）日本武道館
info<www.triberize.net/>

LACCO TOWER
9月17日（日）仙台マカナ
24日（日）新潟クラブリバースト
10月 1日（日）梅田クラブクアトロ
8日（日）福岡キューブリック
15日（日）名古屋クラブクアトロ
21日（土）高崎クラブフリーズ
28日（土）ゼップダイバーシティ東京
info<laccotower.com/>

LiSA
9月24日（日）東京エレクトロンホール宮城
30日（土）長野ホクト文化ホール 大ホール
10月 1日（日）石川・本多の森ホール
7日（土）長良川国際会議場
9日（月）静岡市民文化会館
15日（日）川崎市スポーツ・文化総合センター
21日（土）滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール・大ホール
28日（土）栃木県総合文化センター
11月 3日（金）サンポートホール高松
9日（木）中野サンプラザホール
18日（土）広島文化学園HBGホール
19日（日）福岡サンパレス
24日（金）わくわくホリデーホール（札幌市民ホール）
info<www.lxixsxa.com/live/>

Little Glee Monster
9月 2日（土）市原市市民会館
3日（日）茨城県立県民文化センター
7日（木）大宮ソニックシティ
10日（日）新潟県民会館
15日（金）北海道・道新ホール
16日（土）北海道・道新ホール
18日（月）パシフィコ横浜 国立大ホール
21日（木）大阪フェスティバルホール
23日（土）岡山市民会館
24日（日）香川レクザムホール
30日（土）静岡・富士ロゼシアター
10月 1日（日）狭山市市民会館 大ホール
7日（土）愛知・幸田町民会館
9日（月）山梨河口湖ステラシアター
14日（土）滋賀・びわ湖ホール 大ホール
15日（日）なら100年会館 大ホール
20日（金）石川・本多の森ホール
21日（土）富山・高周波文化ホール
11月 3日（金）三重・四日市市文化会館
5日（日）宮城・東京エレクトロンホール宮城
12日（日）群馬・桐生市市民文化会館
17日（金）名古屋国際会議場センチュリーホール
19日（日）東京国際フォーラム ホールA
info<www.littlegleemonster.com/>

Live Rush!!

ア

あいみょん
10月14日（土）心斎橋ミュージッククラブジャニス
28日（土）渋谷WWW X
info<www.aimyong.net/>

androp
9月16日（土）名古屋クラブクアトロ ※
17日（日）梅田クラブクアトロ ※
23日（土）渋谷クラブクアトロ ※
10月28日（土）日比谷野外大音楽堂
info<www.androp.jp/>
※は対バンあり

Anly
10月10日（火）仙台ライブハウスenn 2nd
11日（水）ヘブンズロック宇都宮 VJ-2
14日（土）福岡キューブリック
15日（日）広島バックビート
19日（木）名古屋クラブクアトロ
20日（金）梅田クラブクアトロ
24日（火）渋谷クラブクアトロ
info<www.anly-singer.com/>

家入レオ
9月 6日（水）ゼップダイバーシティ東京
7日（木）ゼップダイバーシティ東京
12日（火）ゼップ名古屋
13日（水）ゼップ名古屋
20日（水）ゼップなんば大阪
21日（木）ゼップなんば大阪
info<www.jvcmusic.co.jp/leo-ieiri/>

WEAVER
10月21日（土）ゼップダイバーシティ東京
27日（金）名古屋ダイアモンドホール
29日（日）ゼップ大阪ベイサイド
11月 4日（土）新潟ロッツ
5日（日）仙台ダーウィン
10日（金）広島クラブクアトロ
12日（日）福岡ドラムBe-1
info<www.weavermusic.jp/>

植田真梨恵
9月 6日（水）大阪サンケイホールブリーゼ
10日（日）日本青年館ホール
info<uedamarie.com/>

UVERworld
8月27日（日）愛媛・ひめぎんホール メインホール
29日（火）岡山市民会館
30日（水）岡山市民会館
9月 1日（金）島根県民会館 大ホール
3日（日）山口・周南市文化会館
4日（月）山口・周南市文化会館
6日（水）なら100年会館 大ホール
7日（木）なら100年会館 大ホール
12日（火）和歌山県民文化会館 大ホール
13日（水）和歌山県民文化会館 大ホール
19日（火）鹿児島市民文化ホール第一ホール
20日（水）鹿児島市民文化ホール第一ホール
25日（月）沖縄ミュージックタウン音市場
10月 3日（火）日本武道館
4日（水）日本武道館
11月 2日（木）神戸ワールド記念ホール
3日（金）神戸ワールド記念ホール
11日（土）静岡エコパアリーナ
12日（日）静岡エコパアリーナ
22日（水）大阪城ホール
23日（木）大阪城ホール
12月 5日（火）朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンター
6日（水）朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンター
13日（水）名古屋・日本ガイシホール
14日（木）名古屋・日本ガイシホール
16日（土）宮城セキスイハイムスーパーアリーナ
17日（日）宮城セキスイハイムスーパーアリーナ
20日（水）横浜アリーナ
21日（木）横浜アリーナ
25日（月）日本武道館
30日（土）マリンメッセ福岡
31日（日）マリンメッセ福岡
info<www.uverworld.com/>

urata naoya（AAA）
11月 6日（月）大阪NHKホール
10日（金）舞浜アンフィシアター
info<uratanaoya.com/>

Aimer
8月29日（火）日本武道館
info<www.aimer-web.jp/>

大原櫻子
10月11日（水）ゼップ札幌
18日（水）ゼップなんば大阪
19日（木）ゼップなんば大阪
25日（水）ゼップ東京
26日（木）ゼップ東京
11月 2日（木）ゼップ名古屋
info<www.sakurako-web.com/>

OLDCODEX
9月 3日（日）ゼップ大阪ベイサイド
9日（土）ゼップ札幌
12日（火）ゼップ東京
13日（水）ゼップ東京
10月 7日（土）戸田市文化会館
15日（日）アルモニーサンク北九州ソレイユホール
21日（土）大阪オリックス劇場
11月 5日（日）石川・本多の森ホール
10日（金）仙台サンプラザホール
25日（土）広島・JMS アステールプラザ 大ホール
26日（日）広島・JMS アステールプラザ 大ホール
12月 2日（土）神戸国際会館こくさいホール
20日（水）名古屋国際会議場センチュリーホール
23日（土）静岡市民文化会館 大ホール
info<www.oldcodex.com/>

ORANGE RANGE
10月14日（土）沖縄市野外ステージ ※
11月22日（水）かつしかシンフォニーヒルズ モーツァルトホール
24日（金）ロームシアター京都
26日（日）群馬・みかぼみらい館
12月 1日（金）岩手・二戸市民文化会館
3日（日）秋田・由利本荘市文化交流館 カダーレ
9日（土）長崎ブリックホール
10日（日）佐賀・鳥栖市民文化会館
12日（火）鹿児島・宝山ホール
15日（金）中野サンプラザホール
16日（土）中野サンプラザホール
22日（金）富山・クロスランドおやべ
23日（土）滋賀・守山市民ホール
1月 7日（日）大阪オリックス劇場
8日（月）兵庫・三田市総合文化センター 郷の音ホール
13日（土）愛知・サンプラザ豊橋
20日（土）静岡・裾野市民文化センター
21日（日）東松山市民文化センター
27日（土）山口・スターピアくだまつ 大ホール
28日（日）岡山・ロマン高原かよう総合会館
2月 3日（土）栃木・小山市立文化センター
4日（日）厚木市文化会館
11日（日）高知・県立県民文化ホール オレンジホール
12日（月）愛媛・松前総合文化センター
info<orangerange.com/>
※は主催イベント

カ

GRANRODEO
9月22日（金）日本武道館
23日（土）日本武道館
info<www.granrodeo.net/>

GLAY
9月23日（土）朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンター
24日（日）朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンター
30日（土）大阪城ホール
10月 1日（日）大阪城ホール
7日（土）宮城・セキスイハイムスーパーアリーナ
8日（日）宮城・セキスイハイムスーパーアリーナ
21日（土）広島グリーンアリーナ
22日（日）広島グリーンアリーナ
25日（水）日本武道館
27日（金）日本武道館
28日（土）日本武道館
11月 3日（金）北海道立総合体育センター 北海きたえーる
4日（土）北海道立総合体育センター 北海きたえーる
11日（土）横浜アリーナ
12日（日）横浜アリーナ
15日（水）大阪城ホール
16日（木）大阪城ホール
25日（土）マリンメッセ福岡
26日（日）マリンメッセ福岡
12月 9日（土）さいたまスーパーアリーナ
10日（日）さいたまスーパーアリーナ
16日（土）名古屋・日本ガイシホール
17日（日）名古屋・日本ガイシホール
info<www.glay.co.jp/>

go!go!vanillas
9月 9日（土）横浜ベイホール
10日（日）水戸ライトハウス
16日（土）ヘブンズロック熊谷VJ-1
17日（日）高崎クラブフリーズ
23日（土）神戸チキンジョージ
24日（日）滋賀U-STONE
28日（木）浜松窓枠
30日（土）長野クラブジャンクボックス
10月 1日（日）金沢エイトホール
6日（金）仙台レンサ
8日（日）秋田クラブスウィンドル
9日（月）盛岡クラブチェンジウェイブ
21日（土）高松モンスター
22日（日）高知 X-pt.
26日（木）米子AZTiClaughs
28日（土）広島クラブクアトロ
29日（日）岡山クレイジーママキングダム
11月 9日（木）宮崎SRボックス
11日（土）熊本B.9 V1
12日（日）福岡ドラムロゴス
18日（土）札幌ペニーレーン24
19日（日）札幌ペニーレーン24
25日（土）ゼップ名古屋 ※
26日（日）ゼップ大阪ベイサイド ※
12月 2日（土）ゼップ東京 ※
info<gogovanillas.com/>
※以外は対バン

サ

THE YELLOW MONKEY
12月 9日（土）東京ドーム
10日（日）東京ドーム
info<theyellowmonkeysuper.jp/>

SILENT SIREN
9月18日（月）名古屋国際会議場センチュリーホール
10月 8日（日）福岡国際会議場メインホール
9日（月）福岡国際会議場メインホール
28日（土）グランキューブ大阪メインホール
29日（日）グランキューブ大阪メインホール
11月 3日（金）郡山市民文化センター大ホール
13日（月）日本武道館
14日（火）日本武道館
info<silent-siren.com/>

THE ORAL CIGARETTES
11月 1日（水）ゼップ大阪ベイサイド
8日（水）ゼップ名古屋
9日（木）ゼップ北海道
24日（金）ライブブルー広島
12月 5日（火）新木場スタジオコースト
6日（水）新木場スタジオコースト
2月15日（木）大阪城ホール
info<theoralcigarettes.com/>

SHE'S
9月29日（金）東京・草月ホール
30日（土）東京・草月ホール
10月13日（金）名古屋市芸術創造センター
14日（土）大阪・立命館いばらきフューチャープラザ グランドホール
info<she-s.info/>

GENERATIONS from EXILE TRIBE
8月30日（水）名古屋・日本ガイシホール
31日（木）名古屋・日本ガイシホール
9月 2日（土）名古屋・日本ガイシホール
3日（日）名古屋・日本ガイシホール
16日（土）真駒内セキスイハイムアイスアリーナ
17日（日）真駒内セキスイハイムアイスアリーナ
23日（土）青森盛運輸アリーナ
24日（日）青森盛運輸アリーナ
10月28日（土）マリンメッセ福岡
29日（日）マリンメッセ福岡
11月 8日（水）大阪城ホール
9日（木）大阪城ホール
25日（土）三重県営サンアリーナ
26日（日）三重県営サンアリーナ
12月 2日（土）朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンター
3日（日）朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンター
16日（土）静岡エコパアリーナ
17日（日）静岡エコパアリーナ
info<generations-ldh.jp/>

SCANDAL
10月 6日（金）ゼップ東京
20日（金）ゼップ名古屋
21日（土）ゼップ大阪ベイサイド
info<www.scandal-4.com/>

SPYAIR
1月26日（金）中野サンプラザ
28日（日）静岡・沼津市民文化センター
30日（火）大宮ソニックシティ
2月 3日（土）東京エレクトロンホール宮城
4日（日）浦安市文化会館
8日（木）川崎市スポーツ・文化総合センター
12日（月）神戸国際会館 こくさいホール
17日（土）新潟テルサ
18日（日）郡山市民文化センター 中ホール
25日（日）群馬・桐生市市民文化会館 シルクホール
3月11日（日）厚木市文化会館
17日（土）わくわくホリデーホール（札幌市民ホール）
21日（水）金沢・本多の森ホール
23日（金）岐阜・長良川国際会議場
25日（日）ロームシアター京都
31日（土）広島文化学園HBGホール
4月 1日（日）岡山市民会館
5日（木）福岡サンパレス ホテル&ホール
7日（土）香川レクザムホール・小ホール
8日（日）松山市総合コミュニティセンター・キャメリアホール
12日（木）大阪フェスティバルホール
14日（土）名古屋国際会議場センチュリーホール
info<www.spyair.net/>

Sonar Pocket
8月27日（日）ロームシアター京都メインホール
9月 2日（土）新潟テルサ
3日（日）新潟テルサ
9日（土）札幌市教育文化会館 大ホール
10日（日）札幌市教育文化会館 大ホール
16日（土）東京エレクトロンホール宮城
17日（日）東京エレクトロンホール宮城
23日（土）広島文化学園HBGホール
24日（日）広島文化学園HBGホール
30日（土）名古屋国際会議場センチュリーホール
10月 1日（日）名古屋国際会議場センチュリーホール
7日（土）サンポートホール高松
8日（日）サンポートホール高松
14日（土）グランキューブ大阪メインホール
15日（日）グランキューブ大阪メインホール
21日（土）静岡市民文化会館大ホール
22日（日）静岡市民文化会館大ホール
11月10日（金）日本武道館
11日（土）日本武道館
info<www.sonapoke.jp/>

タ

Da-iCE
9月 2日（土）リンクステーション青森
9日（土）厚木市文化会館 大ホール
10日（日）郡山市民文化センター 大ホール
15日（金）仙台イズミティ21 大ホール
16日（土）仙台イズミティ21 大ホール
23日（土）広島アステールプラザ 大ホール
24日（日）広島アステールプラザ 大ホール
30日（土）浦安市文化会館
10月 7日（土）群馬県ベイシア文化ホール 大ホール
9日（月）サンポートホール高松 大ホール
11月18日（土）神戸ワールド記念ホール
19日（日）神戸ワールド記念ホール
info<da-ice.jp/>

田口 淳之介
1月24日（水）ゼップ名古屋
2月 1日（木）ゼップ大阪ベイサイド
2日（金）福岡スカラエスパシオ
8日（木）ゼップ東京
info<junnosuke-t.com/>

梅雨の戻りやゲリラ豪雨で
晴れが少なかった8月でしたが
奇跡的に外ロケは天候に恵まれました!

Mrs. GREEN APPLE



7月19日(水)撮影&インタビュー。8月14日(月)豊洲ピット。カメラマン森崎さん、ライター秦さん。レーベル&マネージメントスタッフのみなさま。ありがとうございました!

クールなミセスとキュートなミセス、どっちがお好み?

待望の表紙巻頭特集です! 今回は「WanteD! WanteD!」と「On My MiND」それぞれのイメージで撮影。前の取材を終えて入ってきたメンバーたちに伝えると、「えっ、すごい!」毎回そうなのですが、撮影のコンセプトや小道具を伝えると喜んでくれます。まずは黒布バックで、楽曲とタイアップのドラマイメージから、今までのB-PASSではなかった感じのクールなミセスを。まずは全員横並び、バランス調整で2人座ってもらうことに。藤澤くんと髙野くんが座ると、あまりにきれいに並ぶので、「なんかお付きの者みたい(笑)」と大森くん。角度など調整して、表紙のような形になりました。移動をしてインタビューを取ってから、ピンクバックのもう1パターン。ソロカットは「On My MiND」のタイアップアニメ『ナナマル サンバツ』から、〇×を大小用意したものを自由に選んでもらいました。5人は、手持ちの〇×の組み合わせも、ポーズも被らないようにしてくれているのです。そして、8月に入ってから、イベント密着で豊洲ピットへ。ここで表紙巻頭に決まったことをサプライズ発表!「えー! やったー!」「夢が叶った」と大喜びしてくれるメンバーにほっこり。「30P作るの無理でしょ!」と言われましたが(笑)、作りました! 楽しんでいただけたら幸いです。 (さ)

ひと言取材日記

★androp→大いに盛り上がったMV話。まさかの展開、そしてiPhoneでの撮影だったとは、驚きでした。MV撮影の最後にアー写の撮影をしたそうで、「もう最後に振り絞った笑顔ですよ(笑)」と内澤さん。いい写真です。(笑)★WAVER→「A/W」のジャケ写、よく見ると不思議な反射の仕方をしてるんですが、あれは撮った写真をプリントアウトして、くしゃっとさせてシワが入った状態のものをさらに撮影したものだそうです。写真のシワ加工、面白いですよね。(は)★MAGIC OF LiFE→インタビューは彼らが練習に入っていたスタジオにて。インタビュー途中、パトランプが突如光って回り出し、何かと思ったら、10分前のお知らせで、その後「時間ですよ〜」のパトランプ。これいいシステムですね。(は)★RIZE→インタビュー終了後に、「これどうぞ」とJESSEから小さなカードをいただきました。「名刺!?」と思ったら、ジャケ写イラストのJESSEモチーフのイラストカード! 「全員に会わないとコンプリートできないから! 頑張って!」と激励されました(笑)。全員分ほしい!(よ)★SPYAIR→インタビュー終盤は新作『KINGDOM』の話題で大盛り上がり! 早くいろいろ話したいけど、次号でたっぷりとね!と約束してお別れ。(よ)

※このページの写真は〈http://www.shinko-music.co.jp/〉にアクセスするとカラーで見ることができます

Little Glee Monster



8月17日(木)撮影&インタビュー。カメラマン大川さん、ライター武市さん、AD鶴羽さん。SR井藤さん、マネージャー今瀧さん。ありがとうございます!

ホントにお人形みたいに見えてきます

初バックカバー&巻末特集!!ということで、スタッフ一同気合いを入れて臨みましたが、実は取材日がバックカバー校了の前日というスリリングな日程だったため、チームリトグリをはじめ、ライターさんやカメラマンさん、デザイナーさんには大変に無理なお願いを聞いていただくことになってしまいました。ご協力、本当にありがとうございました!●撮影&インタビューは、歌番組のリハーサルの合間を縫って撮影スタジオに移動してもらっての90分間1本勝負。朝早くからのスタートとなったので、きっとみんなお疲れだろうなぁと思いつつ、スタジオに入ると、「おはようございます!!」と5人とも元気いっぱい。笑顔がまぶしすぎて、ちょっとクラクラしちゃいました。前日までは「今が梅雨なのか!?」と錯覚するくらい土砂降り続きだったのに、リトグリパワーのおかげなのか、この日は朝からキレイな日射しがキラキラ。清潔感あふれる光の中で、ソロカットを撮ることができました●集合ショットはギュッと寄ってもらってのキュートな笑顔やちょっとお澄ましで大人っぽい雰囲気などいろんなリクエストで撮影。ちなみに上のカット時は、「壁によりかかって座っているお人形みたいな感じで」というオーダーでした(笑)。こんなカワイイお人形あったら見飽きないですよね〜。 (よ)

田口 淳之介

昼の人だった、ということで、日中のロケもばっちり





8月4日(金)撮影&インタビュー。カメラ山本さん。ライター森さん。ヘア&メイク竹島さん。スタイリング富田さん。レーベル&マネイジメントスタッフのみなさま。

シングル「Connect」に続いて、本誌2度目の取材。前回は外ロケで撮影したので、今回は外と室内とあわせ技で。まずはアーティストルームに麻っぽい布を垂らし、ちょっと落ち着いたテイストで。田口さんの準備が整い、室内から撮影スタート。スツールに腰掛けてもらって、引きから順に撮っていきます。アップは床に座ってもらい、急造の台に手を付いてもらって、なかなかムチャな体勢だったかもしれませんが、カメラマンからの体や顔の向きのリクエストにもさらっと応える田口さん。なんなく撮り終え、外ロケへ。ピーカンで暑すぎたら……なんて心配をよそに、雨でもなくいい曇り具合で、ある意味ロケ日和。少し歩いて、人通りの少ない路地裏に行き、数ヵ所で撮影。上段の写真、小さい紫陽花のような花(色は薄紫)が咲いている緑の前で撮ったあと、田口さん自ら「上、脱ごうかな」ってことで、シャツ姿でラフな感じに。室内:ジャケット着用、外ロケ:ジャケットなし、が写真的にもレイアウト的にもフィットしていたので、最初のカットは温存させて頂きました。なので、ここはメイキングで公開しております。路地を歩きながら、振り返ってもらったりしながら、動きのあるカットも撮らせてもらって、外ロケも終了。その後のインタビューもリラックスした雰囲気で穏やかに取材させて頂きました。 (は)

BACKSTAGE **B-PASS**

BACK NUMBER

表示は8%税込価格です。

好きなアーティストを完全チェック!!

最近ファンになったというキミ、"見逃した"というアナタ、バックナンバーもよろしく。

B-PASS '15.6 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：flumpool

●BUMP OF CHICKEN／東方神起／SUPER JUNIOR-D&E／『新宿スワン』SPECIAL LIVE／DISH//／超特急／AAA／西内まりや／藤巻亮太／SCANDAL／Kalafina／FTISLAND／CNBLUE／坂本真綾／WEAVER／THE ORAL CIGARETTES／フレデリック／TRUSTRICK／heidi.／「連載：SCREW／BUMP OF CHICKEN／高橋 優／MAGIC OF LiFE／D☆DATE／千葉雄大」他

B-PASS '15.7 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：UVERworld

●巻末特集：[Alexandros]

●AAA／ナオト・インティライミ／BBQ in つまこい Photo Shooting Report／OLDCODEX／CNBLUE／超特急／家入レオ／藍井エイル／清木場俊介／アルスマグナ／ソナーポケット／高橋優／back number／UNISON SQUARE GARDEN／LEGO BIG MORL／黒木渚／新山詩織／東京カランコロン／あいみょん／BREAKERZ／GRANRODEO／Galileo Galilei／グッドモーニングアメリカ／他

B-PASS '15.8 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：遊助

●巻末特集：SKY-HI

●GLAY／miwa／AAA／VAMPS／GACKT／DISH//／板野友美／UNISON SQUARE GARDEN／DOBERMAN INFINITY／GRANRODEO／GRANRODEO×BREAKERZ／三浦大知／K／Mayday／HY／高橋 優／井上苑子／SUPER JUNIOR-K.R.Y.／LILI LIMIT／LAMP IN TERREN／Mrs. GREEN APPLE／SPYAIR／SCREEN mode／カスタマイZ／他

B-PASS '15.9 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：ポルノグラフィティ

●巻末特集：BREAKERZ

●LUNATIC FEST.／SCANDAL／SPYAIR／GENERATIONS from EXILE TRIBE／flumpool／AAA／Dream Ami／OLDCODEX／家入レオ／ファンキー加藤／ソナーポケット／Aqua Timez／LIFriends／Blu-BiLLioN／androp／ORANGE RANGE／REVALCY／清木場俊介／古川雄大／アンティック-珈琲店-／桐嶋ノドカ／lol／I Don't Like Mondays.／Kalafina／Aimer／SCREW／Da-iCE／他

B-PASS '15.10 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：AAA

●巻末特集：宮野真守

●BUMP OF CHICKEN／Acid Black Cherry／UVERworld／BBQ in つま恋／flumpool／SPYAIR／SCANDAL／清木場俊介／UNISON SQUARE GARDEN／FTISLAND／超特急／剛力彩芽／三浦大知／蒼井翔太／Aqua Timez／仙台貨物／DOG inThePWO／go!go!vanillas／Czecho No Republic／lynch.／J／Suck a Stew Dry／INORAN／アルスマグナ／Kalafina／他

B-PASS '15.11 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：EXILE TAKAHIRO

●福山雅治／VAMPS／UVERworld／GENERATIONS from EXILE TRIBE／AAA／SPYAIR／DOBERMAN INFINITY／坂本真綾／堂珍嘉邦／金子ノブアキ／lynch.／黒木渚／ソナーポケット／CNBLUE／ROOT FIVE／風男塾／Mayday／WEAVER／吉澤嘉代子／X4／「連載：SCREW／BUMP OF CHICKEN／高橋 優／MAGIC OF LiFE／Kalafina／D☆DATE／千葉雄大」他

B-PASS '15.12 ￥860(税込)

●Wカバー巻頭特集1：EXILE SHOKICHI

●Wカバー巻頭特集2：SPYAIR

●バックカバー&巻末特集：DISH//

●AAA／遊助／ファンキー加藤／大原櫻子／家入レオ&大原櫻子／Dream／アルスマグナ／BREAKERZ／小室哲哉／スキマスイッチ／NIGHTMARE／BugLug／Blu-BiLLioN／the GazettE／グッドモーニングアメリカ／THE ORAL CIGARETTES／井上苑子／04 Limited Sazabys／UMI☆KUUN／ダウト／SOLIDEMO／Da-iCE／カスタマイZ／他

B-PASS '16.2 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：miwa

●バックカバー&巻末特集：SKY-HI

●三代目 J Soul Brothers from EXILE TRIBE／ポルノグラフィティ／Acid Black Cherry／CNBLUE／KEITA／ソナーポケット／Little Glee Monster／グッドモーニングアメリカ／THE ORAL CIGARETTES／植田真梨恵／Da-iCE／ダウト／lol／東京カランコロン／山本陽介／X4／「連載：BUMP OF CHICKEN／高橋 優／MAGIC OF LiFE／Kalafina／SCREW／D☆DATE／千葉雄大」他

B-PASS '16.3 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：遊助

●バックカバー&巻末特集：E-girls

●UVERworld／SCANDAL／flumpool／SPYAIR／宮野真守／家入レオ／超特急／DISH//／アルスマグナ／WEAVER／KANA-BOON／Mrs. GREEN APPLE／黒猫チェルシー／Fo'xTails／SCREEN mode／Blu-BiLLioN／荒木宏文／go!go!vanillas／小野賢章／藤原さくら／I Don't Like Mondays.／LIFriends／吉澤嘉代子／iKON／BOYS AND MEN／他

B-PASS '16.4 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：BUMP OF CHICKEN

●flumpool／OLDCODEX／UVERworld／SCANDAL／ソナーポケット／宮野真守／Kalafina／ファンキー加藤／高橋優／Galileo Galilei／GENERATIONS from EXILE TRIBE／BIGBANG／超特急／アルスマグナ／UNISON SQUARE GARDEN／BLUE ENCOUNT／AKIHIDE／アンティック-珈琲店-／Thinking Dogs／DOG inTheパラレルワールドオーケストラ／ベリーグッドマン／THE Hitch Lowke／DEEP／井上苑子／他

B-PASS '16.5 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：flumpool

●バックカバー&巻末特集：Da-iCE

●miwa／SPYAIR／GRANRODEO／the GazettE／GACKT／三浦大知／板野友美／風男塾／SOLIDEMO／X4／anderlust／小野賢章／入野自由／藤巻亮太／The BONEZ／NIGHTMARE／黒木 渚／KANIKAPILA／BugLug／SCREW／Leola／Anly／「連載：Kalafina／BUMP OF CHICKEN／高橋 優／MAGIC OF LiFE／D☆DATE／千葉雄大」他

B-PASS '16.6 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：AAA

●SKY-HI／BUMP OF CHICKEN／遊助／宮野真守／家入レオ／the GazettE／Aimer／LAMP IN TERREN／EXILE SHOKICHI／Galileo Galilei／ソナーポケット／西内まりや／カスタマイZ／ZYUN.／DAMIJAW／MUSCLE ATTACK／Ivy to Fraudulent Game／ラックライフ／Czecho No Republic／ハッカドロップス／「連載：高橋 優／MAGIC OF LiFE／D☆DATE／千葉雄大」他

B-PASS '16.7 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：OLDCODEX

●バックカバー&巻末特集：LEGO BIG MORL

●BUMP OF CHICKEN／SCANDAL／DISH//／大原櫻子／BOYS AND MEN／ファンキー加藤／Galileo Galilei／宮野真守／X4／黒猫チェルシー／04 Limited Sazabys／フレデリック／Suck a Stew Dry／chay／Anly／LACCO TOWER／SHE'S／FAKY／Kalafina／「連載：BUMP OF CHICKEN／高橋 優／MAGIC OF LiFE／D☆DATE／千葉雄大」他

B-PASS '16.8 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：AKIRA&岩田剛典 HiGH&LOW THE MOVIE

●バックカバー&巻末特集：大原櫻子

●miwa／ナオト・インティライミ／UNISON SQUARE GARDEN／SPYAIR／GIRLS SPECIAL／家入レオ／植田真梨恵／新山詩織／井上苑子／塩ノ谷早耶香／家入レオ／高橋 優／ソナーポケット／Da-iCE／Mrs. GREEN APPLE／BLUE ENCOUNT／ORANGE RANGE／THE BAWDIES×go!go!vanillas／HY+BIGMAMA／ZAQ／他

B-PASS '16.9 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：UVERworld

●バックカバー&巻末特集：SKY-HI

●THE YELLOW MONKEY／GACKT／OLDCODEX／SCANDAL／AAA／BOYS AND MEN／EXILE THE SECOND／蒼井翔太／浦井健治／BUMP OF CHICKEN／FTISLAND／Crossfaith／flumpool／THE ORAL CIGARETTES／Czecho No Republic／Lenny code fiction／Fo'xTails／HOWL BE QUIET／ラックライフ／THE BEAT GARDEN／吉澤嘉代子／ReaL／Kalafina／他

B-PASS '16.10 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：ナオト・インティライミ

●THE YELLOW MONKEY／BUMP OF CHICKEN／GRANRODEO／the GazettE／風男塾／w-inds.／高橋 優／Aimer／Goose house／SOLIDEMO／MAGIC OF LiFE／anderlust／lynch.／中田裕二／Xmas Eileen／Lenny code fiction／アルスマグナ／アンティック-珈琲店-／「連載：BUMP OF CHICKEN／高橋 優／MAGIC OF LiFE／千葉雄大／The Super Ball／阪本奨悟」他

B-PASS '16.11 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：THE YELLOW MONKEY

●バックカバー&巻末特集：宮野真守

●ポルノグラフィティ／miwa／SCANDAL／遊助／青柳 翔／フレデリック／ONE OK ROCK／植田真理恵／04 Limited Sazabys／グッドモーニングアメリカ／WEAVER／Blu-BiLLioN／ベリーグッドマン／Happiness／I Don't Like Mondays.／DAOKO／MOSHIMO／Age Factory／ハシグチカナデリヤ hugs The Super Ball／ORANGE POST REASON／他

B-PASS '16.12 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：GACKT

●バックカバー&巻末特集：超特急

●遊助／flumpool／SPYAIR／大原櫻子／Aimer／Dream Ami／板野友美／山本 彩／Galileo Galilei／高橋 優／BLUE ENCOUNT／Da-iCE／Block B／the GazettE／THE ORAL CIGARETTES／NIGHTMARE／浦井健治／DOG inTheパラレルワールドオーケストラ／Lenny code fiction／BABYMETAL／ZYUN.／瀧川ありさ／焚吐／DOBERMAN INFINITY／GRANRODEO／他

B-PASS '17.1 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：DISH//

●GENERATIONS from EXILE TRIBE／OLDCODEX／ORANGE RANGE／アルスマグナ／Mrs. GREEN APPLE／Kalafina／Fo'xTails／YURI!!! on ICE feat.w.hatano／B.A.P／RADWIMPS／AAA／SE7EN／新山詩織／HOWL BE QUIET／96猫／THE BEAT GARDEN／三浦大知／Leola／lol／KANIKAPILA／SCREW／THE Hitch Lowke／他

B-PASS '17.2 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：SKI-HY

●バックカバー&巻末特集：BLUE ENCOUNT

●THE YELLOW MONKEY／UVERworld／SPYAIR／E-girls／w-inds.／BOYS AND MEN／BREAKERZ／家入レオ／Little Glee Monster／Anly／入野自由／チャラン・ポ・ランタン／羽多野渉／藤原さくら／The Super Ball／SUPER★DRAGON／グッドモーニングアメリカ／SHE'S／go!go!vanillas／早見沙織／SOLIDEMO／他

B-PASS '17.3 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：miwa

●バックカバー&巻末特集：Da-iCE

●UVERworld／SCANDAL／GRANRODEO／宮野真守／阿部真央／家入レオ／超特急／DISH//／BOYS AND MEN／Mrs. GREEN APPLE／黒猫チェルシー／上坂すみれ／DANCE EARTH PARTY／The Super Ball／THE BAWDIES／THE ORAL CIGARETTES／イトヲカシ／Kalafina／Little Glee Monster／塩ノ谷早耶香／コアラモード.／ナノ／他

B-PASS '17.4 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：UVERworld

●バックカバー&巻末特集：LiSA

●OLDCODEX／SPYAIR／flumpool／大原櫻子／遊助／EXILE THE SECOND／w-inds.／lol／Anly+スキマスイッチ=／風男塾／04 Limited Sazabys／RIZE／the GazettE／雨のパレード／ベリーグッドマン／アンティック-珈琲店-／Blu-BiLLioN／Mayday／Ivy to Fraudulent Game／96猫／ReaL／瀧川ありさ／吉澤嘉代子／蒼井翔太／他

B-PASS '17.5 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：GRANRODEO

●バックカバー&巻末特集：高橋 優

●遊助／ORANGE RANGE／SPYAIR／the GazettE／GACKT／三浦大知／GENERATIONS from EXILE TRIBE／田口淳之介／ビクターロック祭り 番外編 Ichigolchie Join 6／家入レオ×大原櫻子×藤原さくら／Dream Ami／Acid Black Cherry／Kalafina／Sonar Pocket／LEGO BIG MORL／BIGMAMA／LAMP IN TERREN／BugLug／Lenny code fiction／Xmas Eileen／他

B-PASS '17.6 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：ゆず

●バックカバー&巻末特集：urata naoya(AAA)

●Flower／超特急／BLUE ENCOUNT／Aimer／Mrs. GREEN APPLE／Anly／板野友美／Block B／クリープハイプ／林原めぐみ／ReaL／WEAVER／HOWL BE QUIET／DOG in The パラレルワールドオーケストラ／Thinking Dogs／the peggies／魔法少女になり隊／MOSHIMO／THE BEAT GARDEN／吉田山田／SPiCYSOL／小松未可子／他

B-PASS '17.7 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：SILENT SIREN

●バックカバー&巻末特集：菅田将暉

●miwa／宮野真守／DISH//／SKY-HI／LiSA／家入レオ／Little Glee Monster／Da-iCE／BugLug／青柳 翔／THE YELLOW MONKEY／ナノ／lynch.／阪本奨悟／吉澤嘉代子／Over The Top／イトヲカシ／PELICAN FAN CLUB／noovy／ASH DA HERO／「連載：高橋 優／MAGIC OF LiFE／千葉雄大／阪本奨悟」他

B-PASS '17.8 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：OLDCODEX

●Acid Black Cherry／ゆず／UVERworld／miwa／flumpool／GENERATIONS from EXILE TRIBE／BREAKERZ／E-girls／DOBERMAN INFINITY／超特急／山崎育三郎／THE RAMPAGE from EXILE TRIBE／go!go!vanillas／SUPER★DRAGON／W PRINCE／Blu-BiLLioN／Leola／THE BEAT GARDEN／SHE'S／Age Factory／羽多野渉／Sonar Pocket／「連載：高橋 優／MAGIC OF LiFE／千葉雄大／阪本奨悟」他

B-PASS '17.9 ￥860(税込)

●表紙・巻頭：宮野真守

●バックカバー&巻末特集：BOYS AND MEN

●GRANRODEO／FLOWER FLOWER／高橋 優／家入レオ／大原櫻子／超特急／LiSA／Kalafina／天月-あまつき-／THE BEAT GARDEN／Anly／フレデリック／B.A.P／うたの☆プリンスさまっ♪ マジLOVELIVE 6th STAGE／lol／スダンナユズユリー／BugLug／Fo'xTails／CIVILIAN／SF9／「連載：高橋 優／MAGIC OF LiFE／千葉雄大／阪本奨悟」他



全国の書店、楽器・書籍お取扱の楽器店・CDショップなどでお買い求めいただけます。店頭に無い場合は小売店にお取寄せをお申し出ください。

株式会社シンコーミュージック・エンタテイメント 営業部 TEL:03-3295-4191(電話でのご注文はできません) http://www.shinko-music.co.jp

編集部月間ダイアリー (Jul21－Aug20)

夏が終わってしまいますね。
世陸も甲子園も知らない間に……。
あれ？ もうすぐ負けられない戦い？

潜入! B-PASS 24時

B-PASS STAFFS >>> ㋵→吉崎 ㋩→高橋 ㋜→鈴木 ㋚→佐藤

mon	tue	wed	thu	fri	sat	sun
B-PASS ツイッター http://twitter.com/BP_30th				7 21 ●は→雨パレ取材(9.5月号)●さ&す→林遣都撮影(fs04)●	22	23
24 ●B-PASS9.5月号校了●	25 ●B-PASS9.5月号校了●す→舞台『天国への階段』観劇●	26	27 ●B-PASS9月号発売●	28 ●は→遊助@国際フォーラム●さ→ASH DA HERO@渋谷O-EAST●	29 ●す→鈴木亮平取材(fs04)●よ→SPYAIR@富士急コニファーフォレスト●	30
31 ●す→山崎育三郎取材●	8 1	2 ●さ→澤野弘之取材(AA06)●	3 ●は→Age Factory@渋谷WWW X●す→山田裕貴取材(as22)●	4 ●は→田口淳之介取材～EBiDAN@国際フォーラム●す→城田優～中村蒼取材(as22)●さ→林遣都取材(fs04)●	5 ●B-PASS9.5月号発売●	6 ●よ→Mr.Children@日産スタジアム●
7 ●は→さくらしめじ取材●す→溝端淳平×忍成修吾(fs04)～村上虹郎取材(as22)●さ→高見沢俊彦取材(AA06)●	8 ●は→Cellchrome取材～超特急@国際フォーラム●す→古田新太×小池徹平(fs04)～綾野ましろ取材●よ→the peggies取材●	9 ●fabulous stage03発売●は→新山詩織取材●す→北村匠海×佐藤寛太～荻原利久取材(as22)●さ→BugLug@代々木公園●	10 ●は→WEAVER～MOL取材●す→田川隼嗣取材●	11 ●す→松岡 充取材～舞台「ヤングフランケンシュタイン」ゲネ●よ→SPYAIR取材～GRANRODEO@ゼップダイバー●	12 ●よ→根本要@豊洲ピット●	13
14 ●よ→SCANDAL～RIZE取材●さ→「僕やりNight」取材@豊洲ピット●	15 ●さ→映画『斉木楠雄のΨ難』試写●	16 ●は→androp取材●	17 ●よ→Little Glee Monster取材●	18 ●校了その1●	19 ●校了その2●	20 ●さ&す→吉沢亮取材(as22)●さ→古川雄大@ゼップ東京●

EDITOR'S COLUMN >>>

TOMOちゃんオススメの渋谷8528は本当にどの料理もおいしかった! 右は自家製ソーセージ。柔らかくてジューシィ♡ (よ)



ジャックバウアーだったり、ドキュメンタルだったり、サッカー漫画に寄り道したり、マイケルスコフィールドと誕生日同じだったり。(は)



取材中、小栗さん×ムロさんの仲良しっぷりにほっこり♪ お2人が表紙のfabulous stage Vol.03、よろしくお願い致します!! (す)



久々に洋画を観て面白かったので、またタイミングを観てチャレンジしたいなと。しかし、観たい邦画もいっぱいあるのです。 (さ)



〈次号予告〉 B-PASS 11月号は9月27日(水)発売

登場予定アーティスト

SPYAIR　EXILE THE SECOND　藤巻亮太　Aimer
Dream Ami　風男塾 and more

※こちらは"予定"です。変更になることもありますので、ご了承下さい。

BACKSTAGE B-PASS
2017 OCTOBER No.380
定価860円(本体価格796円)

発行人／草野夏矢　編集人／吉崎美也子　発行日／2017年8月26日(第33巻第11号通巻474号)
発行／株式会社シンコーミュージック・エンタテイメント
〒101-8475　東京都千代田区神田小川町2-1　HP ● http://www.shinko-music.co.jp
営業部　☎ 03(3295)4191
B-PASS編集部　〒101-8450　東京都千代田区神田錦町1-14　☎ 03(3292)2868　FAX 03(3292)3283
●編集長／吉崎美也子　●副編集長／高橋波奈子　●編集スタッフ／鈴木明日香　佐藤 恵
広告のお問い合わせは (株)シンコーミュージック・エンタテイメント広告部 ☎ 03(3293)3791

BACKSTAGE B-PASS



New Era®

Bags & Packs

スウェードで魅せる今季の新作

年々人気を拡大し続けているNew Era®のバッグコレクション。毎季新たなデザインが発表されラインナップのアップデートが繰り返されているが、今季のニューデザインはひと味違う。中でも、高品質な天然皮革を採用したスウェードモデルは格別。素材感が演出するヘビーデューティな雰囲気が、秋冬のコーディネイトによく馴染む。

Direction & Text ⇒ 曽根原興史（KONA）
Photo ⇒ 藪内努（TAKIBI）
Styling ⇒ 黒川慎太郎
Design ⇒ FLAG GRAPHIC DESIGN Inc.

Tote Bag

Size W380×H350×D170mm (22L)
Color Suede
Material Polyester / 1680D, Cowhide
Price ¥12,000

雨の侵入から収納物を防御

付属のストラップを使いショルダー・バッグとしても活用できる［Tote Bag］は、ファスナー式の上蓋によって雨の侵入を防ぐので、電子機器を持ち歩くことの多い現代のライフスタイルに最適。内部に複数のポケットやフックを配備するなど収納物の整理整頓がしやすい構造で、ビジネスを含む様々なシーンで活躍してくれる。New Era®のトートバック［Tote Bag］¥12,000、同ニットキャップ［Basic Cuff Knit］¥3,200、同パーカ［Sweat Pullover Hoodie］¥12,000（税別／すべてニューエラ）、その他・スタッフ私物



Shoulder Bag

Size *W270 × H245 × D140mm (9L)*
Color *Suede*
Material *Polyester / 1680D, Cowhide*
Price *¥8,000*

ポータビリティを極めた絶妙なサイズ

使い勝手の良さを追求した［Shoulder Bag］は、小ぶりなボディに多機能ポケットやフックを搭載。やや長めに設計されたショルダーストラップを採用しているので、大柄な人も快適に使用できる。コンパクトなシルエットながら収納力が高いため、旅行時のサブバッグとしてもオススメだ。New Era®のショルダーバッグ［Shoulder Bag］¥8,000、同キャップ［9FORTY™ A-Frame］¥3,600、同ジャケット［Insulated Jacket］¥18,000、同Tシャツ［Cotton Tee］¥4,500（税別／すべてニューエラ）、その他・スタッフ私物



Rucksack

Size W320 × H670 × D240mm (28L)
Color Suede
Material Polyester / 1680D, Cowhide
Price ¥12,000

バッグシリーズを象徴する名アイテム

[Rucksack]のカバーポケット内に標準装備されたキャップププロテクターは、型崩れを気にせず[59FIFTY®]を収納できる、New Era®らしい特徴。左側のジップはインナーポケットとメイン収納部の両方へ直結しているため、収納物の出し入れも容易だ。New Era®のバックパック[Rucksack]¥12,000、同キャップ[9THIRTY™]¥3,800、同スウェットパンツ[Sweat Pants]¥12,000、New Era® × 40 Acersのコーチジャケット[Coach Jacket]¥18,000(税別/すべてニューエラ)、その他·スタッフ私物



Light Pack

Size *W300 × H460 × D230mm (24L)*
Color *Suede*
Material *Polyester / 1680D, Cowhide*
Price *¥10,000*

人気モデルの仲間入りを果たした注目株

この春夏シーズンにデビューして早々、「ニューエラ」のバックパックでは珍しい大きな外ポケットを持ったカジュアルなシルエットで、ストリートからの圧倒的な支持を集めている[Light Pack]。その名の通りライトなルックスだが、インナーポケットのクッション性が高くラップトップPCの収納も可能。今季はバッグシリーズ最多の全10バリエーションが用意されている。New Era®のバックパック[Light Pack]¥10,000、同キャップ[9TWENTY™]¥3,800(税別／ともにニューエラ)、その他・スタッフ私物

●問い合わせ　ニューエラ　tel.03-5773-6733　neweracap.jp



山崎育三郎

Congratulations／あいのデータ

**ミュージカル俳優としてだけでなく数々の映像作品にも出演し、
幅広く活躍中の山崎育三郎が、初のオリジナルシングルをリリース!
現在放送中の主演ドラマ「あいの結婚相談所」のテーマソングでもある
「Congratulations」と「あいのデータ」の2曲について、
ドラマの内容も含めての制作エピソードと共に、
今後のアーティスト活動についての夢も語ってもらった。**

Text ⇒ 吉田可奈
Photo ⇒ 後藤倫人
Hair & Make-up ⇒ 花村枝美〔MARVEE〕
Styling ⇒ 百瀬 豪

■山崎さんが以前から熱望していた、オリジナル曲が遂に完成しましたね。

「ありがとうございます。歌手活動を始めてから、オリジナル楽曲をリリースすることを目指していたので、すごく嬉しいです。今までは、誰かを演じながら、作品のなかで決まっている曲を歌ったり、カバー曲を自分なりの表現で歌っていたんですが、やはりオリジナルとなると気持ちが変わってくるんですよ」

■ずっと抱いていた夢が叶ったんですね。

「そうですね。さらに、自分の主演ドラマのテーマソングを歌えるという、こんな素晴らしい経験はなかなかないことですし、誰もができることではないので、感謝の気持ちでいっぱいです」

■現在、その主演ドラマ『あいの結婚相談所』がオンエアされていますが、始まってみていかがですか?

「このドラマは、今まで誰もがやったことのない〝ミュージカル×ドラマ〟という世界観が表現されているんです。だからこそ、新しいチャレンジでもありますが、観てくれた人たちが受け入れてくれるのかどうかという恐怖心があったんです」

■たしかに、衝撃は大きかったです。

「ですよね(笑)。〝ミュージカルをドラマで表現すると、こうなるんだ〟という体験はなかなかないでしょうし、戸惑う人も多いと思うんです。でも、コミカルな部分とシリアスな部分が中和されていて、ドラマとしてはすごくおもしろく仕上がっているなと思いました」

■周りの方からの反響はいかがでしたか?

「思った以上にいい反応が多くてすごく安心しました。やっぱり、不安だったんです。誰も

やったことがないことだから、どうしてもネガティブに考えてしまっていたんです」

■でも、山崎さんは基本的にチャレンジャータイプですよね？

「そうですね。ミュージカル俳優がドラマにチャレンジすることもそうだし、ミュージカル俳優がJ－POPのCDを出すことも異例。誰もがやったことのないことが続いているので、ドキドキしますが、すごくやりがいがあるんです。これはすごく贅沢な経験だと思うので、抱いた気持ちも含めて大事に味わっています」

■たしかに、山崎さんがドラマ『下町ロケット』（2015年放送）に出演したときは少し意外に感じました。

「ミュージカル俳優がドラマに出る前例が少ないですからね。それに、ミュージカルって、ロングランの公演が多いので、俳優は3年先までスケジュールが埋まっていることも多いんです。当時、ドラマに挑戦することを決めたときは、そのスケジュールを全部空けたんです」

■それはすごい決断！

「はい。12歳からミュージカルをさせていただき、29歳まで様々な経験を積み、これからさらにいい経験ができるという時に、これからどうなるかわからないドラマの世界に飛び込むのは、すごく不安なことでした。もしかしたら、失敗するかもしれないし、この決断のせいで、これまで出来てきたことが出来なくなるかもしれないとも思ったんです。でも、だからといって挑戦することを止めたら、成長はそこで止まってしまうし、そこで挑戦したからこそ見える景色が絶対にあると思ったんです」



■とにかく挑戦を続けたんですね。

「はい。挑戦はしないとダメだと思ってるんです。今、こうやってミュージカル俳優がテレビドラマの主演が出来ているのは、そのチャレンジがあったからこそ。僕はもともと、怖いほうに行くのが好きなんです」

■怖いほう、ですか？

「リスクを伴うかもしれないですが、それに挑戦した末に勝ち取る結果が、今の僕や、未来の僕に繋がっていくんです。だからこそ、今こうやって、オリジナル楽曲をリリースさせてもらえていると思うんです」

■そんな熱い想いから実現したオリジナル曲「Congratulations／あいのデータ」。まずは「Congratulations」を初めて聴いた瞬間、どんなことを思いましたか？

「ドラマのテーマソングというのが念頭にあったので、"物語に沿った美しいウエディングソングだな"と思いました。男女が歌い出すようなイメージも沸いたし、明るくて華やか、前向きでみんなが祝福するようなハッピーなウエディングソングで、すごく気持ちのいい歌だなと。それに、こういった幸せなウエディングソングって、実はあまりないなとも思ったんです」

■たしかに、バラードが多いですよね。

「そうなんですよね。みんなで"おめでとう！"と言う曲は新しいなって思ったんです。1度聴いただけで耳に残る曲だとも思いました」

■曲の展開もすごくカッコイイですよね。

「この楽曲はすごくミュージカルを意識していて、弦楽器や、ブラスのサウンドが効果的に使われているんです。馴染みのあるサウンドだったので、すごく歌いやすかったですね」

■歌詞にはどんな印象を持ちましたか？

「実はこの曲、すべてのサビが同じ歌詞なんです。ベーシックな楽曲って、2番になるとサビの歌詞が変わるじゃないですか。それが、この



”

ドラマのテーマソングというのが念頭にあったので、〝物語に沿った美しいウエディングソングだな〟と思いました。
男女が歌い出すようなイメージも沸いたし、明るくて華やか、
前向きでみんなが祝福するようなハッピーなウエディングソングで、すごく気持ちのいい歌だなと。



”

カップルへの祝福を歌った〝Congratulations〟と、
女性の本音を歌った〝あいのデータ〟という2曲。
どちらもすごく素敵なウエディングソングになったと思います

曲はサビがすべて同じ歌詞。だから、1度聴いただけでもすぐ歌えるんですよね。誰もが歌える曲だからこそ、ウエディングソングとして広まってくれたら嬉しいです」

■山崎さんはウエディングソングというと、どんな曲を思い浮かべますか？

「〝You Raise Me Up〟（Celtic Woman）などの、しっとりとしたクラシック・クロスオーヴァーの曲が多いですね。この曲は対極的だからこそ、いろんな人に聴いてもらいたいです」

■レコーディングでのディレクションはどんなふうに行なわれたんですか？

「ディレクターの方が、〝とにかく明るく、ずっと笑顔で歌っているようなものにしましょう〟と言ってくださったので、口角があがるようなイメージで歌いました。口角が上がると、声が自然と明るくなるんですよ。〝おめでとう！〟という雰囲気をナチュラルに表現することができるので、そこを大事にして臨みました」

■そのほかに気を付けたことはどんな事でしょうか。

「ミュージカルは来てくれたお客さん全員に対して歌っていたんですが、J・POPでは、1対1を信念に、聴き手1人に対して歌うように意識をしました。目の前の友人カップルに〝おめでとう！〟と言うようなイメージで歌いました」

■ちなみに、ドラマで山崎さんが演じる〝藍野真伍（あいのしんご）〟はとてもつかみどころのない役ですよね。

「そうなんです。彼のセリフはいつも自分で完結しているんです。〝動物がどうたらこうたら～〟と説明セリフが多くて、ほとんどが相手との〝会話〟ではないんです。会話だと、返しがある分、覚えやすいんですよね。でも、藍野さんは1人で喋っているので、会話ではなく〝暗記〟なんですよ（笑）。しかも覚える量がかなり多い！」

■あはは。確かに藍野さんはすごく話す方ですよね。

「さらに、ピアノも全部譜面をもらって、覚えて弾いているんです。極めつけは、今回振り付けも自分で考えているんですよ」

■……大変！

「大変です（笑）。5つくらいのことを同時進行でやっているので、改めてこれまでドラマの主演をしていた俳優の大先輩の方々に尊敬の意を感じました。睡眠が2時間しか取れないことも続いたんですよ。でも、藍野さんのスイッチが入ると、一気にテンションが上がるんです。これは役の力だと思います」

■ミュージカルの上演時も睡眠時間が短いんですか？

「いや、ミュージカルは寝ていないとダメなんです。ドラマは普通の話している声で大丈夫なんですが、ミュージカルとなると腹の底から声を出して歌い踊るので、体力がないとこなせないんです」

■改めて、ミュージカルとドラマではスイッチが違うんですね。

「はい。この〝藍野さん〟は、ミュージカルのときの自分とも違いますし、お茶の間のみなさんに寄り添えるようなキャラクターにしたいと思っているんです。〝ミュージカル風〟ドラマではあるんですが、ミュージカルの通りにやると、どうしても視聴者の方は引いてしまうと思うんです。なので、その違和感は大切にしつつ、バランスを考えながら演じていきたいですね。今回やってみて、お芝居の中でいちばん難しいのはコメディだと改めて思ったんです。笑いを作るという作業は一番大変なもの。このドラマでは、それを毎回求められるので戦いの連続なんです（笑）」

■でも、基本的に、自分を追い込むのが好きなタイプですよね？

「そうかもしれません（笑）。自分が思っている以上のところに自分を持って行きたいと、常に思っています。楽な所だけには行きたくないんです」

■すごくいい心がけですね。

「赤ちゃんって、ずっとONの状態じゃないですか？　休むという概念がないんですよね。見るものがすべて新鮮だから、落ち着くとか適当にやることを知らないと思うんです。大人も、一度スイッチを入れて全力で過ごすほうが、いいリズムで生活ができる気がするんですよ。僕は変に休んでしまうと逆に疲れちゃうんです」

■となると、睡眠の大事さも感じますよね。

「そうですね。理想はしっかりと眠ることなんですが……寝なくても頑張れる身体を手に入れたいです（笑）」

■あはは。そして、もう1曲の「あいのデータ」も、可愛らしい曲ですよね。

「この楽曲は女性の気持ちを歌っているので、女性になりきって感情的に歌いました」

■女心が分かっている歌詞に感動しました。

「ストレートですよね。歌詞で〝やっぱり美人は得だなぁ〟と言っちゃってますからね（笑）。〝データ集めて　統計と理論〟という歌詞も、藍野さんの考えが入っていますよね」

■男性代表の山崎さんは、この歌詞を読んでどんなことを思いましたか？

「実はこの歌詞は、男性でもすごく共感できるものだと思うんです。多くの人が経験することだと思うので、男女関係なく、共感してもらえるはずですよ」

■改めて、この2曲を聴いて、どんなシングルになったと思いますか？

「今回は、ベースにドラマ『あいの結婚相談所』というものがあってのテーマソングだったので、楽曲に対しての想いが明確に描きやすかったんです。カップルへの祝福を歌った〝Congratulations〟と、女性の本音を歌った〝あいのデータ〟という2曲。どちらもすごく素敵なウエディングソングになったと思います」

■ちなみに、ミュージックビデオはどんな仕上がりになっているんですか？

「実は、この2曲がメドレーになっている、ドラマ仕立てのミュージックビデオなんです。観て、幸せな気持ちになってもらえたら嬉しいです」

■さて、このシングルをひっさげた、ワンマンライヴが決定しましたね。

「オリジナルシングルもできて、アーティストとしてのさらなる第一歩を踏みだしたので、オリジナリティあふれるライヴになればいいなと考えています。歌って、踊って、ピアノも見せたいし……やりたいことに溢れているんですよ」

■今は夢で溢れているんですね。

「はい。いつか、自分で作詞作曲にも挑戦したいと思っているんです。シンガーとして活動するには、より自分の世界観を色濃く出せるような、アーティストになりたいと思っています」 B





山崎育三郎 LIVE TOUR 2018

1月14日（日）豊洲PIT
1月15日（月）豊洲PIT
（問）ディスクガレージ050-5533-0888

1月18日（木）Zepp Nagoya
（問）サンデーフォークプロモーション052-320-9100

1月19日（金）Zepp Osaka Bayside
（問）キョードーインフォメーション0570-200-888



初回盤A



通常盤

1st Original Single
Congratulations /あいのデータ
2017.08.16 Release
初回限定盤　CD+DVD ￥1,700（tax out）
通常盤　CD ￥1,200（tax out）

［CD］
01.Congratulations
02.あいのデータ
03.あいのデータ Happy ver.
04.Congratulations(instrumental)
05.あいのデータ(instru mental)
06.あいのデータ Happy ver.(instrumental)
［DVD］
MUSIC VIDEO（あいのデータ&Congratulationsメドレー MV）＋MAKING VIDEO

山崎育三郎 ⇒
やまざきいくさぶろう。'86年1月18日生まれ。ミュージカルを中心に数多くの舞台で活躍。近年では、映像作品への出演やアーティスト活動など、活動の幅を広げている。今後は、ミュージカル『レディ・ベス』（10～12月帝国劇場 ほか）、ミュージカル『モーツァルト!』（2018年5月～6月 帝国劇場）などが控えている。


HONGBIN ホンビン


N エン


LEO レオ


KEN ケン

VIXX

ラララ～愛をありがとう～





韓国デビュー5周年、日本デビュー3周年を迎えたVIXX（ヴィックス）。そんなアニバーサリーイヤーに、感謝の気持ちを届けるニュー・アルバム『ラララ　～愛をありがとう～』を9月27日にリリース。ワンマンライヴやイベント出演のため日本に訪れていた、この夏。リリースに先がけ、彼らに会うことができました。本誌初登場!!

Text ⇒ 筧真帆　Photo ⇒ 大川晋児

ここまで来られた感謝の気持ちを日本のファンの皆さんにもお伝えしたくて、日本の方々にもすぐ馴染んでもらえる歌にしました

■7月の幕張メッセでのライヴ、観させて頂きました。東名阪の3地域を廻り、ツアーとしては1年少しぶりとなりましたね。久々の日本ステージに立った手ごたえは？

エン「僕たち、ライヴをする度に楽しくて幸せな気分でいっぱいになります。でも結構悩むんですよ。どういうふうにしたらもっと良くなるのか、どんな内容を詰め込んだらファンの皆さんにも喜んでもらえるか。でもその悩みが成長を促してくれているようです。その一方で、悔しさもあります。もっと思っていたように見せられたら良かった、こんなチャンスがあれば良かったのに……なんて。それも含めてライヴって幸せな時間だなと思えます」

■その幸せな時間の中で、〝あの瞬間は幸せだったな〟というのはどんな時ですか？　今回のツアータイトルは「白昼夢」、まさに夢のような体験が皆さんにもあるのでは。

レオ「いつもステージに立ちながら思うのは、僕たちは韓国人のアーティストなのに、日本の会場で日本のファンの皆さんたちと楽しい時間を過ごせているなんて……。日本でこうして何度もライヴができているなんて、日本のファンの皆さんが応援してくれているから可能なんだなと感じる瞬間です。ライヴの準備をしている時からすでに、夢のような時間を過ごしています」

ラビ「今回のツアーでファンの皆さんが、さらに情熱的になったと感じた瞬間ですね。声援がすごく大きくなったなと」

■ライヴで特に印象的だったのは、韓国で春にリリースした「桃源境」でした。扇子を使ったパフォーマンスがすごく魅力的で、釘付けになりましたよ！

エン「ありがとうございます。あの曲を始めた頃は、扇子を落としてしまったりしていたんですが、練習を積んで手に馴染んできたので、今はパフォーマンスをする上で良いアイテムになっています」

■扇子もそうですし、ダンスもメロディも東洋的で、日本人としても感性に響くポイントは一緒だなと感じました。

エン「僕たち自身もリリースしてから、SNSなどの反応を見ていたんですよ。すると、どの国の人もすごく応援してくれていて。扇子のプレゼントもたくさんもらいました。なので僕たちにとってもファンの皆さんへ特別なパフォーマンスができる曲だなと思っています」

■扇子って男性も使います？　女性が使う印象が強いけれど。

エン「使いますよ。暑い日はミニ（手持ち）扇風機も使いますが、扇子もよく使います。僕の父も、いつも扇子を持ち歩いているほどです」

ヒョギ「番組の撮影など色んな仕事があるとき、けっこう使います。スタッフの皆さんも僕たちを扇いでくれたりね。僕の顔が書いてある扇子も持ってますよ、ファンの方がくれたんです」

■プレゼントを実際に使っていると知ると、ファンの皆さんも嬉しいでしょうね。ライヴのラストには、客席に長い時間降りてしっかりサービスしていましたね。

エン「客席に降りたほうが、僕らもドキドキするんですよ！　そこまでの時間は各自のパフォーマンスを完璧にすることに努めて、ラストで客席に降りると、すべてを解き放つ感じ。本当に気持ちいいです」

■今回のライヴ現場でファンの皆さんにVIXXの魅力を聞くと、ファン思いなところ、ファンと近いという答えが多く上がりました。9月にリリースされるアルバムのリード曲「ラララ ～愛をありがとう～」も、とても爽やかで、タイトル通り、ファンを思っているような曲ですね。

ホンビン「はい、そうです。メロディとしては僕たちがこれまで歌ってきたカラーとは、かなり違う曲に仕上がっていると思います。加えて僕たちが、日本デビューから3周年、韓国デビューから5周年を迎えたので、ここまで来られた感謝の気持ちを日本のファンの皆さんにもお伝えしたくて、日本の方々にもすぐ馴染んでもらえる歌にしました」

■アルバムの候補曲はたくさんあると思うのですが、この「ラララ ～愛をありがとう～」をメインに据えようという決め手は？

ラビ「その時々のアルバムの意図や企画ごとで違うんですが、今回は何よりファンの皆さんへ感謝を込める歌にしようという意図があったことが1つ。それと、何か新しい姿を見せたいなと悩んだときに、この曲はこれまでの僕たちのイメージとは違う、日本の音楽市場にすごく合った曲だと感じたんですね。〝J-POPらしい〟感性をもった曲にVIXXが挑戦すると面白いんじゃない？という思いもあって、メイン曲になりました」

■まさに、今ラビくんが言ってくれたように〝J-POP〟ですよね。この曲がJ-POPらしいのに対して、これまでR&Bやエモーショナルな曲が多かったVIXXにとっては新展開ですが、この違いを消化するうえで苦労はありましたか？

ラビ「個人的には、J-POP特有の感性があるような気がします。日本も韓国も中国も近くて似た音楽性を持っていますが、建物を見ても少しずつ違うように、J-POPだけが持つ妙味……。僕ら韓国人からすると、聴き慣れているようで不慣れな感じがありますね。そこが歌うときにも面白いです」

エン「違いが大きいとは感じていなくて、日本はソフトで美しい歌が多いなと感じます。韓国は歌唱力やパワフルさで伝えなければいけないけれど、J-POPは歌全体が可愛くて自然で、美しい歌が多いなあと感じています。だから日本は一緒に歌ったり、リラックスできる音楽が多いなと。J-POPらしい歌のときは、気分も切り替えて歌います」

■ところで、この曲のダンスはどんな感じなんですか？

エン「この曲、ダンスがないんです。というのは、僕たちがステージでパフォーマンスするよ

りも、ファンの皆さんと楽しみながら、一緒に体を動かしてみたいなと思ったんです。振付けよりも、スキンシップが重要な歌だと」

ラビ「本当に歌詞がとても良くて、歌詞を通して気持ちを通じ合いたいので、歌に集中してほしくて。パフォーマンスがあると、どうしても踊りに集中してしまうから、一緒に歌うことより見てしまうと思うんです。この曲は、必ず一緒に歌って感じてもらえたら」

ホンビン「退屈したら、ケンがポッピング・ダンスをしてくれるよ」

エン「（すかさず）冗談ですよ！」

■（笑）。それだけ歌詞が重要な曲ということですね。特に伝えたい、感動的だな、と思った歌詞はありますか？

エン「みんなお気に入りのフレーズがあって、僕は〈未来が待ってるよ〉のところです。すごく感動的だなと感じたのは、僕たちのSTARLIGHT（ファンの呼称）をはじめ僕たちを応援してくれるすべての人たちと、未来にも一緒にいたいという意味が込められているから、すごく素敵だよねってみんなで話していたんですよ」

ケン「もちろん日本のアーティストさんに比べると、発音や歌のニュアンスは完璧じゃないですが、それでも今回の曲は、歌詞の意図するところに僕たちの心からの気持ちを歌い方に込めようと決めて、日本のディレクターの方に韓国まで来て頂いて、多彩なニュアンスと発音で最大限伝わるよう気持ちを込めてレコーディングしました」

■その甲斐あってVIXXの皆さんの等身大が感じられる曲になっていると思います。歌詞の中で〈ずっと笑顔でありますように〉と



いうフレーズがありますが、VIXXの皆さんがずっと笑顔でいられるときって？

ホンビン「いつが最高って挙げるのが難しいくらい、1日1日が楽しいことばかりで、笑顔になることだらけなんですよね」

エン「誰かって挙げるなら、ケンが一番メンバーを笑わせますね。愛嬌もたっぷりだし、瞬間瞬間にツッコミたくなる話や行動が多いから（笑）。僕たちを笑顔にさせるメンバーです」

ホンビン「だから僕は、ケンを少しダウナーな気分にさせてるんです。わざと（笑）」

■そう言われて、ケンくんご本人は？

ケン「……（考え中）」

エン「（横から）何も考えてないですよ（笑）」

一同「ハハハハハ」

ラビ「こういう楽しさなんだよね」

■さっきホンビンくんからも、日本3周年の話が出ましたが、この3年の間に「ラララ ～愛をありがとう～」のように、心から感謝をしたい出来事を挙げるとすれば？

エン「実際のところ3周年じゃなくても、ずっと感謝の気持ちは持っています。ライヴもそうですが、僕たちが音楽活動をしたりステージで歌うときに、ファンの皆さんがいなかったら、ずっと続けることも難しいじゃないですか。僕たちがやりたい音楽やステージを愛して応援してくれて、何かあるたびに会いに来たり、情報を探してくれたり……その姿を見ていると、いつもお礼を言いたいです」

ラビ「日本の皆さんの行動で今も感動的なのは、僕たちがステージに登場するたびに、椅子があるのに立ち上がって見てくれること。登場のときや、再登場する瞬間も必ず立ち上がって応援してくれるでしょう。それって日本

の皆さんは、すごく集中してくれて、ステージへの興味も深いんだなと感じています」

エン「韓国では立ってしまうと、後ろの人が見えなくなるかなと思って、後ろの人に配慮してちょっと立ちにくい雰囲気があるんです」

ラビ「そう、日本ではみんなが立ち上がってくれる！」

エン「最初の頃は、ずっと立ってたら疲れるんじゃないかなって思ったんですが、すごく集中してステージを楽しんでくれていることがありがたいです」

■では今回のアルバムのヒントになるような、皆さんの好きな音楽ジャンルの話を聞きたいです。

レオ「僕はすべてのジャンルが好きです。音楽チャートに上がってくるアルバムは、国外問わず、ひと通り聴きますね」

ケン「僕はR&Bやソウル、ヒップホップ、それにアコースティックなどのジャンルが好きですね。クリス・ブラウンやエドシーラン、ブルーノマーズも好き！」

ラビ「僕もブラックミュージックが好きですね。ヒップホップやR&Bが好きです」

エン「最近は落ち着いた音楽が好みで、最近のJ-POPもよく聴いています。映画『君の名は。』のサントラを歌った、RADWIMPSの"なんでもないや"とか大好き。すっごく声も良くて。今回のアルバムで僕も曲を書いたんですが、そういった最近聴いている音楽も反映しているかもしれません」

ホンビン「僕はアコースティックやバラードが好みです。静かめで、色んな要素が入り過ぎていないシンプルな音楽が好きですね」

ヒョギ「僕は歌詞を聴くのが好きで、メッセージが伝わってくる温かい歌が好きですね。最近バンドも好きでよく聴いていて、ONE OK ROCKの"Wherever you are"なんて、歌詞も歌も素敵ですよ。他にコールドプレイも好きです」

■なるほど。この質問をしたのはですね、皆さんの好きな音楽と、自身が奏でる音楽って共通しているのか、また違うのかっていうのを知りたくて。

ホンビン「僕は似ているほうかな。沢山聴いていたら、自然と口ずさんでみたり、声の出し方も似てきます。好きなジャンルなら自分も消化しやすいですし、影響し合いますね」

ラビ「基本的には好きなアーティストの影響を受ける人が多いんじゃないかな。僕の場合、曲を書くときに色んな感性を使わなきゃいけないから、自分が好きな音楽ジャンルが出てきます」

エン「僕はちょっと違うかも。僕が好きな歌はキーがすごく高くて、僕とは合いません。R&Bのような音楽は、キーが高いところはあまりないから、僕も歌いやすいんですよね。アルバムは色んな僕たちを楽しんでもらえる作品になっていると思います！」 B

New Album
ラララ ～愛をありがとう～
2017.09.27 Release
初回盤A CD+DVD ¥2,778(tax out)
初回盤B CD+DVD ¥2,778(tax out)
通常盤 CD ¥2,037(tax out)

「ラララ ～愛をありがとう～」を含む全5曲+インストゥルメンタル

VIXX ⇒
ヴィックス。Voice, Visual, Value In Excelsis ＝ 最高のVoice、最高のVisual、最高のValueという意味。韓国6人組ダンスヴォーカルグループ。'12年、韓国デビュー。'14年7月、アルバム『DARKEST ANGELS』で日本CDデビュー。








VIXX in SUMMER

■今年の夏はアルバム制作や、日本でのライヴやプロモーションもあってお忙しそうですけど、夏と言えばよく海に行っていたなど、それぞれの夏の思い出は?

ケン「僕は夏と言えば、中学2年のときに家族と行った済州(チェジュ)島の旅行がすごく思い出に残っていますね。かなり昔のことだから曖昧なんですが、とても幸せな時間だったなあということを覚えています。最近は忙しくて旅行とかはまったく行けないので、当時のことを思い出します」

ホンビン「僕はちょっと前に『ジャングルの法則』(韓国のサバイバル・バラエティ番組)の撮影に行ってきたんですが、行く前から、海のキレイな場所に行きたいという思いが強かったです。海に入って泳いだり、魚とたわむれたりして過ごしたり、人生でなかなか経験できないことにたくさん触れられて、いい思い出となりました」

レオ「去年の夏のことなんですが、ラビくんと富士急ハイランドに行ったことが思い出深いですね。乗り物もいろいろ乗って、暑さも吹き飛ぶぐらい爽快な気持ちになれました。僕はジェットコースターとか絶叫系のものも全部好きなんで、本当に楽しかったですね」

エン「僕は今年の夏のはじめのことなんですが、友達で俳優のイ・ウォングンと一緒に大阪へ遊びに行ったんです。ユニバーサルスタジオも行ったし、おいしい物もたくさん食べて、道頓堀のグリコの看板も見に行ったり、すごく楽しい思い出ができました。友達と海外旅行へ行くこと自体もめったにない機会で楽しかったし、しかもウォングンも僕も誕生日を大阪で迎えたんで、特別な時間でしたね。でも大阪って美味しい食べ物が多いから、4キロも太っちゃいました(笑)」

ヒョギ「僕はちょっと前に、いとことサッカーの試合を観にスペインに行ってきました。僕たちが行ったとき、その地方が初夏だったんですね。僕もいとこも、子供のときから大好きで夢に見ていたサッカー選手たちの試合を、目の前で観れたということが僕にとって大きな意味があって、幸せでした」

■サッカーチームに入っていたんですか?

ヒョギ「特別にサッカーしていたというより、子供のとき、休憩時間やにクラスの友達と遊んでいたという程度ですが、サッカーが大好きでした」

ラビ「夏の思い出って……僕、これと言ってないんですよね(笑)。だから、これから作りたいです。旅行も行きたいし、特に避暑地へ旅したいですね」

レオ「富士急ハイランドに行ったじゃん!? 楽しくなかったの?」

ラビ「確かにそれもね……(苦笑)。いや、どんな瞬間も幸せに生きてきたんですよ、楽しくなかったわけじゃないよ(笑)」

レオ「そうか……」

ラビ「けど、夏と言えばあんなことがあったなあ!と思い出すほどのことはないかなと思って。もう25歳にもなるのに(笑)」

ホンビン「早くいい思い出作りなよ!」

ラビ「はい!」 Ⓑ




今、気になる人や作品の最新情報を紹介するこのコーナー。今月は、話題の舞台に出演の2人が登場!!

松岡 充 >>>

Text ⇒ 花倉有紀子
Photo ⇒ 小松陽祐(ODD JOB)
Hair & Make-up ⇒ 笹川知香



松岡 充 ⇒
まつおかみつる。'71年8月12日生まれ。SOPHIA·MICHAELのヴォーカリスト。映画·ミュージカル·舞台の主演作を多く務めるなど、俳優活動も幅広く行なう。今後は9月8日スタートのNHK·ドラマ10·「この声をきみに」(毎週金曜22時)に出演する。

劇団鹿殺しの丸尾丸一郎と松岡 充がタッグを組んだ新プロジェクトが始動。OFFICE SHIKA PRODUCE VOL.M『不届者』は、徳川吉宗と松岡 充の人生を重ね合わせて丸尾が書き下ろした新作舞台である。果たして黒い噂もつきまとう吉宗と松岡に共通点はあるのだろうか……？

■丸尾丸一郎さんとは2012年の音楽劇『リンダ リンダ』の再演からのお付き合いなんですね。今作でコラボすることとなったいきさつは？

「出会ってから作家・演者としての丸尾くんの活動をずっと観させていただいていますけど、そう簡単に言っちゃいけないかな……でも彼は天才だと思いますね。エンターテインメント性を大事にした脚本を書き、演出もするんだけど、自分たちの世界観の核となるモノは絶対にブレない。僕が観た数作品には、ずっと劇団鹿殺しの中に根づくカタルシスみたいなものがあって、それが僕にドンピシャでハマるんですよね。劇団員とファンを全員背負っていく中で、それでも譲れない自分の美学というモノを作品に投映していける本当に稀な演出家であり作家、俳優だと思うんです。だから僕はいつ声をかけられてもOKな状態でいたワケです。でも彼のズルいところは、ずっと僕に声をかけ続けてはいたんですがなかなか……」

■え？

「なんなら『リンダ リンダ』の直後くらいからずっと"一緒にやらない？""いいよ""一緒にやらない？""いいよ？"って言い続けてて」

通過点となるのは絶対にイヤだし、もちろん僕も"『不届者』が松岡 充の代表作だね"と言われるところを目指していますから

■(笑)それが今回やっと実現したと。

「そう。ただ彼の計算ミスは僕を待たせすぎたことですね(笑)。待たせすぎたから僕、丸尾くんを知りすぎて、彼に対して求めるモノがデカくなってます」

■(笑)。でも譲れない美学という点では、"アーティスト・松岡 充"と丸尾さんは、似ている部分もあるんじゃないかと思うんですけど。

「確かに話は合いますね。"こういうことを表現したいよね"という、言葉にはなりにくいモノってあるじゃないですか。それがなんか伝わってる……ような気が僕はします」

■今作で松岡さんは徳川吉宗を演じますが、丸尾さんは公式コメントで"吉宗がのし上がってきた来た怪しさが松岡 充と重なる"とおっしゃっていましたね。それに対してどう感じました？

「丸尾くんには僕が吉宗みたいにトントントンと天下を獲ったように感じられてるみたいで。"だけど本当は何か裏があるんじゃないか？"ってことを言いたいんだと思うんですけど、僕、全然トントントンじゃないですよね？」

■トントントンではないけど、策略家ではありますよね？

「それ言われる(笑)。まぁでも、丸尾くんはそういうところをおもしろいと思ってくれていて、彼の中の"松岡 充像"が描かれるんだと思うので楽しみです。そして僕的にはそう見えていても実はそうじゃないという部分が見せられたらいいなとは思っていますけどね」

■共演者の中に荒木宏文くんがいますね。またこのコンビが観れるんですね(笑)。吉宗の幼馴染役のようですが。

「唯一の信頼できる片腕という役です。荒やんって僕のことをもちろん慕ってくれているんだと思うんですけど、ベッタリ"松岡さん！"って感じではないんですよ。常にどこかでライバル視しているというか。彼はやっぱり孤高で、どこにいても異質なんですよね。今回の役柄的には僕の相棒なんで2人1組みたいなところはあるけれど、役を離れたところではそうでもない。そこを丸尾くんが見抜いて当て書きしてくれたらおもしろいなとは思いますね」

■それにしても本当に一筋縄ではいかない役者さんが揃いましたね。

「ね。みっちー(小沢道成)も『リンダ リンダ』以来で、その時はまだ経験値も浅かったんだけど。でも当時のカンパニーの中でコイツすげーなと思ったのがみっちーでした。彼は僕に似ているところがあって、根性もあるけどしたたかだし(笑)、ちゃんと相手の立場を考えながら自分の立ち位置を考える。頭がいいんですよね。それで当時、彼に"お前は絶対に大きくなるからとにかく突き進んでいけ"という話をしたことがあって。で、そのあと彼は突き進んでいき、めきめきと実力をつけていき……久々の共演なので、彼にはすごく期待しています」

■今の時点でまだ台本が上がっていないので、観てのお楽しみという形になりますが。

「プレッシャーをかける気はないけど丸尾くんに言ったのは、この舞台はもちろん劇団鹿殺しが今後さらに大きなステージに上がっていくための礎のひとつかもしれないけど、僕にとっては一生に1本のステージにしたいと思っているから、そこは心して書いてねと。これが丸尾丸一郎の代表作だと言われる作品じゃないと僕はイヤだよって言いました」

■プレッシャーですね(笑)。でも、もちろんそういう作品でなくては！と思います。

「通過点となるのは絶対にイヤだし、もちろん僕も"『不届者』が松岡 充の代表作だね"と言われるところを目指していますから」 B

OFFICE SHIKA PRODUCE VOL.M「不届者」⇒ 9月27日(水)～10月1日(日) 東京·天王洲 銀河劇場、10月13日(金)～10月15日(日) 大阪·サンケイホールブリーゼ／作·演出:丸尾 丸一郎／音楽:オレノグラフィティ／出演:松岡 充　荒木宏文　オレノグラフィティ 橘 輝　鷺沼恵美子　峰ゆとり　近藤茶　椙山さと美　谷山知宏(花組芝居)　小沢道成(虚構の劇団) 池田純矢　丸尾 丸一郎／お問い合わせ先:株式会社オフィス鹿　TEL:03-6265-8518

田川隼嗣 >>>

Text ⇒ 吉田可奈



田川隼嗣 ⇒
たがわしゅんじ。'00年12月25日生まれ。長崎県出身。毎週土曜22時より放送のAbemaTV「真夏のオオカミくんには騙されない」にレギュラー出演中。今後は、映画『BRAVE STORMブレイブストーム』が控えている。

生田斗真、菅田将暉が初共演することで話題の戯曲『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』が、この秋上演される。今回演じる役のオーディションを突破し、見事役を手にいれた田川隼嗣。まだ初々しさが残る彼に、じっくりと話を聞いた。

■今作が初の舞台出演になるんですね。

「はい。まだ映像のお仕事もそんなにしたことがないので、今から緊張しています」

■オーディションに受かった時の心境は？

「とにかくビックリしました。実は、舞台初めてのオーディションだったんです。どんなことをするのかもわからなかったので、渡された台本を読み込んで挑みました。オーディションでは、演技を見せたあとに、みんなでそこにボールがあると仮定して、投げ合う時間があったんです。それはすごく自由に演じて、これでいいのかな？と思いながらもその演技をみんなで楽しんでいたら、あっという間に終わってしまって（笑）。その後、"プロデューサーさんがマネージャーさんに"演技はまだまだだけど、いいね！"と言ってくださったらしいんです」

■オーディションでそこまで言わせるのは、なかなか難しい事だと思いますよ。

「とにかく、その期待を裏切らないように全力でがんばらなくちゃって思っています」

■もう顔合わせなどはしているんですか？

「実はまだなんです。今はいただいた台本を読み込んでいる最中です」

■台本を読んだ感想を教えてください。

「今作は、タイトルロールのお2人の会話の掛け合いがすごく多いので、絶対に圧倒されるシーンになるんだろうなとワクワクしながら読みました」

■ちなみに、田川さんはどんな役どころなんですか？

「僕は劇団員の役なんです」

■えぇ！

「しかも、女装をするんですよ。台本を読んでみたら菅田さんとの掛け合いもある役で。菅田さんは、僕が芸能界に入るきっかけとなったジュノン・スーパーボーイ・コンテストの先輩でもありますし、ずっと憧れていた俳優さんだったので、すごく嬉しい反面、ドキドキしているんです」

■菅田さん以外にも、本当に名優の方たちが集結していますよね。

「そうなんです。迷惑をかけてはいけないと思うのですが、それ以上に、"あの子は一体誰!?"と思ってもらえるように頑張りたいと思っています」

いただいた役をちゃんとやりきるのはもちろん、そのなかで自分なりに演技を楽しめる俳優さんになりたいです

■物語の魅力はどんなところにありますか？

「実は、最初に台本を読んだときは、僕には少し難しかったんです（苦笑）。でも、実際に生田さんと菅田さんが演じているところを観れば、物語の深みや、"こんなことを言いたかったんだ"ということがわかると思います。僕も何度も台本を読んでいくうちに、この物語の面白さにハマっていったので、舞台も何度も観ていただきたいですね」

■初舞台でこの作品というのは、すごく恵まれていますよね。役者という魅力にどんどんハマっていきそうですね。

「そう思います。実は僕、まだ地元の長崎で高校に通っているんです。でも、高校を卒業したら上京して、東京で俳優としてがんばりたいと思うので、その土台が作れたらいいなと思っています」

■俳優として成長するために、普段はどんなことを心がけていますか？

「いろんな映画やドラマを観るようにしています。以前は洋画のアクション映画ばかり観ていたんですが、今は邦画ばかり観るようになりました。最近一番感動したのが映画『君の膵臓をたべたい』。言葉では表現できないほど気持ちが溢れてきて、小栗 旬さんが泣くシーンではもらい泣きしてしまいました」

■将来的に、どんな俳優さんになっていきたいですか？

「いただいた役をちゃんとやりきるのはもちろん、そのなかで自分なりに演技を楽しめる俳優さんになりたいですね」

■ありがとうございました。さて、本誌は音楽誌なので、音楽についても聞きたいのですが、どんなアーティストさんが好きですか？

「ONE OK ROCKさんや米津玄師さんなどをよく聴いています。ONE OK ROCKさんで一番好きなのが"The Beginning"。米津さんで好きなのが"恋と病熱"です。テンションを上げるときは、この2曲をなんどもリピートしています」

■緊張する舞台の前にも聴きたいですね。

「そうですね。すごく緊張しているので、大好きな曲を聴いて緊張をほぐしてから挑みたいと思います。あと、あわよくば菅田将暉さんと仲良くなるのが、この舞台の陰なる目標！がんばって話しかけようと思います（笑）」

B

シス・カンパニー公演『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』⇒10月30日（月）〜11月26日（日）東京・世田谷パブリックシアター／作：トム・ストッパード／翻訳・演出：小川絵梨子／出演：生田斗真、菅田将暉、林遣都、半海一晃、安西慎太郎、田川隼嗣、林田航平、本多遼、章平、長友郁真、松澤一之、立石涼子、小野武彦／お問い合わせ：シス・カンパニー03（5423）5906（平日11:00〜19:00）www.siscompany.com/rosen
9月16日（土）よりチケット発売開始

連載

千葉雄大のドレミファソラシどろん♪

Vol.81 Yogee New Waves 編

■プロフィール■
千葉雄大⇒ちばゆうだい。'89年3月9日生まれ。宮城県出身。今後は、映画『亜人』（9月30日公開）、平成29年度後期 連続テレビ小説「わろてんか」［10月2日（月）～2018年3月31日（土）《全151回》］、舞台『危険な関係』［10月7日～31日 渋谷・Bunkamura シアターコクーン／11月9日～14日 大阪・森ノ宮ピロティホール］など、他作品も多数控えている。



今年は夏らしいことを特にしていない。
冬に溜め込んで春に育てたものを
夏に放つ作業をしていない。
どの季節も淡々と過ぎていきます。
夏もまた然り。おんなじことをしているわけじゃ
ないんだけどね。なんでだろうね。
なんとなくウダウダしている今日この頃です。
なんかさ、嫌なんだよねー。あれこれ気にして
角が立たないように波風立てないように
そーっと忍び足で生きていくの。
もっとばしゃばしゃ水しぶきあげて
堂々と歩きたいなー。とか
答えの出ていることを
まどろっこしくしている節が
最近またあるみたいです。
先日も友人が、もう聞き飽きたのか、
今そんなこと言ってるけどどーせ寝て起きたら
また普通に生きていくんでしょ、って。
たしかにそうだよ。
普通にお腹空くしね。
仕事するしね。
じゃあ何を求めてるのかなーって思った時に
一番に浮かんだのが、
白い小さなワンルームで窓が開いてて
YOGEE NEW WAVES 聴きながら
茹でたてのアスパラガスに
マヨネーズをつけて食べる。
そんな生活でした。
なんでこれが一番なんだろうね。
なんでだろうね。



Yogee New Waves
2nd Album
『WAVES』
2017.05.17 Release



☆連載ポラプレゼント☆
連載で使用したポラを読者1名様にプレゼント。希望の方は、官製ハガキに〒&住所、氏名、年齢、電話番号、連載の感想を明記の上、〈〒101-8450 B-PASS連載 千葉雄大の「ドレミファソラシどろん♪」係〉までご応募ください（'17年9月26日当日消印有効）。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

連載
阪本奨悟

SHOGO'S FILTER SEASON 2 No.4



どうも 阪本 奨悟です！
今月も見てくれてありがとうございます！
今月僕は、台湾にて開催された「2017 Comic Exhibition」に
イベント出演してきました！
なんと僕としては10年ぶりの台湾！
現地の沢山の王室教師ハイネ ファンの方々を目の前に、
改めて本当に素敵な作品に出会えたことを嬉しく光栄に思いました！





台湾では、現地の足つぼマッサージにも行きました！
想像以上の痛さに、自分の体にこんなにも疲れが
溜まっているのかと驚きました。ただ、僕の痛がる姿を見て
マッサージ師さんは楽しそうに笑っていました。



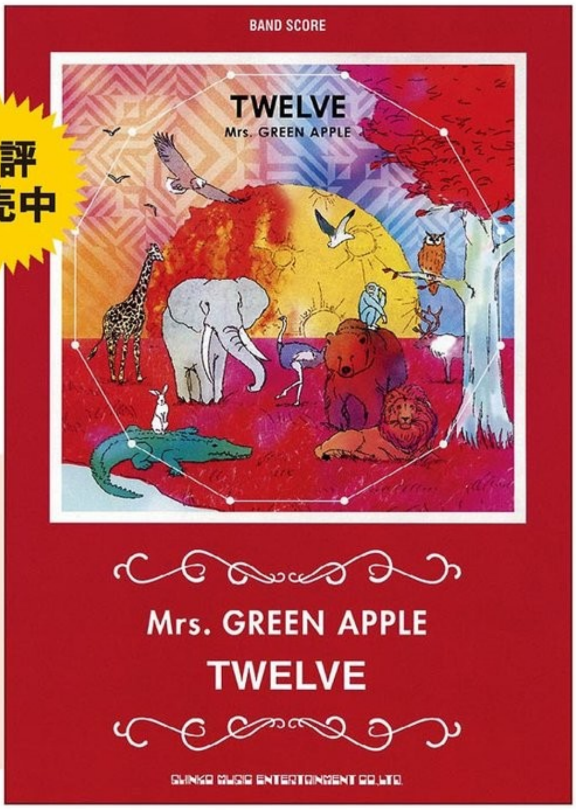
そして、大阪は舞洲にて今年から開催された
「WEST GIGANTIC CITYLAND'17」に出演してきました！
その日の大阪の最高気温はなんと38℃！
終始汗が止まりませんでしたが、会場の皆さんも暑い中しっかり
聴いてくれて、嬉しかったです！皆さん本当に温かかったです！
ありがとうございました！来月もよろしくね♪

阪本奨悟 ⇒ さかもとしょうご。'93年6月13日生まれ。兵庫県出身。'17年5月31日にメジャーデビュー・シングル「鼻声 / しょっぱい涙」をリリースした。

バンド・スコア

B5判／228頁／本体価格3,000円+税

Mrs.GREEN APPLE
TWELVE



好評
発売中

力強くも美しいメロディーを
万華鏡のようなカラフルなサウンドに乗せ、
圧倒的な演奏力で聴かせる実力派ロック・バンド
Mrs. GREEN APPLE。いま最も勢いのある彼らの
1stフル・アルバムのマッチング・バンド・スコア！
巻頭カラー・ページにはライヴ写真を収載。
メンバーによるワンポイント奏法アドバイス付きです！

曲 目

■愛情と矛先
■Speaking
■パブリック
■藍（あお）
■キコリ時計
■私
■No.7
■ミスカサズ
■SimPle
■Hug
■HeLLo
■庶幾の唄

全12曲

※「InTerLuDe 〜白い朝〜」は楽曲の特性上収載しておりません。

バンド・スコア

B5判／220頁／本体価格3,000円+税

Mrs.GREEN APPLE
Mrs.GREEN APPLE



好評
発売中

自らのバンド名をタイトルに冠した
2ndアルバムのマッチング・バンド・スコアがついに登場！
よりメロディアスに、よりパワフルに、よりカラフルに展開する
珠玉の名曲たちの演奏にチャレンジしよう！
巻頭カラー・ページにはライヴ写真を収載、
メンバーによるワンポイント奏法アドバイス付き！

曲 目

■Lion
■In the Morning
■おもちゃの兵隊
■絶世生物
■soFt-dRink
■鯨の唄
■うブ
■サママ・フェスティバル！
■Oz［Album Version］
■Just a Friend
■FACTORY
■umbrella［Album Version］
■JOURNEY

全13曲

表紙

REITA
［the GazettE］

INORAN

武瑠［SuG］
沙我［A9］
悠介［lynch.］
杙凪［Royz］
剣［RAZOR］
悠希［Initial'L］
華那［コドモドラゴン］
Shindy［Anli Pollicino］
芥［Chanty］
田澤孝介［Rayflower］

バックナンバーも発売中!!
- ●072（表紙／京 sukekiyo）
- ●071（表紙／マオ シド）
- ●070（表紙／有村竜太朗 Plastic Tree）
- ●069（表紙／Die DECAYS/DIR EN GREY）

068～033号のバックナンバーも発売中!!

読むロックマガジン
RR
ROCK AND READ

話題のミュージシャンのパーソナルロングインタビュー集! 全写真撮り下ろし!

A5判／240頁
本体価格1,200円+税
好評発売中 073





vol.4 A4変型判／112頁 本体価格1,000円+税 **8月30日発売**

■表紙巻頭
Mrs. GREEN APPLE
Welcome To The Band Life

■アーティスト特集
井上苑子／the peggies／ましのみ／シナリオアート／the band apart

■企画
完全弦交換マニュアル
目指せ！アルペジオ・マスター
ギター弾き語りスコア攻略術 etc.

■ギター弾き語りスコア
Mrs. GREEN APPLE／井上苑子／the peggies／佐々木亮介／星野源／10-FEET／04 Limited Sazabys／BLUE ENCOUNT／KEYTALK／SUPER BEAVER／UVERworld／高橋優／大原櫻子／SCANDAL

SHINKO MUSIC MOOK GiGS Presents
hikigatarism ～ゼロから始めるギター・ライフ～
ヒキガタリズム

生きざまを伝えるロックマガジン

SHINKO MUSIC MOOK

MASSIVE

Vol.27

2017年 8月31日 発売!



B5変型判／212頁／定価1,350円(税込)

表紙巻頭特集

TAKUYA∞ UVERworld

LINE UP

ANDROGYNOS／DIR EN GREY
lynch.／RIZE／D'ERLANGER
MERRY／MUCC／NoGoD
ZIGGY／POLYPHIA／INORAN
sads／清春

MASSIVE Twitter:https://twitter.com/MASSIVE_BPをチェック!

BACKSTAGE B-PASS

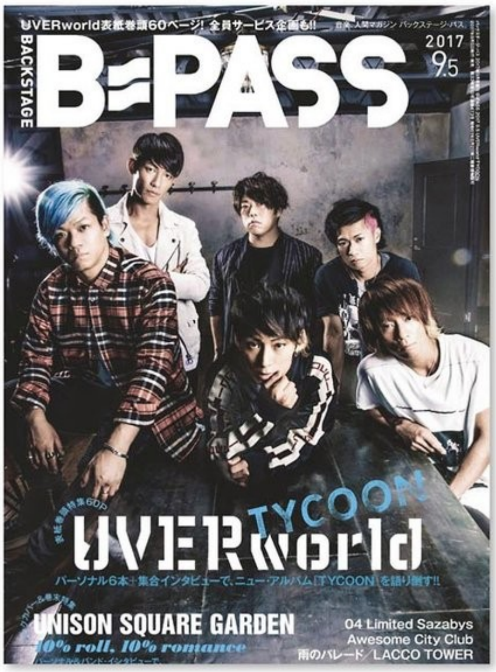
バックステージ・パス2017年9月号増刊

2017年 9.5月号

B5判／128頁／定価840円(税込)

UVERworld TYCOON

全国書店にて大好評発売中



表紙巻頭特集60P!

UVERworld

約3年ぶりのニュー・アルバム『TYCOON』をリリースしたUVERworld。全員集合インタビュー&パーソナル・インタビュー、撮りおろしグラビアの大ボリュームでお届け!

バックカバー&巻末特集

UNISON SQUARE GARDEN

TVアニメ『ボールルームへようこそ』の主題歌「10% roll, 10% romance」をリリースしたUNISON SQUARE GARDEN。パーソナル&バンド・インタビューでUSGの"根っこ"と"今"を掘り下げる。



LINE UP

04 Limited Sazabys
Awesome City Club
雨のパレード／LACCO TOWER
大森靖子／植田真梨恵／DISH//

全国の書店、楽譜・書籍お取扱の楽器店・CDショップなどでお買い求めいただけます。店頭に無い場合は小売店にお取寄せをお申し出ください。

株式会社シンコーミュージック・エンタテイメント 営業部 TEL:03-3295-4191(電話でのご注文はできません) http://www.shinko-music.co.jp

表紙への道

Mrs. GREEN APPLE 編

今回の表紙巻頭取材は、レコード会社にて。駐車場と会議室を使用して新曲のイメージで撮影を行なっていきました。クールとキュートどちらがお好み?























1 まずはポラから。しかしこのカットは背景に髙野くんが溶けて再撮影

2 表紙カット。5人での良いハマり具合のポーズを検討しこの形に

3 改めてポラ撮影を。こちらは完璧! 最初のポラは大森くんが持ち帰り

4 「○×だ! 嬉しい!」と喜んでくれた大森くん。何かと反応してくれる

5 次は藤澤くん。○×は自分で好きなのを好きなように持ってくれてます

6 髙野くんが×を2個持ちなのは、キャラが出ている気がします(笑)

7 ○×を組み合わせて別のマークを作ってしまう発想がすごい若井くん

8 あえての1つ持ちの綾華ちゃん。持ち方も被らないように考えてます

9 次号用に大森くん単独コメント取り。その間メンバーは手相見てる?

10 おみやげを貰って大はしゃぎのメンバー達。延々ファッションショー

11 そんなわけで次号のNew Era® meetsには大森くんが登場!

B PLUS+ FILE

今月はフレッシュな巻頭・巻末と、男性アーティストたちのメイキング、夏休みの宿題話、オススメ本格グルメ……充実の企画ページです!

グルメレコメンド

常連になりたくなるTOMOMIオススメのピッツァを紹介



今月のおすすめ人 **SCANDAL**

渋谷のど真ん中で石釜本格ピッツァ

8528

マリナーラ ¥1680

クワトロフォルマッジ+ビアンケッティのハーフ&ハーフ ¥1450



直径25cmくらい。赤と緑が目にもおいしい



左がビアンケッティ、右がクワトロフォルマッジ



こんもり乗せられたトマト!



お通しは塩揚げパスタ

TOMOMI「渋谷に8528っていうピッツァダイニングがあるんですが、そこのピザがとにかくおいしいんです! もともと知ってる人がお店をやってて、それがきっかけで行くようになったんですけど。店内の雰囲気も良いんですよ。普通のグループ席、カウンター、個室とロフトみたいな席があって。すごく居心地がいいんです。ピザは本格的な石釜で1枚ずつ焼いてて、ふわふわモチモチで香ばしい生地が何枚でも食べられちゃう!」

MAMI「行ってみたいな~! おすすめのメニューは?」

TOMOMI「私はいつもお任せで、"おいしいのください♡"って言ってる(ニッコリ)」

一同「えー!(笑)」

HARUNA「お任せとかできるの!?」

■突然、私がお願いしてもやってくれるでしょうか?

TOMOMI「大丈夫だと思います! すごくフランクな人達だから」

■じゃあ、試しに言ってみます(笑)。

RINA「ダメって言われたらTOMOの名前出してください(笑)」

TOMOMI「ハーフ&ハーフとかもお願いしたらやってくれるので、いろんな種類を食べてみてほしいです」

RINA「その中でもTOMO的においしかったのは?」

TOMOMI「えー、ほんまにどれもおいしいんやけどね……シラスが乗ってるピザがめちゃおいしかった! シラスとチーズの絶妙な感じが。あと、パクチーが好きな人にはパクチーが大量に乗ってるピザもあるからトライしてみてほしいです(笑)。たしか季節によってメニューが変わるものもあるので、何回行っても新鮮で。定番メニューからデザートまで全部オススメできますね」

■へー! その時の旬の食材を使ってるんですね。

TOMOMI「どのピザもおいしいよ♡」

編集部コメント

勇気を出して「ピザの"お任せ"で!」と挑戦したら、「初めてのお客様にはマリナーラとクワトロフォルマッジを食べてほしいです!」とのことで。その2種とTOMOちゃんおすすめのシラスのピザ・ビアンケッティを注文。本格石釜で焼いた生地は、モチモチでほのかな甘み◎。マリナーラはあふれんばかりのトマトのスライスとガーリック、さわやかなバジルの風味がたまらない! 4種のチーズに蜂蜜をかけて食べる濃厚なクワトロフォルマッジと、釜揚げシラスとアンチョビ、ネギが織りなすしょっぱい味わいがクセになるビアンケッティのハーフ&ハーフも交互に食べてるとアッという間にペロリ。確実に食べ過ぎ要注意の美味ピッツァでした!

making check!!

スタジオやレコード会社で行なった
女子グループ、男子グループ、男性ソロの
撮影風景を公開。ちょこっとロケもあり

check 1

Little Glee Monster

8.14　都内スタジオ







1 午前中ならではのキレイな自然光を活かしてソロ撮影から。MAYUちゃん、大人っぽい!

2 芹奈ちゃんのソロ。椅子にもたれて立ったり、机にちょこんと腰掛けてもらったり

3 バックカバーに採用した集合カット。背景のブルーの壁と5人の衣装の色味がばっちり!

4 白板壁を利用して集合カット。見開きで使いたかったので、真ん中に空間をあけつつ

5 ラストは、ソファの隅っこにかたまってもらっての集合カット。雰囲気あってカッコかわいい!

check 2

田口 淳之介

8.4　レコード会社&周辺






1 まずは室内から。スツールは部屋にあったものを拝借。足の組み方など数パターンを

2 歩いて数分のところで外ロケ。この小さい紫陽花っぽい可愛いお花、なんだろう?

3 壁に寄りかかり、両手を広げる田口さん。このカット未使用……すみません

4 歩きながら、振り返ってもらったり。うろうろ数往復。暑すぎでもなく、いい天候で良かった

check 3

Da-iCE

7.06　レコード会社



1 颯くんは毎回テスト撮影で、ちょっとトボけた表情やポーズの1枚を撮ってから開始。和やか～に進みます



2 徹くんは求めた以上のことをやってくれます。切ない雰囲気をお願いして、できたカットは誌面で!



3 雄大くんは大体ふざけています。嘘です(笑)。半々くらいです。気持ちから作って挑んでくれます



4 ポラ撮影は各々好きにポージング。集合で全員表情がキマるグループは珍しいと思いますよ～

check 4

山崎育三郎

7.31　都内スタジオ





1 壁に顔を寄せてカメラを見つめる育三郎さん。アンニュイな表情がとっても素敵です!

2 写真だと分かりづらいですが、白壁に色々組み合わせた機材の影を写り込ませています

3 最後は、読者プレゼント用のポラ撮影を。とびきり優しい笑顔を見せてくれましたよ♪

BABY TALK

新曲「BABY!」にちなんで、
一番BABYな記憶を聞きました!

the peggies



■掘り起こせる限りのBABYな記憶をお聞きしたいと思ってます。

北澤「ハイ。幼稚園の年少だったかな。ソファに座ってるお父さんのお腹に乗っかったときに初めて鼓動を感じて、心臓って本当に動いてるんだ!って思ったんですよ。そしたらお父さんから"心臓はずっと動いてるんだよ"みたいな話をされて。あぁ、だから人は生きてるんだなーってすごく感動したというのが、私的に一番古い記憶です」

大貫「私は幼稚園の年長のときのクラスがスイートピー組で。他のクラスもお花の名前で、ひまわりとかもあったんですけど、スイートピーってちょっと難しいじゃないですか。だから1年間ずっと"スートピー"って言ってたと思う。恥ずかしかったな(照)」

北澤「そもそもなんでスイートピー?園長先生の趣味なのかな?」

大貫「園長先生は"園長ちゃまちゃま"って呼ばれてて。っていうか、自分でもご挨拶のときに言ってて。先生の部屋ところにも、"園長ちゃまちゃまの部屋"って書いてあるんですよ」

一同「ひぇぇぇ〜!!(笑)」

石渡「私は自分がやってないことを他の人から、"マキちゃんがやったんでしょ"って言われて。そしたらそれをやった張本人の女の子が"そうだよ"みたいにサラッと嘘をついて、濡れ衣を着せられたっていう。幼稚園の年少だったけど、ショックすぎて覚えてる」

大貫「そんな小さいのに、姑息な」

■なんだろう、楽しいテーマだと思って聞いたら、切ないわ。

石渡「まさかの人生初の濡れ衣体験」

■それがあの力強いベースの源に。

石渡「活きてるかもしれない、怒りのエネルギーとなって。フフフフ」

check 5

VIXX

7.19　都内スタジオ











2 メイクさんに囲まれているのは、ホンビンくん。ネイビーのニットが似合っていましたね

1 ソロカットは背景の色を落とした感じで。準備ができた人からチャキチャキと

5 最後の6人揃っての集合カット。こちらは明るくパキッとした白を背景に。皆さん背が高い

4 エンくんは日本語でコミュニケーション。ポラを撮る時も「プレゼントですか?」と日本語で

3 ラビくんがPCの画面で写真を確認中。スタジオ内の明かりを消していて暗くてね

Summer Homework

夏休みと言えば、宿題もつきもの。
この2組の思い出深い「夏休みの宿題」は?

新山詩織



「中学の時に毎年、夏の季語を入れて俳句を10コ作ってくる、という課題があって。俳句手帳というのがあったんですけど、それはすごい印象に残ってますね」

■1つ2つなら思いつきそうですけど、10コはなかなか大変ですね。

「やっぱり俳句となると、文字数も決まっているし、ただの言葉じゃ俳句として成り立ってないような気がして、これじゃカッコ悪いなぁとか、変なこだわりが出てきちゃったりして、その時は面倒な宿題だなぁと思ってやってました」

■夏休みの終わりのほうに考えるんですか?

「1、2年のころは、全体的に宿題はだらだらやってしまっていたんですけど、それが一番自分を追い詰めているのに気づいて、やっと中3で、はじめのうちに全部やってしまおうと思って。特に読書感想文なんかは一番最初にやって、得意なものをあとにまわして」

■面倒くさいものを先に片付けて。素晴らしい!

「あとは自由に過ごそう、と」

■その俳句はクラスで発表したりするんですか?

「発表はなかったです。先生に採点してもらって、それが返ってくる感じでした」

■その評価はどうでした?

「うーん、けっこうずっと中途半端な(笑)、良くも悪くもない感じだったと思います。普段騒いだりしている男の子のほうが、良さそうな俳句を作って、先生の評価も良かったような記憶があります。私は真面目に考えすぎちゃって……難しいですね、俳句は」

■これは自分でも会心作だったなって覚えてる一句は?

「覚えてはないですね。実家には宿題が取ってあるかもしれないですけど……もうないですかね(笑)」

さくらしめじ



■宿題には手を付けてますか?

彪我「0から100で言ったら、今のところ0です(笑:取材時8月初旬)」

雅功「そもそもあまり把握できてない(笑)。中学までは全教科の宿題を表にしてくれるけど高校は教科ごとに出るので。まずは友達に聞いて表にするところから始めます!」

■これまでの夏休みの宿題で、記憶に残っているのは?

雅功「中学のときに時代の新聞を作るっていう社会の宿題があって、自分が好きな時代の記者になったつもりで新聞を書きました。僕は織田信長が好きだったので本能寺の変について書いたんですけど、新聞広告もその時代に流行ったものを調べて、ちょうどカステラが輸入され始めた時期だったので、"美味しいよ、カステラ!"みたいなキャッチコピーを作りました(笑)。その時代の人になりきって、本能寺の変が起こったら自分にどんな影響が出るのかを想像しながら書くのが楽しかったです」

彪我「僕は小5のときに炭酸でアイスを簡単に作る実験をやりました。炭酸系のペットボトルを用意して、それを冷凍庫に冷やして何分か経ったら取り出して、コップに注いだ瞬間にどんどんアイスになるっていうもので、それをお父さんと一緒にやって、最後に実験のイラストや作り方、感想も表にしましたね」

■楽しそう。宿題はいつもギリギリでやるほう?

雅功「小6だけちゃんとやってそれ以外はギリギリでした(笑)。その時は最上級生になったので、しっかりしなきゃと思ったんでしょうね」

彪我「僕も小学校はちゃんとやっていたかな。その心で今も生活してれば……(笑)。でも宿題って少ないと"なんだ、できるじゃん"って思うんだけど、多いとやりたくなくなるんです」

雅功「誰でもそうだよ(笑)。だから夏休みの宿題は性格が出るよね」

梅雨の戻りが続いていますが、夏休みも終盤。そろそろ宿題を終わらせて、新学期はBプレスを話題に楽しんでください!

アーティストなんでもベスト5 vol.187

色白をキープしたい、日差しが苦手、理由はいろいろありますが、夏の日傘は紫外線から肌を守る大事なアイテムですよね。最近は男性用もあるとか? 今月はそんな日傘が似合いそうなアーティストをランキング! さて、結果はいかに……?

今月のお題 日傘が似合いそうなアーティスト

今月の1位は、yuiさん。「色白だから」「最近サングラスと帽子を着用してるから、焼けたくないのかなと思った」などなど。確かに、最新のアーティスト写真ではサングラス着用してますね! 未だに陽に当たってはいけないイメージもあります……(映画『タイヨウのうた』)。オシャレな傘が似合いそうです。2位は、家入レオさん。「肌がきれいだから」「日焼けしてるイメージがない」確かに美白・美肌な家入さん。理由のほぼが美白絡みでしたよ。あのツヤ肌は日傘のおかげだったりするのかも? 3位は宮野さん。「トリコロール柄の傘が似合いそう」。体を鍛えつつも、肌を大事にするために、日傘のお世話になっていそう? 4位の蒼井さんは「女子より女子力があるから」。以上の結果となりました。ランキングは美白な方はもちろん、ヴァンパイアもランクイン?

11月号のお題 パン食い競走が速そうなアーティスト

秋と言えば運動会、次回はずばりパン食い競走が速そうなアーティストをランキング! まず足が速いのは前提として、有利なのは高身長? それをしのぐジャンプ力? アゴの力? 背筋も必要? 食い意地張ってるほうがいい? この競争に何力が必要なのかさっぱりわかりませんが(笑)、一番得意そうなのは一体誰?! 理由も教えてね!

投票方法 P.152にあるプレゼント応募ハガキの記入欄に記入して投票してください。グループ名ではなく、個人名で投票を。9月15日到着分までOK! あなたがランキングしてみたいお題も大募集中ですっ!!

1位 yui (FLOWER FLOWER) —— 337 pt



2位 家入レオ —— 333 pt



3位 宮野真守 —— 309 pt



4位 蒼井翔太 —— 277 pt



5位 GACKT —— 264 pt



6位 星野源 — 257pt ／7位 小林豊(BOYS AND MEN) — 240pt ／
8位 大原櫻子 — 230pt／9位 DAIGO(BREAKERZ) — 213pt ／
10位 HYDE(VAMPS) — 203pt

少数票 高見沢俊彦、及川光博、YOSHIKI、草野マサムネ(スピッツ)

B・PASS用語解説48時

学園祭では裏方にまわる人もいるのでは?
今月はライヴのステージで使う用語を解説しちゃいます!

1●上手／下手
客席からステージを見て、ステージの右側を上手(かみて)、左側を下手(しもて)と言います。一般的な立ち位置としては、ギターが上手、ベースが下手ですね。決して「じょうず／へた」と読むわけではないですよ。ちなみに、海外では「上手／下手」と言うのではなく、ステージから客席を見て、右側を「Stage Right」、左側を「Stage Left」と言います。もうそのまんまです。もし、友達とフェスなどの大きな会場ではぐれてしまった場合「とりあえず上手側のこの辺り」など、事前に集合場所を決めておくと便利です。

2●ソデ
頭の中でステージを思い出していただきたいのですが、上手側、下手側のそれぞれの一番端には幕が張ってあったりして、裏側が客席から見えないようになっていますよね。あの裏側には機材が置いてあったり、出演者がスタンバイしていたりするのですが、その場所のことを「ソデ」と言います。正式には舞台袖なのですが、略して呼ばれることが多いです。

3●音先
読み方は「おとせん」。「おとさき」と言うこともあります。これは、演者が舞台に登場する仕方のひとつで、会場の電気が暗くなって(＝暗転して)、SEなどの音が鳴ってから、演者がステージに出てくるというもの。演者が出るよりも「先に音を流す」ということです。イベントやフェスの場合は、音先がほとんどですね。

4●板付き
これも登場方法のひとつ。ステージに斜幕(映像をうつすスクリーンみたいなもの)がかかっていて、暗転と同時に映像がスタート。映像が終わって幕が落ちると、メンバーが既にそこに立っている、みたいな演出ってありますよね。ああいう「幕が開いたときに、演者が既に舞台に立っている状態」のことを「板付き」と言います。

5●ポップアップ
ライヴを見ていると、出演者が床下からバーン!と勢いよく飛び出してくることがありますが、あの登場をす

◆友達とショッピングモールで遊んでから食べ放題に行きました。1日空いて、家族に連れられてまた同じ場所に。しかも食べ放題も……。お店の人と目が合って、少し気まずくなりました。（東京都／氷雨。）

B スンッとして胸をはっていれば他人のそら似で済むはず。しらを切るんだ！

◆友人とプールに行ったとき、そのプールに誰も入ってなかったので貸し切り状態でした。そのまま友人と楽しく遊びました。（広島県／マサイ）

B 贅沢な時間だね。ちょっと気温が低いと人が少ないものだけど、どうだったのかしら？

◆食材をミキサーにかけたら、フタがはずれて頭の上から中身が大量に降ってきた。（新潟県／カラン）

B それは大惨事。次からはフタをおさえながら回したほうがいいね。今後の為にも……。

◆次男が転んで痛そうにしていたので「いたいのいたいの**お兄ちゃんのとこ**、とんでけー！」ってやったタイミングで、長男が転んで大笑い。（北海道／きむ）

B お兄ちゃんのとばっちりがすごい。迷信が意外と当たったりするんで、気をつけてね。

◆パジャマのひざ部分が破れていても「まだ大丈夫！」と着ている母。よく見ると、おしりも破れて穴あいてるんだけど……。（新潟県／たららん）

B どこまでを限界と考えるのか。まあパジャマなら大丈夫そうだけど、おしり……。

エキセントリックおたより

夏休み、出かけた先で起こったハプニングや、思い出深い出来事はぜひ報告を!

◆美容院で木村文乃さんの写真を見せて、この髪型にしてくださいと言って、最終的にできた髪型が、どう考えても木村佳乃さん寄りだった。（大阪府／？）

B 今はショートだから、余計に木村佳乃寄りだろうね。まあ、いいじゃない木村繋がりで。

◆家の軒下のクモの巣をはらったら、翌日、前より立派なクモの巣ができあがっており、クモの生命力に脱帽。（広島県／六等星）

B 生命力というよりも、負けず嫌いというか根性を感じるわ。これならどうや！的な。

◆エレベーターでイケメンが乗って来たとき、何か起こらないかとワクワクしていたら、その人が急にリズムをとりだした。（鹿児島県／ガリごぼう）

B そこで一緒に踊り出したら『ラ・ラ・ランド』のような物語が始まるかも。

◆私のスマホは充電しているにもかかわらず、どんどん充電が減り、逆にコンセントに**吸い取られる。**（静岡県／Poco）

B 新しいスマホの誕生？　どのコンセントでもそうなるのなら、機種変をオススメします。

◆冷凍してたピザを食べようとしたら、〝惜しくも残ってしまった寂しい未亡人ピザたち〟〝ミックスです……何か？〟〝僕もミックスです！　もう一人の生き別れの兄は無口で本当に困りますね！〟と妹が書いていて吹いた。（静岡県／なのはな）

B 妹の想像する世界観、強いわ～。必ず誰か食べてくれという圧力を感じますね。

◆友達が3回くらい、人違いをされた。（千葉県／ゆいね）

B 誰かしらに似てる平均顔ってことかな。出現率高いドッペルゲンガーだと思われそう。

◆B-PASSを買ってから、早く読みたくて歩きながら読んでいたら、柱に頭をぶつけて周りの人に笑われた。（愛知県／まっきー）

B マンガか！　嬉しいけど、本は止まって読んでくださいね。本は逃げないからね！

◆職場付近で迷子の犬を見つけて困っていたら、犬が自分の家に案内してくれた。インターホンを押して、無事解決！（愛知県／ゆっぴぃ）

B よくできた迷子犬ですこと。自分じゃインターホン押せないから助けを呼んだのかな。

◆犬の散歩中に出会ったワンちゃん（おじいさんが連れている小型犬）の名前を聞いたら〝ウサギ〟だった。（青森県／？）

B まあ、名前は自由ですから……。外で呼びかけたら、混乱を呼びそうだけど。

◆セミが私の自転車の両ハンドルで脱皮していた。（大阪府／なるこ）

B 両ハンドルって2匹!?　セミ的に、掴まり心地のいいハンドルだったのでしょう。

◆職場で「ニャーニャー」と聞こえるので、ネコでもいるのかと思ったら、同じフロアで働いている人の**くしゃみ**だった。（神奈川県／ロイド）

B か、かわいい？　いろんなくしゃみがありますけど、レアすぎませんか。

るために使う装置のことを「ポップアップ（リフター）」といいます。最近は電動のものや空気圧を利用したものもありますが、何人ものスタッフさんがせーの！と息をあわせて人力で押し上げていることも多いですよ。

6●モニター・スピーカー
通称：モニター。要するにスピーカーなのですが、いわゆる私達が日常で使うようなスピーカーと、楽曲制作やライヴで使用する「モニター・スピーカー」は別物です。オーディオ関連に付いているリスニング用のスピーカーは、低音や高音を持ち上げたり、音の聴き心地を重視して作られているのですが、モニター・スピーカーは原音が忠実に再生されるように作られています。

7●コロガシ／ヨコアテ
ミュージシャンの足下に置いてあるモニターのことを「コロガシ」、ステージの上手／下手に置いてあるモニターのことを「ヨコアテ」と言います。よくコロガシに足をかけて歌ったり、演奏していたりする光景も見かけますが、足をかけると怒られることもあるので、ご注意を。

8●バミリ／バミる
写真撮影やライヴの現場などでは、カメラや照明の位置、スピーカーやアンプを置く場所を、実際にアーティストがその場に立つ前に決めておきます。で、最初に決めた位置を知らない人が後から見てもすぐ分かるように、ガムテープなどを床に貼って目印をつけておくのですが、この目印のことを「バミリ」、目印をつける行為を「バミる」と言います。例）「ここの位置、バミっといてー」。転換が多いイベントライヴの場合、たまにステージ上にとんでもない量のバミリを見かけたりします。今度会場に行ったときに是非見てみてください。

9●空舞台／素舞台
大会場でのライヴになると、ステージセットが組まれて、そこで様々な演出が行なわれたりすることもありますが、そういった舞台装置がまったく設置されていないステージのことを「空舞台（からぶたい）」もしくは「素舞台（すぶたい）」といいます。また、舞台上に演者さんがまったくいない状況のことも同様に「空舞台」と言います。

イラスト帝國民志願者へ

★画材・紙質はなんでもOK ★封筒に入れて送るとなお良し! ★サイズも自由!(書記長はハガキサイズを好みます)★イラストの裏面に住所・氏名をお忘れなく! ★採用・不採用に関わらず、ご返却はできません。★毎月10日ごろまでに送ると、その月に出る号へ間に合う確率が高し。★送り先は185ページの応募要項をチェック!

イラスト帝國 PLUS + 4コマSHOW

今月もなんでもありなイラ帝です! ひいきのアーティストを自由に描いてね。今夏観たライヴのワンシーンをイラストにしてもいいかも



VAMPS 兵庫県/イコ

今、眉毛が薄めですからね、ビックリしちゃうかも(笑)



素敵なハーモニーが聴こえてきそう

ゆず 福岡県/PM8:49

B-PASS6月号のゆずさん。温かい色使いで、やわらかな日差しを感じます。微笑みもよいですね!



鬼束ちひろ 静岡県/トキタキト

目力強くて美しい! 世界観に想像が広がりますね



K 長崎県/ゆーな

視線の先は? どことなく松◯潤さんにも見えてくる



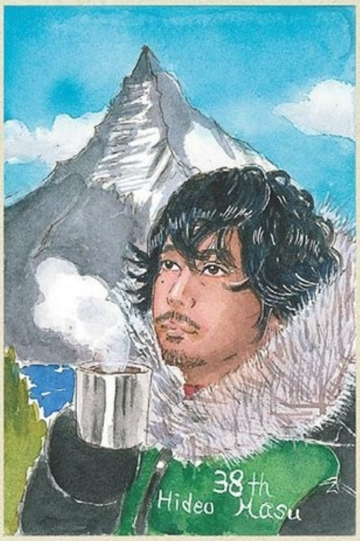
宮野真守 北海道/あるじゃ〜のん

9月号で表紙を飾ってくれたマモさん。首筋がセクシー!



SPYAIR 東京都/PG

ポーズがびしっとキマってますね。髪もツヤツヤさらさら



BUMP OF CHICKEN 福岡県/S-arrow

山とコーヒーと升くん。とても似合っています。おめでとう



flumpool 大阪府/しましま

はにかみ笑顔がほっこりさせる元気さん。お花舞ってる

47都道府県ツアー完走! アフターインタもチェック



SCANDAL 岩手県/須藤

美人さんがズラリと勢揃い。微妙にリップの色がそれぞれ違うのにこだわりを感じますね。メンバーの目に吸い込まれそうです……。

◆近くのゴルフ場の前を通ったときに、ライトで照らされている緑色のネットを見て、オーロラだと一瞬思ってしまった。（静岡県／あんな）

B ちょっとわかるかも。夜間照明で、ちょっとふわっとして見えるもんね。違うけど。

◆3歳の従兄弟と買い物中、店員さんに「お父さんと買い物できていいわねー」と言われたので思わず「誰がお父さんだ」とツッコんでしまった。（三重県／ぬーん）

B 歳が離れてるとそう見えてしまうのは致し方なし。いいツッコミだったと思います。

◆授業で先生が「Repeat after me?」と単語を言ったら、廊下からその単語がリピートされて返ってきた。（岩手県／胸鎖乳突筋）

B そう言われると無意識にリピートしてしまう気持ちはわかる。みんな染み込んでる。

◆スーパーでレジ打ちをしていたとき、小さな男の子が10円を握りしめて「10円で買えるものはありますか?」と聞いてきた。その後、10円のお菓子を買うと、小さな女の子に「はい、どうぞ」とあげていてほっこり。（愛媛県／かほぴ～）

B 小さい頃からちゃんと買ったものをプレゼントするなんて。どんなに大人になることやら。

◆友達がハンバーガーショップでバニラシェイクを頼んだら、バナナシェイクが出てきた。取り替えてもらうと、再びバナナシェイクが出てきた。（奈良／奈良のめっし）

B 名前も似てるし、色も似てるし。バナナシェイクを頼めば、バニラシェイクになるかも。

◆友達に「ハンカチと間違えて持ってきちゃった……」と言われて、見せられたのが**靴下**だった。しかも丁寧に左右揃って持ってきていた。（福島県／檸檬）

B オシャレな靴下だったら、わからず持って来てしまうのかも。残念だけど手は拭けないね。

◆大学に入ってから約4ヵ月、大学デビューで髪色が明るかった人たちが、みんな黒髪になっていて誰だかわからない。（東京都／上京都民）

B みんな一通り気がすんだのかしら。これからは髪色じゃないところで覚えてあげて!

◆同じ缶バッジを2回買っていた。後日、同じ漫画を2冊買い、もうないだろうと思っていたら同じ手芸道具を2回買った。（愛知県／結局一番すごい）

B それは、すごいね。あえて予備の為に買ったことにしよう! 二度あることは三度、も。

◆オフィスで仕事をしているのですが、セミの声が聞こえると思ったら私の**背中**にセミが……なぜ……。（大阪府／M子）

B 結構な音量が聞こえてたのではと思うけど、気づかなかったの? 同じ職場の人も。

◆子供が生卵を温めてヒヨコにすると言っていたのに、お湯に入れてゆで卵にしておいしそうに食べていた。あれ、ヒヨコは……?（神奈川県／mumuka）

B 食欲が勝ってしまったのね。まあ、できるならおいしくいただきたいよね、卵。

エキセントリックおたより Eccentric letters

◆キッズルームに備え付けてあるテレビで、「アンパンマン」が流れた瞬間、騒いでいた子供達が全員同じ姿勢&無言で集中しだした。（兵庫県／ゆきうさぎ）

B すごい。それだけの求心力があると、アンパンマンで子供達誰もが言うことを聞きそう。

◆受験生の学年の担任になった先生の誕生日当日、教室にある教卓の上には生徒全員から贈られた大量の**栄養ドリンク**。（宮城県／涙）

B 先生は生徒からものすごくプレッシャーをかけられている! 誕生日なのに!

◆新しく家族になった犬が、帰って来たら嬉しそうにしてやってくるのですが、妹だけは同じように帰って来てもなぜか足の指を噛まれます。（大阪府／あんころ）

B 愛情表現かしら。いじわる? 噛んだときの妹の反応が良くて毎回やるのかもよ。

◆2歳になった姪。悪役が好きらしく、ばいきんまんが出てくると喜び、セリフを覚えている。この間、いきなり「お前は誰だ?」と言われて、言葉を覚えるなら、せめてヒーローの言葉であってほしかった……。（埼玉県／アンパンマン派）

B 悪役に憧れてもいいじゃない。ただ、いつかは悪いヤツだということは理解してほしいね。

◆従兄弟と一緒に寝ていたら、突然大声で「ミュージック、スタート!」と寝言を……。（愛知県／☆）

B そのかけ声で何が始まるんだ……。意味深な寝言は気になるからやめて欲しいですね。

◆海外のホテルにシャンプーがなかったので、**歯磨き粉**で頭を洗った。（千葉県／よっちゃん）

B どうしても頭を洗いたいという執念がそうさせたのか。たしかに泡はたちそうだけどさ。

◆高校生に「お久しぶりっす! 姉さん!」と言われた。誰だよ。（福島県／もこ）

B ノリで返したら寸劇が始まったかもしれない。万が一だけど知り合いってことはないの?

◆夜、寝る時に氷枕だと思って使ってたものが、朝になって冷凍ささみ（300g）だった……。（北海道／アルパカ）

B 人肌で解凍。寝ぼけていて、冷凍庫に小分けに置いてたら、ついやってしまいそう……。

◆イベントで友達が「今日は靴を壊すくらいの勢いで盛り上がろう!」と言い、イベント後、本当に友達の靴が壊れていた。（栃木県／つん）

B かなり激しく動き回ったのか、そもそも壊れかけで息の根を止めにいったのか。

今月のB-PRESSはいかがでしたでしょうか? Bプレスは皆さまからのお便り命! アーティストのイラストは「イラスト帝国」、ストーリーができちゃったり、ライヴレポートは「4コマSHOW」へ。「なんでもベスト5」の投票や、とっておきの小ネタはプレゼント応募ハガキにたっぷり記入してくださいね。その他、要望などもなんなりと～!!

すべての宛先は
〒101-8450
東京都千代田区神田錦町1-14-4F
B-PASS ⑩『○○○○○』係

FENDER



Bluetoothスピーカー NEWPORT

カラー:ブラック／シルバー
オープン価格（市場実勢価格24,800円／税別）

ギターブランドとして有名なFenderから、Bluetoothスピーカーの登場です。W183mm×H133mm×D75mm、重量1.5kgというコンパクトなサイズながら、バランスの良いフェンダーサウンドを聴かせてくれます。バッテリーは、3時間の充電で最大12時間の連続再生が可能。背面のUSBポートはスマホなどの充電もできるので便利です。注目ポイントは、電源オンやBluetoothのペアリングができた時のお知らせ音がギターサウンドというところ！　ギターアンプのデザインは、バンドマンにもオススメです。

●問い合わせ先／フェンダーミュージック
フリーダイヤル 0120-1946-60
http://www.fender.co.jp

KENWOOD





http://www.kenwood.com/jp/

コンパクトHi-Fiシステム K-515

カラー:ゴールド、シルバー
オープン価格（市場実勢価格55,000円前後／税別）

「原音再生」がコンセプトの“Kseries”から、新しいスタンダードモデルの登場です。ハイレゾ音源のUSB再生に対応しており、音場豊かで臨場感のある音質が、あなたの部屋を包み込んでくれます。CD再生、NFC／Bluetooth、ワイドFM対応チューナーなどの様々なソースに対応しているので、心おきなく好きな音楽を楽しめます。再生／録音／スリープタイマー機能も便利で、お目覚めの曲目選びも楽しいですよ！

Let's Sing! カラオケで盛り上がろう！

今号の表紙に初登場！　Mrs. GREEN APPLEのカラオケ人気曲をランキングで紹介します。メンバーに1位の曲の、カラオケポイントも聞きました！



JOYSOUNDでよく歌われているMrs. GREEN APPLEの曲は？

①StaRt
②Speaking
③In the Morning
④サママ・フェスティバル！
⑤パブリック
⑥鯨の唄
⑦どこかで日は昇る
⑧愛情と矛先
⑨Just a Friend
⑩我逢人
⑪おもちゃの兵隊
⑫ナニヲナニヲ
⑬ミスカサズ
⑭VIP
⑮ツキマシテハ
⑯庶幾の唄
⑰リスキーゲーム
⑱アンゼンパイ
⑲SimPle
⑳Hug

JOYSOUND調べ
集計期間:2017年7月

大森「“StaRt”は（歌詞に出てくる）“お手を拝借”の部分のクラップと、“ラララララ”を歌ってもらって、なで肩のヤツがそこにいたら指差して」
藤澤「その子が傷つかないようにね（笑）」
大森「速い曲なんで友達と一緒に歌ってもいいよね。あとは、サビのメロディのドレミファソラシドを意識して、そこにテンションのピークがくるように持っていくといいかも。ランキングに“SinPle”や“パブリック”、“どこかで日は昇る”が入ってるのも嬉しい！」
若井「“鯨の唄”も難しいのに上位に食い込んでるね」

BACKSTAGE B-PASS

Special Personal Q&A 10!!

manaka



★近況ver.★

❶この夏のいちばんの思い出は?
フェスのバックヤードでメンバーと女子会!(毎年恒例)

❷最近ハマっている食べ物&飲み物というと?
冷やしおでんのトマト&牛乳(高いやつ)

❸小さいころの夏の思い出で印象的なものをひとつ教えてください!
ジャマイカ人になりたくてプールに焼きに行った。小学2年生の時。

❹最近観たand読んだエンタメもので面白かった作品といえば?(映画、マンガ、小説、音楽などなどなんでも)
飯島真理さんの『ROSE』というアルバム。

❺夏といえば夏休み。夏休みの宿題があるとしたら、どうやって取り組むタイプ?
やりたくなったらやる。

❻今年の夏はフェスやリリースなどで大忙しだったと思うのですが、もし、サマーバケーションが1週間あったとしたら、どうやって過ごしますか?　理想のサマーバケーションのスケジュールを妄想でぜひ!
1週間サンフランシスコに行きたい。

★楽曲ver.★

❼悩みごとや心配ごとがある時はどうやって対処していますか?～「明日へ」より《尽きない悩みを抱え》
ノートにびっしり書き込んで自分を整理する。

❽最近"鼓動"が早くなったこと(ドキドキしたこと)といえば?～「明日へ」より《明日へ走る鼓動は》
細野晴臣さんのラジオに出たこと。

❾自分をふくめ、メンバーを色にたとえるなら何色?　そう感じた理由も教えてください!「COLORS」より
かれん→濃いピンク:淡いよりなんか濃いイメージ／MAYU→ゴールド:ゴージャスなイメージ／芹奈→白:何色でも自分らしくできるから!／アサヒ→黄色:元気ハツラツなイメージ／manaka→むらさき:暗いし、明るいし、私のややこしい性格にぴったりなむらさき(笑)。

❿自分的な"勝負服"やコーディネートのポイントを教えてください!～「COLORS」より《勇気がなかった昨日じゃ着られない服に》
襟がお気に入りの服を着ると、自分がワンランクUPした気がします。





巻末特集はP.200からスタート

Special Personal Q&A 10!!

かれん





★近況ver.★

❶この夏のいちばんの思い出は?
夏フェス! 本番出る前はいつも不安と緊張に襲われていますが、たくさんお客さんが集まってくれてて、とても優しいので、すごくアツく盛り上がれて楽しいです!

❷最近ハマっている食べ物&飲み物というと?
最近は、ママに「ご飯食べる前に青汁を飲みなさい」と言われて、あんまりおいしくないけど飲んでます(笑)。

❸小さいころの夏の思い出で印象的なものをひとつ教えてください!
小学1年生の夏、いつからいつまでが夏休みか分からなくて、授業で「夏休みの思い出を書きましょう」という時に、もっと良い思い出があったのに、マンションの下で父とキックスケーターをしたというめちゃめちゃしょぼいことを書いてしまいました。

❹最近観たand読んだエンタメもので面白かった作品といえば?(映画、マンガ、小説、音楽などなどなんでも)
ドラマ「ハロー張りネズミ」
幽霊が出る回があって、夜にひとりで恐がりながら観てました。

❺夏といえば夏休み。夏休みの宿題があるとしたら、どうやって取り組むタイプ?
頑張ってコツコツやろうと思って最初は手をつけますが、やっぱり夏休みは楽しいことがたくさんなので、ギリギリになってやばいことに気付き、急いでやるタイプです!

❻今年の夏はフェスやリリースなどで大忙しだったと思うのですが、もし、サマーバケーションが1週間あったとしたら、どうやって過ごしますか? 理想のサマーバケーションのスケジュールを妄想でぜひ!
家族と海外旅行に行きたいなぁと思います!

★楽曲ver.★

❼悩みごとや心配ごとがある時はどうやって対処していますか?~「明日へ」より《尽きない悩みを抱え》
基本的にあんまり悩んだりしないです(笑)。

❽最近"鼓動"が早くなったこと(ドキドキしたこと)といえば?~「明日へ」より《明日へ走る鼓動は》
集合時間に行ったら誰もいなくて。よーくよーくケータイを見てみたら、集合時間が本当は1時間後でした。一瞬めっちゃドキッとしました。

❾自分をふくめ、メンバーを色にたとえるなら何色? そう感じた理由も教えてください!~「COLORS」より
メンバーカラーがみんなピッタリあってるなぁと思います! それ以外の色が思いつかない!(笑)

❿自分的な"勝負服"やコーディネートのポイントを教えてください!~「COLORS」より《勇気がなかった昨日じゃ着られない服に》
最近はオフショルダーの服ばかり気ているので、それが勝負服になりつつあります! オフショル大好き!



Special Personal Q&A 10!!

MAYU



★近況ver.★

❶この夏のいちばんの思い出は?
今年もロッキンのケータリングで"シラスピザ"を食べられたこと!!

❷最近ハマっている食べ物&飲み物というと
お茶!

❸小さいころの夏の思い出で印象的なものをひとつ教えてください!
好きな人と花火を観ました

❹最近観たand読んだエンタメもので面白かった作品といえば?(映画、マンガ、小説、音楽などなどなんでも)
『この指止まれ!』マンガです。

❺夏といえば夏休み。夏休みの宿題があるとしたら、どうやって取り組むタイプ?
苦手な科目を残しちゃうタイプ。

❻今年の夏はフェスやリリースなどで大忙しだったと思うのですが、もし、サマーバケーションが1週間あったとしたら、どうやって過ごしますか? 理想のサマーバケーションのスケジュールを妄想でぜひ!
沖縄の旅!!!

★楽曲ver.★

❼悩みごとや心配ごとがある時はどうやって対処していますか?~「明日へ」より《尽きない悩みを抱え》
メンバーに吐き出す

❽最近"鼓動"が早くなったこと(ドキドキしたこと)といえば?~「明日へ」より《明日へ走る鼓動は》
アリアナ・グランデさんのオープニングアクト!

❾自分をふくめ、メンバーを色にたとえるなら何色?~「COLORS」より
みんな、テーマカラーがぴったり!

❿自分的な"勝負服"やコーディネートのポイントを教えてください!~「COLORS」より《勇気がなかった昨日じゃ着られない服に》
ヒョウ柄!









Special Personal Q&A 10!!

アサヒ

★近況ver.★

❶この夏のいちばんの思い出は?
ロッキン

❷最近ハマっている食べ物&飲み物というと?
ヤクルトとトースト!

❸小さいころの夏の思い出で印象的なものをひとつ教えてください!
幼稚園のお遊戯会で塗ったメイクで、肌が荒れたこと。

❹最近観たand読んだエンタメもので面白かった作品といえば?(映画、マンガ、小説、音楽などなどなんでも)
『ピノキオ』(韓国ドラマ)

❺夏といえば夏休み。夏休みの宿題があるとしたら、どうやって取り組むタイプ?
コツコツしたい!(願望)

❻今年の夏はフェスやリリースなどで大忙しだったと思うのですが、もし、サマーバケーションが1週間あったとしたら、どうやって過ごしますか?　理想のサマーバケーションのスケジュールを妄想でぜひ!
韓国に行きたい!

★楽曲ver.★

❼悩みごとや心配ごとがある時はどうやって対処していますか?~「明日へ」より《尽きない悩みを抱え》
いったん、寝る。

❽最近"鼓動"が早くなったこと(ドキドキしたこと)といえば?~「明日へ」より《明日へ走る鼓動は》
アリアナ・グランデさんのライヴの前座!

❾自分をふくめ、メンバーを色にたとえるなら何色?~「COLORS」より
かれん→ピンク!　いっつもピンク!/MAYU→金。キラキラ感/芹奈→茶色。茶色が似合う!/manaka→黒。モノクロっぽい!

❿自分的な"勝負服"やコーディネートのポイントを教えてください!~「COLORS」より《勇気がなかった昨日じゃ着られない服に》
朝ドラファッションにハマっています!



Special Personal Q&A 10!!

芹奈

この夏の近況から、シングル曲に絡めたクエスチョンまで、いろいろ聞いちゃいました♬



★近況ver.★

❶この夏のいちばんの思い出は?
家族で初のBBQをしたこと。夢だったので、できて本当に嬉しかった!

❷最近ハマっている食べ物&飲み物というと?
辛い食べ物

❸小さいころの夏の思い出で印象的なものをひとつ教えてください!
宿題を3日か4日くらいで終わらせていた。

❹最近観たand読んだエンタメもので面白かった作品といえば?（映画、マンガ、小説、音楽などなどなんでも）
映画『プラダを着た悪魔』

❺夏といえば夏休み。夏休みの宿題があるとしたら、どうやって取り組むタイプ?
先に終わらせるタイプ（徹夜で）。

❻今年の夏はフェスやリリースなどで大忙しだったと思うのですが、もし、サマーバケーションが1週間あったとしたら、どうやって過ごしますか？　理想のサマーバケーションのスケジュールを妄想でぜひ!
家族と海外に旅行に行きたい。日本においてある海外ブランドの本店とかに行ってみたいです。

★楽曲ver.★

❼悩みごとや心配ごとがある時はどうやって対処していますか?～「明日へ」より《尽きない悩みを抱え》
私は溜め込むタイプで。自分の気持ちをうまく伝えられなくて、伝えてもちょっと違って伝わってしまって勘違いをされるから……溜め込んじゃいます。

❽最近"鼓動"が早くなったこと（ドキドキしたこと）といえば?～「明日へ」より《明日へ走る鼓動は》
ロッキンで新曲「明日へ」を初披露した時。

❾自分をふくめ、メンバーを色にたとえるなら何色?～「COLORS」より
芹奈→青／MAYU→緑／かれん→ピンク／アサヒ→黄／manaka→紫
やっぱり、みんなのイメージカラーしか出てこない!!　定着していて、違う色を思い浮かべてみようとすると違和感が……!

❿自分的な"勝負服"やコーディネートのポイントを教えてください!～「COLORS」より《勇気がなかった昨日じゃ着られない服に》
ハードコーデ





になるよな、きっと(笑)」
■そうかも(笑)。じゃ最後に、「明日へ」が"今の自分たち"の気持ちを素直に描いた、今ならではの歌詞でもあったから、"今"しかできない話をしたいなと思っているんですが。ずばり小学校の頃とか、どんなタイプのコがいいなーと思ってた? みんなの記憶が新しい今のうちに一度聞いてみたくて(笑)。
かれん「私は、クラスで人気者タイプが大好きでした! 誰もが好きになるタイプ。"私も好きだった!"みたいな子」
manaka「分かる分かる! かれんは、ドッヂボールもすごく強いけど、しゃべると面白くて、勉強もできて真面目!っていう子が好きな感じある! ムードメーカーで真面目な感じの」
MAYU「あ～、そういう子おったおった! 男子からも女子からも人気っていう子ね!」
■お互いの性格を知り尽くしてるから好きになるタイプが分かられてる(笑)。アサヒは?
一同「え――!?(笑)」
■え? なんで笑うの?
manaka「アサヒとそんな話をしたことないから、すごく興味ある!」
アサヒ「あははは。私、基本的に小学校の頃から男の子がすごく苦手で、上手く話せないんですよ。でも、まれに"あれ? この人、すごく話しやすい"って思う男子がいて。それってなんなんだろう?って、いまだに疑問なんですよ」
■人生の先輩の推理としてはね、そういう男子は、きっとお姉ちゃんとか妹がいるんだと思うよ。
一同「なるほどっ! そういうことか!」
MAYU「あー、でもそれあるかもしれない」
■そんなMAYUは?
MAYU「私は逆に、小学校の頃から男子に女子っぽく扱われたことがなかったから、男子といるほうがラクなタイプだったんです。だから、好きとかじゃなく仲間!的な関係のほうが楽しいかもしれないなぁ」
■なるほどなるほど。芹奈は?
芹奈「私はとにかく野球部好きでした(笑)。好きになった子が野球部だった、とかではなく、野球部が好き(笑)」
■野球好きなの?
芹奈「うーん、髪型!?(一同爆笑) 坊主になると髪型で個性が出せないじゃないですか。でも、一生懸命個性を出そうとしてる感じがいいなーって(笑)」
■あははは。ある意味マニアックだね(笑)。manakaは?
manaka「私は原石を見つけるのが大好きでした(笑)。とにかく地味な子が好きで、"この子、絶対に将来イケメンになる!"っていう子を探すのが好きだったな」
■で、それは当たるの?
manaka「当たるんですよ! 私のイケメンレーダーすごく当たるんですよ! 男子だけに限らず、女子も当たるんです! ちゃんとみんな、カッコ良くなってたり、すごく可愛くなってたりするんですよ!」
■ある意味、それは特技だね(笑)。10年後、20年後のリトグリがどんなことを感じて、どんな人を素敵だと思っているのか、今とどう変化しているのか、同じテーマでインタビューしてみたいなぁ。
manaka「それ楽しそうですね! 20年後かぁ～。やっぱり大人な考え方になってるのかなぁ? 全然想像できないですけど(笑)」 B


初回生産限定盤


通常盤

9th Single
明日へ
2017.09.13 Release
初回生産限定盤 CD+DVD ¥1,574(tax out)
通常盤 CD ¥1,204(tax out)

[CD]
01. 明日へ
02. COLORS
03. SAY!!! -Studio Live ver.-
04. 明日へ-Instrumental-
[DVD]
01. 好きだ。- Live on 2017.4.28-
02. だから、ひとりじゃない- Live on 2017.4.28-

Little Glee Monster ⇒
リトル・グリー・モンスター。研ぎ澄ました歌声で人々の心に爪痕を残すことをテーマに結成されたヴォーカルグループ。'14年10月、1stシングル「放課後ハイファイブ」でデビュー。'17年9月、千葉県市原市市民会館を皮切りに、全国ツアー『リトグリライブツアー2017秋 Let's Grooooove!!!!! Monster』がスタート。



嬉しいんです！　覚えやすい曲だし、まだリトグリを知らない人たちにも知ってもらえるきっかけになったらいいなって思ってます。私的には、好きな男の子とデートに行く服を選んでいる時にBGMとしてこの曲を聴いている女の子が頭の中に浮かんでくるので、みんなにもぜひデートの服選びの時に聴いてほしいな。曲のタイトルも“COLORS”なので、“自分は自分でいいんだ!”って思えるように、1人1人が自分の色を大切に思ってもらえるきっかけになればいいなとも思います」

芹奈「“明日へ”とはまた異なる曲調で、すごく明るい曲なので、まったく違う2曲を1枚のシングルで楽しめるのが魅力だと思います」

■3曲目には「SAY!!!」のスタジオライヴバージョンが収録されるんだよね。

かれん「スタジオにバンドさんと一緒に入って、せ～ので一発録りしたんです!」

芹奈「ライヴそのままの空気感が伝わると思います！　歌っていても、ブースでのレコーディングとは違って、ライヴと同じ開放感の中で歌えたので、その空気を感じてもらえるんじゃないかな」

■レコーディングの仕方で違ってくるんだね。

芹奈「違いますね。でもね、歌い慣れた曲でもレコーディングするってなると構えちゃうところもあって、ライヴではいつも間違えることのない歌詞でも間違えちゃったりするんですよ。そういうので録り直しになったりしたんですけど、やっぱり普通のレコーディングよりも伸び伸びと歌えます」

manaka「目の前にお客さんはいなかったけど、ほんまにライヴやってるままの状態で歌えたもんね」

芹奈「すごく楽しかったよね。レコーディングの時はちょっとかしこまるから。ライヴの時は、感情をそのままぶつけるつもりで歌うから楽しい!」

MAYU「“SAY!!!”は特に、ファンのみんなもライヴバージョンが好きって言ってくれていたので、ライヴバージョンが音源として残せたのはすごく嬉しいです!」

manaka「普通のレコーディングだと、丁寧に歌う、完璧に歌う、ということを意識しちゃうから、どうしても硬くなりがちなんですよ。けど、今回のスタジオライヴバージョンは、本当にいつも通り、ライヴの私たちそのままで歌えました」

アサヒ「ライヴならではの勢いが出てるなって、自分で聴いても思いますね。いつもライヴでやってる癖とか出ちゃってましたからね（笑）」

かれん「バンドさんと向き合って、コミュニケーション取りながら歌えるのは、本当にすごく楽しかったです！　“SAY!!!”は、ライヴでも歌い慣れた曲だから、いつもライヴでやってる振り付けとかが歌ってると自然に出ちゃって、この時のレコーディングでも、みんなで手とか振りながら歌ってたんです（笑）」

manaka「自然とそういうの出ちゃうよね！　私はレコーディングの時に使うマイクより、ライヴで使う手持ちマイクが好きで、なんだかすごく安心できるので、ダンスとかしてる時とかも、自然といつもマイクを持つ左手がグーになっちゃってるんですよ（笑）」

■あははは。それ可愛い（笑）。でも、そういう歌う側の気持ちって、すごく声に表われるんだろうね。ほら、ちょっと違うかもしれないけど、お母さんが家の電話に出る時、いつもと違う声にならない？　ちゃんとした感じで出なきゃ!っていう想いが声に自然に出てくるというか（笑）。

一同「なるなる～!（大爆笑）」

MAYU「めっちゃ高くなるよね!　あれ、ほんま不思議やわぁ～（笑）」

かれん「“（高い声で）もしもし～”ってね!　え!?　どこから出てんの!?みたいな声ですよね!　あれ不思議」

芹奈「でも、私も無意識でそうなってる時あるから、いつかお母さんみたいになるんだろうなぁ」

MAYU「絶対に子供から、“お母さん、電話に出る時、声違うわ～”って思われるよう



大人になる途中である私たちが感じる、不安や悩みは、
きっとリトグリの曲を聴いてくれている同世代の人たちに共感してもらえると思う

所に居ていいのかな?"って不安に思うこととかがあるというか、誰に言っても解決することじゃない不安にふと襲われる時があるというか。みんなそういう時ってあると思うんですよ。具体的な悩みとも違う、そういうモヤモヤした気持ちを言葉にしていったんです。manakaが最終的にみんなのエピソードや気持ちを歌詞にまとめてくれたんですけど、みんなの気持ちにも共感できるところがすごくあったので、聴いてくれた人たちも、この歌詞に気持ちを重ねてもらえたら嬉しいなと思います」

アサヒ「私も、上京して来た頃の想い、メジャー・デビューしてからの気持ちや葛藤を振り返っていきました。上京してメジャー・デビューしたら、その瞬間から全国のみんなが知ってくれる存在になれると思っていたんですけど、現実はまったくそうではなくて、最初はお客さんが全然いなかったりして。そこで初めて、ここから一歩一歩、一つ一つのライヴを大切にして、ちょっとずつ爪痕を残していくしかないっていう現実を知ったんです。夢と現実は離れていたというか」

manaka「私は、尾崎 豊さんの"15の夜"みたいな、"それ、わかるわぁ〜!"っていうような歌詞にしたかったんです。その時代の人たちに、"当時は尾崎最高!みたいな感覚だった"って聞いたんです。"自分の心の中を代弁してくれてるみたいだった"って。だから、リトグリにとっての"15の夜"みたいな歌詞にしたかったんです。実際に、今、私たちの中にもそういう気持ちはすごくあるから。上京してからも、日々落ち込むことも多いし、自分が人よりも劣っているんじゃないかって不安になるし。そういう気持ちってみんなの中にあるんじゃないかなって思うんですよね。何かを必死に頑張ってる時って、周りの人たちは順調にいってるのに、自分だけが取り残された気持ちになってしまうというか。私自身そういう時期が、今も定期的にありますし。そういう気持ちを思い出しながら書いていったんです」

■なるほど。「15の夜」がリリースされた頃、5人は生まれてないわけでしょ? でも、その歌詞を読んですごく気持ちが重なるってことは、本当に誰しもがそういう時期を経験するってことだもんね。

manaka「そうなんですよね。みんなが通るところなのかなって。今回の歌詞を書く上で改めて感じたのは、夢に向かって毎日頑張っていても、ふとした時に、"この頑張りって、本当に未来に繋がっているのかな?"って思えてきちゃったりすることがあるなって。実際に私の友達も、"本当にこのままでいいのかな?"って悩んでいる時もあるし。その気持ちってすごく分かるんです。自分自身も、"もっと上手くなりたい! このままじゃダメだ!"って自分と自分が心の中で葛藤することがあるし。そういう気持ちに対して、応援歌的な歌詞を書くのではなく、綺麗ごとを並べるのでもなく、リアルに感じてもらえるようにまとめていきました」

■たしかに、「明日へ」は、キラキラした応援歌ではないもんね。"吐いた血に色はなくて 無力さだけが包むよ"っていう歌詞は、ちょっと衝撃的でもあった。

manaka「必死で頑張ってきて、ふと気付いたら、周りに紛れてしまって、自分の個性が失われていたっていうことって、誰しも経験があると思うんです。周りに染まっていく自分というか。無邪気に自分を表現できていた頃には戻れないんだって気付いた時の想いを言葉にしてみました」

かれん「リリースイベントで披露した時、"泣きました"って言ってくれる子とかもいて、そういう言葉を聞くと、あぁ、刺さってるんだなぁって感じて、すごく嬉しくなります。何か辛いことがあった時とか、寝る前とかに聴いてほしいなって思います」

アサヒ「明日が試験とか、不安な気持ちになる時に聴いてもらいたいですね」

芹奈「疲れてる時とかね」

MAYU「リトグリの曲って、元気な応援歌的な曲が多いし、私たちもそういう歌でみんなの背中を押せるのって大好きなんですけど、表題曲がこういう曲調というのも初めてですし、この曲は歌詞をじっくり聴いてもらえたら嬉しいです。毎日どうしても上手くいかなくて、ただただ涙が流れる日とかに聴いてもらえたら嬉しいなって思います」

■そうだね。歌い出しの落ち着いた雰囲気は新鮮だよね。でも、そういう歌い出しだからこそ、終盤にかけてだんだんと歌声が広がっていくところが、より力強く感じるというかね。

芹奈「そうですね。今回は、ハモリも少し抑え気味にしてあって、歌詞がより深く伝わるようなアレンジになっていたりもするので、歌詞に込められた想いをしっかりと受けとめてもらえたらと思います。歌入れの時は、上京した頃の自分を思い出しながら歌ったので、リアルな想いが伝わってくれるんじゃないかなと」

■カップリングの「COLORS」は、ファッションブランド『LOWRYS FARM』が開催する『GIRLS TUNE FES 2017』のテーマソング。

manaka「"COLORS"の、イベント用のスペシャルムービーをモデルの皆さんと撮影したんですけど、すごく賑やかで派手やかな作品になりました! 初めてモデルの方々と一緒に撮影をしたので、ちょっと緊張したんですけど、とても楽しかったです。振り付けもあるので、ライヴでも盛り上がるんじゃないかなって思いますね」

芹奈「"明日へ"のミュージックビデオは、生歌があったり、プロジェクションマッピングを使ったりしてスタイリッシュなイメージで撮影したので、2曲が対照的な感じだよね」

かれん「"COLORS"は、イベントでもモデルさんたちが一緒に歌って踊ってくれたんですけど、覚えやすくて歌いやすいみたいで、すごく気に入ってくださって。『GIRLS TUNE FES 2017』用に作られた曲でもあるので、歌詞の中に服とか靴というファッションに関するワードがたくさん出てくるんですね。女の子だったら、きっとワクワクしてもらえるんじゃないかなって思います。毎日、服を選ぶ時とかに聴いてもらえたら嬉しいです!」

アサヒ「お洋服が好きな女の子にはピッタリな1曲だと思います! 新しいお洋服のジャンルに挑戦してみようかな?って思う時に聴いてもらったら、すごくワクワクするんじゃないかな」

MAYU「イベントには、お洋服が好きな女の子たちが集まっているんですけど、イベントでこの曲を歌うと、"あ、この子たちがリトグリか!"って思ってもらえることが多くて、そこからリトグリを好きになってくれることがすごく増えてきているので、それが本当に

Single Interview

■9月13日にリリースされるニュー・シングル「明日へ」は、初の作詞曲になるんだよね。

manaka「そうです、初めての挑戦になりました!」

■具体的に、どういう流れで書いていったの?

芹奈「"オリンピックを目指している人たちとか、何か夢に向かって頑張ってる人たちが聴いてくれた時に、自分と向き合って頑張ろうと思えるような、戦いに挑める気持ちになる歌詞を書いてみよう"と相談して書き始めました。自分たち自身のエピソードをリアルに言葉にして歌詞にしていった感じになりましたね」

■まず大きなテーマがあったんだね。

MAYU「もうひとつ、"同世代の人たちへのメッセージ的なところを意識して歌詞を書いてみよう"というテーマもありました」

かれん「全員がそこをテーマにエピソードを出し合って、それをmanakaが最終的にまとめてくれたんです」

■それぞれ、どんな想いで書いたの?

かれん「大人になる途中である私たちが感じる、不安や悩みは、きっとリトグリの曲を聴いてくれている同世代の人たちに共感してもらえると思うし、大人の人たちにも、きっと私たちくらいの歳の時にはいろんな不安や悩みを抱えていた時期があったと思うので、この曲を聴いて、そんな時のことを重ね合わせてもらえたら嬉しいなって思いながら書いていったんです。私も本当に自分に自信が持てない時期がすごくあったので。今、その頃を振り返ると、本当に後ろ向きだったなって思うんです」

MAYU「私は、時々、漠然と"私はこの場



Little Glee Monster

今の5人のリアルな想いがシンプルな言葉と深い表現力で綴られている9thシングル「明日へ」。彼女たちと同世代のリスナーだけでなく、毎日を懸命に生きるすべての人の心に響くミディアムチューンです。初めての作詞作業や歌に込めた気持ち、レコーディング・エピソードをたっぷり語ってもらったロング・インタビューとソロQ&Aでお届けする初の巻末特集! “今”のLittle Glee Monsterがギュギュッと詰まっています♪

Text ⇒ 武市尚子　Photo ⇒ 大川晋児

明日へ走る鼓動





Little Glee Monster

BACKSTAGE B-PASS

バックステージ・パス10月号　２０１７年８月２７日発行・発売（毎月27日発行・発売）　第33巻第11号通巻４７４号　昭和61年8月2日第3種郵便物認可

発行人　草野夏矢　編集人　吉崎美也子

シンコーミュージック・エンタテイメント

